

会 議 録

会議の名称		令和4年度第5回つくば市文化芸術審議会		
開催日時		令和5年(2023年)3月14日 開会 13:30 閉会 15:00		
開催場所		つくば市役所2階防災会議室3		
事務局(担当課)		市民部文化芸術課		
出席者	委員 (計9名)	神谷大蔵、野中勝利、田中佐代子、田中秀夫、小澤慶介、 宇津野茂樹、根津陽子、矢島祐介、山中周子		
	その他(計6名)	牟田都市計画部公有地利活用推進課係長、同滝田主事 株式会社常陽産業研究所 廣田主任調査役、宮内調査役 日本工営都市空間株式会社 北村課長、胡担当技術者		
	事務局 (計8名)	大久保市民部長、稲葉市民部次長、矢口文化芸術課長、 矢口同課長補佐、佐藤同係長、加藤同主任、吉野同主任、 和田同主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 諮問第1号 「つくば市文化芸術推進基本計画(第2期)」の策定における市民意識調査について  (2) 諮問第2号 「文化芸術創造拠点基本計画」の策定におけるパブリックコメントの対応について		
確定年月日		年 月 日		

会 議 次 第	1 開会
	2 議事
	報告事項  (3) 諮問第1号 「つくば市文化芸術推進基本計画（第2期）」の策定における市民意識調査について  (4) 諮問第2号 「文化芸術創造拠点基本計画」の策定におけるパブリックコメントの対応について
	3 その他
	4 閉会

< 審議内容 >

1 開会

< 矢口文化芸術課長より開会を宣言 >

2 議事

野中会長           :    議事に入る前に、本日、傍聴者はおられないということですので、早速次第に基づきまして議事を進めさせていただきます。

                      まず本日の委員出席数ですが、委員 11 名のところ 9 名出席ということで過半数を満たしておりますので、条例第 13 条第 3 項の規定によりまして、本日の会議が成立していることを報告します。

                      本日の議事につきましては報告事項が 2 件あります。1 件は昨年末に実施されましたつくば市文化芸術市民意識調査の結果について、もう 1 件は 1 月末から 2 月末まで実施された、つくば市文化芸術創造拠点基本計画のパブリックコメン

ト実施結果とそのいただいた意見への回答です。それでは報告事項第1号、つくば市文化芸術推進基本計画第二期の策定における市民意識調査について、事務局より説明を受けてから委員の皆様にご発言いただきたいと思っております。

<資料No.1-1 ～ 1-3 について事務局より説明>

野中会長 : ありがとうございます。ただいま報告した市民意識調査結果につきまして、委員の皆様から、御質問や御意見等ありましたら御発言をお願いします。

宇津野委員 : 全般的に見たところ、つくば市民は文化芸術に対する関心が高いと感じました。

資料No.1-2の12ページに「つくば市の文化芸術に今後期待すること」とありますが、一番回答の多かった項目として65.3%の方が「すぐれた文化芸術公演を鑑賞する機会の提供」を期待しているとあります。予算の都合もありますが、文化振興財団としては、各方面から情報を仕入れまして、文化芸術を鑑賞する機会をさらに拡充して参りたいと考えています。

また、プロのアーティストとの触れ合う機会の提供も高い回答率となっておりますが、文化振興財団では各学校にプロのアーティストを派遣するアウトリーチも実施しています。

こういうアンケートを取ると市民の考えが伺えますので、やはり何年かおきに市民のニーズを取り入れて展開していく必要があると感じました。

野中会長 : ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

矢島委員 : 回答率が地域別に分けられていますが、「TX 沿線地区」や「谷田部地区」のなどはどう分類しているのでしょうか。

事務局 : つくば市筑波研究学園都市の建設に際して、合併前の旧町村の一部分が研究学園地区と言われていまして、北は高エネルギー加速器研究機構から、南は森林総合研究所までの広い範囲です。中心部で言えば現在の吾妻、竹園、南では並木、松代、北では花畑など、今申し上げたエリアは研究学園地区としています。TX 沿線開発に際して開設された、研究学園駅、万博記念公園駅、みどりの駅の各駅周辺の区画整理事業のエリア内と、駅はありませんが中根金田台や上河原崎中西地区などの沿線開発5地区を TX 沿線開発地区という区分をしています。

野中会長 : 資料No.1-2 の1 ページの表が職業別になっていますが、ここは「居住地別」にしたほうがいいかもしれないですね。他にはいかがでしょうか。

田中秀夫委員 : 前回の調査には、満足度に対する回答として「わからない」という項目がありましたが、それが省略されたことが気になります。文化芸術推進基本計画の 26 ページにある前回の調査結果を見ると、半分以上の人が「わからない」と回答していて、その重みは、今後どう配慮していくのでしょうか。

事務局 : 様々なアンケートをする中で、広報活動をもっと積極的にしたほうがいいのかという御意見もいただくことがあります。市としてどのような取り組みをしているか、なかなか市民の方に広まっていないことが「わからない」という回答に繋がっていると分析しますので、今後、広報活動をどのように展開していくのが重要と考えます。

田中秀夫委員 : なぜ「わからない」という回答をされるのかをよく考えていただきたいと思います。半分以上の人が「わからない」と

回答したとなるとその点が気になりますので、今後検討して  
いただいて、どう配慮していくか考えていただきたいと思います。  
ます。

野中会長 : 「わからない」という回答項目は前回の調査時にはありま  
したが、「わからない」という回答が半数近くを占めていま  
す。回答者側からすれば一種の逃げがあつて、集計者側とし  
ては判断を放棄したとも受け取れてしまいますので、今回は  
回答項目から外したということになります。数年後に同様の  
調査がされると思いますが、その比較の中で、具体的な分析  
もされるのかと思います。

また、先ほど居住地別に関する質問がありましたが、資料  
No.1-1には居住地別のクロス集計がありまして、それを見る  
と例えば研究学園地区にお住まいの方と、周辺地区にお住ま  
いの方では、若干、行動や意識等について差が見られる部分  
もあります。これについては追々、政策の中でも少し参考に  
していただく部分かと思います。やはり身近に文化芸術施設  
等々がある地区とそうでない地区との関係もあるという印  
象もあります。

他にはいかがでしょうか。居住地別だけではなくて年代別  
というのも資料No.1-1にはありますので、その辺についても、  
じっくり見ていく必要はあると思います。

いかがでしょうか。他になければ、議事を進めます。続い  
て、諮問第2号文化芸術創造拠点基本計画の策定におけるパ  
ブリックコメントの対応について、事務局より説明を受けて  
から、委員の皆様にご審議いただきたいと思います。それ  
では事務局から説明をお願いいたします。

<資料No.2-1 ～ 2-4 について事務局より説明>

野中会長 : ありがとうございます。

パブリックコメントに応じて一部修正があることと、市民意識調査について先ほど説明のあった結果等を反映したために、一部変更があるということです。

併せて、今年度、実際に田水山小学校で実施された事業「つくばアートラボ 2022-2023」についての説明がありましたので、こちらも含めて委員の皆様から御意見・御質問等ありましたら承りたいと思いますがいかがでしょうか。

資料No.2-1 は、パブリックコメントを受けた修正後の内容ですよね。

事務局 : そのとおりです。こちらを完成版として印刷物としてのデータ原本とします。

野中会長 : いずれこれが製本されるということですが、こちらについて御質問・御意見等ありますでしょうか。

山中委員 : 計画についてではなく、「つくばアートラボ 2022-2023」についてですが、アーティストからのフィードバックや意見は事務局でまとめているのでしょうか。

事務局 : 個別に対応した職員が話を伺うことはあったと思いますが、まとまった報告はまだいただいておりませんので、これからアーティストの皆様には報告様式をお送りして、事務局で取りまとめのうえ、今後の施設改修等に反映したいと考えています。

また、参加いただいた一般の来場者の御意見等についても、アンケートの集計が間に合っておりませんので、そち

らについても取りまとめましたら、委員の皆様にも共有したいと考えております。

野中会長 : この田水山小学校で活動されている3人の方々は、いつまで作業されるのでしょうか。

事務局 : 3月11、12日が発表日で、それまでが実質的な活動期間でした。

野中会長 : ありがとうございます。すべての活動も終了し、実際に体験された方々の御意見等を事務局で集約して取りまとめていくということです。他には何かありますか。

矢島委員 : 事業を実施してみて、市としてどういう印象を受けましたか。

事務局 : 滞在型制作事業としては今回が初めてでして、全部で15日程度の期間において、田水山小学校で作る意義を考えて欲しいという要望をアーティストにはしていました。各アーティストが、それぞれの視点で田水山小学校と関連づけた作品の制作を行っていたと思います。

また、アトリエトークの際では、その土地のことを非常によく考えて制作されていると感じました。田水山小学校でしかできない文化芸術創造拠点を作っていくうえで、アーティストの御意見をよく吸い取って、反映させていきたいと思いました。

野中会長 : 確か、現在は田水山小学校の水回りがあまり使えないということでしたよね。そういった少し不便な状況の中で、この3名のアーティストに活動いただいたことは非常にありがたいと思いますし、そういった不便な環境の中でもやれるこ

と、あるいはそこで生まれる課題等についても、率直な御意見がいただけると期待しています。

宇津野委員 : オープンアトリエワークショップですが、私は3月11日と1月28日のオープンアトリエの際に見学をしまして、様々なジャンルにおいて、アーティストが子供たちとワークショップで取り組んでいる姿を見まして、今後こういうことに力を入れていくとともに、田水山小学校周辺の住民の方にもいろいろ賛同いただきながら、事業を進めていくことができれば良いと思いました。インスタレーション体験のワークショップもありましたが、子供たちが夢中で参加していて、このような事業を今後、田水山小学校で進めていってほしいと思います。

実際に取り組んだ関係者スタッフの方はいろんな制限の中で大変だったと思いますが、これを起爆剤にして、文化芸術の拠点作りに取り組んでいただきたいと思います。

根津委員 : 私もオープンアトリエに参加し、私の子供はワークショップの「廃校の洗浄と観察」に参加しました。これについては広報が難しかったとは思いますが、五名ほど参加者がいらっしゃいました。非常にディープで哲学的な対話ができたと、子供はとても喜んでいました。

また、今回は2階の教室が作品展示会場でしたが、教室と廊下を分けている壁を動かして、広々としたスペースとして利用できるのがすごく面白いと思いました。壁を移動できるという面白さはずっと残してほしいと思います。

事務局 : 事務局からの要望ですが、アートラボには山中委員と矢島委員にもお越しいただきましたので、感想などございましたらお聞かせいただければと思います。

矢島委員 : 僕は最終日に伺いましたが3人のアーティストは、それぞれアプローチの仕方や見せ方が違っているのは面白くて、それぞれの作品が教室に1個ずつ、同じ広さのスペースに並んでいるのが面白いと思いました。美術館などでは広いところに作品が並んでいますが、同じ箱のサイズにそれぞれの作品が並んでいたり、同じテーマで作品作っていたり、大学時代の制作発表を思い出しました。

あとは、どれだけ外から人を呼べるのか、あるいは呼べる工夫をするのかが、今後施設を作る側として考えていくうえで、必要なことではないかと思いました。

また、あまり見たことがなかったので、帰りにプールを覗いてみましたが、筑波山に向かって開けているプールはあまりないので、すごく面白いと感じました。しかも、台地のへりでちょっと高くなっていて、周りが下に沈んでいるので、印象的な場所に見えました。あそこに普通の舞台を作っても面白くないので、例えばプールのまま上から覗いて見ることができる舞台など、プールの意匠を残したまま舞台にする方が特徴が出るし、それを目的にくる人も増えるんじゃないかと思いました。そういうかたちで、アート作品の舞台とか、音楽とか、そういった要素でも来る人を増やす工夫を今後考えていけたらいいのかなと思いました。

山中委員 : 私もオープンアトリエとワークショップのときにお邪魔しましたが、アーティストは制作の中で半分以上はフィール

ドワークというか、施設周辺をうろうろして作品やその材料を考えていたそうです。根津委員と矢島委員からもお話がありました。施設の既にある特性といいますか、稼働の壁をうまく利用していましたが、校庭の奥の方には竹やぶもあって、ワークショップで、そこに植物を拾いに行ってみみんなで一つ造形物を作る企画もありまして、今ある環境などを生かせれば、これからの拠点づくりが面白いと感じました。

こちらからも質問ですが、水守、山木、田中地区といった御近所の方々がどの程度来たのか参考におうかがいできればと思います。

事務局 : 来場者アンケートはこれから集計するのであくまで担当者としての印象ですが、車で遠方からいらっしゃった方が大半だったと感じます。ただ、自転車で 20 分かかるところから来場した方や、家が近所なので徒歩で来場した方もいらっしゃいました。また、田水山小学校の卒業生で、「懐かしい」と言いながら見学されていた方もいらっしゃいましたが、そのような田水山小学校周辺に在住の方は、来場者全体に占める割合としては、それほど多くなかったと思います。

ただ、関心を持っている地元の方は少なからずいらっしゃると、現場で事業に携わった身としては感じています。

野中会長 : その辺りも今後いろいろ検証されていくのかなと思います。

よろしいでしょうか。いろいろと貴重な御意見をありがとうございました。本日、これで最終報告となりましたが、市長からの諮問である、「文化芸術創造拠点基本計画」の策定」に対する答申をさせていただく関係もありますので、パ

ブリックコメント等々含めて修正はしておりますが、もう一度私と事務局で内容を精査し、この計画本文を市長に提出したいと思いますので、その点については私に御一任ください。

事務局の方から補足をお願いしたいのですが、この基本計画については市長に答申をして、審議会での議論は一旦終了となるかと思いますが、今後の進捗は審議会でも報告などされるのでしょうか。

事務局 : 野中会長から御説明いただいたとおり、市長への諮問への答申として基本計画を印刷した冊子を直接お渡ししますので、今年度いっぱいかけて委員の皆様にご審議いただいた基本計画の作成については、一旦これで終了となります。

次年度以降につきましては、審議会の中でも何度か御説明しておりますが、どのように改修設計していくのかという、とりまとめをこれから事務局で進めていくに当たり、試行事業の中で出た意見をどう反映させていくか、あるいは改修設計の進捗状況などの御報告は審議会でも折に触れて行っていくとともに、御意見いただきたいと考えておりますので、次年度以降も引き続き御協力いただけますと幸いです。

野中会長 : ありがとうございます。

委員の皆様からも、御意見をいただける機会になるかと思います。

他に御意見などはよろしいでしょうか。では、本日の議事は以上となりますので、進行を事務局にお返しいたします。

### 3 その他

< 矢口文化芸術課長補佐から令和5年度第1回審議会の日程調整について >

< 第1回審議会は令和5年（2023年）5月23日13時30分から決定 >

### 4 閉会

< 矢口文化芸術課長より閉会の宣言 >

# 令和4年度 第5回つくば市文化芸術審議会 次第

日時 令和5年(2023年)3月14日(火)

午後1時30分から

場所 つくば市役所2階防災会議室3

## 1 開会

## 2 議事

### 報告事項

- (1) 諮問第1号 「つくば市文化芸術推進基本計画(第2期)」  
の策定における市民意識調査について
- (2) 諮問第2号 「文化芸術創造拠点基本計画」の策定における  
パブリックコメントの対応について

## 3 その他

## 4 閉会

### 配布資料

- 資料No.1-1 つくば市文化芸術市民意識調査結果
- 資料No.1-2 つくば市文化芸術市民意識調査結果 概要版
- 資料No.1-3 つくば市文化芸術推進基本計画(第2期) 策定スケジュール
- 資料No.2-1 つくば市文化芸術創造拠点基本計画(案)
- 資料No.2-2 つくば市文化芸術創造拠点基本計画(案) 概要版
- 資料No.2-3 パブリックコメント実施結果報告書
- 資料No.2-4 文化芸術創造拠点試行事業の結果について

---

# 文化芸術に関する市民意識調査 報告書

---

令和5年(2023年)3月

つくば市

# 目次

第1章 調査概要.....	2
1. 調査目的.....	2
2. 調査対象及び方法.....	2
3. 回収状況.....	2
4. 回答者の属性.....	2
第2章 調査結果.....	3
第3章 市民の文化芸術への関わり方の現状と課題.....	68
1. 市民の文化芸術との関わり方.....	68
2. つくば市の文化芸術に関する取り組みへの評価・期待.....	70
資料編.....	72
1. アンケート 調査票.....	72

# 第1章 調査概要

## 1. 調査目的

つくば市は、世界に誇れる、個性あるつくばの文化芸術の創造を推進するために、「つくば市文化芸術推進基本計画」を平成31年3月に策定した。本アンケートは、「つくば市文化芸術推進基本計画（第2期）」を策定するに当たり、市民の文化芸術に対する関わり方や関心度、御意見、期待することなどを把握し、基本計画づくりにいかすため。

## 2. 調査対象及び方法

本調査の対象者は、つくば市住民基本台帳（令和4年10月1日現在）に基づき、18歳以上のつくば市民から無作為に抽出した3,000名の方である。

令和4年12月5日に調査票を発送し、対象者は「調査票（紙）による方法」と「インターネットによる方法」のいずれかで回答を行った（調査期間：令和4年12月5日～令和5年1月6日）。

## 3. 回収状況

- ・対象者：3,000名
- ・回答者数871名（回収率：29.0%）

## 4. 回答者の属性

性別	男性	女性	その他	無回答 (回答しない)	不明 (記載なし)	合計
人数	347	482	-	25	17	871
割合	39.8%	55.3%	0.0%	2.9%	2.0%	100.0%

年齢別	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	不明	合計
人数	16	76	149	193	157	135	128	1	16	871
割合	1.8%	8.7%	17.1%	22.2%	18.0%	15.5%	14.7%	0.1%	1.8%	100.0%

職業別	会社員・ 公務員	自営業	農林業	パート・アル バイトなど	専業主婦 (主夫)	学生	無職	その他	不明	合計
人数	368	56	5	125	127	42	104	24	20	871
割合	42.3%	6.4%	0.6%	14.4%	14.6%	4.8%	11.9%	2.8%	2.3%	100.0%

職業別	研究学園地区	TX沿線地区	筑波地区	大穂地区	豊里地区	桜地区	谷田部地区	荳崎地区	不明	合計
人数	265	184	53	48	58	76	119	67	1	871
割合	30.4%	21.1%	6.1%	5.5%	6.7%	8.7%	13.7%	7.7%	0.1%	100.0%

居住年数別	1年未満	1年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	不明	合計
人数	2	125	114	102	83	428	17	871
割合	0.2%	14.4%	13.1%	11.7%	9.5%	49.1%	2.0%	100.0%

※端数の関係上、各項目の合計は必ずしも100%とならない

## 第2章 調査結果

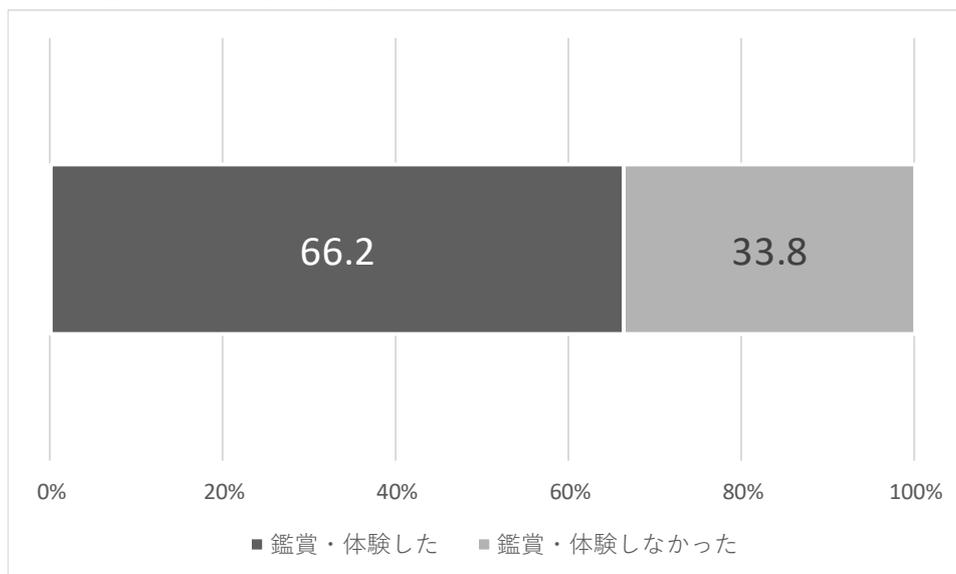
### (1) 過去1年間の文化芸術の体験・鑑賞の有無

#### ◆全体

#### 「鑑賞・体験した」が7割弱

過去1年間（令和3年12月～令和4年11月）における文化芸術の鑑賞・体験の状況をみると、「鑑賞・体験した」が66.2%、「鑑賞・体験しなかった」が33.8%となった（図表1）。

図表1 過去1年間における文化芸術を鑑賞・体験の有無（n（回答数）=861）



#### ◆クロス集計

##### <性別>

過去1年間（令和3年12月～令和4年11月）における文化芸術の鑑賞・体験の状況を「鑑賞・体験した」の割合でみると、女性は68.5%と男性64.5%と比べて高い（図表2）。

##### <年齢別>

過去1年間（令和3年12月～令和4年11月）における文化芸術の鑑賞・体験の状況を、「鑑賞・体験した」の割合でみると、10歳代（87.5%）と20歳代は（80.3%）はともに8割を超え、30歳代（75.2%）と40歳代（71.0%）も7割台となっている。

##### <地区別>

過去1年間（令和3年12月～令和4年11月）における文化芸術の鑑賞・体験の状況を、「鑑賞・体験した」の割合でみると、研究学園地区が74.4%と最も高く、次いでTX沿線地区が67.8%、谷田部地区が65.3%、大穂地区が64.6%となっている。

図表 2 過去1年間における文化芸術を鑑賞・体験の有無（性別、年代別、地区別）

区分	n	鑑賞・体験した	鑑賞・体験しなかった
< 性別 >			
男	344	64.5%	35.5%
女	479	68.5%	31.5%
無回答	25	56.0%	44.0%
< 年代別 >			
10歳代	16	87.5%	12.5%
20歳代	76	80.3%	19.7%
30歳代	149	75.2%	24.8%
40歳代	193	71.0%	29.0%
50歳代	157	65.0%	35.0%
60歳代	133	58.6%	41.4%
70歳代以上	125	48.8%	51.2%
< 地区別 >			
研究学園地区	262	74.4%	25.6%
TX沿線地区	183	67.8%	32.2%
筑波地区	51	49.0%	51.0%
大穂地区	48	64.6%	35.4%
豊里地区	58	58.6%	41.4%
桜地区	74	59.5%	40.5%
谷田部地区	118	65.3%	34.7%
荃崎地区	66	59.1%	40.9%

(2) 過去1年間に文化芸術を体験・鑑賞した頻度

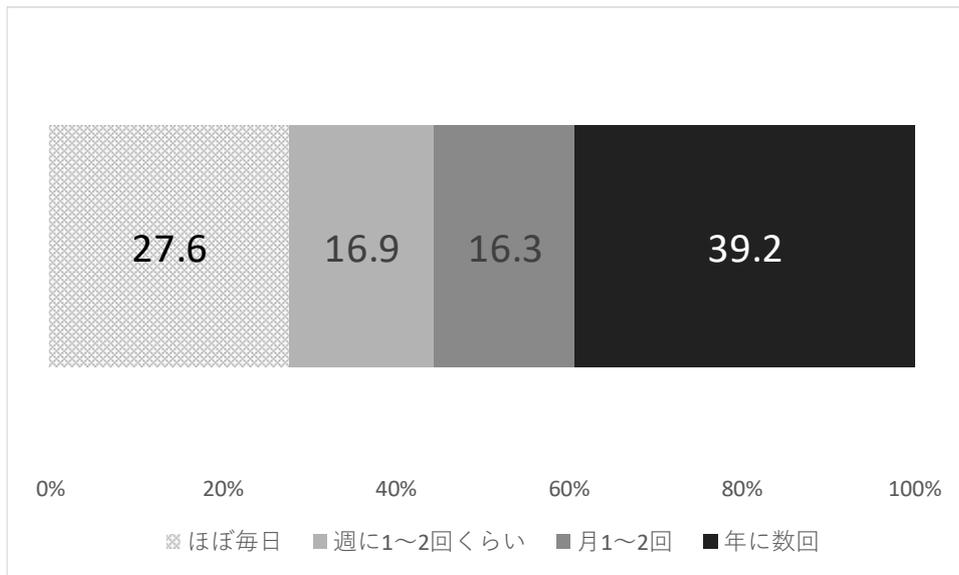
◆全体

「年に数回」が4割、「ほぼ毎日」が3割弱

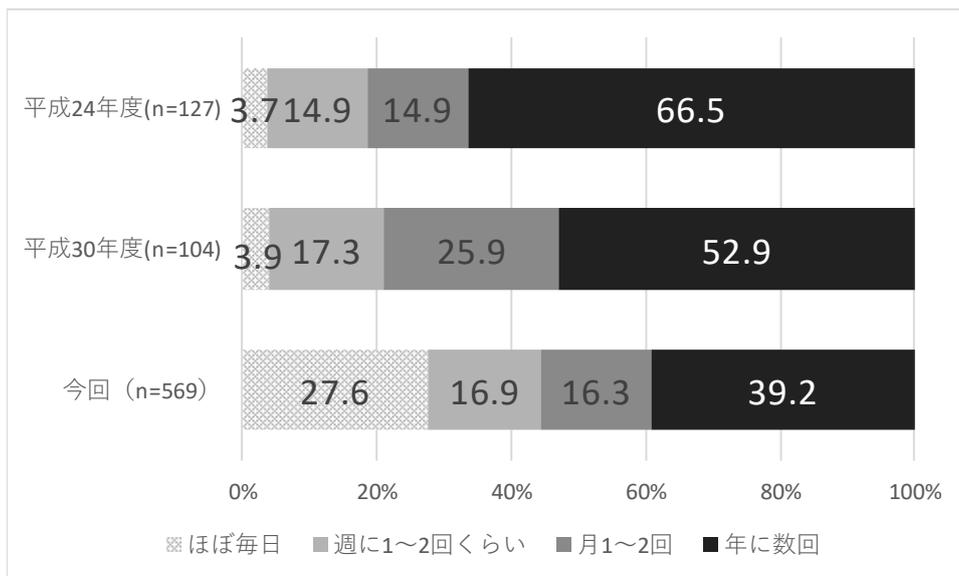
過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した市民の鑑賞・体験した頻度をみると、「年に数回」が39.2%と最も多く、次いで「ほぼ毎日」が27.6%、「週に1~2回くらい」となっている(図表3)。

過去の調査と比べると、今回調査では「ほぼ毎日」27.6%と平成24年度の3.7%、平成30年度の3.9%と比べて多い(参考1)。

図表3 過去1年間に文化芸術を体験・鑑賞した頻度 (n=569)



<参考1> 過去1年間に文化芸術を体験・鑑賞した頻度<参考>  
(平成24年度、平成30年度、今回調査比較)



## ◆クロス集計

## &lt;性別&gt;

過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した市民の鑑賞・体験した頻度をみると、「ほぼ毎日」の割合は男性で31.1%と女性の25.7%に比べて高い（図表4）。

## &lt;年齢別&gt;

過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した市民の鑑賞・体験した頻度をみると、「ほぼ毎日」の割合は、10歳代（35.7%）と20歳代（36.1%）、30歳代（35.7%）で3割を超えている。一方で、「年に数回」の割合は40歳代（43.8%）と60歳代（41.6%）、70歳代以上（49.2%）で4割を超えている。

## &lt;地区別&gt;

過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した市民の鑑賞・体験した頻度をみると、「ほぼ毎日」の割合は、谷田部地区（35.1%）と荃崎地区（38.5%）で3割を超えている。一方、「年に数回」の割合は筑波地区で50.0%と最も高く、次いで大穂地区で48.4%となっている。

図表4 過去1年間に文化芸術を体験・鑑賞した頻度（n=569）

区分	n	ほぼ毎日	週に1~2回くらい	月1~2回	年に数回
<性別>					
男	344	31.1%	18.0%	15.3%	35.6%
女	479	25.7%	15.9%	16.8%	41.6%
無回答	25	21.4%	14.3%	14.3%	50.0%
<年代別>					
10歳代	14	35.7%	21.4%	28.6%	14.3%
20歳代	61	36.1%	18.0%	13.1%	32.8%
30歳代	112	35.7%	17.0%	13.4%	33.9%
40歳代	137	22.6%	16.1%	17.5%	43.8%
50歳代	102	25.5%	17.6%	17.6%	39.2%
60歳代	77	22.1%	16.9%	19.5%	41.6%
70歳代以上	61	24.6%	13.1%	13.1%	49.2%
<地区別>					
研究学園地区	195	27.7%	17.4%	18.5%	36.4%
TX沿線地区	124	26.6%	13.7%	16.1%	43.5%
筑波地区	24	25.0%	4.2%	20.8%	50.0%
大穂地区	31	22.6%	22.6%	6.5%	48.4%
豊里地区	34	8.8%	26.5%	23.5%	41.2%
桜地区	44	27.3%	11.4%	18.2%	43.2%
谷田部地区	77	35.1%	23.4%	11.7%	29.9%
荃崎地区	39	38.5%	12.8%	12.8%	35.9%

(3) 過去1年間に鑑賞・体験した文化芸術分野

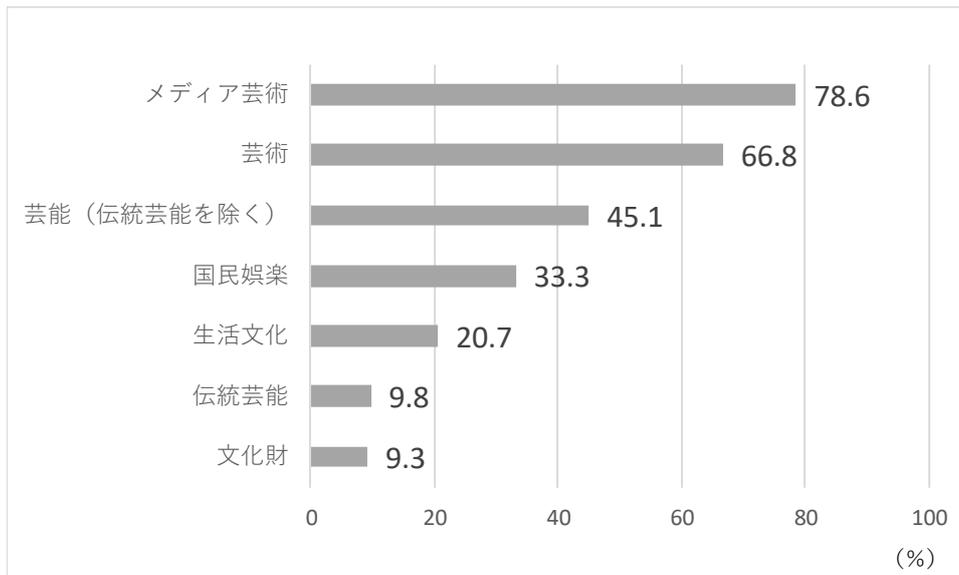
ア) 鑑賞・体験場所：自宅等

◆全体

「メディア芸術」が8割弱、「芸術」が7割弱

過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した市民の「自宅等」(※1)で鑑賞・体験した文化芸術分野をみると、「メディア芸術」が78.6%と最も多く、次いで「芸術」が66.8%、「芸能(伝統芸能を除く)」が45.1%となっている(図表5)。

図表5 過去1年間に「自宅等」で鑑賞・体験した文化芸術分野 (n=570)



(※1) 自宅等(車や電車の中を含む)でテレビやインターネット等を通じて鑑賞すること。

(※2) 文化芸術分野の区分は以下の通りである。

文化芸術分野	文化芸術内容
芸術	文学、音楽(クラシック、ポップスなど)、美術(絵画、彫刻など)、写真、演劇、舞踏、その他の芸術
メディア芸術	映画、漫画、アニメーション、コンピュータ及びその他の電子機器等を利用した芸術(ゲーム、コンピューターグラフィックなど)
伝統芸能	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踏、その他の我が国及び地域古来の伝統的な芸能
芸能 (伝統芸能を除く)	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱、その他の芸能
生活文化	茶道、華道、書道、食文化、盆栽など、その他の生活に係る文化
国民娯楽	囲碁、将棋、俳句、カラオケその他の国民的娯楽並びに出版物及びレコード等
文化財	有形・無形の文化財等並びに、その保存技術(史跡、地域の民俗芸能など)

---

**◆クロス集計****<性別>**

男性、女性ともに、「メディア芸術」が最も高く（男性 88.4%、女性 88.7%）、次いで「芸能（伝統芸能を除く）」、「芸術」となっている（図表 6）。

**<年齢別>**

「メディア芸術」は、全ての年代で上位（上位 3 位以内）となっている。

「芸能（伝統芸能を除く）」は 10 歳代を除き 20 歳代から 70 歳代以上で上位となっている。

「芸術」は 10 歳代～50 歳代で上位となっている。

「国民娯楽」は 60 歳代以上で上位となっている。

**<地区別>**

「メディア技術」は全ての地区で上位となっている。

「芸術」は筑波地区と荃崎地区を除き上位となっている。

「芸能（伝統芸能を除く）」は荃崎地区を除き上位となっている。

「伝統芸能」は荃崎地区で上位となっている。

「国民娯楽」は筑波地区と荃崎地区で上位となっている。

図表6 過去1年間に「自宅等」で鑑賞・体験した文化芸術分野（性別、年代別、地区別）

区分	芸術	メディア芸術	伝統芸能	（伝統芸能を除く） 芸能	生活文化	国民娯楽	文化財
<性別>							
男	<b>79.1%</b>	<b>88.4%</b>	67.6%	<b>83.6%</b>	52.9%	71.2%	24.1%
女	<b>72.9%</b>	<b>88.7%</b>	58.9%	<b>86.0%</b>	57.1%	63.7%	21.3%
無回答	<b>92.3%</b>	<b>84.6%</b>	0.0%	<b>83.3%</b>	33.3%	25.0%	16.7%
<年代別>							
10歳代	<b>92.9%</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	60.0%	75.0%	50.0%	22.5%
20歳代	<b>92.3%</b>	<b>84.6%</b>	0.0%	<b>83.3%</b>	33.3%	25.0%	16.7%
30歳代	<b>74.0%</b>	<b>94.3%</b>	60.0%	<b>86.0%</b>	47.1%	60.7%	13.6%
40歳代	<b>75.0%</b>	<b>82.8%</b>	66.7%	<b>84.3%</b>	55.8%	70.6%	9.1%
50歳代	<b>82.8%</b>	<b>90.4%</b>	64.0%	<b>89.8%</b>	51.0%	75.0%	14.8%
60歳代	62.9%	<b>86.7%</b>	64.7%	<b>93.6%</b>	70.4%	<b>85.0%</b>	24.6%
70歳代以上	68.1%	<b>73.8%</b>	57.1%	<b>70.3%</b>	63.6%	<b>72.4%</b>	34.3%
<地区別>							
研究学園地区	<b>75.4%</b>	<b>91.1%</b>	51.4%	<b>85.3%</b>	58.0%	71.8%	22.2%
TX沿線地区	<b>78.0%</b>	<b>87.8%</b>	76.5%	<b>90.3%</b>	52.4%	51.7%	22.0%
筑波地区	55.6%	<b>80.0%</b>	50.0%	<b>78.6%</b>	45.5%	<b>85.7%</b>	20.0%
大穂地区	<b>84.6%</b>	<b>92.6%</b>	33.3%	<b>80.0%</b>	66.7%	50.0%	20.0%
豊里地区	<b>78.1%</b>	<b>93.1%</b>	66.7%	<b>83.3%</b>	63.6%	68.4%	25.0%
桜地区	<b>80.5%</b>	<b>89.2%</b>	50.0%	<b>86.7%</b>	31.3%	78.6%	6.7%
谷田部地区	<b>73.8%</b>	<b>85.1%</b>	54.5%	<b>87.8%</b>	59.4%	66.7%	24.2%
茎崎地区	74.2%	<b>83.9%</b>	<b>87.5%</b>	73.9%	52.6%	<b>75.0%</b>	35.3%

太字は上位3項目

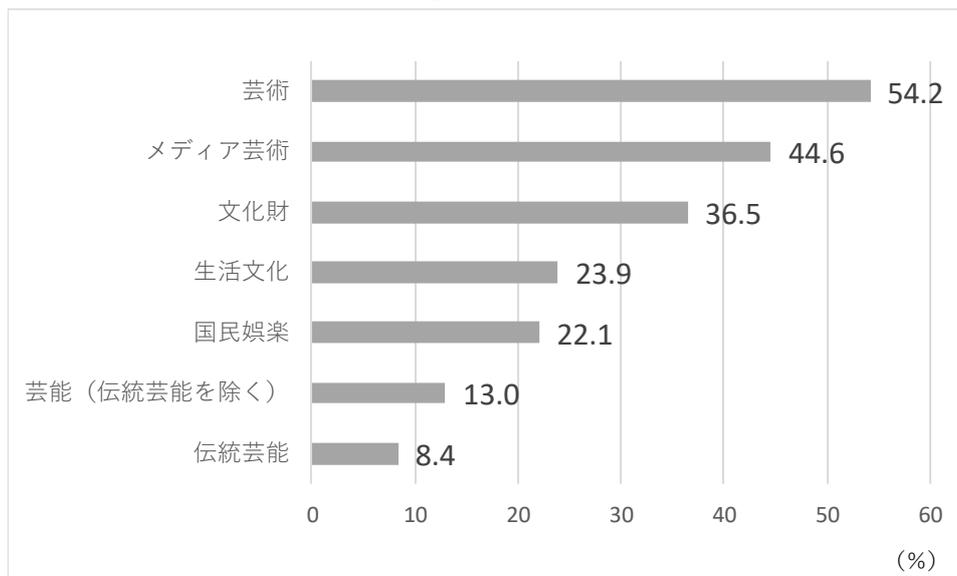
イ) 鑑賞・体験場所：自宅等以外

◆全体

「芸術」が5割超と最も多く、「メディア芸術」が4割超、「文化財」が4割弱

過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した市民の「自宅等以外」(※)で鑑賞・体験した文化芸術分野をみると、「芸術」が54.2%と最も多く、次いで「メディア芸術」が44.6%、「文化財」が36.5%となっている(図表7)。

図表7 過去1年間に「自宅等以外」で鑑賞・体験した文化芸術分野 (n=570)



(※3) 開催会場など現場で実際に鑑賞・体験すること。

**◆クロス集計****<性別>**

男性では、「文化財」が約9割（91.7%）最も多く、次いで「生活文化」、「芸術」となっている（図表8）。

女性では、「文化財」が8割超（84.4%）と最も多く、次いで「芸術」、「生活文化」となっている。

**<年齢別>**

「文化財」は全ての年代で上位となっている。

「芸術」は30歳代以上で上位となっている。

「生活文化」は10歳代と30歳代から60歳代で上位となっている。

「国民娯楽」は10歳代～20歳代、70歳代で上位となっている。

「伝統芸能」は20歳代で上位となっている。

**<地区別>**

「文化財」は全ての年代で上位となっている。

「生活文化」は大穂地区を除き上位となっている。

「芸術」は研究学園地区やTX沿線地区、荃崎地区、豊里地区で上位となっている。

「伝統芸能」は筑波地区と大穂地区、谷田部地区で上位となっている。

「メディア芸能」は桜地区で上位となっている。

「国民娯楽」は大穂地区で上位となっている。

図表8 過去1年間に「自宅等以外」で鑑賞・体験した文化芸術分野（性別、年代別、地区別）

区分	芸術	メディア芸術	伝統芸術	（伝統芸術を除く） 芸能	生活文化	国民娯楽	文化財
<性別>							
男	<b>60.7%</b>	48.7%	47.1%	23.8%	<b>66.2%</b>	42.4%	<b>91.7%</b>
女	<b>63.2%</b>	51.9%	50.0%	25.0%	<b>60.7%</b>	44.6%	<b>84.4%</b>
無回答	46.2%	46.2%	<b>100.0%</b>	33.3%	66.7%	<b>75.0%</b>	<b>83.3%</b>
<年代別>							
10歳代	50.0%	35.7%	0.0%	40.0%	<b>75.0%</b>	<b>62.5%</b>	<b>100.0%</b>
20歳代	67.2%	50.8%	<b>80.0%</b>	25.0%	75.0%	<b>75.7%</b>	<b>86.4%</b>
30歳代	<b>58.3%</b>	48.6%	46.7%	26.0%	<b>67.6%</b>	42.9%	<b>93.9%</b>
40歳代	<b>56.7%</b>	53.1%	46.7%	22.9%	<b>53.8%</b>	44.1%	<b>95.1%</b>
50歳代	<b>65.6%</b>	51.1%	56.0%	18.6%	<b>71.4%</b>	35.4%	<b>86.9%</b>
60歳代	<b>70.0%</b>	53.3%	47.1%	14.9%	<b>66.7%</b>	17.5%	<b>88.6%</b>
70歳代以上	<b>57.4%</b>	45.2%	42.9%	45.9%	48.5%	<b>51.7%</b>	<b>59.1%</b>
<地区別>							
研究学園地区	<b>67.0%</b>	53.1%	51.4%	25.7%	<b>58.0%</b>	42.7%	<b>90.0%</b>
TX沿線地区	<b>61.5%</b>	51.3%	47.1%	22.6%	<b>64.3%</b>	51.7%	<b>88.0%</b>
筑波地区	72.2%	50.0%	<b>75.0%</b>	21.4%	<b>72.7%</b>	35.7%	<b>80.0%</b>
大穂地区	46.2%	37.0%	<b>66.7%</b>	20.0%	46.7%	<b>55.6%</b>	<b>90.0%</b>
豊里地区	<b>50.0%</b>	27.6%	33.3%	22.2%	<b>54.5%</b>	36.8%	<b>91.7%</b>
桜地区	53.7%	<b>64.9%</b>	62.5%	33.3%	<b>68.8%</b>	28.6%	<b>100.0%</b>
谷田部地区	63.1%	47.8%	<b>63.6%</b>	19.5%	<b>71.9%</b>	41.0%	<b>84.8%</b>
荃崎地区	<b>58.1%</b>	48.4%	25.0%	34.8%	<b>73.7%</b>	45.0%	<b>70.6%</b>

太字は上位3項目

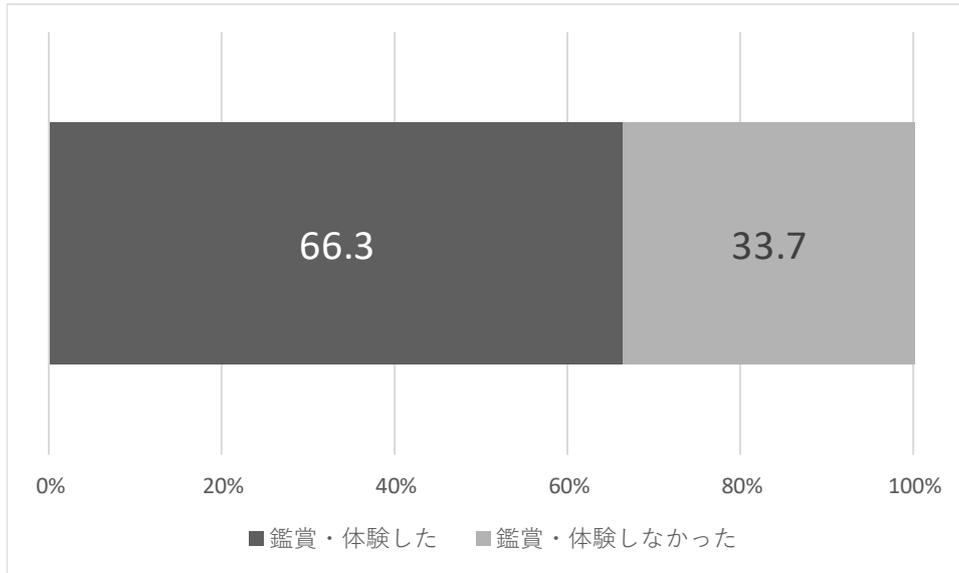
(4) 過去1年間におけるオンラインによる鑑賞・体験の有無

◆全体

「鑑賞・体験した」が7割弱

過去1年間に自宅等で文化芸術を鑑賞・体験した市民のオンラインによる鑑賞・体験状況（無料または有料は問わない）をみると、「鑑賞・体験した」が66.3%、「鑑賞・体験しなかった」が33.7%となっている（図表9）。

図表9 過去1年間におけるオンラインによる鑑賞・体験の有無（n=277）



## ◆クロス集計

## &lt;性別&gt;

「鑑賞・体験した」は男性で7割と女性の6割超と比べて多い（図表10）。

## &lt;年齢別&gt;

「鑑賞・体験した」は30歳代で8割、20歳代で7割超と多い。

## &lt;地区別&gt;

「鑑賞・体験した」は桜地区と豊里地区で7割以上となっている。

図表10 過去1年間にオンラインで鑑賞・体験した文化芸術分野（性別、年代別、地区別）

区分	n	鑑賞・体験した	鑑賞・体験しなかった
<性別>			
男	163	71.8%	28.2%
女	240	62.9%	37.1%
無回答	12	66.7%	33.3%
<年代別>			
10歳代	10	60.0%	40.0%
20歳代	49	73.5%	26.5%
30歳代	84	81.0%	19.0%
40歳代	100	67.0%	33.0%
50歳代	80	66.3%	33.8%
60歳代	53	56.6%	43.4%
70歳代以上	40	40.0%	60.0%
<地区別>			
研究学園地区	141	67.4%	32.6%
TX沿線地区	91	68.1%	31.9%
筑波地区	18	55.6%	44.4%
大穂地区	27	63.0%	37.0%
豊里地区	30	70.0%	30.0%
桜地区	26	76.9%	23.1%
谷田部地区	62	59.7%	40.3%
荃崎地区	23	65.2%	34.8%

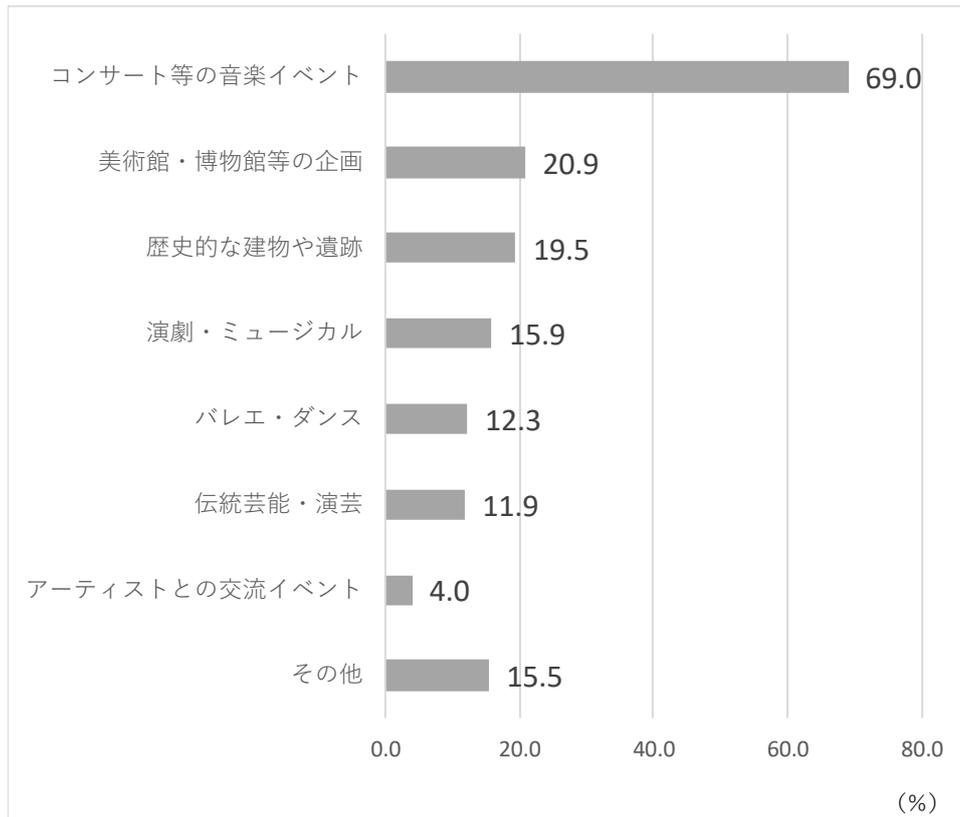
(5) 過去1年間にオンラインにより鑑賞・体験した文化芸術の内容

◆全体

「コンサート等の音楽イベント」が7割

過去1年間に自宅等でオンラインにより文化芸術を鑑賞・体験した市民のその内容をみると、「コンサート等の音楽イベント」が69.0%と最も多く、次いで「美術館・博物館等の企画」が20.9%、「歴史的な建物や遺跡」が19.5%となっている（図表11）。

図表11 過去1年間にオンラインにより鑑賞・体験した文化芸術の内容（n=277）



(その他の回答)

映画（鑑賞、オンラインイベント）（19）	アニメ（アニメーション）（8）	漫画（7）
音楽（配信アプリ）（6）	サブスク	ドラマ（2）
将棋の生中継	漫才	食文化
Accsによる科学技術番組	テレビの芸術番組	ヨガ
YouTube		

**◆クロス集計****<性別>**

男性では、「コンサート等の音楽イベント」が65.0%と最も多く、次いで「歴史的な建物や遺跡」、「美術館・博物館等の企画」となっている（図表12）。

女性では、「コンサート等の音楽イベント」が72.2%と最も多く、次いで「美術館・博物館等の企画」、「バレエ・ダンス」となっている。

**<年齢別>**

「コンサート等の音楽イベント」は全ての年代で上位となっている。

「美術館・博物館等の企画」は20歳代を除き上位となっている。

「歴史的な建物や遺跡」は40歳代以上で上位となっている。

「演劇・ミュージカル」や「バレエ・ダンス」は20歳代で上位となっている。

「アーティストとの交流イベント」は10歳代で上位となっている。

**<地区別>**

「コンサート等の音楽イベント」は全ての地区で上位となっている。

「美術館・博物館等の企画」は豊里地区と桜地区を除き上位となっている。

「歴史的な建物や遺跡」は筑波地区と豊里地区、桜地区、谷田部地区、荃崎地区で上位となっている。

「演劇・ミュージカル」は、研究学園地区とTX沿線地区で上位となっている。

「伝統芸能・演芸」は、筑波地区と谷田部地区で上位となっている。

バレエ・ダンスは豊里地区で上位となっている。

図表 12 過去1年間にオンラインにより鑑賞・体験した文化芸術の内容(性別、年代別、地区別)

区分	n	コンサート等の音楽	美術館・博物館等の企画	演劇・ミュージカル	バレエ・ダンス	伝統芸能・演芸	歴史的な建物や遺跡	アーティストとの交流	その他
<性別>									
男	117	<b>65.0%</b>	<b>23.1%</b>	15.4%	6.0%	16.2%	<b>23.9%</b>	2.6%	16.2%
女	151	<b>72.2%</b>	<b>19.2%</b>	15.2%	<b>17.9%</b>	9.3%	16.6%	4.6%	15.2%
無回答	8	<b>75.0%</b>	<b>25.0%</b>	<b>37.5%</b>	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%
<年代別>									
10歳代	6	<b>66.7%</b>	<b>16.7%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	<b>50.0%</b>	<b>16.7%</b>	0.0%
20歳代	36	<b>77.8%</b>	8.3%	<b>25.0%</b>	<b>13.9%</b>	0.0%	5.6%	5.6%	5.6%
30歳代	68	<b>73.5%</b>	<b>20.6%</b>	13.2%	14.7%	11.8%	10.3%	0.0%	<b>17.6%</b>
40歳代	67	<b>65.0%</b>	<b>23.1%</b>	15.4%	6.0%	16.2%	<b>23.9%</b>	2.6%	16.2%
50歳代	53	<b>77.4%</b>	<b>24.5%</b>	22.6%	11.3%	13.2%	<b>24.5%</b>	5.7%	7.5%
60歳代	30	<b>56.7%</b>	<b>26.7%</b>	10.0%	6.7%	16.7%	<b>33.3%</b>	3.3%	<b>26.7%</b>
70歳代以上	16	<b>62.5%</b>	<b>43.8%</b>	12.5%	12.5%	25.0%	<b>37.5%</b>	0.0%	25.0%
<地区別>									
研究学園地区	95	<b>73.7%</b>	<b>18.9%</b>	<b>23.2%</b>	15.8%	11.6%	16.8%	5.3%	10.5%
TX沿線地区	62	<b>69.4%</b>	<b>27.4%</b>	<b>19.4%</b>	9.7%	8.1%	17.7%	3.2%	17.7%
筑波地区	10	<b>70.0%</b>	<b>10.0%</b>	0.0%	0.0%	<b>10.0%</b>	<b>30.0%</b>	0.0%	<b>10.0%</b>
大穂地区	17	<b>70.6%</b>	<b>29.4%</b>	11.8%	5.9%	11.8%	23.5%	5.9%	<b>29.4%</b>
豊里地区	21	<b>66.7%</b>	9.5%	14.3%	<b>19.0%</b>	9.5%	<b>19.0%</b>	0.0%	9.5%
桜地区	20	<b>65.0%</b>	20.0%	0.0%	10.0%	15.0%	<b>25.0%</b>	0.0%	<b>30.0%</b>
谷田部地区	37	<b>64.9%</b>	<b>16.2%</b>	8.1%	13.5%	<b>16.2%</b>	<b>18.9%</b>	2.7%	13.5%
荃崎地区	15	<b>53.3%</b>	<b>33.3%</b>	13.3%	6.7%	20.0%	<b>26.7%</b>	13.3%	20.0%

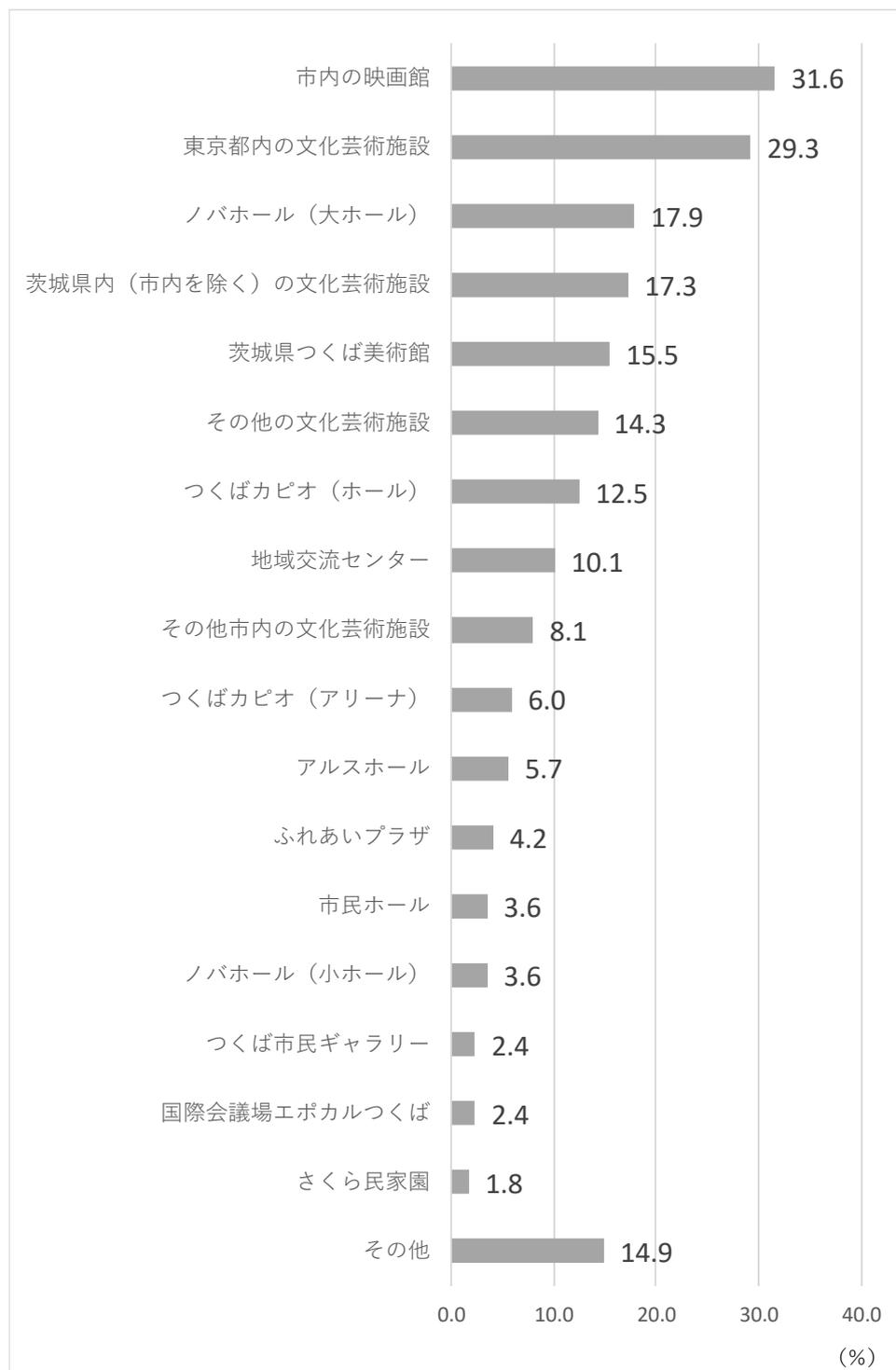
太字は上位3項目

## (6) 過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した施設

### ◆全体

#### 「市内の映画館」が3割超、「東京都内の文化芸術施設」が3割

過去1年間に自宅等以外で文化芸術を鑑賞・体験した市民の鑑賞・体験した施設をみると、「市内の映画館」が31.6%と最も多く、「東京都内の文化芸術施設」が29.3%、「ノバホール（大ホール）」が17.9%となっている（図表13）



図表13 過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した施設（n=335）

## (その他市内の文化芸術施設)

エキスポセンター (2)	廣澤美術館 (2)	小田城 (小田城跡歴史ひろば) (5)
筑波大学 (2)	洞峰公園・園内施設 (4)	平沢官衛遺跡 (3)
MOVIX つくば	Y ギャラリー	イーアス
カラオケ施設	サクラタウン	つくば国際会議場
つくば桜歴史民俗資料館	つくば市谷田部資料館	つくば美術館
つくば文化郷	ノバホール	バッハの森
茨城県立自然博物館	映画館	交流センター
桜総合体育館	働く婦人の家	博物館
市民ホールくさぎ	筑波新都市記念館	森の里公会堂
地図と測量の科学館	筑波山神社	新都市記念館

## (茨城県内 (市内を除く) の文化芸術施設)

茨城県立近代美術館 (9)	茨城県立歴史館 (3)	かすみがうら歴史博物館
クラフトシビックホール土浦	ザ・ヒロサワ・シティ会館 (茨城県立県民文化センター) (10)	しもだて美術館 (2)
ひたちなか市民文化会館 (3)	ひたちなか総合運動公園	国営ひたち海浜公園
廣澤美術館 (4)	ミュージアムパーク 茨城県自然博物館 (4)	茨城県陶芸美術館 (6)
茨城県護国神社	霞ヶ浦環境科学センター	映画館 (2)
笠間芸術の森公園	笠間工芸の丘 (2)	笠間日動美術館 (7)
亀城プラザ	牛久エスカード	牛久市中央生涯学習センター (2)
結城市民文化センター (2)	小町の館	上高津貝塚
常陽藝文センター (2)	真壁伝承館	神郡塾
水戸京成百貨店	水戸芸術館 (6)	石岡市市内の小学校
大昭ホール龍ヶ崎	筑西市障害者センター	筑波バッハの森文化財団
筑波実験植物園	土浦イオン	土浦ウララ
土浦市民ギャラリー	土浦市立考古資料館	土浦市立博物館
土浦市立博物館 (2)	龍ヶ崎文化会館大ホール	六角堂

## (東京都内の文化芸術施設)

インターメディアテク	21_21 DESIGN SIGHT	Bunkamura オーチャードホール (3)
PARCO 劇場 (2)	PLAY!MUSEUM	SOMPO 美術館
TBS 赤坂 ACT シアター (3)	Zepp Haneda (2)	アーティゾン美術館
イイノホール	サントリーホール (2)	すみだトリフォニーホール (2)
ビルボードライブ 東京ヤマハホール	よみうりホール	ワタリウム美術館 (2)
歌舞伎座 (5)	葛飾北斎美術館	観世能楽堂
紀伊國屋ホール	銀座画廊	古賀政男記念館
国立科学博物館 (5)	国立競技場	国立劇場
国立公文書館	国立新美術館 (5)	国立西洋美術館 (5)
国立代々木競技場 (2)	国立能楽堂 (2)	三菱一号館美術館
山種美術館	四季劇場 (7)	渋谷区総合文化センター大和田
上野の森美術館 (3)	新橋演舞場	森アーツセンターギャラリー
森美術館	世田谷パブリックシアター	赤坂サカス
浅草演芸ホール (4)	池袋西武ギャラリー	調布市グリーンホール
帝国劇場 (4)	東急シアターオーブ (2)	東京オペラシティ (2)
東京ガーデンシアター (5)	東京ドーム (6)	東京芸術劇場 (3)
東京国際フォーラム (5)	東京国立近代美術館 (3)	東京国立博物館 (14)
東京体育館	東京都現代美術館 (2)	東京都美術館 (13)
東京文化会館 (3)	東京宝塚劇場 (3)	東京藝術大学美術館
日本青年館	日本武道館 (4)	日本福音ルーテル市ヶ谷教会
武蔵野音楽大学コンサートホール	舞浜アンフィシアター (2)	文化学園服飾博物館
宝生能楽堂	豊洲 PIT	北とぴあ
明治座	弥生美術館	立川ステージガーデン
鈴木演芸場		

## (その他の文化芸術施設)

COMICO ART MUSEUM YUFUIN	MOA 美術館 (2)	エコパアリーナ
さいたまスーパーアリーナ (3)	さいたま市大宮盆栽美術館	セキスイハイムスーパーアリーナ
なんばグランド花月	ぴあアリーナ MM (2)	ミュージア川崎シンフォニーホール
やまぎん県民ホール (山形県総合文化芸術館)	伊勢神宮	横浜アリーナ (6)
河井寛次郎記念館	岩手県民会館	宮城県美術館
京都国立近代美術館	京都市	京都市京セラ美術館
京都寺院	金沢 21 世紀美術館 (2)	熊本城
熊本城ホール	群馬県	軽井沢高原文庫
光ミュージアム	高知県県民文化ホール (オレンジホール)	国立国際美術館
国立歴史民俗博物館	佐賀市文化会館	埼玉会館
札幌市内のコンサート	山梨県立富士山世界遺産センター	周南市文化会館
秋田市文化会館	松本城	神戸国際会館
神戸市	神奈川県立金沢文庫	静岡県民文化センター
石川県立美術館	千葉市美術館	川商ホール (鹿児島市民文化ホール)
足立美術館	大阪城ホール	大阪中之島美術館
大塚国際美術館	長野県内の美術館	長良川国際会議場
田母沢御用邸	東大寺	奈良県内の美術館
日光市	日光東照宮 (2)	箱根 彫刻の森美術館
舞浜アンフィシアター	平安神宮	幕張メッセ (5)
野木エニスホール (野木町文化会館)	高崎芸術劇場	いわき芸術文化交流館 アリオス

## (その他：具体的なイベント・場所)

洞峰公園の写真展	歴史的建物(萩、津和野、門司、広島市)	やきもの館(益子焼)
イオンモール土浦	ららぽーと新三郷	つくばウェルネスパーク
ロックインジャパン(千葉市)	イオンモールつくば	市外の映画館
土浦キララまつり	浅草寺	出雲大社
松江城	働く婦人の家での講座(パッチワーク)	装道着付け教室(成人式時の晴れ着の着付け)
平沢官衛遺跡	みらい農園	みかん狩り(吉原農園)
バラ園(つくば市)	石岡のおまつり	まつりつくば
ホテル日航つくば	谷田部総合体育館	筑波銀行
フラダンスイベント	日産スタジアム	公園
さんあびお	筑波サーキット	吉沼マルシェ
酒井三徳氏木彫展(四万騎農園・石蔵ギャラリー)	下妻ふるさと博物館	デイズタウン
岡山城	岩手県立大学	市内カラオケ店
つくばBIVI	車内	沖縄の文化財(城跡)
川崎市の個人展示会	東京	カラオケ店
TBS赤坂ACTシアター	京セラドーム	バンテリンドーム
学校	有明ガーデンシアター	市外の映画館
コミティア	東京ビッグサイト	洞峰公園
日産スタジアム	ドライブ中の車内で音楽鑑賞	華道をされている知人宅
成田山	民間の映画館	寺社仏閣
西表島	県内外の古墳・遺跡・城・展示館	

**◆クロス集計****<性別>**

男性で「市内の映画館」が3割超と最も多く、次いで「東京都内の文化芸術施設」、「茨城県つくば美術館」となっている一方で、女性では「東京都内の文化芸術施設」が3割超と最も多く、次いで「市民の映画館」が3割、「ノバホール（大ホール）」となっている。

**<年齢別>**

「市内の映画館」は全ての年代で上位となっている。

「東京都内の文化芸術施設」は10歳代から60歳代までにおいて上位となっている。

「ノバホール（大ホール）」は10歳代と40歳代、60歳代以上で上位となっている。

「茨城県内（市内を除く）の文化芸術施設」は10歳代と20歳代、50歳代で上位となっている。  
茨城県つくば美術館は10歳代と60歳代で上位となっている。

「その他の文化芸術施設」は10歳代と20歳代で上位となっている。

「つくばカピオ（ホール）」は30歳代、「地域交流センター」は70歳代以上、「市民ホール」は10歳代で上位となっている。

**<地区別>**

「市民の映画館」は大穂地区以外で上位となっている。

「東京都内の文化芸術施設」は谷田部地区以外で上位となっている。

「ノバホール（大ホール）」はTX沿線地区と豊里地区、桜地区、谷田部地区で上位となっている。

「地域交流センター」は筑波地区と大穂地区、荃崎地区で上位となっている。

「茨城県内（市内を除く）の文化芸術施設」は大穂地区と豊里地区、谷田部地区で上位となっている。

「ふれあいプラザ」は荃崎地区、「茨城県つくば美術館」は研究学園地区、その他市内の文化芸術施設は大穂地区、その他の文化芸術施設はTX沿線地区で上位となっている。

図表 14 過去 1 年間に文化芸術を鑑賞・体験した施設（性別、年代別、地区別）

区分	n	ノバホール（大ホール）	ノバホール（小ホール）	つくばカピオ（アリーナ）	つくばカピオ（ホール）	アルスホール	ふれあいプラザ	地域交流センター	市民ホール	国際会議場エポカルつくば	茨城県つくば美術館	つくば市民ギャラリー	さくら民家園	市内の映画館	その他の市内の文化芸術施設	茨城県内（市内を除く）の文化芸術施設	東京都内の文化芸術施設	その他の文化芸術施設	その他
<性別>																			
男	130	16.2%	4.6%	3.8%	10.8%	6.2%	3.8%	10.8%	4.6%	2.3%	<b>19.2%</b>	2.3%	3.1%	<b>33.1%</b>	6.9%	17.7%	<b>22.3%</b>	13.8%	<b>19.2%</b>
女	196	<b>18.9%</b>	3.1%	7.7%	13.3%	4.6%	4.1%	9.2%	3.1%	2.0%	12.8%	2.0%	1.0%	<b>30.6%</b>	8.7%	16.8%	<b>34.2%</b>	15.3%	12.8%
無回答	6	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	<b>33.3%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>33.3%</b>	0.0%	0.0%	<b>33.3%</b>	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%
<年代別>																			
10歳代	6	<b>16.7%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>16.7%</b>	0.0%	<b>16.7%</b>	0.0%	0.0%	<b>16.7%</b>	0.0%	<b>16.7%</b>	<b>33.3%</b>	<b>16.7%</b>	<b>16.7%</b>
20歳代	37	2.7%	0.0%	2.7%	5.4%	8.1%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	10.8%	0.0%	0.0%	<b>27.0%</b>	5.4%	<b>21.6%</b>	<b>40.5%</b>	<b>21.6%</b>	10.8%
30歳代	63	11.1%	4.8%	9.5%	<b>19.0%</b>	7.9%	6.3%	9.5%	1.6%	1.6%	11.1%	1.6%	1.6%	<b>22.2%</b>	15.9%	6.3%	<b>25.4%</b>	14.3%	15.9%
40歳代	84	<b>22.6%</b>	2.4%	9.5%	16.7%	2.4%	1.2%	2.4%	3.6%	3.6%	10.7%	1.2%	1.2%	<b>35.7%</b>	2.4%	19.0%	<b>22.6%</b>	8.3%	19.0%
50歳代	66	16.7%	1.5%	3.0%	6.1%	3.0%	1.5%	9.1%	1.5%	0.0%	21.2%	3.0%	1.5%	<b>30.3%</b>	9.1%	<b>27.3%</b>	<b>42.4%</b>	19.7%	15.2%
60歳代	44	<b>20.5%</b>	4.5%	2.3%	11.4%	11.4%	4.5%	18.2%	11.4%	2.3%	<b>20.5%</b>	4.5%	4.5%	<b>40.9%</b>	6.8%	15.9%	<b>22.7%</b>	11.4%	11.4%
70歳代以上	32	<b>34.4%</b>	12.5%	6.3%	12.5%	6.3%	15.6%	<b>28.1%</b>	3.1%	6.3%	25.0%	3.1%	3.1%	<b>37.5%</b>	9.4%	9.4%	21.9%	15.6%	12.5%
<地区別>																			
研究学園地区	118	14.4%	2.5%	1.7%	12.7%	7.6%	0.8%	5.1%	2.5%	2.5%	<b>22.0%</b>	1.7%	3.4%	<b>34.7%</b>	4.2%	20.3%	<b>36.4%</b>	17.8%	16.1%
TX沿線地区	71	<b>18.3%</b>	2.8%	9.9%	15.5%	4.2%	1.4%	5.6%	1.4%	0.0%	11.3%	2.8%	1.4%	<b>26.8%</b>	5.6%	9.9%	<b>29.6%</b>	<b>18.3%</b>	12.7%
筑波地区	20	10.0%	0.0%	15.0%	0.0%	5.0%	10.0%	<b>30.0%</b>	15.0%	5.0%	10.0%	5.0%	0.0%	<b>40.0%</b>	5.0%	10.0%	<b>20.0%</b>	0.0%	<b>20.0%</b>
大穂地区	16	18.8%	6.3%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	<b>25.0%</b>	12.5%	0.0%	18.8%	6.3%	0.0%	12.5%	<b>25.0%</b>	<b>31.3%</b>	<b>37.5%</b>	12.5%	12.5%
豊里地区	18	<b>22.2%</b>	5.6%	5.6%	16.7%	0.0%	0.0%	11.1%	5.6%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	<b>22.2%</b>	11.1%	<b>22.2%</b>	<b>33.3%</b>	5.6%	11.1%
桜地区	27	<b>29.6%</b>	7.4%	11.1%	14.8%	14.8%	3.7%	14.8%	3.7%	3.7%	25.9%	3.7%	0.0%	<b>33.3%</b>	11.1%	25.9%	<b>29.6%</b>	11.1%	18.5%
谷田部地区	45	<b>22.2%</b>	2.2%	6.7%	11.1%	0.0%	8.9%	8.9%	2.2%	6.7%	2.2%	2.2%	2.2%	<b>40.0%</b>	13.3%	<b>17.8%</b>	13.3%	13.3%	11.1%
荊崎地区	19	15.8%	10.5%	5.3%	15.8%	0.0%	<b>26.3%</b>	<b>21.1%</b>	0.0%	0.0%	10.5%	0.0%	0.0%	<b>26.3%</b>	10.5%	5.3%	<b>21.1%</b>	10.5%	15.8%

太字は上位 3 項目

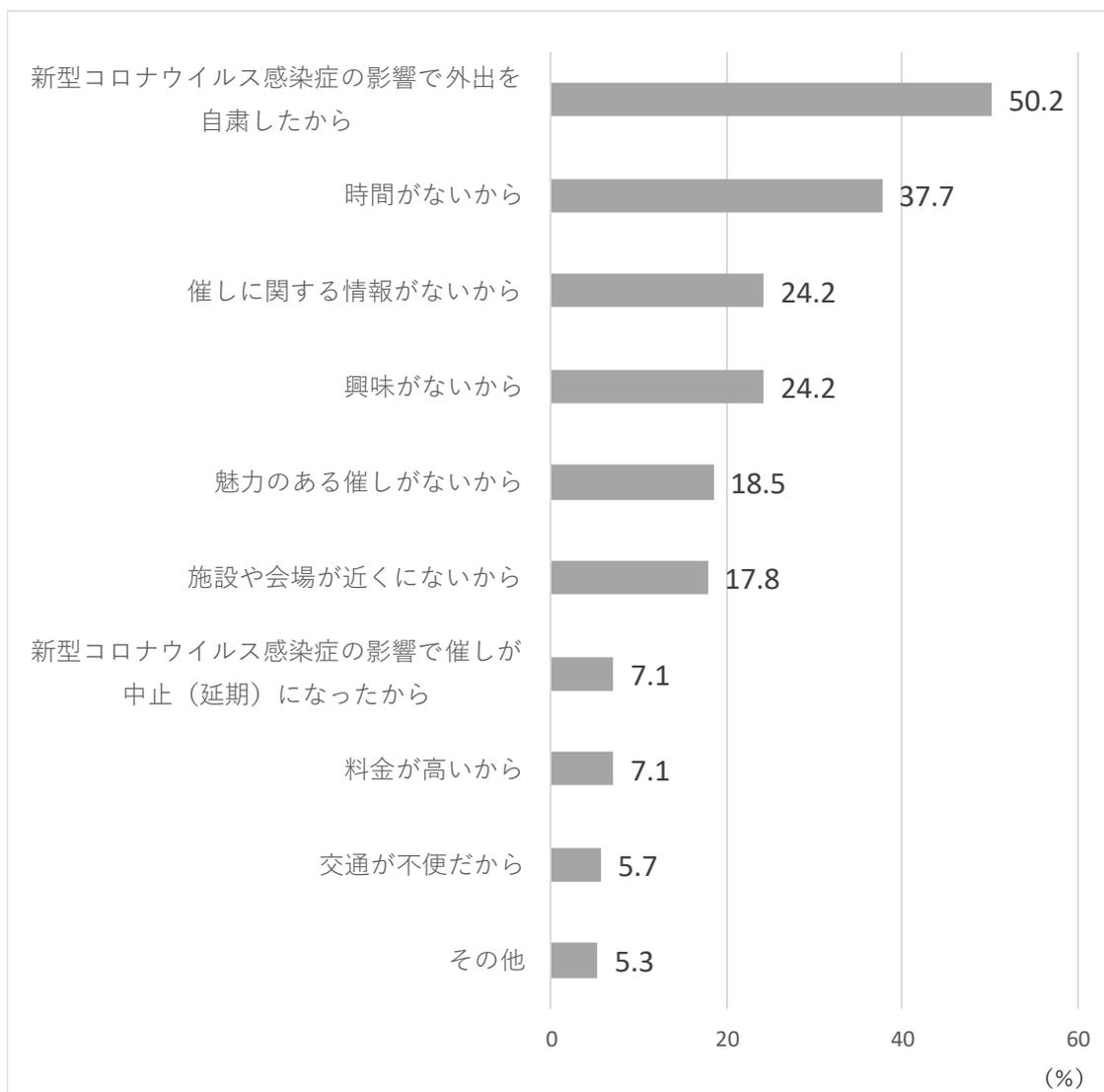
## (7) 過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験しなかった理由

## ◆全体

## 新型コロナウイルスによる外出自粛が5割と最多

過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験しなかった市民のその理由をみると、「新型コロナウイルス感染症の影響で外出を自粛したから」が50.2%と最も多く、次いで「時間がないから」が37.7%、「催しに関する情報がないから」と「興味がないから」が24.2%となっている（図表15）。

図表15 過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験しなかった理由（n=281）



**◆クロス集計****<性別>**

男性では、「新型コロナウイルス感染症の影響で外出を自粛したから」が44.9%と最も多く、次いで「時間がないから」が38.1%、「興味がないから」が35.6%となっている（図表16）。

女性では、「新型コロナウイルス感染症の影響で外出を自粛したから」が54.1%と最も多く、次いで「時間がないから」が37.7%、「催しに関する情報がないから」が24.7%となっている。

女性は男性に比べて「新型コロナウイルス感染症の影響で外出を自粛したから」の割合が高い。一方で、男性は女性に比べて「興味がないから」の割合が高い。

**<年齢別>**

「新型コロナウイルス感染症の影響で外出を自粛したから」は30歳代以上で上位となっており、特に、60歳代と70歳代で約6割となっている。

「時間がないから」は10歳代～60歳代で上位となっており、10歳代から50歳代で4割以上となっている。

「催しに関する情報がないから」は20歳代と30歳代、50歳代、60歳代となっており、特に20歳代で7割弱となっている。

「興味がないから」は40歳代と70歳代以上で上位となっている。

「魅力のある催しがないから」は20歳代で、「施設や会場が近くにないから」が70歳代、「交通が不便だから」が10歳代で上位となっている。

**<地区別>**

「新型コロナウイルス感染症の影響で外出を自粛したから」は全ての地区で上位となっている。

「時間がないから」は谷田部地区以外で上位となっている。

「興味がないから」は「研究学園地区」と「大穂地区」、「豊里地区」で上位となっている。

「催しに関する情報がないから」は「TX沿線地区」と「桜地区」、「谷田部地区」で上位となっている。

「魅力のある催しがないから」は「桜地区」や「谷田部地区」で上位となっている。

「施設や会場が近くにないから」は筑波地区で上位となっている。

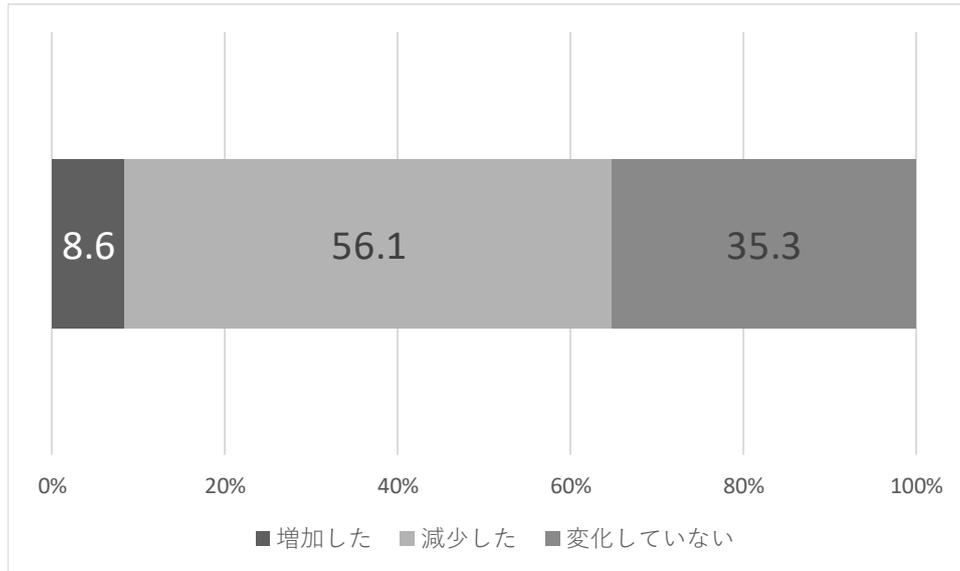
図表 16 過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験しなかった理由（性別、年代別、地区別）

区分	n	興味がないから	時間がないから	魅力のあるから催しがないから	催しに関する情報がないから	施設や会場が近くにないから	交通が不便だから	料金が高いから	（延期）になつたから	新型コロナウイルス感染症の影響で催しが中止	新型コロナウイルス感染症で外出を自粛したから	その他
<性別>												
男	118	<b>35.6%</b>	<b>38.1%</b>	0.186	0.237	0.144	0.042	0.051	0.085	<b>44.9%</b>		0.025
女	146	0.151	<b>0.377</b>	0.185	<b>0.247</b>	0.192	0.062	0.082	0.055	<b>0.541</b>		0.082
無回答	11	<b>0.364</b>	<b>0.273</b>	0.091	<b>0.273</b>	<b>0.364</b>	0.091	0.091	0.091	<b>0.273</b>		0
<年代別>												
10歳代	2	0.0%	<b>50.0%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	<b>50.0%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>50.0%</b>
20歳代	15	13.3%	<b>40.0%</b>	<b>33.3%</b>	<b>66.7%</b>	13.3%	0.0%	6.7%	0.0%	26.7%		13.3%
30歳代	36	22.2%	<b>50.0%</b>	11.1%	<b>27.8%</b>	13.9%	2.8%	13.9%	2.8%	<b>25.0%</b>		8.3%
40歳代	56	<b>39.3%</b>	<b>46.4%</b>	17.9%	14.3%	23.2%	7.1%	10.7%	7.1%	<b>42.9%</b>		0.0%
50歳代	55	20.0%	<b>49.1%</b>	25.5%	<b>29.1%</b>	7.3%	1.8%	3.6%	7.3%	<b>56.4%</b>		3.6%
60歳代	53	17.0%	<b>24.5%</b>	17.0%	<b>24.5%</b>	20.8%	7.5%	5.7%	9.4%	<b>60.4%</b>		3.8%
70歳代以上	58	<b>27.6%</b>	20.7%	13.8%	17.2%	<b>24.1%</b>	6.9%	3.4%	8.6%	<b>60.3%</b>		8.6%
<地区別>												
研究学園地区	66	<b>24.2%</b>	<b>37.9%</b>	16.7%	22.7%	9.1%	3.0%	12.1%	10.6%	<b>50.0%</b>		6.1%
TX沿線地区	59	13.6%	<b>50.8%</b>	15.3%	<b>33.9%</b>	22.0%	6.8%	6.8%	6.8%	<b>45.8%</b>		6.8%
筑波地区	26	15.4%	<b>34.6%</b>	23.1%	15.4%	<b>38.5%</b>	15.4%	3.8%	3.8%	<b>57.7%</b>		3.8%
大穂地区	16	<b>43.8%</b>	<b>56.3%</b>	12.5%	18.8%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	<b>43.8%</b>		6.3%
豊里地区	22	<b>40.9%</b>	<b>45.5%</b>	18.2%	13.6%	9.1%	0.0%	9.1%	13.6%	<b>36.4%</b>		0.0%
桜地区	29	20.7%	<b>24.1%</b>	<b>24.1%</b>	<b>27.6%</b>	20.7%	0.0%	3.4%	3.4%	<b>51.7%</b>		3.4%
谷田部地区	37	18.9%	18.9%	<b>21.6%</b>	<b>27.0%</b>	8.1%	2.7%	5.4%	5.4%	<b>56.8%</b>		5.4%
荃崎地区	26	<b>42.3%</b>	<b>34.6%</b>	19.2%	19.2%	23.1%	11.5%	0.0%	7.7%	<b>57.7%</b>		7.7%

太字は上位3項目

**(8) 新型コロナウイルス感染症による文化芸術の鑑賞・体験頻度の変化****◆全体****「減少した」が6割弱**

新型コロナウイルス感染症の拡大前と拡大後における文化芸術の鑑賞・体験頻度の変化をみると、「減少した」が56.1%と最も多く、次いで「変化していない」が35.3%、「増加した」が8.6%となっている（図表17）。

**図表17 新型コロナウイルス感染症による文化芸術の鑑賞・体験頻度の変化（n=852）**

## ◆クロス集計

## &lt;性別&gt;

「減少した」は女性で62.6%と男性の47.7%と比べて多い（図表18）。

## &lt;年齢別&gt;

「増加した」は10代で2割超、20歳代で2割となっている。

「減少した」は50歳代と60歳代で6割超となった一方、10歳代は2割にとどまっている。

## &lt;地区別&gt;

「増加した」は大穂地区と荃崎地区で1割を超えている。

「減少した」は「筑波地区」と「桜地区」、「谷田部地区」で6割超となっている。

図表18 新型コロナウイルス感染症による文化芸術の鑑賞・体験頻度の変化  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	増加した	減少した	変化していない
<性別>				
男	342	8.8%	47.7%	43.6%
女	473	8.7%	62.6%	28.8%
無回答	25	4.0%	48.0%	48.0%
<年代別>				
10歳代	16	25.0%	18.8%	56.3%
20歳代	76	19.7%	47.4%	32.9%
30歳代	148	8.8%	54.1%	37.2%
40歳代	192	10.9%	50.0%	39.1%
50歳代	157	5.7%	62.4%	31.8%
60歳代	133	4.5%	68.4%	27.1%
70歳代以上	119	4.2%	56.3%	39.5%
<地区別>				
研究学園地区	261	9.2%	54.8%	36.0%
TX沿線地区	183	6.6%	56.3%	37.2%
筑波地区	52	5.8%	63.5%	30.8%
大穂地区	44	11.4%	50.0%	38.6%
豊里地区	56	5.4%	57.1%	37.5%
桜地区	74	9.5%	62.2%	28.4%
谷田部地区	116	9.5%	60.3%	30.2%
荃崎地区	65	12.3%	43.1%	44.6%

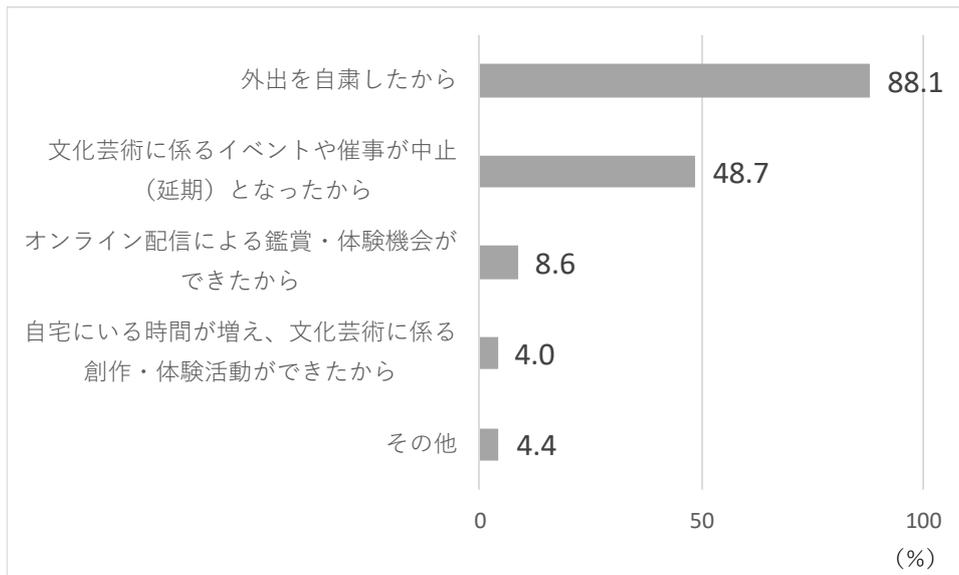
(9) 新型コロナウイルス感染症による文化芸術の鑑賞・体験頻度が減少した理由

◆全体

外出自粛が9割弱、イベントや催事の中止（延期）が5割弱

新型コロナウイルス感染症の拡大前後で文化芸術の鑑賞・体験頻度が減少した市民のその理由をみると、「外出を自粛したから」が88.1%と最も多く、次いで「文化芸術に係るイベントや催事が中止（延期）となったから」が48.7%、「オンライン配信による鑑賞・体験機会ができたから」が8.6%となっている（図表19）。

図表19 新型コロナウイルス感染症により文化芸術の鑑賞・体験頻度が変化した理由（n=478）



**◆クロス集計****<性別>**

男女ともに、「外出を自粛したから」が最も多く、次いで「文化芸術に係るイベントや催事が中止（延期）となったから」、「オンライン配信による鑑賞・体験機会ができたから」となっている（図表 20）。

女性は男性に比べて「外出を自粛したから」が多い。

**<年齢別>**

「外出を自粛したから」は50歳代から70歳代以上で6割超となっている。

「文化芸術に係るイベントや催事が中止（延期）となったから」は30代で37.0%、20代で35.7%と比較的多い。

「オンライン配信による鑑賞・体験機会ができたから」は10歳代で3割、20歳代で3割弱となっている。

**<地区別>**

「外出を自粛したから」は筑波地区と谷田部地区で7割超となっている。

「文化芸術に係るイベントや催事が中止（延期）となったから」は豊里地区と大穂地区で約4割となっている。

「オンライン配信による鑑賞・体験機会ができたから」はTX沿線地区と大穂地区で2割以上となっている。

図表 20 新型コロナウイルス感染症による文化芸術の鑑賞・体験頻度が変化した理由  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	外出を自粛したから	文化芸術に係るイベントや催事が中止（延期）となったから	オンライン配信による鑑賞・体験機会ができたから	自宅にいる時間が増え、文化芸術に係る創作・体験活動ができたから	その他
<性別>						
男	325	62.8%	28.6%	17.2%	12.0%	17.8%
女	444	69.6%	34.2%	19.4%	11.5%	11.0%
無回答	21	57.1%	42.9%	14.3%	4.8%	19.0%
<年代別>						
10歳代	13	30.8%	30.8%	30.8%	30.8%	15.4%
20歳代	70	57.1%	35.7%	27.1%	18.6%	18.6%
30歳代	138	58.0%	37.0%	20.3%	13.8%	15.9%
40歳代	184	58.2%	30.4%	23.4%	11.4%	16.3%
50歳代	148	77.0%	32.4%	12.2%	8.1%	10.1%
60歳代	126	81.0%	32.5%	15.1%	6.3%	12.7%
70歳代以上	112	69.6%	25.9%	12.5%	13.4%	11.6%
<地区別>						
研究学園地区	243	65.0%	33.3%	17.7%	14.4%	14.8%
TX沿線地区	175	63.4%	33.7%	20.6%	7.4%	17.1%
筑波地区	50	74.0%	28.0%	12.0%	14.0%	10.0%
大穂地区	43	62.8%	39.5%	23.3%	7.0%	16.3%
豊里地区	53	67.9%	41.5%	18.9%	13.2%	9.4%
桜地区	70	67.1%	31.4%	18.6%	10.0%	11.4%
谷田部地区	106	73.6%	27.4%	15.1%	11.3%	10.4%
茎崎地区	61	65.6%	19.7%	18.0%	14.8%	16.4%

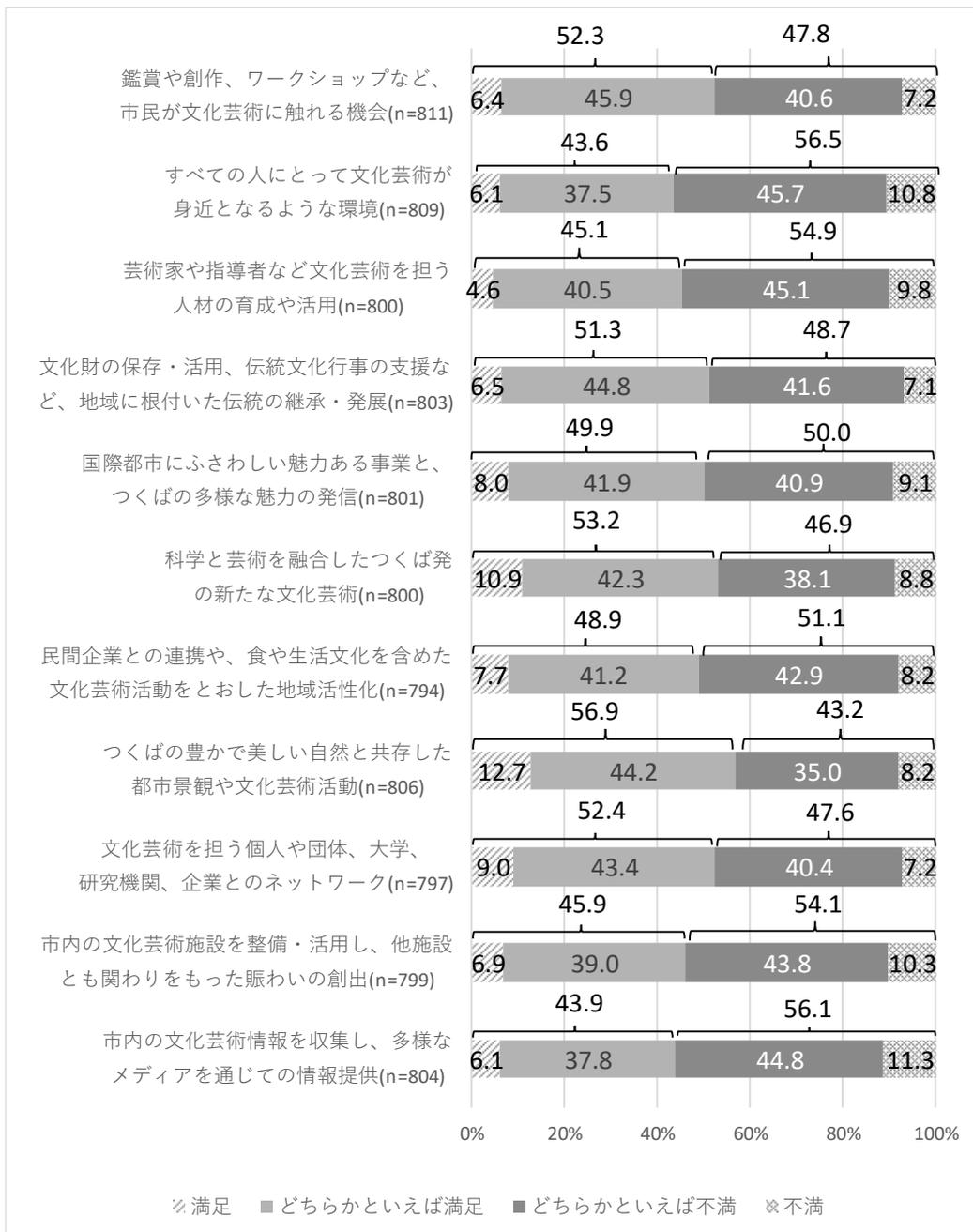
(10) つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する現状の満足度

◆全体

『自然と共存した都市景観や文化芸術活動』や、『科学と芸術を融合した文化芸術』、『文化芸術を担う個人・団体や大学・研究機関、企業のネットワーク』が上位

つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する現状の満足度を「満足評価（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計）」からみると、「つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動」が56.9%と最も多く、次いで「科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術」が53.2%、「文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク」が52.4%、「鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会」が52.3%となっている（図表 21）。

図表 21 つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する現状の満足度



<参考 2> 基本計画指標別の現状の満足度（今回、平成 30 年度）

指標	満足評価割合	
	今回調査	平成30年度調査
1 文化芸術に接する機会の拡充	52.3%	<b>26.1%</b>
2 すべての人にとって文化芸術が身近にある環境づくり	43.6%	23.0%
3 文化芸術に資する人材の育成と活用	45.1%	12.0%
4 地域に根付いた伝統の継承・発展	51.3%	17.0%
5 多文化共生による文化芸術の振興	49.9%	<b>24.1%</b>
6 科学と融合した文化芸術の振興	<b>53.2%</b>	21.0%
7 文化芸術によるイノベーションの創出	48.9%	12.8%
8 自然との共生による文化芸術の振興	<b>56.9%</b>	19.7%
9 プラットフォームの形成	<b>52.4%</b>	11.0%
10 文化施設の整備と活用	45.9%	<b>29.4%</b>
11 文化芸術情報の収集と提供	43.9%	18.2%

太字は上位 3 項目

<参考 3> 基本計画指標と市民意識調査選択肢の対応（今回、平成 30 年度） <参考>

指標（成果指標）	選択肢（今回調査）	選択肢（平成30年度調査）
1 文化芸術に接する機会の拡充	鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会	優れた舞台公演や作品展示などが行われている
		文化芸術に関する市民活動が盛んに取り組まれている
2 すべての人にとって文化芸術が身近にある環境づくり	すべての人にとって文化芸術が身近となるような環境	文化芸術活動が幅広い世代で取り組まれている
3 文化芸術に資する人材の育成と活用	芸術家や指導者など文化芸術を担う人材の育成や活用	文化芸術に関する人材の育成がされている
4 地域に根付いた伝統の継承・発展	文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展	伝統的な文化芸術の保存・活動がされている
5 多文化共生による文化芸術の振興	国際都市にふさわしい魅力ある事業と、つくばの多様な魅力の発信	文化芸術を通じた国際交流が取り組まれている
6 科学と融合した文化芸術の振興	科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術	ITなど先端技術を活かした文化芸術活動が取り組まれている
7 文化芸術によるイノベーションの創出	民間企業との連携や、食や生活文化を含めた文化芸術活動とおした地域活性化	文化芸術を活かし、観光や産業が活発な状況にある
8 自然との共生による文化芸術の振興	つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動	自然環境や景観と文化芸術活動が連携している
9 プラットフォームの形成	文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク	日々の暮らしの中で、文化芸術の創造がなされている
		それぞれの文化芸術活動が連携している
10 文化施設の整備と活用	市内の文化芸術施設を整備・活用し、他施設とも関わりをもった賑わいの創出	文化芸術施設が整っている
11 文化芸術情報の収集と提供	市内の文化芸術情報を収集し、多様なメディアを通じての情報提供	文化芸術に関する情報が充実している

◆クロス集計

①鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会

<性別>

男女ともに「満足評価（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計）」が5割を上回っている（図表 22）。

<年齢別>

10歳代～50歳代、70歳以上で「満足評価」が5割を上回っており、特に10歳代は約7割となっている。

一方、「60歳代」で「満足評価」が5割を下回っている。

<地区別>

研究学園地区とTX沿線地区、筑波地区、大穂地区、谷田部地区で「満足評価」が5割を上回っており、特に大穂地区で6割となっている。

一方、豊里地区と谷田部地区で「満足評価」が5割を下回っている。

図表 22 鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	満足評価	不満評価
<性別>							
男	326	8.0%	43.9%	40.8%	7.4%	51.9%	48.2%
女	452	5.8%	46.5%	40.7%	7.1%	52.3%	47.8%
無回答	23	0.0%	47.8%	47.8%	4.3%	47.8%	52.1%
<年代別>							
10歳代	16	6.3%	62.5%	31.3%	0.0%	68.8%	31.3%
20歳代	72	9.7%	47.2%	40.3%	2.8%	56.9%	43.1%
30歳代	142	7.7%	44.4%	38.7%	9.2%	52.1%	47.9%
40歳代	190	5.8%	48.9%	41.6%	3.7%	54.7%	45.3%
50歳代	154	5.2%	46.8%	40.3%	7.8%	52.0%	48.1%
60歳代	128	4.7%	39.1%	44.5%	11.7%	43.8%	56.2%
70歳代以上	100	8.0%	43.0%	41.0%	8.0%	51.0%	49.0%
<地区別>							
研究学園地区	253	7.9%	46.2%	40.7%	5.1%	54.1%	45.8%
TX沿線地区	179	5.6%	45.8%	40.8%	7.8%	51.4%	48.6%
筑波地区	49	8.2%	51.0%	36.7%	4.1%	59.2%	40.8%
大穂地区	41	4.9%	51.2%	34.1%	9.8%	56.1%	43.9%
豊里地区	54	3.7%	42.6%	42.6%	11.1%	46.3%	53.7%
桜地区	70	2.9%	41.4%	50.0%	5.7%	44.3%	55.7%
谷田部地区	109	8.3%	47.7%	35.8%	8.3%	56.0%	44.1%
荃崎地区	55	5.5%	41.8%	41.8%	10.9%	47.3%	52.7%

## ②すべての人にとって文化芸術が身近となるような環境

## &lt;性別&gt;

男女ともに、「満足評価」が5割を下回っており、特に女性で約4割と男性と比べて少ない（図表23）。

## &lt;年齢別&gt;

「満足評価」は10歳代を除き5割を下回っている。「満足評価」は60歳代で4割弱の水準となっている。

## &lt;地区別&gt;

「満足評価」は大穂地区を除く5割を下回っている。特に、豊里地区で約3割、筑波地区と荃崎地区で4割弱となっている。

図表23 すべての人にとって文化芸術が身近となるような環境  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	満足評価	不満評価
<性別>							
男	324	9.0%	39.5%	41.4%	10.2%	48.5%	51.6%
女	452	4.2%	35.4%	48.9%	11.5%	39.6%	60.4%
無回答	23	4.3%	39.1%	52.2%	4.3%	43.4%	56.5%
<年代別>							
10歳代	16	12.5%	37.5%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%
20歳代	72	5.6%	37.5%	50.0%	6.9%	43.1%	56.9%
30歳代	140	7.1%	37.9%	40.7%	14.3%	45.0%	55.0%
40歳代	190	5.3%	38.9%	45.8%	10.0%	44.2%	55.8%
50歳代	154	7.1%	37.0%	46.8%	9.1%	44.1%	55.9%
60歳代	127	4.7%	32.3%	48.8%	14.2%	37.0%	63.0%
70歳代以上	101	5.9%	38.6%	45.5%	9.9%	44.5%	55.4%
<地区別>							
研究学園地区	252	6.7%	40.9%	45.6%	6.7%	47.6%	52.3%
TX沿線地区	179	7.3%	36.9%	41.9%	14.0%	44.2%	55.9%
筑波地区	49	6.1%	30.6%	59.2%	4.1%	36.7%	63.3%
大穂地区	41	4.9%	46.3%	31.7%	17.1%	51.2%	48.8%
豊里地区	53	1.9%	26.4%	56.6%	15.1%	28.3%	71.7%
桜地区	69	7.2%	33.3%	47.8%	11.6%	40.5%	59.4%
谷田部地区	110	5.5%	40.9%	42.7%	10.9%	46.4%	53.6%
荃崎地区	55	3.6%	32.7%	49.1%	14.5%	36.3%	63.6%

## ③芸術家や指導者など文化芸術を担う人材の育成や活用

## &lt;性別&gt;

男女ともに「満足評価」が5割を下回っている。特に女性で4割と男性と比べて少ない（図表24）。

## &lt;年齢別&gt;

20歳代を除いて「満足評価」は5割を下回っている。特に10歳代と60歳代、70歳代以上で4割を下回っている。

## &lt;地区別&gt;

TX沿線地区を除いて「満足評価」は5割を下回っている。特に、筑波地区と桜地区、荃崎地区で4割を下回っている。

図表 24 芸術家や指導者など文化芸術を担う人材の育成や活用  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	満足評価	不満評価
<性別>							
男	323	5.9%	42.4%	42.1%	9.6%	48.3%	51.7%
女	445	3.8%	37.8%	48.1%	10.3%	41.6%	58.4%
無回答	23	0.0%	56.5%	43.5%	0.0%	56.5%	43.5%
<年代別>							
10歳代	16	6.3%	31.3%	50.0%	12.5%	37.6%	62.5%
20歳代	70	4.3%	45.7%	42.9%	7.1%	50.0%	50.0%
30歳代	139	3.6%	46.0%	40.3%	10.1%	49.6%	50.4%
40歳代	190	4.2%	42.6%	44.7%	8.4%	46.8%	53.1%
50歳代	151	6.0%	41.1%	43.7%	9.3%	47.1%	53.0%
60歳代	128	3.1%	33.6%	49.2%	14.1%	36.7%	63.3%
70歳代以上	98	6.1%	32.7%	53.1%	8.2%	38.8%	61.3%
<地区別>							
研究学園地区	249	4.8%	44.2%	41.8%	9.2%	49.0%	51.0%
TX沿線地区	176	5.1%	46.6%	39.2%	9.1%	51.7%	48.3%
筑波地区	48	6.3%	29.2%	62.5%	2.1%	35.5%	64.6%
大穂地区	42	4.8%	42.9%	38.1%	14.3%	47.7%	52.4%
豊里地区	53	0.0%	28.3%	60.4%	11.3%	28.3%	71.7%
桜地区	71	4.2%	32.4%	53.5%	9.9%	36.6%	63.4%
谷田部地区	107	4.7%	42.1%	43.0%	10.3%	46.8%	53.3%
荃崎地区	53	5.7%	32.1%	47.2%	15.1%	37.8%	62.3%

## ④文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展

## &lt;性別&gt;

「満足評価」は男女とともに5割を上回った（図表 25）。

## &lt;年齢別&gt;

10歳代から50歳代で「満足評価」は5割を上回り、特に10歳代と20歳代で6割を上回った。

## &lt;地区別&gt;

TX沿線地区と大穂地区、豊里地区、桜地区で「満足評価」は5割を上回った。一方で、研究学園地区と筑波地区、豊里地区、桜地区で5割を下回った。

図表 25 文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	満足評価	不満評価
<性別>							
男	322	7.5%	45.0%	38.8%	8.7%	52.5%	47.5%
女	447	6.0%	44.1%	43.8%	6.0%	50.1%	49.8%
無回答	23	0.0%	47.8%	52.2%	0.0%	47.8%	52.2%
<年代別>							
10歳代	16	18.8%	50.0%	31.3%	0.0%	68.8%	31.3%
20歳代	71	8.5%	52.1%	33.8%	5.6%	60.6%	39.4%
30歳代	140	5.7%	46.4%	40.7%	7.1%	52.1%	47.8%
40歳代	190	6.8%	44.7%	43.2%	5.3%	51.5%	48.5%
50歳代	151	6.0%	45.0%	39.7%	9.3%	51.0%	49.0%
60歳代	125	3.2%	40.8%	48.0%	8.0%	44.0%	56.0%
70歳代以上	100	8.0%	40.0%	45.0%	7.0%	48.0%	52.0%
<地区別>							
研究学園地区	250	6.0%	43.2%	43.2%	7.6%	49.2%	50.8%
TX沿線地区	177	5.1%	50.8%	37.3%	6.8%	55.9%	44.1%
筑波地区	49	8.2%	36.7%	51.0%	4.1%	44.9%	55.1%
大穂地区	41	4.9%	53.7%	34.1%	7.3%	58.6%	41.4%
豊里地区	54	5.6%	38.9%	46.3%	9.3%	44.5%	55.6%
桜地区	68	10.3%	32.4%	52.9%	4.4%	42.7%	57.3%
谷田部地区	109	6.4%	51.4%	34.9%	7.3%	57.8%	42.2%
荃崎地区	54	9.3%	42.6%	38.9%	9.3%	51.9%	48.2%

## ⑤国際都市にふさわしい魅力ある事業と、つくばの多様な魅力の発信

## &lt;性別&gt;

「満足評価」は男性で5割を上回る一方、女性は下回った（図表26）。

## &lt;年齢別&gt;

10歳代から40歳代までで「満足評価」は5割を上回り、10歳代は約7割、20歳代と30歳代は約6割となっている。

一方、50歳代と70歳代で5割を下回っている。

## &lt;地区別&gt;

「満足評価」はTX沿線地区と筑波地区、大穂地区、荃崎地区で5割を上回る一方、研究学園地区と豊里地区、桜地区、谷田部地区で5割を下回る。

図表26 国際都市にふさわしい魅力ある事業と、つくばの多様な魅力の発信  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	満足評価	不満評価
<性別>							
男	322	9.0%	41.9%	36.6%	12.4%	50.9%	49.0%
女	446	7.6%	40.6%	45.1%	6.7%	48.2%	51.8%
無回答	23	0.0%	56.5%	34.8%	8.7%	56.5%	43.5%
<年代別>							
10歳代	16	12.5%	56.3%	25.0%	6.3%	68.8%	31.3%
20歳代	72	6.9%	51.4%	34.7%	6.9%	58.3%	41.6%
30歳代	141	9.2%	48.9%	35.5%	6.4%	58.1%	41.9%
40歳代	189	7.4%	43.4%	41.8%	7.4%	50.8%	49.2%
50歳代	151	7.3%	39.1%	43.7%	9.9%	46.4%	53.6%
60歳代	126	5.6%	33.3%	47.6%	13.5%	38.9%	61.1%
70歳代以上	97	11.3%	33.0%	44.3%	11.3%	44.3%	55.6%
<地区別>							
研究学園地区	249	8.8%	39.8%	42.2%	9.2%	48.6%	51.4%
TX沿線地区	178	7.9%	43.8%	37.6%	10.7%	51.7%	48.3%
筑波地区	46	6.5%	47.8%	37.0%	8.7%	54.3%	45.7%
大穂地区	41	14.6%	43.9%	36.6%	4.9%	58.5%	41.5%
豊里地区	54	3.7%	44.4%	42.6%	9.3%	48.1%	51.9%
桜地区	69	7.2%	37.7%	49.3%	5.8%	44.9%	55.1%
谷田部地区	109	5.5%	41.3%	43.1%	10.1%	46.8%	53.2%
荃崎地区	54	11.1%	42.6%	37.0%	9.3%	53.7%	46.3%

## ⑥科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術

## &lt;性別&gt;

「満足評価」は男女ともに5割を上回った（図表27）。

## &lt;年齢別&gt;

10歳代から30歳代、50歳代で「満足評価」は5割を上回り、特に10歳代で約8割、20歳代で6割超、30歳代で約6割となった。

40歳代と60歳代、70歳代以上で「満足評価」は5割を下回った。

## &lt;地区別&gt;

「満足評価」は豊里地区と荃崎地区を除き5割を上回った。特に、筑波地区で6割超となった。

図表27 科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	満足評価	不満評価
<性別>							
男	322	12.7%	40.1%	36.0%	11.2%	52.8%	47.2%
女	445	10.1%	42.0%	40.4%	7.4%	52.1%	47.8%
無回答	23	0.0%	60.9%	39.1%	0.0%	60.9%	39.1%
<年代別>							
10歳代	16	6.3%	75.0%	18.8%	0.0%	81.3%	18.8%
20歳代	72	12.5%	52.8%	30.6%	4.2%	65.3%	34.8%
30歳代	140	13.6%	46.4%	32.1%	7.9%	60.0%	40.0%
40歳代	189	9.5%	40.2%	42.9%	7.4%	49.7%	50.3%
50歳代	151	9.9%	41.7%	38.4%	9.9%	51.6%	48.3%
60歳代	126	8.7%	33.3%	44.4%	13.5%	42.0%	57.9%
70歳代以上	97	13.4%	36.1%	41.2%	9.3%	49.5%	50.5%
<地区別>							
研究学園地区	249	12.0%	39.4%	38.6%	10.0%	51.4%	48.6%
TX沿線地区	178	10.1%	44.4%	37.6%	7.9%	54.5%	45.5%
筑波地区	47	8.5%	55.3%	25.5%	10.6%	63.8%	36.1%
大穂地区	41	14.6%	43.9%	31.7%	9.8%	58.5%	41.5%
豊里地区	53	5.7%	37.7%	45.3%	11.3%	43.4%	56.6%
桜地区	69	11.6%	39.1%	39.1%	10.1%	50.7%	49.2%
谷田部地区	109	9.2%	46.8%	37.6%	6.4%	56.0%	44.0%
荃崎地区	53	15.1%	34.0%	47.2%	3.8%	49.1%	51.0%

## ⑦民間企業との連携や、食や生活文化を含めた文化芸術活動をととした地域活性化

## &lt;性別&gt;

男女ともに「満足評価」は5割を下回った（図表 28）。

## &lt;年齢別&gt;

10歳代から30歳代で「満足評価」は5割を上回った一方、40歳代以上で下回っている。

## &lt;地区別&gt;

大穂地区と谷田部地区を除き、「満足評価」は5割を下回っている。

図表 28 民間企業との連携や、食や生活文化を含めた文化芸術活動をととした地域活性化  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	満足評価	不満評価
<性別>							
男	321	8.1%	39.9%	41.1%	10.9%	48.0%	52.0%
女	439	7.7%	40.8%	45.1%	6.4%	48.5%	51.5%
無回答	23	0.0%	52.2%	43.5%	4.3%	52.2%	47.8%
<年代別>							
10歳代	16	25.0%	31.3%	37.5%	6.3%	56.3%	43.8%
20歳代	70	11.4%	45.7%	37.1%	5.7%	57.1%	42.8%
30歳代	139	9.4%	42.4%	42.4%	5.8%	51.8%	48.2%
40歳代	189	5.3%	43.4%	45.5%	5.8%	48.7%	51.3%
50歳代	152	5.9%	42.1%	40.8%	11.2%	48.0%	52.0%
60歳代	124	5.6%	34.7%	48.4%	11.3%	40.3%	59.7%
70歳代以上	94	9.6%	37.2%	43.6%	9.6%	46.8%	53.2%
<地区別>							
研究学園地区	248	8.5%	41.1%	41.9%	8.5%	49.6%	50.4%
TX沿線地区	176	8.5%	40.9%	43.2%	7.4%	49.4%	50.6%
筑波地区	49	6.1%	38.8%	40.8%	14.3%	44.9%	55.1%
大穂地区	41	4.9%	51.2%	31.7%	12.2%	56.1%	43.9%
豊里地区	53	3.8%	43.4%	45.3%	7.5%	47.2%	52.8%
桜地区	67	7.5%	37.3%	52.2%	3.0%	44.8%	55.2%
谷田部地区	107	8.4%	42.1%	43.0%	6.5%	50.5%	49.5%
荃崎地区	52	7.7%	36.5%	44.2%	11.5%	44.2%	55.7%

## ⑧つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動

## &lt;性別&gt;

男女ともに「満足評価」は5割を上回った（図表 29）。

## &lt;年齢別&gt;

50歳代を除き「満足評価」は5割を上回った。特に10歳代は7割超、20歳代は約7割、30歳代は約6割となっている。

## &lt;地区別&gt;

豊里地区と桜地区を除き「満足評価」は5割を上回った。特に、大穂地区と荃崎地区で6割を上回っている。

図表 29 民間企業との連携や、食や生活文化を含めた文化芸術活動をととした地域活性化  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	満足評価	不満評価
<性別>							
男	322	11.8%	45.3%	32.3%	10.6%	57.1%	42.9%
女	450	13.6%	42.9%	36.9%	6.7%	56.5%	43.6%
無回答	23	8.7%	43.5%	43.5%	4.3%	52.2%	47.8%
<年代別>							
10歳代	16	18.8%	56.3%	25.0%	0.0%	75.1%	25.0%
20歳代	72	20.8%	48.6%	25.0%	5.6%	69.4%	30.6%
30歳代	141	17.7%	44.0%	31.9%	6.4%	61.7%	38.3%
40歳代	191	8.4%	49.2%	35.1%	7.3%	57.6%	42.4%
50歳代	151	11.9%	41.1%	39.1%	7.9%	53.0%	47.0%
60歳代	126	6.3%	40.5%	38.1%	15.1%	46.8%	53.2%
70歳代以上	99	16.2%	37.4%	39.4%	7.1%	53.6%	46.5%
<地区別>							
研究学園地区	251	14.3%	41.4%	35.5%	8.8%	55.7%	44.3%
TX沿線地区	179	12.3%	47.5%	33.0%	7.3%	59.8%	40.3%
筑波地区	50	14.0%	44.0%	30.0%	12.0%	58.0%	42.0%
大穂地区	41	17.1%	46.3%	29.3%	7.3%	63.4%	36.6%
豊里地区	53	5.7%	43.4%	41.5%	9.4%	49.1%	50.9%
桜地区	70	10.0%	38.6%	44.3%	7.1%	48.6%	51.4%
谷田部地区	108	11.1%	47.2%	34.3%	7.4%	58.3%	41.7%
荃崎地区	53	15.1%	45.3%	32.1%	7.5%	60.4%	39.6%

## ⑨文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク

## &lt;性別&gt;

男女ともに「満足評価」は5割を上回っている（図表30）。

## &lt;年齢別&gt;

「満足評価」は10歳代～50歳代で5割を上回っており、特に20歳代で約6割となっている。一方、60歳代以上で5割を下回っている。

## &lt;地区別&gt;

「満足評価」は豊里地区と桜地区を除き5割を上回っている。特に大穂地区で6割を上回っている。

図表30 文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	満足評価	不満評価
<性別>							
男	320	9.4%	43.4%	37.8%	9.4%	52.8%	47.2%
女	444	9.2%	43.2%	41.9%	5.6%	52.4%	47.5%
無回答	23	0.0%	39.1%	56.5%	4.3%	39.1%	60.8%
<年代別>							
10歳代	16	18.8%	31.3%	43.8%	6.3%	50.1%	50.1%
20歳代	72	15.3%	44.4%	34.7%	5.6%	59.7%	40.3%
30歳代	140	10.7%	45.7%	37.9%	5.7%	56.4%	43.6%
40歳代	189	7.9%	46.6%	40.2%	5.3%	54.5%	45.5%
50歳代	150	8.0%	44.7%	41.3%	6.0%	52.7%	47.3%
60歳代	124	3.2%	38.7%	44.4%	13.7%	41.9%	58.1%
70歳代以上	97	11.3%	38.1%	43.3%	7.2%	49.4%	50.5%
<地区別>							
研究学園地区	246	10.6%	43.1%	41.1%	5.3%	53.7%	46.4%
TX沿線地区	178	9.6%	42.7%	39.9%	7.9%	52.3%	47.8%
筑波地区	47	8.5%	48.9%	36.2%	6.4%	57.4%	42.6%
大穂地区	41	12.2%	48.8%	29.3%	9.8%	61.0%	39.1%
豊里地区	54	1.9%	44.4%	44.4%	9.3%	46.3%	53.7%
桜地区	69	7.2%	33.3%	52.2%	7.2%	40.5%	59.4%
谷田部地区	108	9.3%	44.4%	38.9%	7.4%	53.7%	46.3%
荃崎地区	53	7.5%	49.1%	34.0%	9.4%	56.6%	43.4%

## ⑩市内の文化芸術施設を整備・活用し、他施設とも関わりをもった賑わいの創出

## &lt;性別&gt;

男女ともに「満足評価」は5割を下回った（図表 31）。

## &lt;年齢別&gt;

10歳代と30歳代を除き「満足評価」は5割を下回った。特に60歳代と70歳代で約4割となっている。

## &lt;地区別&gt;

筑波地区と大穂地区、荃崎地区で「満足評価」は5割を上回った。一方、研究学園地区とTX沿線地区、豊里地区、桜地区、谷田部地区で5割を下回り、特に桜地区は3割超となっている。

図表 31 市内の文化芸術施設を整備・活用し、他施設とも関わりをもった賑わいの創出  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	満足評価	不満評価
<性別>							
男	323	8.4%	37.5%	42.1%	12.1%	45.9%	54.2%
女	443	6.1%	39.3%	45.4%	9.3%	45.4%	54.7%
無回答	23	0.0%	43.5%	52.2%	4.3%	43.5%	56.5%
<年代別>							
10歳代	16	18.8%	43.8%	37.5%	0.0%	62.6%	37.5%
20歳代	71	8.5%	39.4%	42.3%	9.9%	47.9%	52.2%
30歳代	141	8.5%	44.0%	39.7%	7.8%	52.5%	47.5%
40歳代	189	4.8%	39.7%	49.2%	6.3%	44.5%	55.5%
50歳代	150	6.7%	40.7%	40.0%	12.7%	47.4%	52.7%
60歳代	125	4.0%	34.4%	43.2%	18.4%	38.4%	61.6%
70歳代以上	98	10.2%	29.6%	51.0%	9.2%	39.8%	60.2%
<地区別>							
研究学園地区	246	7.7%	35.4%	45.9%	11.0%	43.1%	56.9%
TX沿線地区	179	8.4%	41.3%	40.8%	9.5%	49.7%	50.3%
筑波地区	49	8.2%	42.9%	44.9%	4.1%	51.1%	49.0%
大穂地区	41	9.8%	46.3%	34.1%	9.8%	56.1%	43.9%
豊里地区	53	0.0%	43.4%	45.3%	11.3%	43.4%	56.6%
桜地区	68	2.9%	33.8%	52.9%	10.3%	36.7%	63.2%
谷田部地区	108	6.5%	38.0%	45.4%	10.2%	44.5%	55.6%
荃崎地区	54	7.4%	44.4%	33.3%	14.8%	51.8%	48.1%

## ①市内の文化芸術情報を収集し、多様なメディアを通じての情報提供

## &lt;性別&gt;

男女ともに「満足評価」は5割を下回っている（図表 32）。

## &lt;年齢別&gt;

10歳代と30歳代で「満足評価」は5割を上回っており、10歳代では6割超となっている。

一方、20歳代と40歳代以上では5割を下回っており、特に60歳代以上で4割を満たない。

## &lt;地区別&gt;

筑波地区と荃崎地区を除き「満足評価」は5割を下回った。特に豊里地区と桜地区で3割超となっている。

図表 32 市内の文化芸術情報を収集し、多様なメディアを通じての情報提供  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	満足評価	不満評価
<性別>							
男	324	9.0%	37.0%	39.8%	14.2%	46.0%	54.0%
女	447	4.3%	37.8%	48.1%	9.8%	42.1%	57.9%
無回答	23	0.0%	39.1%	60.9%	0.0%	39.1%	60.9%
<年代別>							
10歳代	16	25.0%	37.5%	31.3%	6.3%	62.5%	37.6%
20歳代	72	1.4%	43.1%	48.6%	6.9%	44.5%	55.5%
30歳代	141	5.7%	45.4%	39.7%	9.2%	51.1%	48.9%
40歳代	189	4.8%	39.7%	46.6%	9.0%	44.5%	55.6%
50歳代	151	6.6%	36.4%	43.7%	13.2%	43.0%	56.9%
60歳代	127	4.7%	31.5%	47.2%	16.5%	36.2%	63.7%
70歳代以上	99	11.1%	27.3%	48.5%	13.1%	38.4%	61.6%
<地区別>							
研究学園地区	249	6.4%	34.5%	48.2%	10.8%	40.9%	59.0%
TX沿線地区	179	5.6%	41.9%	40.2%	12.3%	47.5%	52.5%
筑波地区	48	10.4%	43.8%	39.6%	6.3%	54.2%	45.9%
大穂地区	41	12.2%	34.1%	39.0%	14.6%	46.3%	53.6%
豊里地区	53	1.9%	32.1%	54.7%	11.3%	34.0%	66.0%
桜地区	70	4.3%	32.9%	52.9%	10.0%	37.2%	62.9%
谷田部地区	110	5.5%	40.0%	42.7%	11.8%	45.5%	54.5%
荃崎地区	53	5.7%	45.3%	35.8%	13.2%	51.0%	49.0%

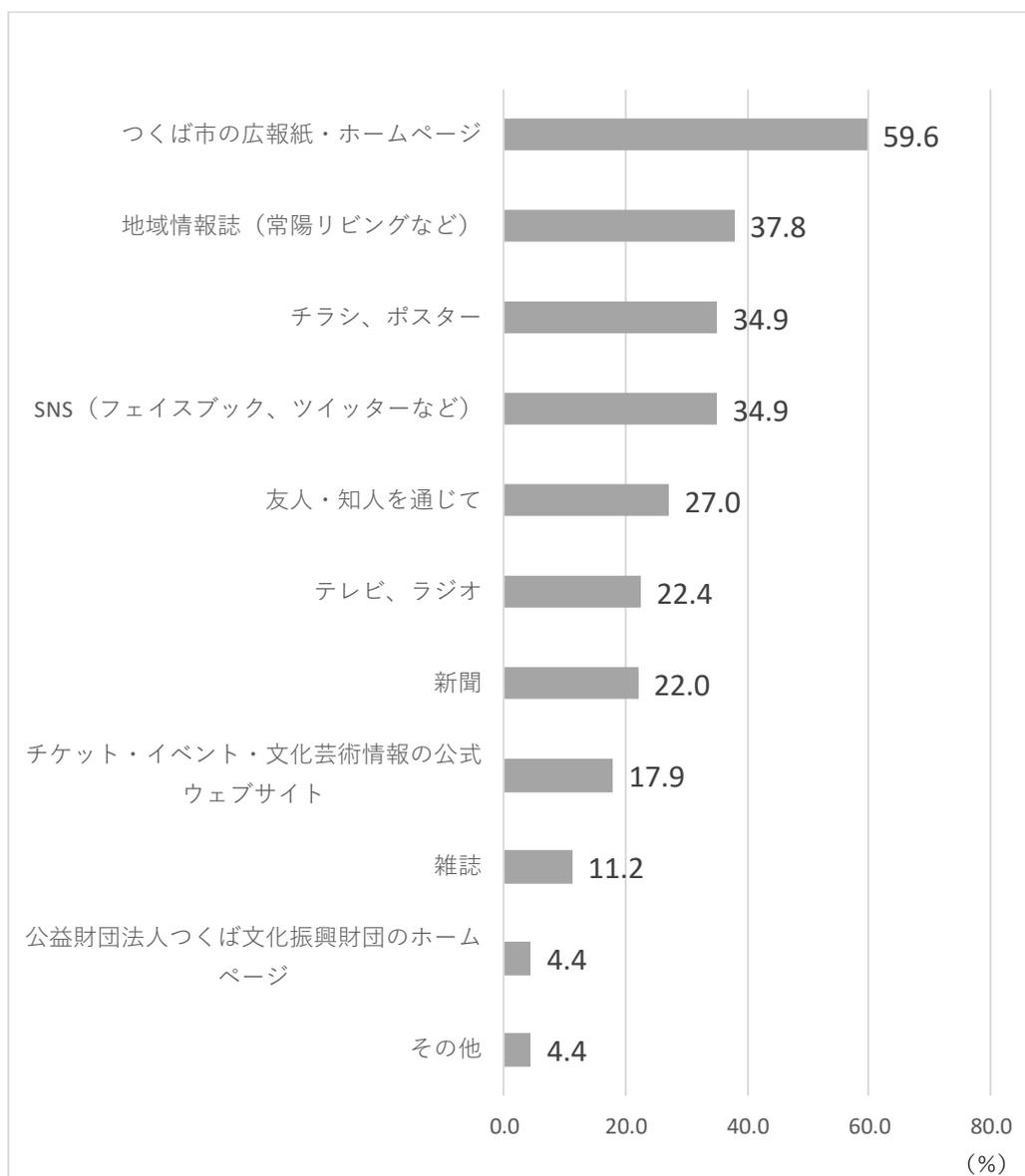
## (11) 文化芸術に関する情報の入手方法

## ◆全体

## 「つくば市の広報紙・ホームページ」が6割

文化芸術に関する情報の入手方法をみると、「つくば市の広報紙・ホームページ」が59.6%と最も多く、次いで「地域情報誌（常陽リビングなど）」が37.8%、「チラシ、ポスター」と「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」が34.9%となっている（図表33）。

図表33 文化芸術に関する情報の入手方法（n=849）



**◆クロス集計****<性別>**

男女ともに「つくば市の広報紙・ホームページ」が約6割と最も多く、次いで「地域情報紙（常陽リビングなど）」、「チラシ、ポスター」となっている（図表34）。

**<年齢別>**

「つくば市の広報紙・ホームページ」は20歳代を除き上位となっており、特に70歳代以上で約8割、60歳代で約7割となっている。

「チラシ、ポスター」は20歳代以上で上位となっており、10歳代と70歳代以上で4割を上回っている。

「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」は10歳代から40歳代で上位となっており、20歳代で8割超、30歳代で約6割となっている。

「友人・知人を通じて」は10歳代と20歳代で上位となっている。

「チケット・イベント・文化芸術情報の公式ウェブサイト」は20歳代、「新聞」は70歳代以上、「テレビ、ラジオ」は10歳代で上位となっている。

**<地区別>**

「つくば市の広報紙・ホームページ」は全ての地区で上位となっている。特に、「筑波地区」で約8割となっている。

「地域情報紙（常陽リビングなど）」は研究学園地区とTX沿線地区を除き上位となっている。

「チラシ、ポスター」は大穂地区と豊里地区を除き上位となっている。

「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」は研究学園地区とTX沿線地区、豊里地区、荃崎地区で上位となっている。

「友人・知人を通じて」は大穂地区で上位となっている。

図表 34 文化芸術に関する情報の入手方法  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	つくば市の広報紙・ホームページ	公益財団法人つくば文化振興財団のホームページ	芸術情報サイトのウェブサイト	チケット・イベント・ウェブページ	SNS（フェイスブック、ツイッターなど）	新聞	雑誌	地域情報紙（常陽リビンなど）	テレビ、ラジオ	チラシ、ポスター	友人・知人を通じて	その他
<性別>													
男	340	<b>58.5%</b>	6.2%	15.3%	31.5%	27.4%	13.5%	<b>37.1%</b>	21.5%	<b>32.1%</b>	23.2%	5.0%	
女	473	<b>60.5%</b>	3.4%	20.3%	37.6%	18.4%	9.7%	<b>38.3%</b>	23.7%	<b>37.8%</b>	30.0%	3.8%	
無回答	25	<b>60.0%</b>	0.0%	16.0%	<b>40.0%</b>	12.0%	4.0%	<b>28.0%</b>	8.0%	20.0%	24.0%	8.0%	
<年代別>													
10歳代	15	<b>40.0%</b>	0.0%	6.7%	<b>40.0%</b>	13.3%	0.0%	26.7%	<b>46.7%</b>	<b>40.0%</b>	<b>46.7%</b>	0.0%	
20歳代	75	13.3%	2.7%	<b>21.3%</b>	<b>82.7%</b>	6.7%	9.3%	9.3%	18.7%	20.0%	<b>38.7%</b>	6.7%	
30歳代	146	<b>54.8%</b>	1.4%	20.5%	<b>61.6%</b>	4.8%	4.8%	22.6%	18.5%	<b>33.6%</b>	22.6%	4.8%	
40歳代	192	<b>64.6%</b>	3.1%	20.8%	<b>38.5%</b>	17.2%	13.0%	<b>34.9%</b>	18.2%	<b>34.9%</b>	24.0%	3.6%	
50歳代	156	<b>59.0%</b>	7.1%	26.3%	28.2%	26.3%	11.5%	<b>40.4%</b>	23.7%	<b>33.3%</b>	26.9%	5.8%	
60歳代	133	<b>68.4%</b>	6.0%	15.0%	9.0%	30.1%	14.3%	<b>48.9%</b>	24.1%	<b>36.8%</b>	25.6%	6.8%	
70歳代以上	122	<b>79.5%</b>	6.6%	3.3%	6.6%	<b>45.1%</b>	13.9%	<b>61.5%</b>	29.5%	<b>45.1%</b>	29.5%	0.0%	
<地区別>													
研究学園地区	260	<b>53.8%</b>	5.0%	24.2%	<b>37.3%</b>	18.5%	10.8%	31.9%	21.9%	<b>36.2%</b>	28.5%	3.8%	
TX沿線地区	179	<b>62.0%</b>	5.0%	17.9%	<b>43.0%</b>	14.0%	9.5%	27.9%	16.8%	<b>33.5%</b>	27.4%	4.5%	
筑波地区	52	<b>80.8%</b>	3.8%	7.7%	21.2%	25.0%	15.4%	<b>50.0%</b>	15.4%	<b>40.4%</b>	25.0%	0.0%	
大穂地区	46	<b>50.0%</b>	2.2%	19.6%	32.6%	19.6%	15.2%	<b>47.8%</b>	28.3%	23.9%	<b>34.8%</b>	2.2%	
豊里地区	56	<b>60.7%</b>	3.6%	16.1%	<b>37.5%</b>	33.9%	12.5%	<b>39.3%</b>	23.2%	33.9%	17.9%	3.6%	
桜地区	75	<b>57.3%</b>	1.3%	13.3%	30.7%	28.0%	14.7%	<b>45.3%</b>	29.3%	<b>36.0%</b>	24.0%	9.3%	
谷田部地区	115	<b>60.9%</b>	5.2%	18.3%	29.6%	33.9%	10.4%	<b>49.6%</b>	26.1%	<b>40.0%</b>	27.8%	4.3%	
荃崎地区	65	<b>64.6%</b>	4.6%	6.2%	<b>27.7%</b>	20.0%	7.7%	<b>41.5%</b>	26.2%	<b>27.7%</b>	26.2%	6.2%	

太字は上位3項目

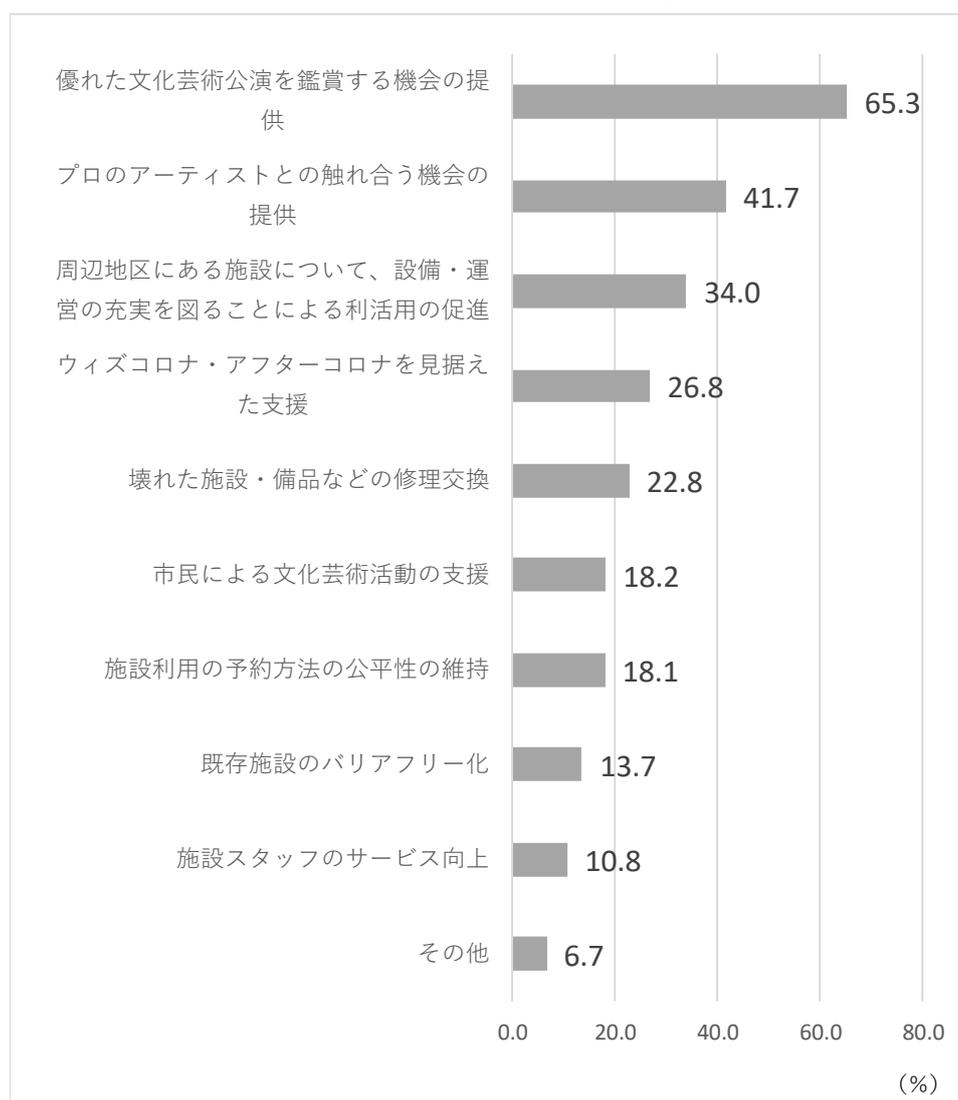
## (12) つくば市の文化芸術に今後期待すること

## ◆全体

## 「優れた文化芸術を鑑賞する機会の提供」が6割超

つくば市の文化芸術に今後期待することとしては、「優れた文化芸術を鑑賞する機会の提供」が65.3%と最も多く、次いで「プロのアーティストとの触れ合う機会の提供」が41.7%、「周辺地区にある施設について、設備・運営の充実を図ることによる利活用の促進」が34.0%となっている（図表35）。

図表35 つくば市の文化芸術に今後期待すること（n=841）



**◆クロス集計****<性別>**

男女ともに、「優れた文化芸術を鑑賞する機会の提供」が最も多く、次いで「プロのアーティストと触れ合う機会の提供」、「周辺地区にある施設について、設備・運営の充実を図ることによる利活用の促進」となっている（図表 36）。

女性は男性に比べて、「プロのアーティストと触れ合う機会の提供」と「周辺地区にある施設について、設備・運営の充実を図ることによる利活用の促進」の回答割合が高い。

**<年齢別>**

「優れた文化芸術を鑑賞する機会の提供」は全ての年代で上位となっており、特に 50 歳代と 60 歳代で 7 割を上回っている。

「プロのアーティストと触れ合う機会の提供」も全ての年代で上位となっており、20 歳代で約 5 割と多い。

「周辺地区にある施設について、設備・運営の充実を図ることによる利活用の促進」は 10 歳代を除き上位となっており、70 歳代以上で約 4 割と多い。

**<地区別>**

「優れた文化芸術を鑑賞する機会の提供」は全ての地区で上位となっており、特に研究学園地区と桜地区で約 7 割と多い。

「プロのアーティストと触れ合う機会の提供」も全ての地区で上位となっており、豊里地区で 7 割弱となっている。

「壊れた施設・備品などの修理交換」は豊里地区で、「ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた支援」は TX 沿線地区で上位となっている。

図表 36 つくば市の文化芸術に今後期待すること  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	優れた文化芸術公演を鑑賞する機会の提供	壊れた施設・備品などの修理交換	施設利用の予約方法の公平性の維持	既存施設のバリアフリー化	施設スタッフのサービス向上	プロのアーティストと触れ合う機会の提供	市民による文化芸術活動の支援	周辺地区にある施設について、設備・運営の充実を図ることによる利活用促進	ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた支援	その他
<性別>											
男	334	<b>65.6%</b>	25.1%	17.4%	11.4%	12.6%	<b>37.1%</b>	17.7%	<b>30.5%</b>	23.4%	8.1%
女	471	<b>65.8%</b>	21.7%	18.7%	14.2%	9.6%	<b>45.2%</b>	19.1%	<b>37.4%</b>	28.9%	5.5%
無回答	25	<b>56.0%</b>	16.0%	12.0%	<b>28.0%</b>	8.0%	<b>44.0%</b>	8.0%	16.0%	<b>28.0%</b>	8.0%
<年代別>											
10歳代	15	<b>66.7%</b>	<b>33.3%</b>	13.3%	20.0%	13.3%	<b>33.3%</b>	26.7%	26.7%	26.7%	6.7%
20歳代	74	<b>66.2%</b>	21.6%	14.9%	12.2%	10.8%	<b>51.4%</b>	16.2%	<b>33.8%</b>	27.0%	6.8%
30歳代	147	<b>62.6%</b>	26.5%	15.0%	13.6%	10.2%	<b>46.3%</b>	16.3%	<b>36.7%</b>	26.5%	6.1%
40歳代	193	<b>55.4%</b>	20.2%	16.6%	10.9%	10.4%	<b>45.1%</b>	11.4%	<b>30.6%</b>	28.5%	7.8%
50歳代	157	<b>72.6%</b>	24.8%	16.6%	12.1%	8.9%	<b>42.7%</b>	22.3%	<b>30.6%</b>	24.2%	6.4%
60歳代	128	<b>75.8%</b>	18.8%	23.4%	11.7%	10.2%	<b>39.1%</b>	18.8%	<b>35.9%</b>	30.5%	7.0%
70歳代以上	117	<b>64.1%</b>	23.9%	22.2%	21.4%	14.5%	<b>28.2%</b>	25.6%	<b>39.3%</b>	22.2%	5.1%
<地区別>											
研究学園地区	258	<b>70.5%</b>	26.0%	15.1%	13.6%	9.7%	<b>40.3%</b>	20.5%	<b>34.5%</b>	26.7%	5.4%
TX沿線地区	181	<b>65.2%</b>	19.3%	20.4%	12.2%	11.0%	<b>43.6%</b>	13.3%	27.1%	<b>29.8%</b>	7.7%
筑波地区	48	<b>62.5%</b>	18.8%	29.2%	16.7%	16.7%	<b>35.4%</b>	16.7%	<b>52.1%</b>	25.0%	2.1%
大穂地区	46	<b>63.0%</b>	17.4%	13.0%	21.7%	6.5%	<b>45.7%</b>	17.4%	<b>32.6%</b>	28.3%	6.5%
豊里地区	56	<b>57.1%</b>	<b>33.9%</b>	17.9%	10.7%	10.7%	<b>66.1%</b>	19.6%	<b>33.9%</b>	26.8%	7.1%
桜地区	75	<b>68.0%</b>	28.0%	16.0%	12.0%	9.3%	<b>30.7%</b>	21.3%	<b>30.7%</b>	22.7%	9.3%
谷田部地区	112	<b>61.6%</b>	22.3%	21.4%	13.4%	15.2%	<b>37.5%</b>	18.8%	<b>33.9%</b>	27.7%	7.1%
荳崎地区	64	<b>57.8%</b>	12.5%	15.6%	15.6%	7.8%	<b>42.2%</b>	18.8%	<b>42.2%</b>	20.3%	7.8%

太字は上位3項目

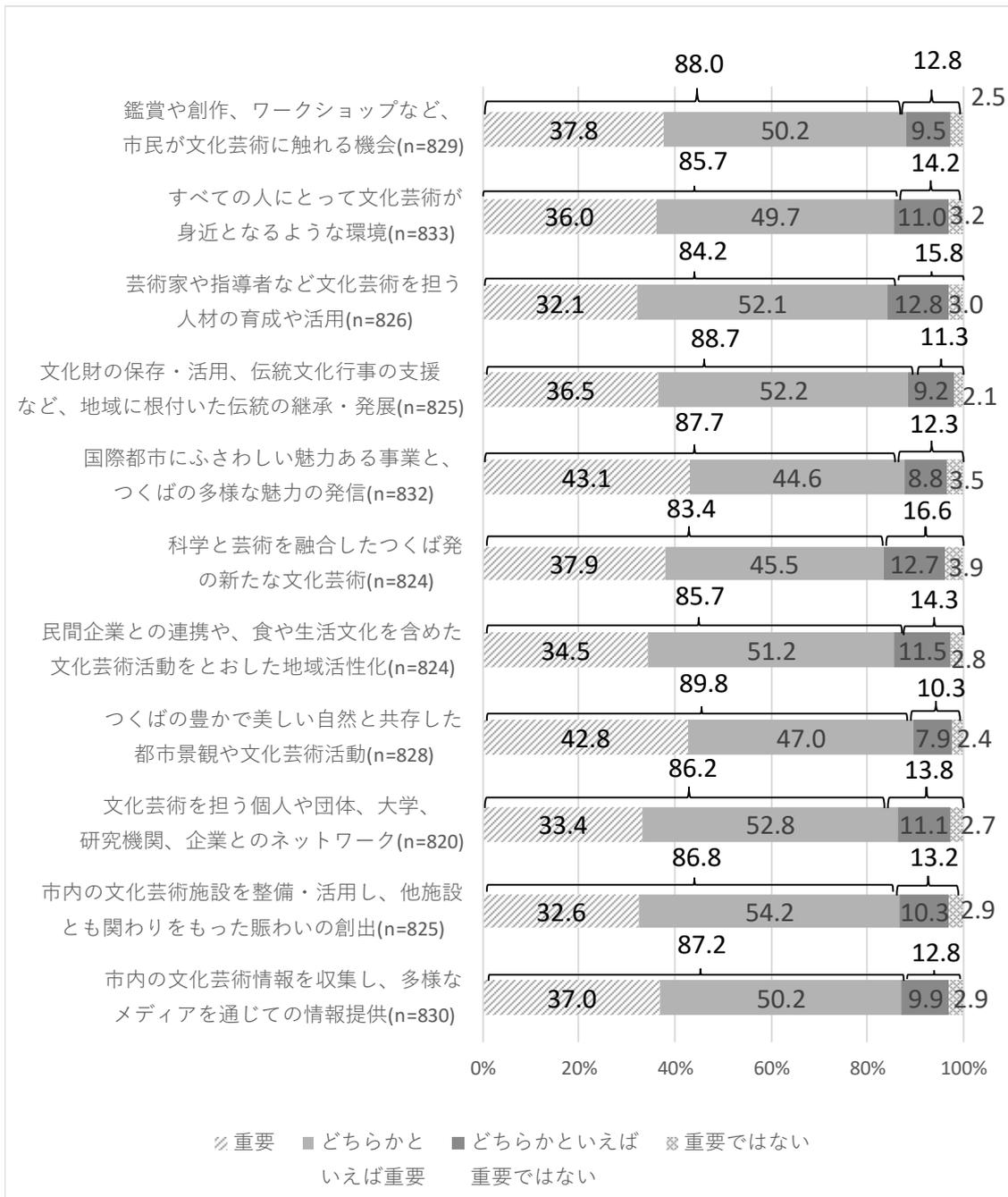
(13) つくば市の文化芸術に関する取り組みにおける今後の重要度

◆全体

「自然と共存した都市景観や文化芸術活動」が4割超

つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する今後の重要度を「重要評価（「需要」と「どちらかといえば重要」の合計）」からみると、「つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動」が89.8%と最も多く、次いで「文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展」が88.7%、「鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会」が88.0%となっている（図表37）。

図表37 つくば市の文化芸術に関する取り組みにおける今後の重要度



<参考 4> 基本計画指標別の今後の重要度（今回、平成 30 年度）

指標	重要評価割合	
	今回調査	平成30年度調査
1 文化芸術に接する機会の拡充	88.0%	72.4%
2 すべての人にとって文化芸術が身近にある環境づくり	85.7%	68.9%
3 文化芸術に資する人材の育成と活用	84.2%	68.5%
4 地域に根付いた伝統の継承・発展	88.7%	65.9%
5 多文化共生による文化芸術の振興	87.7%	67.8%
6 科学と融合した文化芸術の振興	83.4%	68.4%
7 文化芸術によるイノベーションの創出	85.7%	60.6%
8 自然との共生による文化芸術の振興	89.8%	66.8%
9 プラットフォームの形成	86.2%	57.5%
10 文化施設の整備と活用	86.8%	74.2%
11 文化芸術情報の収集と提供	87.2%	73.2%

太字は上位 3 項目

<参考 3：再掲> 基本計画指標と市民意識調査選択肢の対応（今回、平成 30 年度）

指標（成果指標）	選択肢（今回調査）	選択肢（平成30年度調査）
1 文化芸術に接する機会の拡充	鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会	優れた舞台公演や作品展示などが行われている
		文化芸術に関する市民活動が盛んに取り組まれている
2 すべての人にとって文化芸術が身近にある環境づくり	すべての人にとって文化芸術が身近となるような環境	文化芸術活動が幅広い世代で取り組まれている
3 文化芸術に資する人材の育成と活用	芸術家や指導者など文化芸術を担う人材の育成や活用	文化芸術に関する人材の育成がされている
4 地域に根付いた伝統の継承・発展	文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展	伝統的な文化芸術の保存・活動がされている
5 多文化共生による文化芸術の振興	国際都市にふさわしい魅力ある事業と、つくばの多様な魅力の発信	文化芸術を通じた国際交流が取り組まれている
6 科学と融合した文化芸術の振興	科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術	ITなど先端技術を活かした文化芸術活動が取り組まれている
7 文化芸術によるイノベーションの創出	民間企業との連携や、食や生活文化を含めた文化芸術活動とおした地域活性化	文化芸術を活かし、観光や産業が活発な状況にある
8 自然との共生による文化芸術の振興	つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動	自然環境や景観と文化芸術活動が連携している
9 プラットフォームの形成	文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク	日々の暮らしの中で、文化芸術の創造がなされている
		それぞれの文化芸術活動が連携している
10 文化施設の整備と活用	市内の文化芸術施設を整備・活用し、他施設とも関わりをもった賑わいの創出	文化芸術施設が整っている
11 文化芸術情報の収集と提供	市内の文化芸術情報を収集し、多様なメディアを通じての情報提供	文化芸術に関する情報が充実している

## ◆クロス集計

## ①鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会

## &lt;性別&gt;

「重要評価（（「重要」と「どちらかといえば重要」の合計）」は女性で約9割と男性の8割超と比べて多い（図表38）。

## &lt;年齢別&gt;

「重要評価」は60歳代と70歳代で9割を上回っている。

## &lt;地区別&gt;

「重要評価」は筑波地区と豊里地区で9割を上回っている。

図表38 鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	重要	どちらかといえば重要	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	重要評価
<性別>						
男	336	35.7%	47.6%	11.9%	4.8%	83.3%
女	459	39.9%	51.6%	7.6%	0.9%	91.5%
無回答	24	25.0%	54.2%	16.7%	4.2%	79.2%
<年代別>						
10歳代	16	50.0%	37.5%	6.3%	6.3%	87.5%
20歳代	75	40.0%	48.0%	6.7%	5.3%	88.0%
30歳代	145	47.6%	40.0%	10.3%	2.1%	87.6%
40歳代	192	32.3%	51.6%	12.0%	4.2%	83.9%
50歳代	154	34.4%	51.9%	11.0%	2.6%	86.3%
60歳代	129	32.6%	59.7%	7.0%	0.8%	92.3%
70歳代以上	109	42.2%	49.5%	8.3%	0.0%	91.7%
<地区別>						
研究学園地区	257	38.9%	49.8%	8.2%	3.1%	88.7%
TX沿線地区	182	35.2%	51.1%	12.6%	1.1%	86.3%
筑波地区	49	24.5%	67.3%	4.1%	4.1%	91.8%
大穂地区	42	35.7%	50.0%	11.9%	2.4%	85.7%
豊里地区	56	41.1%	53.6%	3.6%	1.8%	94.7%
桜地区	73	41.1%	45.2%	9.6%	4.1%	86.3%
谷田部地区	111	40.5%	45.0%	10.8%	3.6%	85.5%
荃崎地区	58	41.4%	46.6%	12.1%	0.0%	88.0%

## ②すべての人にとって文化芸術が身近となるような環境

## &lt;性別&gt;

「重要評価」は女性で約9割と男性の8割超と比べて多い（図表39）。

## &lt;年齢別&gt;

「重要評価」は70歳代で約9割、20歳代で9割弱と多い。

## &lt;地区別&gt;

「重要評価」は豊里地区で9割超と最も高く、次いで荃崎地区で約9割となっている。

図表 39 すべての人にとって文化芸術が身近となるような環境（性別、年代別、地区別）

区分	n	重要	どちらかといえば 重要	どちらかといえば 重要ではない	重要ではない	重要 評価
<性別>						
男	333	33.9%	47.1%	12.9%	6.0%	81.0%
女	466	38.0%	51.3%	9.7%	1.1%	89.3%
無回答	24	16.7%	58.3%	16.7%	8.3%	75.0%
<年代別>						
10歳代	16	50.0%	37.5%	6.3%	6.3%	87.5%
20歳代	75	37.3%	46.7%	12.0%	4.0%	84.0%
30歳代	146	41.1%	43.8%	12.3%	2.7%	84.9%
40歳代	192	30.7%	54.7%	9.4%	5.2%	85.4%
50歳代	156	34.6%	49.4%	12.8%	3.2%	84.0%
60歳代	128	36.7%	50.0%	11.7%	1.6%	86.7%
70歳代以上	111	35.1%	53.2%	9.9%	1.8%	88.3%
<地区別>						
研究学園地区	260	34.6%	50.4%	11.5%	3.5%	85.0%
TX沿線地区	183	33.3%	51.4%	13.1%	2.2%	84.7%
筑波地区	49	36.7%	49.0%	10.2%	4.1%	85.7%
大穂地区	41	51.2%	36.6%	7.3%	4.9%	87.8%
豊里地区	56	41.1%	53.6%	3.6%	1.8%	94.7%
桜地区	72	33.3%	51.4%	9.7%	5.6%	84.7%
谷田部地区	113	35.4%	46.9%	13.3%	4.4%	82.3%
荃崎地区	58	39.7%	50.0%	10.3%	0.0%	89.7%

## ③芸術家や指導者など文化芸術を担う人材の育成や活用

## &lt;性別&gt;

「重要評価」は女性で約9割と男性の8割弱と比べて多い（図表40）。

## &lt;年齢別&gt;

「重要評価」は10歳代で9割を超えており、50歳代も9割弱となっている。

## &lt;地区別&gt;

「重要評価」は筑波地区で約9割となっており、次いで豊里地区と大穂地区、研究学園地区が8割超となっている。

図表40 芸術家や指導者など文化芸術を担う人材の育成や活用（性別、年代別、地区別）

区分	n	重要	どちらかといえば 重要	どちらかといえば 重要ではない	重要ではない	重要 評価
<性別>						
男	331	30.8%	46.2%	17.2%	5.7%	77.0%
女	461	33.2%	56.4%	9.3%	1.1%	89.6%
無回答	24	20.8%	50.0%	25.0%	4.2%	70.8%
<年代別>						
10歳代	16	68.8%	25.0%	6.3%	0.0%	93.8%
20歳代	75	28.0%	54.7%	13.3%	4.0%	82.7%
30歳代	145	35.2%	49.0%	14.5%	1.4%	84.2%
40歳代	191	27.7%	51.3%	14.7%	6.3%	79.0%
50歳代	155	34.2%	52.9%	10.3%	2.6%	87.1%
60歳代	127	27.6%	58.3%	13.4%	0.8%	85.9%
70歳代以上	108	34.3%	50.9%	12.0%	2.8%	85.2%
<地区別>						
研究学園地区	258	32.6%	52.7%	11.2%	3.5%	85.3%
TX沿線地区	182	26.4%	56.0%	15.4%	2.2%	82.4%
筑波地区	48	20.8%	68.8%	6.3%	4.2%	89.6%
大穂地区	41	41.5%	43.9%	12.2%	2.4%	85.4%
豊里地区	55	45.5%	40.0%	12.7%	1.8%	85.5%
桜地区	74	32.4%	50.0%	12.2%	5.4%	82.4%
谷田部地区	110	31.8%	51.8%	12.7%	3.6%	83.6%
荳崎地区	57	38.6%	42.1%	19.3%	0.0%	80.7%

## ④文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展

## &lt;性別&gt;

「重要評価」は女性で9割超と男性の8割超と比べて多い（図表41）。

## &lt;年齢別&gt;

30歳代と70歳代で「重要評価」が9割を上回っている。

## &lt;地区別&gt;

筑波地区と大穂地区、豊里地区、荃崎地区で「重要評価」が9割を上回っている。

図表41 文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	重要	どちらかといえば 重要	どちらかといえば 重要ではない	重要ではない	重要 評価
<性別>						
男	334	38.6%	46.1%	11.7%	3.6%	84.7%
女	458	35.6%	56.6%	7.2%	0.7%	92.2%
無回答	23	13.0%	60.9%	17.4%	8.7%	73.9%
<年代別>						
10歳代	16	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%	87.5%
20歳代	75	38.7%	50.7%	9.3%	1.3%	89.4%
30歳代	145	35.2%	55.2%	8.3%	1.4%	90.4%
40歳代	192	33.3%	52.1%	9.9%	4.7%	85.4%
50歳代	153	37.3%	51.0%	10.5%	1.3%	88.3%
60歳代	127	37.0%	51.2%	10.2%	1.6%	88.2%
70歳代以上	108	37.0%	55.6%	6.5%	0.9%	92.6%
<地区別>						
研究学園地区	258	34.5%	54.7%	9.3%	1.6%	89.2%
TX沿線地区	181	30.9%	55.8%	11.0%	2.2%	86.7%
筑波地区	49	34.7%	59.2%	6.1%	0.0%	93.9%
大穂地区	42	52.4%	42.9%	2.4%	2.4%	95.3%
豊里地区	55	47.3%	43.6%	7.3%	1.8%	90.9%
桜地区	72	23.6%	61.1%	8.3%	6.9%	84.7%
谷田部地区	110	40.9%	46.4%	10.9%	1.8%	87.3%
荃崎地区	57	50.9%	40.4%	8.8%	0.0%	91.3%

## ⑤国際都市にふさわしい魅力ある事業と、つくばの多様な魅力の発信

## &lt;性別&gt;

「重要評価」は女性で約9割と男性の8割超と比べて多い（図表42）。

## &lt;年齢別&gt;

10歳代と30歳代、70歳代で「重要評価」は9割以上となっている。

## &lt;地区別&gt;

TX沿線地区と大穂地区、豊里地区、谷田部地区で「重要評価」は9割を上回っている。

図表42 国際都市にふさわしい魅力ある事業と、つくばの多様な魅力の発信  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	重要	どちらかといえば 重要	どちらかといえば 重要ではない	重要ではない	重要 評価
<性別>						
男	336	41.7%	43.2%	9.8%	5.4%	84.9%
女	461	44.3%	46.2%	7.6%	2.0%	90.5%
無回答	24	29.2%	41.7%	20.8%	8.3%	70.9%
<年代別>						
10歳代	16	50.0%	43.8%	6.3%	0.0%	93.8%
20歳代	75	40.0%	40.0%	12.0%	8.0%	80.0%
30歳代	146	45.9%	44.5%	6.2%	3.4%	90.4%
40歳代	193	40.9%	44.6%	9.3%	5.2%	85.5%
50歳代	153	40.5%	47.7%	9.2%	2.6%	88.2%
60歳代	129	45.0%	43.4%	10.1%	1.6%	88.4%
70歳代以上	110	43.6%	46.4%	8.2%	1.8%	90.0%
<地区別>						
研究学園地区	259	43.2%	42.5%	10.8%	3.5%	85.7%
TX沿線地区	183	47.0%	43.7%	6.0%	3.3%	90.7%
筑波地区	49	34.7%	49.0%	14.3%	2.0%	83.7%
大穂地区	43	48.8%	41.9%	4.7%	4.7%	90.7%
豊里地区	55	38.2%	56.4%	5.5%	0.0%	94.6%
桜地区	71	39.4%	46.5%	8.5%	5.6%	85.9%
谷田部地区	112	42.0%	49.1%	4.5%	4.5%	91.1%
荳崎地区	59	45.8%	32.2%	18.6%	3.4%	78.0%

## ⑥科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術

## &lt;性別&gt;

「重要評価」は女性で9割弱と男性の約8割と比べて多い（図表43）。

## &lt;年齢別&gt;

10歳代で「重要評価」が約9割となっている。

## &lt;地区別&gt;

TX沿線地区と豊里地区で「重要評価」が9割弱となっている。

図表43 科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術（性別、年代別、地区別）

区分	n	重要	どちらかといえば 重要	どちらかといえば 重要ではない	重要ではない	重要 評価
<性別>						
男	332	39.2%	40.7%	15.1%	5.1%	79.9%
女	458	37.6%	48.5%	11.1%	2.8%	86.1%
無回答	24	16.7%	58.3%	16.7%	8.3%	75.0%
<年代別>						
10歳代	16	31.3%	56.3%	12.5%	0.0%	87.6%
20歳代	75	42.7%	40.0%	12.0%	5.3%	82.7%
30歳代	146	41.8%	41.8%	12.3%	4.1%	83.6%
40歳代	191	34.6%	49.2%	11.0%	5.2%	83.8%
50歳代	153	37.9%	45.1%	13.1%	3.9%	83.0%
60歳代	128	35.2%	46.1%	15.6%	3.1%	81.3%
70歳代以上	106	36.8%	47.2%	14.2%	1.9%	84.0%
<地区別>						
研究学園地区	258	36.8%	44.6%	14.0%	4.7%	81.4%
TX沿線地区	183	44.8%	43.2%	9.3%	2.7%	88.0%
筑波地区	48	33.3%	45.8%	18.8%	2.1%	79.1%
大穂地区	41	39.0%	46.3%	9.8%	4.9%	85.3%
豊里地区	55	32.7%	54.5%	12.7%	0.0%	87.2%
桜地区	70	30.0%	52.9%	11.4%	5.7%	82.9%
谷田部地区	111	38.7%	45.9%	9.0%	6.3%	84.6%
荃崎地区	57	36.8%	36.8%	24.6%	1.8%	73.6%

## ⑦民間企業との連携や、食や生活文化を含めた文化芸術活動をととした地域活性化

## &lt;性別&gt;

「重要評価」は女性で約9割と男性の約8割と比べて多い（図表44）。

## &lt;年齢別&gt;

10歳代で「重要評価」が9割超と最も多く、次いで60歳代、30歳代となっている。

## &lt;地区別&gt;

豊里地区で「重要評価」が約9割と最も多く、次いでTX沿線地区、研究学園地区となっている。

図表44 科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術（性別、年代別、地区別）

区分	n	重要	どちらかといえば 重要	どちらかといえば 重要ではない	重要ではない	重要 評価
<性別>						
男	332	29.2%	50.6%	15.1%	5.1%	79.8%
女	458	38.2%	52.0%	8.7%	1.1%	90.2%
無回答	24	25.0%	50.0%	20.8%	4.2%	75.0%
<年代別>						
10歳代	16	31.3%	62.5%	6.3%	0.0%	93.8%
20歳代	75	38.7%	42.7%	14.7%	4.0%	81.4%
30歳代	146	36.3%	50.0%	11.0%	2.7%	86.3%
40歳代	192	28.6%	56.3%	10.4%	4.7%	84.9%
50歳代	153	39.9%	45.1%	11.8%	3.3%	85.0%
60歳代	127	33.1%	54.3%	11.8%	0.8%	87.4%
70歳代以上	106	31.1%	54.7%	13.2%	0.9%	85.8%
<地区別>						
研究学園地区	256	34.8%	51.6%	10.2%	3.5%	86.4%
TX沿線地区	183	35.5%	52.5%	9.8%	2.2%	88.0%
筑波地区	49	26.5%	53.1%	16.3%	4.1%	79.6%
大穂地区	41	41.5%	39.0%	17.1%	2.4%	80.5%
豊里地区	55	32.7%	58.2%	9.1%	0.0%	90.9%
桜地区	70	22.9%	62.9%	8.6%	5.7%	85.8%
谷田部地区	112	40.2%	45.5%	11.6%	2.7%	85.7%
荃崎地区	57	36.8%	43.9%	19.3%	0.0%	80.7%

## ⑧つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動

## &lt;性別&gt;

「重要評価」は女性で9割超と男性の8割超を上回っている（図表 45）。

## &lt;年齢別&gt;

10歳代と20歳代、60歳代以上で「重要評価」は9割を上回っている。

## &lt;地区別&gt;

筑波地区と大穂地区、豊里地区、谷田部地区、荃崎地区で「重要評価」は9割を上回っている。

図表 45 つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動（性別、年代別、地区別）

区分	n	重要	どちらかといえば 重要	どちらかといえば 重要ではない	重要ではない	重要 評価
<性別>						
男	334	38.3%	47.3%	10.2%	4.2%	85.6%
女	460	46.1%	47.2%	5.9%	0.9%	93.3%
無回答	24	29.2%	45.8%	16.7%	8.3%	75.0%
<年代別>						
10歳代	16	50.0%	43.8%	6.3%	0.0%	93.8%
20歳代	75	46.7%	44.0%	6.7%	2.7%	90.7%
30歳代	145	45.5%	43.4%	8.3%	2.8%	88.9%
40歳代	192	42.2%	43.8%	10.9%	3.1%	86.0%
50歳代	154	41.6%	48.1%	7.1%	3.2%	89.7%
60歳代	127	40.9%	49.6%	8.7%	0.8%	90.5%
70歳代以上	110	38.2%	56.4%	3.6%	1.8%	94.6%
<地区別>						
研究学園地区	258	40.7%	47.3%	9.3%	2.7%	88.0%
TX沿線地区	182	42.9%	45.6%	9.3%	2.2%	88.5%
筑波地区	49	44.9%	46.9%	8.2%	0.0%	91.8%
大穂地区	42	40.5%	54.8%	2.4%	2.4%	95.3%
豊里地区	55	38.2%	54.5%	7.3%	0.0%	92.7%
桜地区	73	45.2%	41.1%	8.2%	5.5%	86.3%
谷田部地区	110	46.4%	46.4%	3.6%	3.6%	92.8%
荃崎地区	58	46.6%	44.8%	8.6%	0.0%	91.4%

## ⑨文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク

## &lt;性別&gt;

「重要評価」は女性で約9割と男性の約8割を上回っている（図表46）。

## &lt;年齢別&gt;

20歳代と70歳代以上で「重要評価」が約9割となっている。

## &lt;地区別&gt;

豊里地区で「重要評価」が約9割となっている。

図表46 文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	重要	どちらかといえば 重要	どちらかといえば 重要ではない	重要ではない	重要 評価
<性別>						
男	331	30.5%	50.8%	13.6%	5.1%	81.3%
女	455	35.2%	55.2%	8.8%	0.9%	90.4%
無回答	24	29.2%	41.7%	25.0%	4.2%	70.9%
<年代別>						
10歳代	16	43.8%	37.5%	18.8%	0.0%	81.3%
20歳代	75	44.0%	46.7%	6.7%	2.7%	90.7%
30歳代	145	40.0%	45.5%	12.4%	2.1%	85.5%
40歳代	192	28.6%	53.1%	13.0%	5.2%	81.7%
50歳代	152	32.2%	55.3%	9.9%	2.6%	87.5%
60歳代	126	30.2%	56.3%	12.7%	0.8%	86.5%
70歳代以上	105	27.6%	61.9%	8.6%	1.9%	89.5%
<地区別>						
研究学園地区	256	35.5%	50.4%	10.5%	3.5%	85.9%
TX沿線地区	181	33.7%	53.0%	11.6%	1.7%	86.7%
筑波地区	49	24.5%	61.2%	12.2%	2.0%	85.7%
大穂地区	41	31.7%	53.7%	12.2%	2.4%	85.4%
豊里地区	55	30.9%	58.2%	10.9%	0.0%	89.1%
桜地区	70	28.6%	58.6%	7.1%	5.7%	87.2%
谷田部地区	110	35.5%	50.9%	10.0%	3.6%	86.4%
荃崎地区	57	36.8%	45.6%	17.5%	0.0%	82.4%

## ⑩市内の文化芸術施設を整備・活用し、他施設とも関わりをもった賑わいの創出

## &lt;性別&gt;

女性で「重要評価」が約9割と男性の約8割と比べて多い（図表47）。

## &lt;年齢別&gt;

20歳代と70歳代で「重要評価」が約9割と多い。

## &lt;地区別&gt;

筑波地区と豊里地区で「重要評価」が9割を上回っている。

図表47 市内の文化芸術施設を整備・活用し、他施設とも関わりをもった賑わいの創出  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	重要	どちらかといえば 重要	どちらかといえば 重要ではない	重要ではない	重要 評価
<性別>						
男	333	30.6%	51.4%	12.9%	5.1%	82.0%
女	458	34.7%	56.3%	7.9%	1.1%	91.0%
無回答	24	12.5%	58.3%	20.8%	8.3%	70.8%
<年代別>						
10歳代	16	37.5%	37.5%	18.8%	6.3%	75.0%
20歳代	75	30.7%	58.7%	6.7%	4.0%	89.4%
30歳代	145	35.9%	49.7%	11.7%	2.8%	85.6%
40歳代	192	30.2%	54.7%	10.9%	4.2%	84.9%
50歳代	153	34.6%	52.9%	9.2%	3.3%	87.5%
60歳代	128	27.3%	60.2%	10.9%	1.6%	87.5%
70歳代以上	107	35.5%	54.2%	9.3%	0.9%	89.7%
<地区別>						
研究学園地区	257	32.3%	56.4%	8.6%	2.7%	88.7%
TX沿線地区	182	32.4%	53.3%	12.1%	2.2%	85.7%
筑波地区	49	26.5%	67.3%	2.0%	4.1%	93.8%
大穂地区	42	40.5%	40.5%	14.3%	4.8%	81.0%
豊里地区	55	29.1%	65.5%	5.5%	0.0%	94.6%
桜地区	70	24.3%	62.9%	8.6%	4.3%	87.2%
谷田部地区	112	42.0%	43.8%	9.8%	4.5%	85.8%
荃崎地区	57	29.8%	45.6%	22.8%	1.8%	75.4%

## ⑪市内の文化芸術情報を収集し、多様なメディアを通じての情報提供

## &lt;性別&gt;

女性で「重要評価」が約9割と男性の8割超と比べて多い（図表48）。

## &lt;年齢別&gt;

20歳代と70歳代以上で「重要評価」が9割を超えている。

## &lt;地区別&gt;

研究学園地区と筑波地区、谷田部地区で「重要評価」が約9割となっている。

図表48 市内の文化芸術情報を収集し、多様なメディアを通じての情報提供  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	重要	どちらかといえば 重要	どちらかといえば 重要ではない	重要ではない	重要 評価
<性別>						
男	336	34.8%	49.1%	11.0%	5.1%	83.9%
女	460	38.9%	51.5%	8.5%	1.1%	90.4%
無回答	24	20.8%	45.8%	25.0%	8.3%	66.6%
<年代別>						
10歳代	16	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%	87.5%
20歳代	75	34.7%	58.7%	4.0%	2.7%	93.4%
30歳代	145	42.1%	44.1%	11.7%	2.1%	86.2%
40歳代	192	30.2%	52.1%	13.0%	4.7%	82.3%
50歳代	153	39.2%	49.7%	7.8%	3.3%	88.9%
60歳代	129	38.0%	48.1%	11.6%	2.3%	86.1%
70歳代以上	111	36.0%	55.0%	7.2%	1.8%	91.0%
<地区別>						
研究学園地区	258	37.6%	51.9%	7.0%	3.5%	89.5%
TX沿線地区	182	37.4%	50.0%	10.4%	2.2%	87.4%
筑波地区	49	34.7%	55.1%	6.1%	4.1%	89.8%
大穂地区	41	41.5%	43.9%	12.2%	2.4%	85.4%
豊里地区	56	41.1%	46.4%	12.5%	0.0%	87.5%
桜地区	73	30.1%	52.1%	13.7%	4.1%	82.2%
谷田部地区	113	38.1%	50.4%	7.1%	4.4%	88.5%
荃崎地区	57	35.1%	43.9%	21.1%	0.0%	79.0%

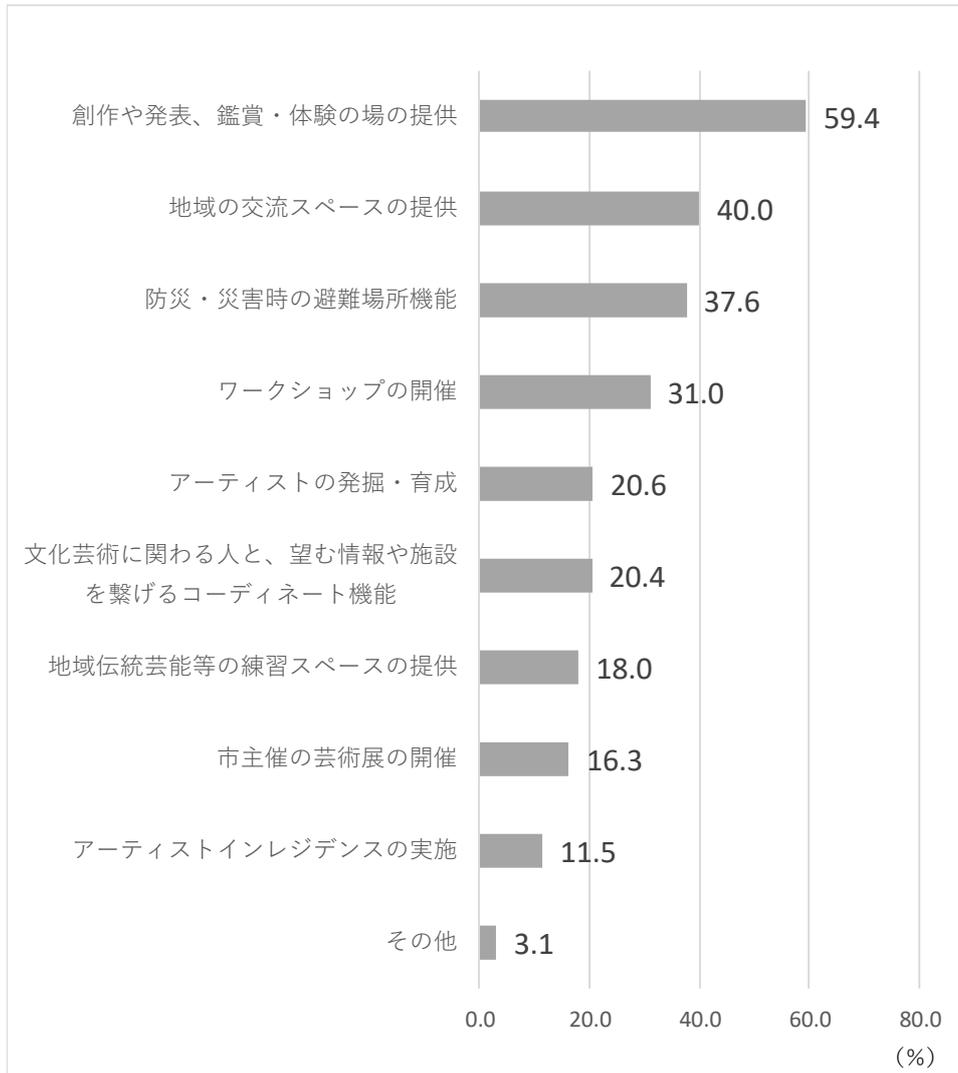
## (14) 旧田水山小学校に計画している文化芸術創造拠点に対して求める機能

## ◆全体

## 「制作や発表、鑑賞・体験の場の提供」が6割と最多

つくば市が旧田水山小学校に整備を計画している文化芸術創造拠点に求める機能をみると、「制作や発表、鑑賞・体験の場の提供」が59.4%と最も多く、次いで「地域の交流スペースの提供」が40.0%、「防災・災害時の避難場所機能」が37.6%となっている（図表49）。

図表49 旧田水山小学校に計画している文化芸術創造拠点に対して求める機能（n=845）



**◆クロス集計****<性別>**

男性では、「創作や発表、鑑賞・体験の場の提供」が6割弱（56.0%）と最も多く、次いで「地域の交流スペースの提供」、「防災・災害時の避難場所機能」となっている（図表50）。

女性では、「創作や発表、鑑賞・体験の場の提供」が6割超（63.0%）と最も多く、次いで「地域の交流スペースの提供」、「ワークショップの開催」となっている。

**<年齢別>**

「創作や発表、鑑賞・体験の場の提供」は全ての年代で上位となっている。

「地域の交流スペースの提供」は40歳代を除き上位となっている。

「防災・災害時の避難場所機能」は10歳代を除き上位となっている。

「ワークショップの開催」は10歳代と20歳代、40歳代で上位となっている。

「アーティストの発掘・育成」は10歳代で上位となっている。

**<地区別>**

「地域の交流スペースの提供」は全ての地区で上位となっており、特に旧田水山小学校が位置する筑波地区で6割超（62.0%）となっている。

「創作や発表、鑑賞・体験の場の提供」は研究学園地区とTX沿線地区、大穂地区、豊里地区、荃崎地区で6割を上回っている。

「ワークショップの開催」は研究学園地区とTX沿線地区、大穂地区で上位となっている。

「防災・災害時の避難場所機能」は筑波地区と大穂地区、豊里地区、桜地区、谷田部地区、荃崎地区で上位となっている。

図表 50 旧田水山小学校に計画している文化芸術創造拠点に対して求める機能  
(性別、年代別、地区別)

区分	n	地域の交流スペースの提供	創作や発表、鑑賞・体験の場の提供	アーティストの発掘・育成	文化芸術に関わる人と、望む情報や施設を繋げるコーディネート機能	ワークショップの開催	市主催の芸術展の開催	アーティストインレジデンスの実施	地域伝統芸能等の練習スペースの提供	防災・災害時の避難場所機能	その他
<性別>											
男	339	<b>40.7%</b>	<b>56.0%</b>	22.1%	16.2%	24.5%	18.0%	11.5%	18.6%	<b>36.6%</b>	3.8%
女	470	<b>40.0%</b>	<b>63.0%</b>	20.0%	23.8%	<b>36.2%</b>	15.5%	11.7%	18.1%	36.0%	2.3%
無回答	25	<b>28.0%</b>	<b>36.0%</b>	16.0%	16.0%	<b>28.0%</b>	8.0%	12.0%	4.0%	<b>72.0%</b>	4.0%
<年代別>											
10歳代	15	<b>46.7%</b>	<b>40.0%</b>	<b>46.7%</b>	6.7%	<b>40.0%</b>	20.0%	26.7%	6.7%	13.3%	0.0%
20歳代	75	<b>34.7%</b>	<b>65.3%</b>	24.0%	21.3%	<b>34.7%</b>	9.3%	12.0%	17.3%	<b>34.7%</b>	1.3%
30歳代	146	<b>39.0%</b>	<b>71.2%</b>	21.2%	17.8%	34.2%	12.3%	10.3%	11.0%	<b>36.3%</b>	2.7%
40歳代	192	33.9%	<b>58.3%</b>	17.7%	21.4%	<b>39.6%</b>	13.5%	11.5%	17.2%	<b>34.4%</b>	4.2%
50歳代	156	<b>34.0%</b>	<b>54.5%</b>	24.4%	24.4%	26.3%	14.7%	15.4%	18.6%	<b>35.9%</b>	4.5%
60歳代	128	<b>46.1%</b>	<b>60.2%</b>	17.2%	20.3%	26.6%	23.4%	12.5%	21.9%	<b>37.5%</b>	3.1%
70歳代以上	123	<b>53.7%</b>	<b>51.2%</b>	18.7%	18.7%	22.8%	23.6%	5.7%	23.6%	<b>48.8%</b>	0.8%
<地区別>											
研究学園地区	259	<b>35.5%</b>	<b>62.9%</b>	20.5%	20.8%	<b>34.0%</b>	15.1%	12.4%	19.7%	32.8%	3.9%
TX沿線地区	180	<b>41.1%</b>	<b>63.3%</b>	17.2%	17.2%	<b>37.2%</b>	15.6%	12.8%	14.4%	35.6%	2.8%
筑波地区	50	<b>62.0%</b>	<b>50.0%</b>	20.0%	16.0%	16.0%	14.0%	20.0%	28.0%	<b>42.0%</b>	2.0%
大穂地区	46	<b>34.8%</b>	<b>60.9%</b>	23.9%	19.6%	<b>34.8%</b>	15.2%	6.5%	13.0%	<b>39.1%</b>	2.2%
豊里地区	56	<b>37.5%</b>	<b>62.5%</b>	33.9%	17.9%	28.6%	17.9%	12.5%	16.1%	<b>35.7%</b>	1.8%
桜地区	74	<b>40.5%</b>	<b>50.0%</b>	17.6%	24.3%	27.0%	21.6%	10.8%	20.3%	<b>41.9%</b>	4.1%
谷田部地区	116	<b>40.5%</b>	<b>52.6%</b>	20.7%	23.3%	27.6%	19.0%	8.6%	19.8%	<b>42.2%</b>	2.6%
荳崎地区	63	<b>42.9%</b>	<b>61.9%</b>	20.6%	23.8%	23.8%	14.3%	6.3%	12.7%	<b>47.6%</b>	1.6%

太字は上位3項目

## 第3章 市民の文化芸術への関わり方の現状と課題

### 1. 市民の文化芸術との関わり方

#### (1) 過去1年間の文化芸術の鑑賞・体験の有無・頻度

- ・過去1年間（令和3年12月～令和4年11月）における文化芸術の鑑賞・体験の状況をみると、「鑑賞・体験した」が7割弱となっている。年代別では、10歳代と20歳代で「鑑賞・体験した」が8割超、30歳代と40歳代も7割を超えている。
- ・鑑賞・体験した市民の頻度をみると、「年に数回」が4割と最も多い一方、「ほぼ毎日」が3割弱となっている。年代別でみると、10歳代と20歳代、30歳代で3割を超えている一方、「年に数回」は40歳代と60歳代、70歳代以上で4割を超えている。
- ・過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験しなかった市民のその理由をみると、「新型コロナウイルス感染症の影響で外出を自粛したから」が5割と最も多く、次いで「時間がないから」が4割弱、「催しに関する情報がないから」と「興味がないから」が2割超となっている。性別でみると、女性は男性に比べて「新型コロナウイルス感染症の影響で外出を自粛したから」の割合が高い一方、男性は女性に比べて「興味がないから」の割合が高い。年代別では、「新型コロナウイルス感染症の影響で外出を自粛したから」は30歳代以上で上位となっており、特に、60歳代と70歳代で約6割となっている。

#### (2) 「自宅等」での文化芸術の鑑賞・体験状況

- ・市民が過去1年間に「自宅等」で鑑賞・体験した文化芸術分野をみると、「メディア芸術」が約8割と最も多く、次いで「芸術」、「芸能（伝統芸能を除く）」となっている。年代別では、「芸術」は10歳代～50歳代で上位となっている一方、「国民娯楽」は60歳代以上で上位となっている。
- ・過去1年間に「自宅等」で文化芸術を鑑賞・体験した市民のオンラインによる鑑賞・体験状況（無料または有料は問わない）をみると、「鑑賞・体験した」が7割弱となっている。性別では、「鑑賞・体験した」は男性で7割と女性の6割超と比べて多く、年代別では「鑑賞・体験した」は30歳代で8割、20歳代で7割超と多い。
- ・オンラインにより鑑賞・体験した内容をみると、「コンサート等の音楽イベント」が約7割と最も多く、次いで「美術館・画物館等の企画」、「歴史的な建物や遺跡」となっている。年代別では、「美術館・博物館等の企画」は20歳代を除いて、「歴史的な建物や遺跡」は40歳代以上で上位となっている。また、「演劇・ミュージカル」や「バレエ・ダンス」は20歳代で上位となっている。

### （３）「自宅等以外」での文化芸術の鑑賞・体験状況

- ・市民が過去１年間に「自宅等以外」で鑑賞・体験した文化芸術分野をみると、「芸術」が５割超と最も多く、次いで「メディア芸術」、「文化財」となっている。性別でみると、男性で「文化財」が約９割最も多く、次いで「生活文化」、「芸術」となる一方、女性では「芸術」が９割超と最も多く、次いで「メディア芸術」、「芸能（伝統芸能を除く）」となっている。また、年代では、「芸術」は３０歳代以上、「生活文化」は１０歳代と３０歳代から６０歳代、「国民娯楽」は１０歳代～２０歳代、７０歳代で上位となっている。
- ・過去１年間に於いて自宅等以外で文化芸術を鑑賞・体験した市民の鑑賞・体験した施設をみると、「市民の映画館」が約３割と最も多く、次いで「東京都内の文化芸術施設」、「ノバホール（大ホール）」となっている。性別では、男性は「市内の映画館」が最も多い一方、女性は「東京都内の文化芸術施設」が最も多い。年代別では、「ノバホール（大ホール）」は１０歳代と４０歳代、６０歳代以上で、「茨城県内（市内を除く）の文化芸術施設」は１０歳代と２０歳代、５０歳代で上位となっている。

### （４）新型コロナウイルス感染症の影響

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大前と拡大後における文化芸術の鑑賞・体験頻度の変化をみると、「減少した」が６割弱と最も多く、次いで「変化していない」が３割超、「増加した」が約１割となっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大前後で文化芸術の鑑賞・体験頻度が減少した市民の理由をみると、「外出を自粛したから」が約９割と最も多く、次いで「文化芸術に係るイベントや催事が中止（延期）となったから」が約５割、「オンライン配信による干渉・体験機会ができたから」が約１割となっている。年代別では、「新型コロナウイルス感染症の影響で外出を自粛したから」は３０歳代以上で上位となっており、特に、６０歳代と７０歳代で６割となっている。「時間がないから」は１０歳代～６０歳代で上位となっており、１０歳代から５０歳代で４割以上となっている。

### （５）文化芸術に関する情報の入手方法

- ・文化芸術に関する情報の入手方法をみると、「つくば市の広報紙・ホームページ」が約６割と最も多く、次いで「地域情報誌（常陽リビングなど）」が４割弱、「チラシ、ポスター」と「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」が３割超となっている。
- ・「つくば市の広報紙・ホームページ」は２０歳代を除き上位となっており、特に７０歳代以上で約８割、６０歳代で約７割となっている。
- ・「チラシ、ポスター」は２０歳代以上で上位となっており、１０歳代と７０歳代以上で４割を上回っている。
- ・「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」は１０歳代から４０歳代で上位となっており、２０歳代で８割超、３０歳代で約６割となっている。
- ・「友人・知人を通じて」は１０歳代と２０歳代で上位となっている。

## 2. つくば市の文化芸術に関する取り組みへの評価・期待

### (1) つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する現状の満足度

- ・つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する現状の満足度を「満足評価（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計）」からみると、「つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動」が最も多く、次いで「科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術」、「文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク」、「鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会」となっている。
- ・年代別でみると、「つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動」の「満足評価」は10歳代で7割超、20歳代で約7割、30歳代で約6割と多い。また、「科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術」は10歳代で約8割、20歳代で6割超、30歳代で約6割となっている。

### (2) つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する今後の重要度

- ・つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する今後の重要度を「重要評価（「需要」と「どちらかといえば重要」の合計）」をみると、「つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動」が9割と最も多く、次いで「文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展」、「鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会」となっている。
- ・年代別では、「つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動」の「重要評価」は10歳代と20歳代、60歳代以上で9割を上回っている。また、「鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会」の「重要評価」は60歳代と70歳代で9割を上回っている。

### (3) 旧田水山小学校に計画している文化芸術創造拠点に対して求める機能

- ・つくば市が旧田水山小学校に整備を計画している文化芸術創造拠点に求める機能をみると、「制作や発表、鑑賞・体験の場の提供」が最も多く、次いで「地域の交流スペースの提供」、「防災・災害時の避難場所機能」となっている。
- ・年代別では、「ワークショップの開催」は10歳代と20歳代、40歳代で上位となっている。
- ・地区別では、「地域の交流スペースの提供」は全ての地区で上位となっており、特に旧田水山小学校が位置する筑波地区で6割超と多い。「防災・災害時の避難場所機能」は筑波地区と大穂地区、豊里地区、桜地区、谷田部地区、荻崎地区で上位となっている。

### (4) 今後のつくば市の文化芸術振興に期待すること

- ・つくば市の文化芸術に今後期待することは、「優れた文化芸術を鑑賞する機会の提供」が最も多く、次いで「プロのアーティストとの触れ合う機会の提供」、「周辺地区にある施設について、設備・運営の充実を図ることによる利活用の促進」となっている。
- ・性別では、女性は男性に比べて、「プロのアーティストと触れ合う機会の提供」と「周辺地区にある施設について、設備・運営の充実を図ることによる利活用の促進」の回答割合が高い。

---

・年代別では、「優れた文化芸術を鑑賞する機会の提供」は特に 50 歳代と 60 歳代で 7 割を上回る。

## 資料編

### 1. アンケート 調査票

#### 文化芸術に関する市民意識調査について（御協力をお願い）

文化芸術は、人々の精神活動の根幹であり、まちの成熟度をあらわすものです。人々の豊かな創造力や感性、受容性を育むだけでなく、福祉、教育、産業等の分野と連携することで相乗効果を生み出すことが期待できます。つくば市は、世界に誇れる、個性あるつくばの文化芸術の創造を推進するために、「つくば市文化芸術推進基本計画」を平成31年3月に策定し、現在第2期計画の策定に取り組んでいます。新たな計画を策定するに当たり、市民の文化芸術に対する関わり方や関心度、御意見、期待することなどを把握し、基本計画づくりにいかすために、アンケート調査を実施することといたしました。

本調査の対象者は、市内にお住まいの18歳以上（令和4年10月1日現在）の方から無作為に抽出した3,000名の方です。

御記入いただいた情報はすべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また、他の目的には利用いたしません。

調査票は、つくば市個人情報保護条例に従い、適切に管理いたします。

お忙しいところお手数をおかけしますが、調査の趣旨を御理解いただき、本調査に御協力いただけますようお願い申し上げます。

令和4年11月 つくば市

#### 【御回答に当たってのお願い】

1. 調査の回答方法は、「調査票（紙）による方法」と「インターネットによる方法」をお選びいただけます。インターネットで御回答いただいた方は調査票の返送は不要です。
2. 調査の回答は、原則としてあて名の御本人が行ってください。それが困難な場合は、同居御家族の方がお答えいただいても結構です。
3. 設問には、「1つ」または「複数」を選んで当てはまる番号に○印をつけるものがありますので、案内に従って回答してください。また、「その他」を選んだ場合は、具体的な内容を御記入ください。
4. 調査票で御回答される方は、調査票を御記入後、同封の返信用封筒に入れて、令和5年1月6日（金）までに、切手を貼らずに郵便ポストに投かんください。
5. ウェブ回答を御希望の方は、以下のURLまたはQRコードから御回答いただけます。ウェブ回答をされる際にIDの入力を求められますので、下記のIDを御入力ください。

IDは調査票による回答との重複を防ぐために設定したものであり、回答者個人を特定するためのものではありません。

<URL : <https://www.tsukuba-artchannel.jp/page/page000102.html>>

ウェブ回答用 ID \_\_\_\_\_



#### <お問い合わせ先>

つくば市市民部 文化芸術課 文化振興係

〒305-8555 つくば市研究学園一丁目1番地1

TEL : 029-883-1111（代表）内線 5610、5611 FAX : 029-868-7546



問3：問1で「1. 鑑賞・体験した」をお選びいただいた方にお伺いします。

あなたは過去1年間に(1)自宅等と(2)自宅等以外でどのような文化芸術を鑑賞・体験しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

※「自宅等」…自宅等(車や電車の中を含む)でテレビやインターネット等を通じて鑑賞することを含む。

※「自宅等以外」…開催会場など現場で実際に鑑賞・体験すること。

「自宅等」で鑑賞・体験している場合

<回答例>

文化芸術分野	文化芸術内容	鑑賞・体験場所	
		(1)	(2)
3. 伝統芸能	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踏、その他の我が国及び地域古来の伝統的な芸能	○ 自宅等	○ 自宅等以外
4. 芸能 (伝統芸能を除く)	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱、その他の芸能	○ 自宅等	○ 自宅等以外

「自宅等」と「自宅等以外」の両方で鑑賞・体験している場合

文化芸術分野	文化芸術内容	鑑賞・体験場所	
		(1)	(2)
1. 芸術	文学、音楽(クラシック、ポップスなど)、美術(絵画、彫刻など)、写真、演劇、舞踏、その他の芸術	○ 自宅等	○ 自宅等以外
2. メディア芸術	映画、漫画、アニメーション、コンピュータ及びその他の電子機器等を利用した芸術(ゲーム、コンピューターグラフィックなど)	○ 自宅等	○ 自宅等以外
3. 伝統芸能	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踏、その他の我が国及び地域古来の伝統的な芸能	○ 自宅等	○ 自宅等以外
4. 芸能 (伝統芸能を除く)	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱、その他の芸能	○ 自宅等	○ 自宅等以外
5. 生活文化	茶道、華道、書道、食文化、盆栽など、その他の生活に係る文化	○ 自宅等	○ 自宅等以外
6. 国民娯楽	囲碁、将棋、俳句、カラオケその他の国民的娯楽並びに出版物及びレコード等	○ 自宅等	○ 自宅等以外
7. 文化財	有形・無形の文化財等並びに、その保存技術(史跡、地域の民俗芸能など)	○ 自宅等	○ 自宅等以外



問7：問1で「2. 鑑賞・体験しなかった」をお選びいただいた方にお伺いします。

文化芸術を鑑賞・体験しなかった理由をすべてお答えください。

1. 興味がないから
2. 時間がないから
3. 魅力のある催しがないから
4. 催しに関する情報がないから
5. 施設や会場が近くくないから
6. 交通が不便だから
7. 料金が安いから
8. 新型コロナウイルス感染症の影響で催しが中止（延期）になったから
9. 新型コロナウイルス感染症の影響で外出を自粛したから
10. その他（ )

問8：新型コロナウイルス感染症の拡大前後で、あなたが文化芸術を鑑賞・体験する頻度は変化しましたか。あてはまるものを1つお答えください。

※ 鑑賞・体験する場所や方法（自宅、自宅以外、直面、オンラインなど）は問いません。

1. 増加した
2. 減少した
3. 変化していない

問9：問8でお答えいただいた理由について、あてはまるものをすべてお答えください。

1. 外出を自粛したから
2. 文化芸術に係るイベントや催事が中止（延期）となったから
3. オンライン配信による鑑賞・体験機会ができたから
4. 自宅にいる時間が増え、文化芸術に係る創作・体験活動ができたから
5. その他（ )

問 10：あなたは、つくば市の文化芸術に関する取り組みについて、**現状の満足度**はどれくらいですか。次の1～11について、あてはまるもの1つにそれぞれ○をつけてください。

	① 満足	② どちらかといえば満足	③ どちらかといえば不満	④ 不満
1. 鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会				
2. すべての人にとって文化芸術が身近となるような環境				
3. 芸術家や指導者など文化芸術を担う人材の育成や活用				
4. 文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展				
5. 国際都市にふさわしい魅力ある事業と、つくばの多様な魅力の発信				
6. 科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術				
7. 民間企業との連携や、食や生活文化を含めた文化芸術活動とおした地域活性化				
8. つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動				
9. 文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク				
10. 市内の文化芸術施設を整備・活用し、他施設とも関わりをもった賑わいの創出				
11. 市内の文化芸術情報を収集し、多様なメディアを通じての情報提供				

問 11：あなたは文化芸術に関する情報をどこから得ていますか。あてはまるものをすべてお答えください。

1. つくば市の広報紙・ホームページ
2. 公益財団法人つくば文化振興財団のホームページ
3. チケット・イベント・文化芸術情報の公式ウェブサイト
4. SNS（フェイスブック、ツイッターなど）
5. 新聞
6. 雑誌
7. 地域情報紙（常陽リビングなど）
8. テレビ、ラジオ
9. チラシ、ポスター
10. 友人・知人を通じて
11. その他（ )

問 12：あなたが、今後つくば市の文化芸術振興に期待することは何ですか。あてはまるものをすべてお答えください。

1. 優れた文化芸術公演を鑑賞する機会の提供
2. 壊れた施設・備品などの修理交換
3. 施設利用の予約方法の公平性の維持
4. 既存施設のバリアフリー化
5. 施設スタッフのサービス向上
6. プロのアーティストと触れ合う機会の提供
7. 市民による文化芸術活動の支援
8. 周辺地区にある施設について、設備・運営の充実を図ることによる利活用の促進
9. ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた支援
10. その他（ )

問 13：あなたは、つくば市の文化芸術の取り組みについて、**今後の重要度**をどのように考えますか。次の1～11について、あてはまるもの1つにそれぞれ○をつけてください。

	①重要	②どちらかといえば重要	③どちらかといえば重要ではない	④重要ではない
1. 鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会				
2. すべての人にとって文化芸術が身近となるような環境				
3. 芸術家や指導者など文化芸術を担う人材の育成や活用				
4. 文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展				
5. 国際都市にふさわしい魅力ある事業と、つくばの多様な魅力の発信				
6. 科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術				
7. 民間企業との連携や、食や生活文化を含めた文化芸術活動とおした地域活性化				
8. つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動				
9. 文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク				
10. 市内の文化芸術施設を整備・活用し、他施設とも関わりをもった賑わいの創出				
11. 市内の文化芸術情報を収集し、多様なメディアを通じての情報提供				

問 14：つくば市は旧田水山小学校を活用し、地域活性化に貢献する施設としての文化芸術創造拠点の整備を計画しています。あなたは文化芸術創造拠点にどのような機能を求めますか。あてはまるものを最大3つお答えください。

1. 地域の交流スペースの提供
2. 創作や発表、鑑賞・体験の場の提供
3. アーティストの発掘・育成
4. 文化芸術に関わる人と、望む情報や施設を繋げるコーディネート機能
5. ワークショップの開催
6. 市主催の芸術展の開催
7. アーティストインレジデンス（注1）の実施
8. 地域伝統芸能等の練習スペースの提供
9. 防災・災害時の避難場所機能
10. その他（ ）

注1…アーティストが一定期間ある土地に滞在し、常時とは異なる文化環境で作品制作やリサーチ活動を行うこと。

問 15：つくば市の文化芸術について、あなたの思い・アイデアをお聞かせください。

問 16：あなたの性別について、あてはまるものを1つお答えください。

1. 男
2. 女
3. その他 ( )
4. 無回答

問 17：あなたの年齢について、あてはまるものを1つお答えください。

1. 10 歳代
2. 20 歳代
3. 30 歳代
4. 40 歳代
5. 50 歳代
6. 60 歳代
7. 70 歳代
8. 80 歳代以上

問 18：あなたの職業について、あてはまるものを1つお答えください。

1. 会社員・公務員
2. 自営業
3. 農林業
4. パート・アルバイトなど
5. 専業主婦（主夫）
6. 学生
7. 無職
8. その他

問 19：あなたのつくばでの居住年数について、あてはまるものを1つお答えください。

1. 1年未満
2. 1年以上5年未満
3. 5年以上10年未満
4. 10年以上15年未満
5. 15年以上20年未満
6. 20年以上

御協力ありがとうございました。



**文化芸術に関する市民意識調査  
報告書**

**令和5年(2023年)3月**

**つくば市**

# 文化芸術に関する市民意識調査報告書（概要版）

## 1. 調査概要

### （1）目的

「つくば市文化芸術推進基本計画（第2期）」を策定するに当たり、市民の文化芸術に対する関わり方や関心度、御意見、期待することなどを把握するため。

### （2）期間

令和4年12月5日～令和5年1月6日

### （3）調査対象

つくば市民3,000名

（つくば市住民基本台帳（令和4年10月1日現在）に基づき、18歳以上のつくば市民から無作為に抽出）

### （4）回答数

回答者数 871名（回収率：29.0%）

## 2. 回答者属性

性別	男性	女性	その他	無回答 (回答しない)	不明 (記載なし)	合計
人数	347	482	-	25	17	871
割合	39.8%	55.3%	0.0%	2.9%	2.0%	100.0%

年齢別	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	不明	合計
人数	16	76	149	193	157	135	128	1	16	871
割合	1.8%	8.7%	17.1%	22.2%	18.0%	15.5%	14.7%	0.1%	1.8%	100.0%

職業別	会社員・ 公務員	自営業	農林業	パート・アル バイトなど	専業主婦 (主夫)	学生	無職	その他	不明	合計
人数	368	56	5	125	127	42	104	24	20	871
割合	42.3%	6.4%	0.6%	14.4%	14.6%	4.8%	11.9%	2.8%	2.3%	100.0%

職業別	研究学園地区	TX沿線地区	筑波地区	大穂地区	豊里地区	桜地区	谷田部地区	萁崎地区	不明	合計
人数	265	184	53	48	58	76	119	67	1	871
割合	30.4%	21.1%	6.1%	5.5%	6.7%	8.7%	13.7%	7.7%	0.1%	100.0%

居住年数別	1年未満	1年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	不明	合計
人数	2	125	114	102	83	428	17	871
割合	0.2%	14.4%	13.1%	11.7%	9.5%	49.1%	2.0%	100.0%

※端数の関係上、各項目の合計は必ずしも100%とならない

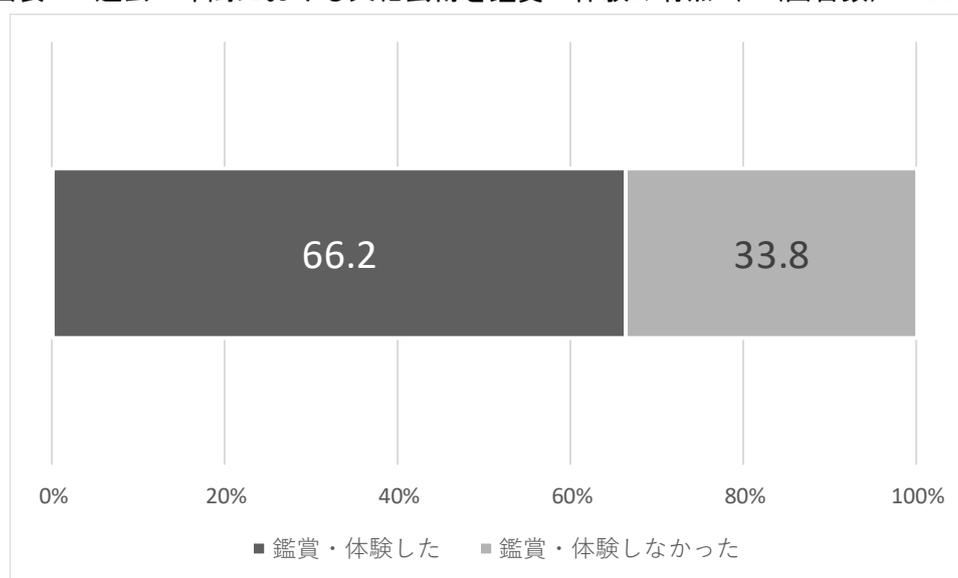
### 3. 調査結果

#### (1) 過去1年間の文化芸術の体験・鑑賞の有無

##### 「鑑賞・体験した」が7割弱

過去1年間（令和3年12月～令和4年11月）における文化芸術の鑑賞・体験の状況をみると、「鑑賞・体験した」が66.2%、「鑑賞・体験しなかった」が33.8%となった（図表1）。

図表1 過去1年間における文化芸術を鑑賞・体験の有無（n（回答数）=861）

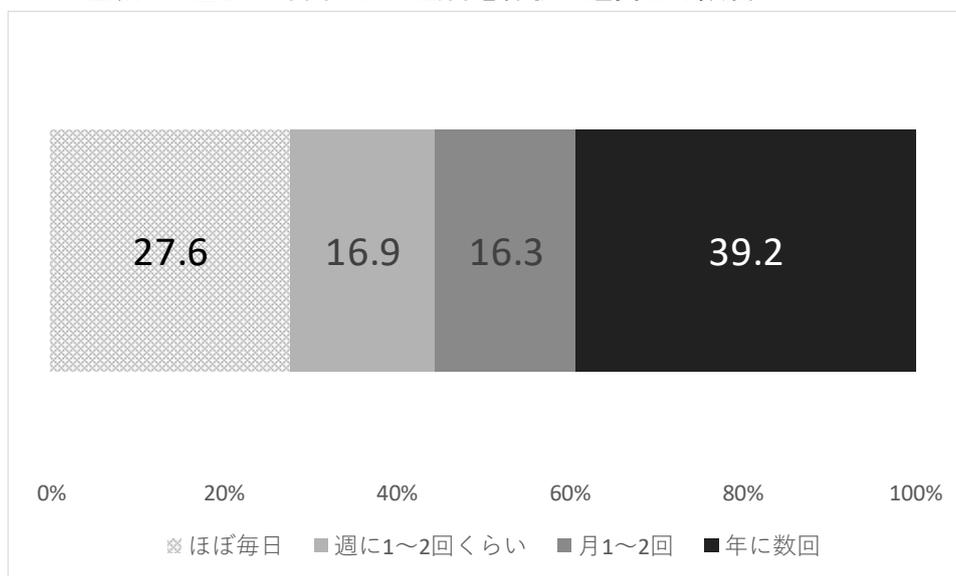


## (2) 過去1年間に文化芸術を体験・鑑賞した頻度

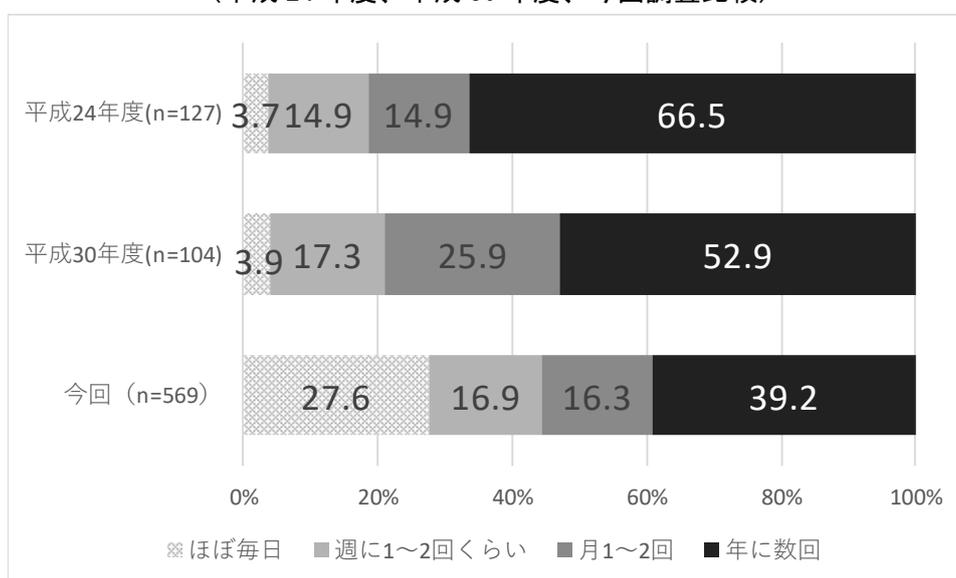
### 「年に数回」が4割、「ほぼ毎日」が3割弱

過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した市民の鑑賞・体験した頻度をみると、「年に数回」が39.2%と最も多く、次いで「ほぼ毎日」が27.6%、「週に1～2回くらい」となっている（図表2）。

図表2 過去1年間に文化芸術を体験・鑑賞した頻度（n=569）



### <参考1> 過去1年間に文化芸術を体験・鑑賞した頻度<参考> (平成24年度、平成30年度、今回調査比較)

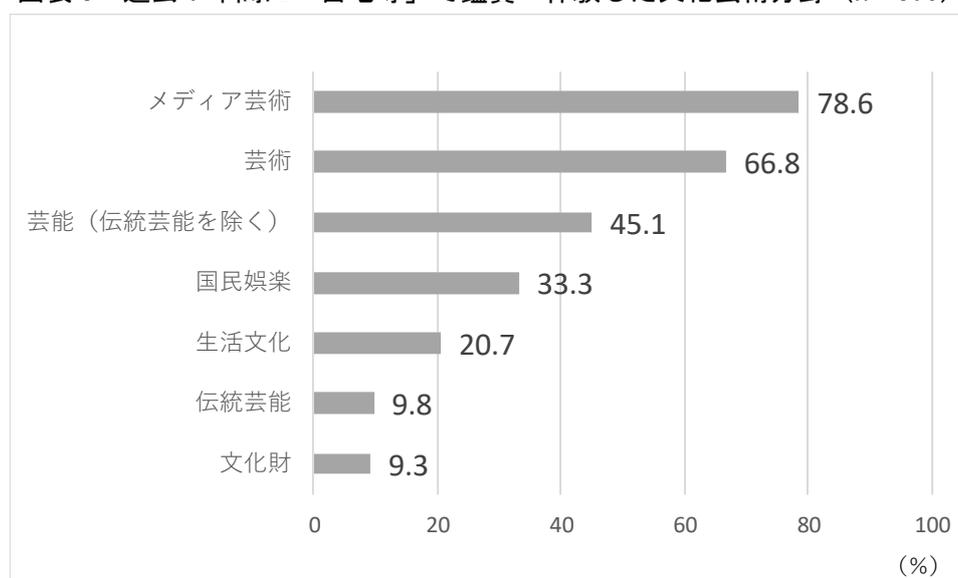


### (3) 過去1年間に鑑賞・体験した文化芸術分野

#### ア) 鑑賞・体験場所：自宅等：「メディア芸術」が8割弱、「芸術」が7割弱

過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した市民の「自宅等」(※1)で鑑賞・体験した文化芸術分野をみると、「メディア芸術」が78.6%と最も多く、次いで「芸術」が66.8%、「芸能(伝統芸能を除く)」が45.1%となっている(図表3)。

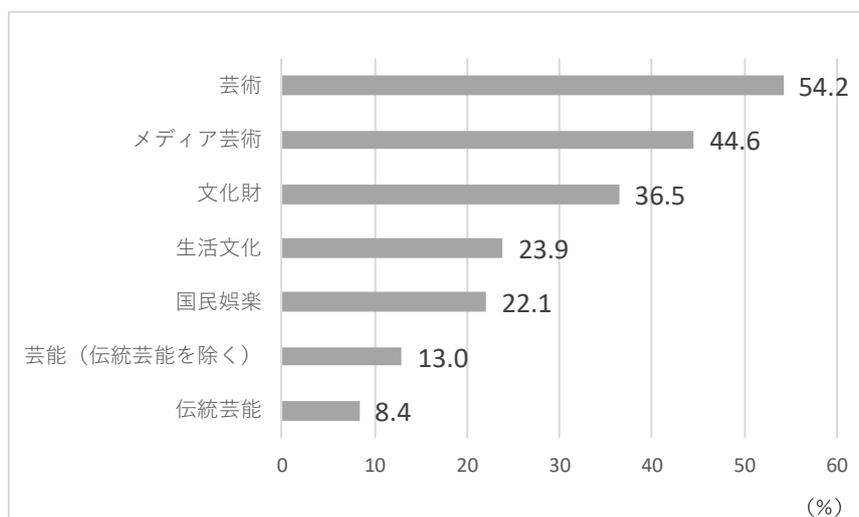
図表3 過去1年間に「自宅等」で鑑賞・体験した文化芸術分野 (n=570)



#### イ) 鑑賞・体験場所：自宅等以外：「芸術」が5割超と最も多く、「メディア芸術」が4割超、「文化財」が4割弱

過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した市民の「自宅等以外」(※)で鑑賞・体験した文化芸術分野をみると、「芸術」が54.2%と最も多く、次いで「メディア芸術」が44.6%、「文化財」が36.5%となっている(図表4)。

図表4 過去1年間に「自宅等以外」で鑑賞・体験した文化芸術分野 (n=570)

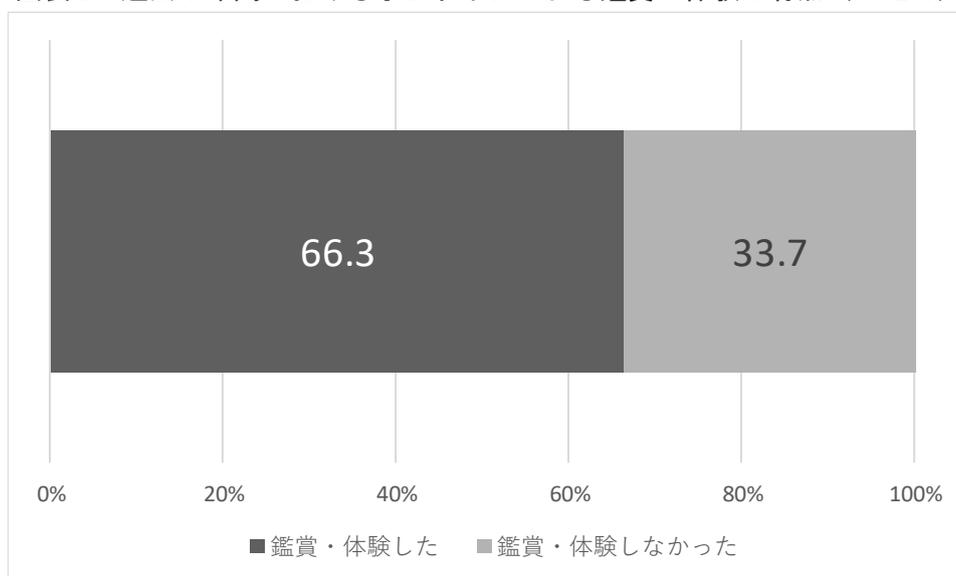


#### (4) 過去1年間におけるオンラインによる鑑賞・体験の有無

##### 「鑑賞・体験した」が7割弱

過去1年間に自宅等で文化芸術を鑑賞・体験した市民のオンラインによる鑑賞・体験状況（無料または有料は問わない）をみると、「鑑賞・体験した」が66.3%、「鑑賞・体験しなかった」が33.7%となっている（図表5）。

図表5 過去1年間におけるオンラインによる鑑賞・体験の有無（n=277）

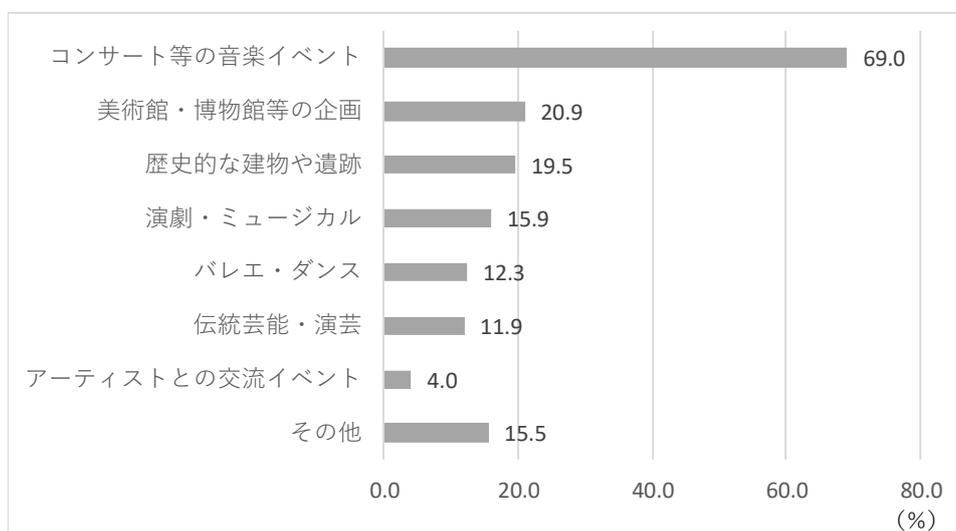


#### (5) 過去1年間にオンラインにより鑑賞・体験した文化芸術の内容

##### 「コンサート等の音楽イベント」が7割

過去1年間において自宅等でオンラインにより文化芸術を鑑賞・体験した市民のその内容をみると、「コンサート等の音楽イベント」が69.0%と最も多く、次いで「美術館・画物館等の企画」が20.9%、「歴史的な建物や遺跡」が19.5%となっている（図表6）。

図表6 過去1年間にオンラインにより鑑賞・体験した文化芸術の内容（n=277）

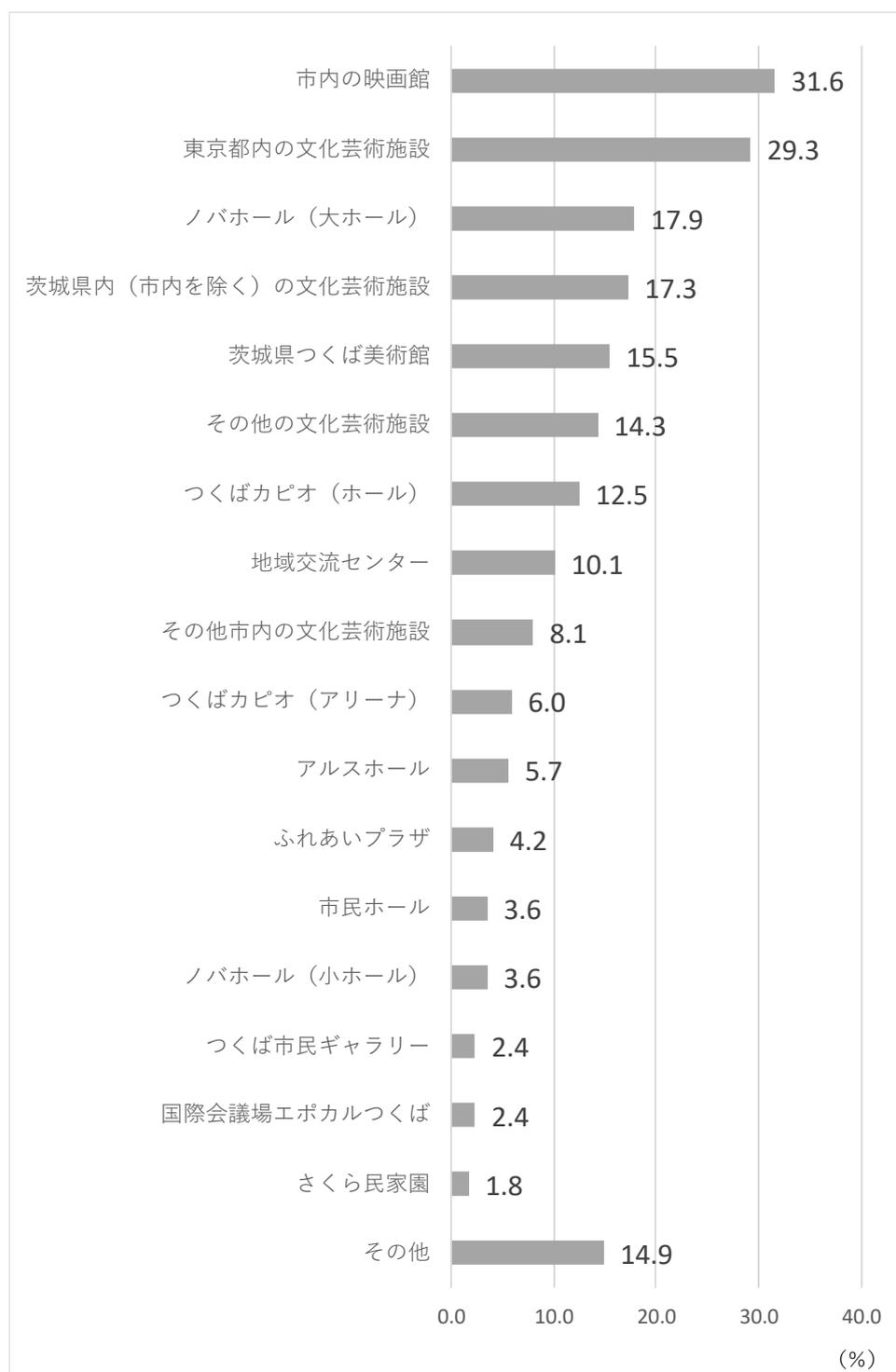


## (6) 過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した施設

### 「市内の映画館」が3割超、「東京都内の文化芸術施設」が3割

過去1年間に自宅等以外で文化芸術を鑑賞・体験した市民の鑑賞・体験した施設をみると、「市内の映画館」が31.6%と最も多く、「東京都内の文化芸術施設」が29.3%、「ノバホール（大ホール）」が17.9%となっている（図表7）。

図表7 過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験した施設（n=335）

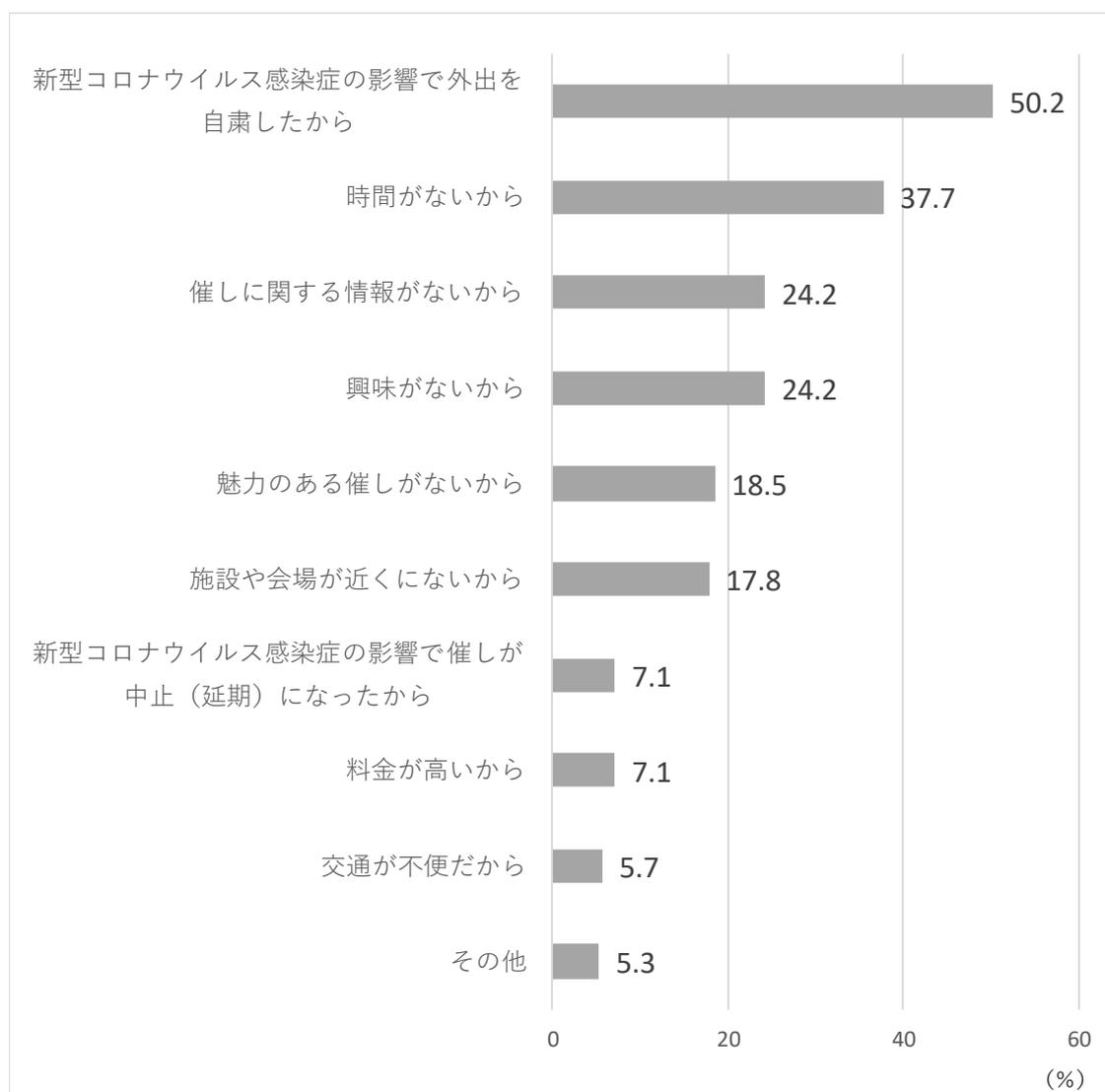


### (7) 過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験しなかった理由

#### 新型コロナウイルスによる外出自粛が5割と最多

過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験しなかった市民のその理由をみると、「新型コロナウイルス感染症の影響で外出を自粛したから」が50.2%と最も多く、次いで「時間がないから」が37.7%、「催しに関する情報がないから」と「興味がないから」が24.2%となっている（図表8）。

図表8 過去1年間に文化芸術を鑑賞・体験しなかった理由（n=281）

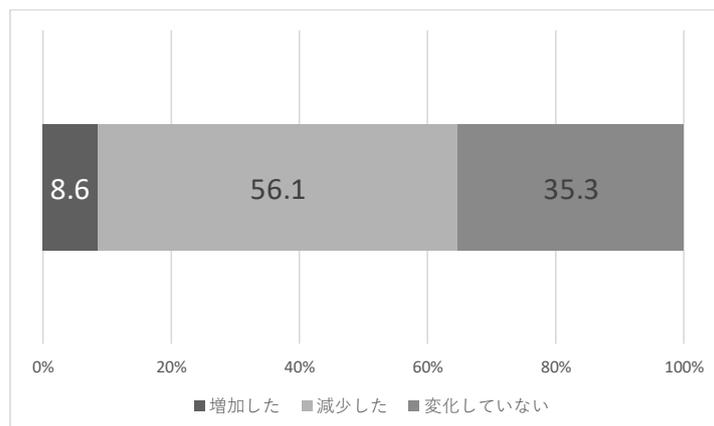


## (8) 新型コロナウイルス感染症による文化芸術の鑑賞・体験頻度の変化

### 「減少した」が6割弱

新型コロナウイルス感染症の拡大前と拡大後における文化芸術の鑑賞・体験頻度の変化をみると、「減少した」が56.1%と最も多く、次いで「変化していない」が35.3%、「増加した」が8.6%となっている（図表9）。

図表9 新型コロナウイルス感染症による文化芸術の鑑賞・体験頻度の変化（n=852）

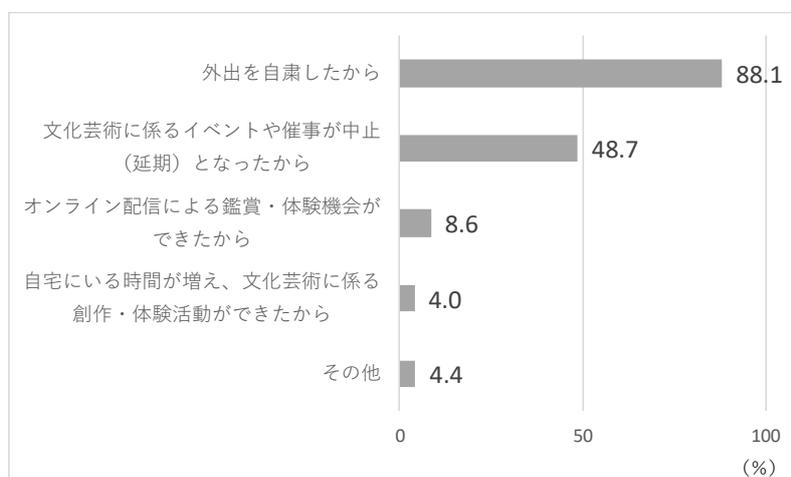


## (9) 新型コロナウイルス感染症により文化芸術の鑑賞・体験頻度が減少した理由

### 外出自粛が9割弱、イベントや催事の中止（延期）が5割弱

新型コロナウイルス感染症の拡大前後で文化芸術の鑑賞・体験頻度が減少した市民のその理由をみると、「外出を自粛したから」が88.1%と最も多く、次いで「文化芸術に係るイベントや催事が中止（延期）となったから」が48.7%、「オンライン配信による鑑賞・体験機会ができたから」が8.6%となっている（図表10）。

図表10 新型コロナウイルス感染症により文化芸術の鑑賞・体験頻度が変化した理由（n=478）

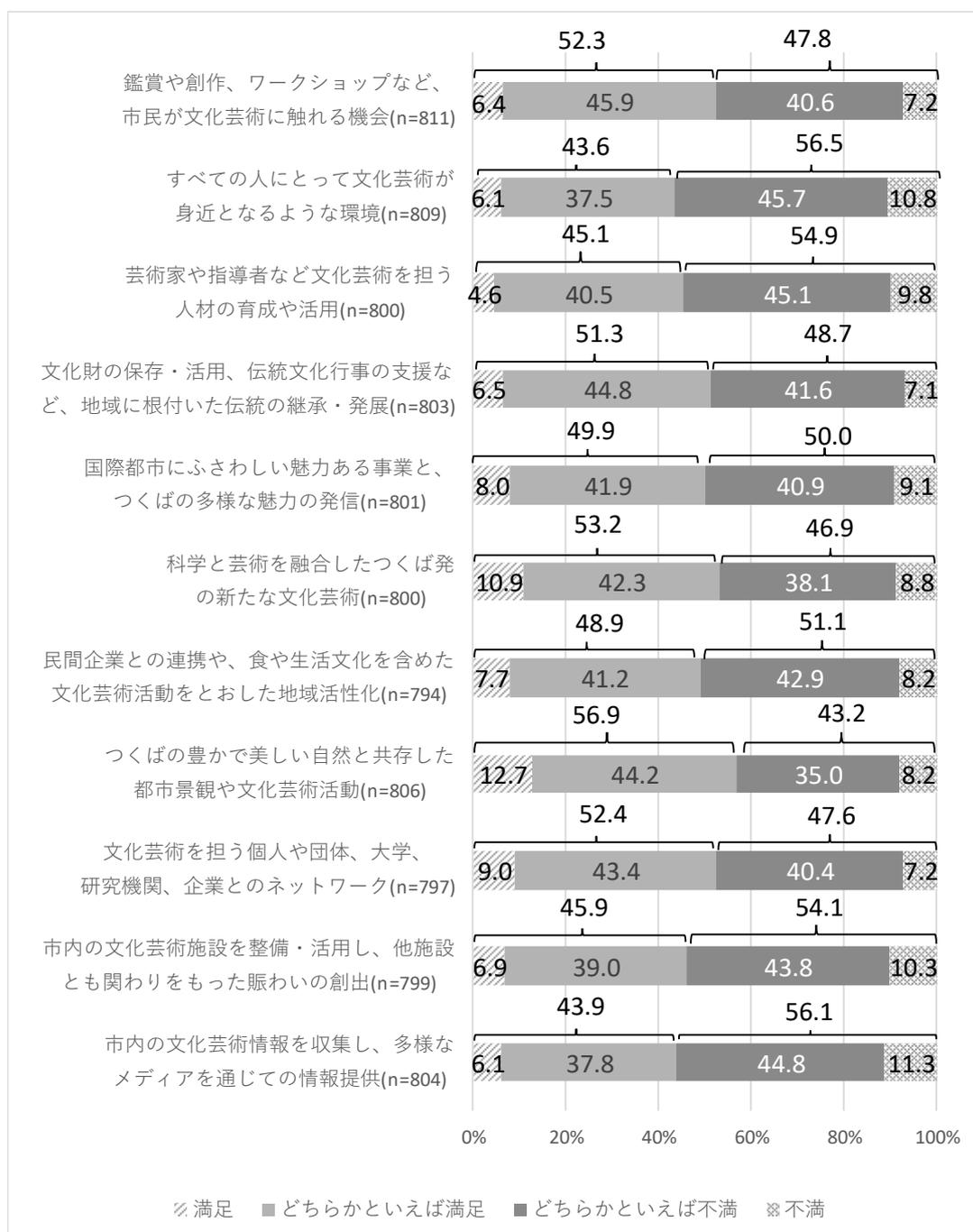


## (10) つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する現状の満足度

『自然と共存した都市景観や文化芸術活動』や、『科学と芸術を融合した文化芸術』、『文化芸術を担う個人・団体や大学・研究機関、企業のネットワーク』が上位

つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する現状の満足度を「満足評価（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計）」からみると、「つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動」が56.9%と最も多く、次いで「科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術」が53.2%、「文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク」が52.4%、「鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会」が52.3%となっている（図表11）。

図表 11 つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する現状の満足度



＜参考 2＞ 基本計画指標別の現状の満足度（今回、平成 30 年度）

指標	満足評価割合	
	今回調査	平成30年度調査
文化芸術に接する機会の拡充	52.3%	<b>26.1%</b>
すべての人にとって文化芸術が身近にある環境づくり	43.6%	23.0%
文化芸術に資する人材の育成と活用	45.1%	12.0%
地域に根付いた伝統の継承・発展	51.3%	17.0%
多文化共生による文化芸術の振興	49.9%	<b>24.1%</b>
科学と融合した文化芸術の振興	<b>53.2%</b>	21.0%
文化芸術によるイノベーションの創出	48.9%	12.8%
自然との共生による文化芸術の振興	<b>56.9%</b>	19.7%
プラットフォームの形成	<b>52.4%</b>	11.0%
文化施設の整備と活用	45.9%	<b>29.4%</b>
文化芸術情報の収集と提供	43.9%	18.2%

太字は上位 3 項目

＜参考 3＞ 基本計画指標と市民意識調査選択肢の対応（今回、平成 30 年度）＜参考＞

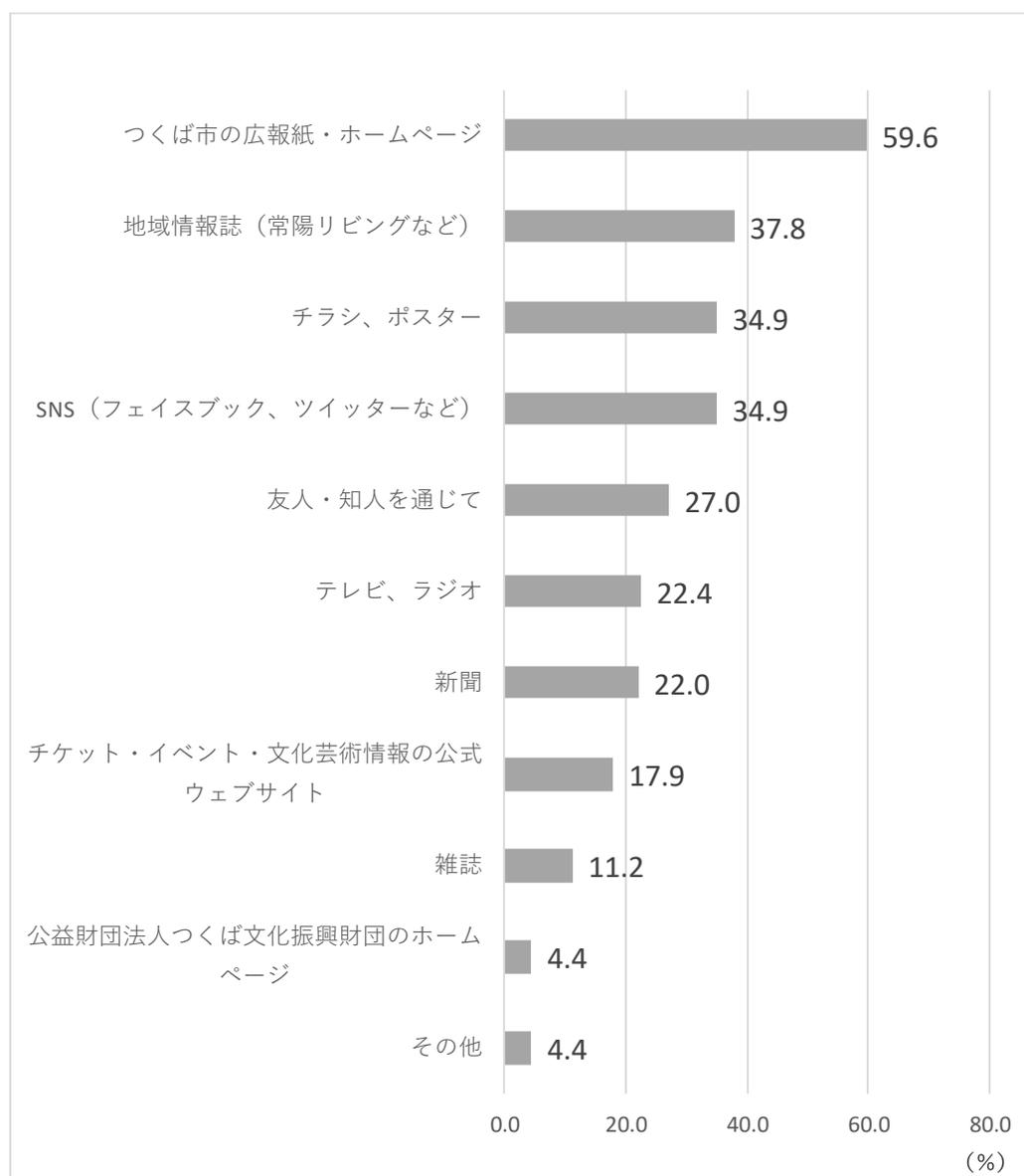
	指標（成果指標）	選択肢（今回調査）	選択肢（平成30年度調査）
1	文化芸術に接する機会の拡充	鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会	優れた舞台公演や作品展示などが行われている 文化芸術に関する市民活動が盛んに取り組まれている
2	すべての人にとって文化芸術が身近にある環境づくり	すべての人にとって文化芸術が身近となるような環境	文化芸術活動が幅広い世代で取り組まれている
3	文化芸術に資する人材の育成と活用	芸術家や指導者など文化芸術を担う人材の育成や活用	文化芸術に関する人材の育成がされている
4	地域に根付いた伝統の継承・発展	文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展	伝統的な文化芸術の保存・活動がされている
5	多文化共生による文化芸術の振興	国際都市にふさわしい魅力ある事業と、つくばの多様な魅力の発信	文化芸術を通じた国際交流が取り組まれている
6	科学と融合した文化芸術の振興	科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術	ITなど先端技術を活かした文化芸術活動が取り組まれている
7	文化芸術によるイノベーションの創出	民間企業との連携や、食や生活文化を含めた文化芸術活動をとおした地域活性化	文化芸術を活かし、観光や産業が活発な状況にある
8	自然との共生による文化芸術の振興	つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動	自然環境や景観と文化芸術活動が連携している
9	プラットフォームの形成	文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク	日々の暮らしの中で、文化芸術の創造がなされている それぞれの文化芸術活動が連携している
10	文化施設の整備と活用	市内の文化芸術施設を整備・活用し、他施設とも関わりをもった賑わいの創出	文化芸術施設が整っている
11	文化芸術情報の収集と提供	市内の文化芸術情報を収集し、多様なメディアを通じての情報提供	文化芸術に関する情報が充実している

## (11) 文化芸術に関する情報の入手方法

## 「つくば市の広報紙・ホームページ」が6割

文化芸術に関する情報の入手方法をみると、「つくば市の広報紙・ホームページ」が59.6%と最も多く、次いで「地域情報誌（常陽リビングなど）」が37.8%、「チラシ、ポスター」と「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」が34.9%となっている（図表12）。

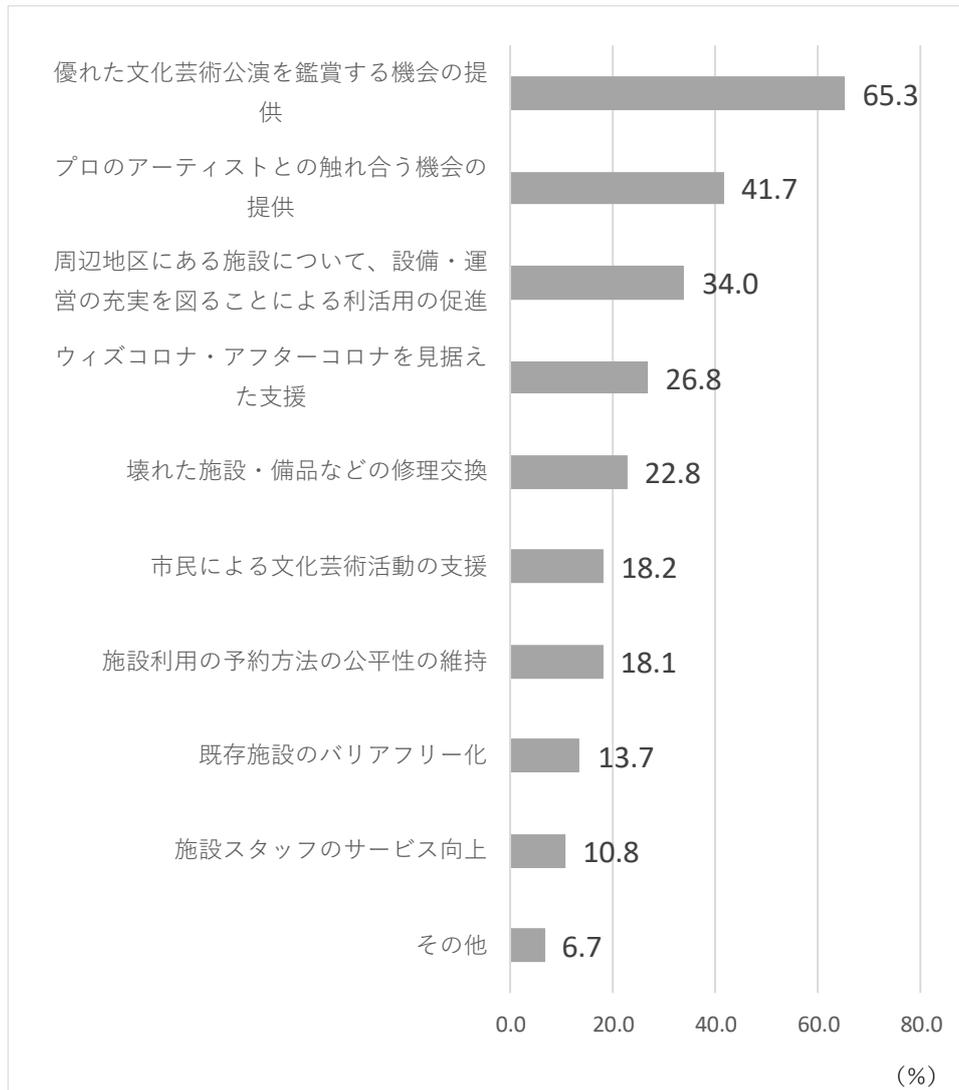
図表12 文化芸術に関する情報の入手方法（n=849）



## (12) つくば市の文化芸術に今後期待すること

つくば市の文化芸術に今後期待することとしては、「優れた文化芸術を鑑賞する機会の提供」が65.3%と最も多く、次いで「プロのアーティストとの触れ合う機会の提供」が41.7%、「周辺地区にある施設について、設備・運営の充実を図ることによる利活用の促進」が34.0%となっている（図表13）。

図表13 つくば市の文化芸術に今後期待すること（n=841）

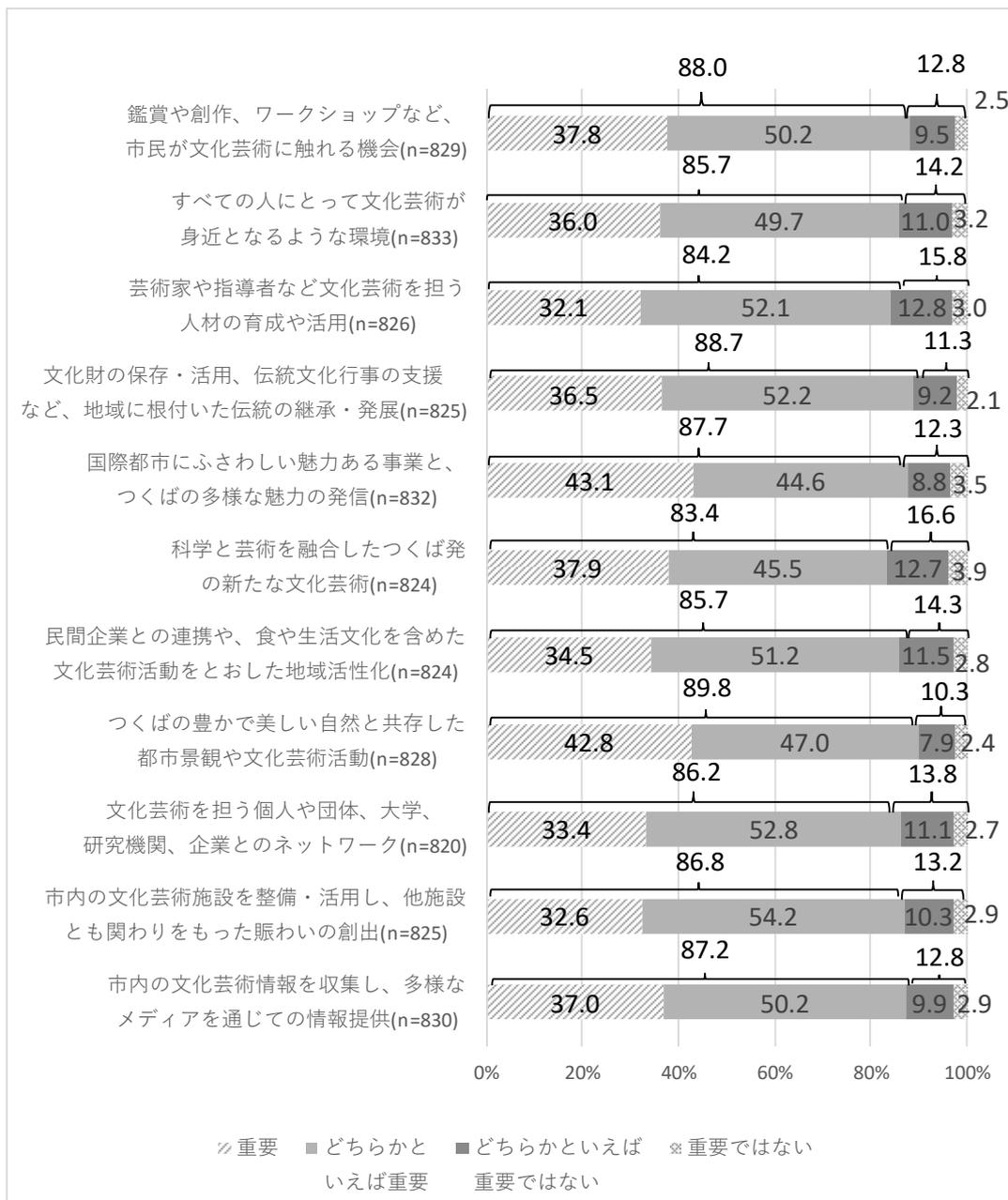


(13) つくば市の文化芸術に関する取り組みにおける今後の重要度

「自然と共存した都市景観や文化芸術活動」が4割超

つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する今後の重要度を「重要評価（「需要」と「どちらかといえば重要」の合計）」からみると、「つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動」が89.8%と最も多く、次いで「文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展」が88.7%、「鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会」が88.0%となっている（図表14）。

図表 14 つくば市の文化芸術に関する取り組みにおける今後の重要度



＜参考 4＞ 基本計画指標別の今後の重要度（今回、平成 30 年度）

指標	重要評価割合	
	今回調査	平成30年度調査
1 文化芸術に接する機会の拡充	88.0%	72.4%
2 すべての人にとって文化芸術が身近にある環境づくり	85.7%	68.9%
3 文化芸術に資する人材の育成と活用	84.2%	68.5%
4 地域に根付いた伝統の継承・発展	88.7%	65.9%
5 多文化共生による文化芸術の振興	87.7%	67.8%
6 科学と融合した文化芸術の振興	83.4%	68.4%
7 文化芸術によるイノベーションの創出	85.7%	60.6%
8 自然との共生による文化芸術の振興	89.8%	66.8%
9 プラットフォームの形成	86.2%	57.5%
10 文化施設の整備と活用	86.8%	74.2%
11 文化芸術情報の収集と提供	87.2%	73.2%

太字は上位 3 項目

＜参考 3：再掲＞ 基本計画指標と市民意識調査選択肢の対応（今回、平成 30 年度）

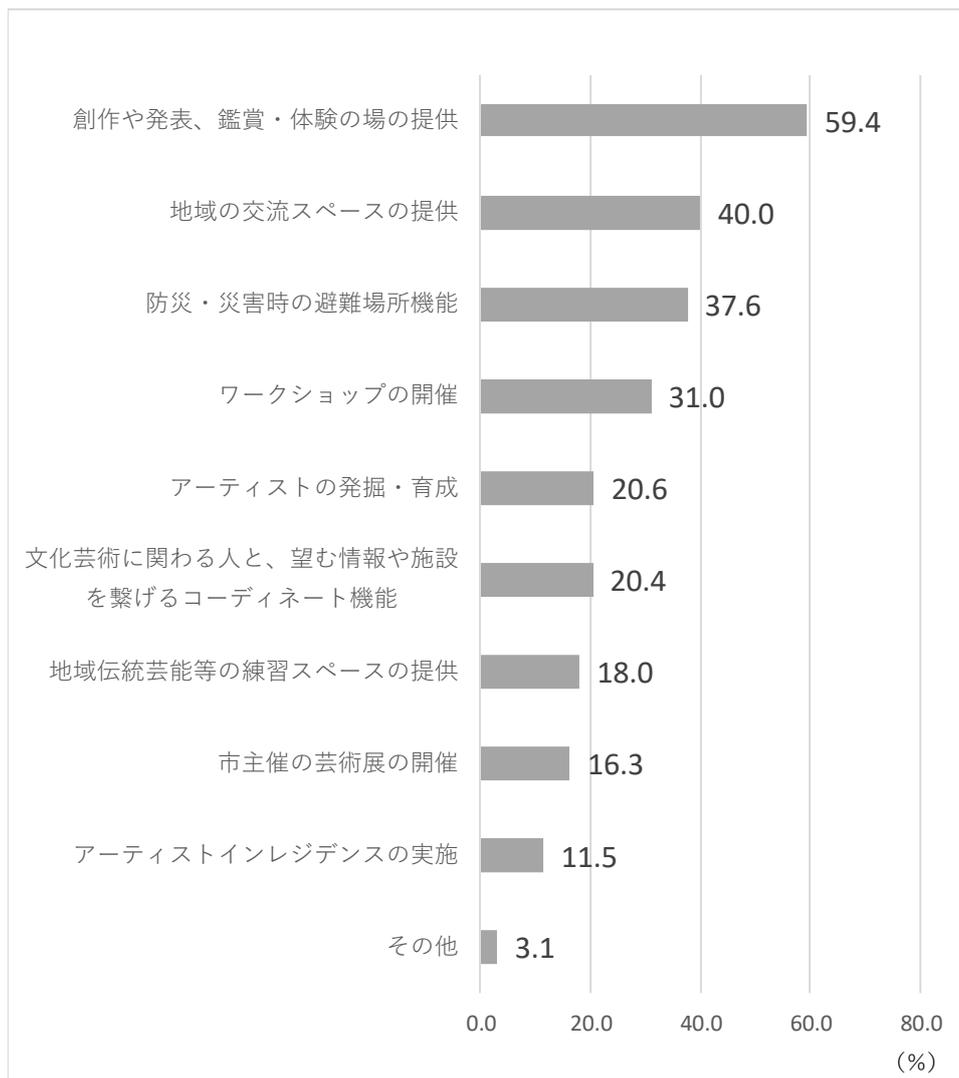
指標（成果指標）	選択肢（今回調査）	選択肢（平成30年度調査）
1 文化芸術に接する機会の拡充	鑑賞や創作、ワークショップなど、市民が文化芸術に触れる機会	優れた舞台公演や作品展示などが行われている
		文化芸術に関する市民活動が盛んに取り組まれている
2 すべての人にとって文化芸術が身近にある環境づくり	すべての人にとって文化芸術が身近となるような環境	文化芸術活動が幅広い世代で取り組まれている
3 文化芸術に資する人材の育成と活用	芸術家や指導者など文化芸術を担う人材の育成や活用	文化芸術に関する人材の育成がされている
4 地域に根付いた伝統の継承・発展	文化財の保存・活用、伝統文化行事の支援など、地域に根付いた伝統の継承・発展	伝統的な文化芸術の保存・活動がされている
5 多文化共生による文化芸術の振興	国際都市にふさわしい魅力ある事業と、つくばの多様な魅力の発信	文化芸術を通じた国際交流が取り組まれている
6 科学と融合した文化芸術の振興	科学と芸術を融合したつくば発の新たな文化芸術	ITなど先端技術を活かした文化芸術活動が取り組まれている
7 文化芸術によるイノベーションの創出	民間企業との連携や、食や生活文化を含めた文化芸術活動とおした地域活性化	文化芸術を活かし、観光や産業が活発な状況にある
8 自然との共生による文化芸術の振興	つくばの豊かで美しい自然と共存した都市景観や文化芸術活動	自然環境や景観と文化芸術活動が連携している
9 プラットフォームの形成	文化芸術を担う個人や団体、大学、研究機関、企業とのネットワーク	日々の暮らしの中で、文化芸術の創造がなされている
		それぞれの文化芸術活動が連携している
10 文化施設の整備と活用	市内の文化芸術施設を整備・活用し、他施設とも関わりをもった賑わいの創出	文化芸術施設が整っている
11 文化芸術情報の収集と提供	市内の文化芸術情報を収集し、多様なメディアを通じての情報提供	文化芸術に関する情報が充実している

## (14) 旧田水山小学校に計画している文化芸術創造拠点に対して求める機能

## 「制作や発表、鑑賞・体験の場の提供」が6割と最多

つくば市が旧田水山小学校に整備を計画している文化芸術創造拠点に求める機能をみると、「制作や発表、鑑賞・体験の場の提供」が59.4%と最も多く、次いで「地域の交流スペースの提供」が40.0%、「防災・災害時の避難場所機能」が37.6%となっている（図表15）。

図表15 旧田水山小学校に計画している文化芸術創造拠点に対して求める機能（n=845）



つくば市文化芸術推進基本計画（第2期） 策定スケジュール

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
つくば市文化芸術審議会		● 第1回会議 (5月23日)			● 第2回会議 (8月4日)		● 第3回会議 (10月14日)		● 第4回会議 (12月23日)			● 第5回会議 (3月14日)
市民意見の反映							■ 調査票作成	■ 調査票印刷 ・発送		■ 調査票回収 調査票集計	■ 分析	
現計画の進捗状況と評価		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     諮問第1号 「つくば市 文化芸術推 進基本計画 (第2期)」 の策定につ いて                 </div>			↕							
市民意識調査 調査項目の検討						↕						
市民意識調査 集計結果の報告												↕

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
つくば市文化芸術審議会		● 第1回会議 (5月下旬)		● 第2回会議 (7月初旬)		● 第3回会議 (9月下旬)						● 第4回会議 (3月中旬)
市民意見の反映											■ パブリック コメント	
第1章 計画の目的		↕										↕
第2章 文化芸術推進の現状と課題		↕		↕								↕
第3章 文化芸術の基本理念・基本的方向		↕		↕		↕						↕
第4章 文化芸術推進の基本施策						↕						↕
第5章 実現に向けた推進体制						↕						↕

検討状況により、スケジュールは変更する可能性があります。



# つくば市 文化芸術創造拠点 基本計画（案）

令和5年(2023年)3月



これからの  
やさしさの  
ものさし  
つくばSDGs





## はじめに

つくば市では、平成31年（2019年）3月、基本理念を「アートで編む」とした「つくば市文化芸術推進基本計画」を策定し、文化芸術を推進するために様々な取り組みを行ってきました。その施策のひとつ「プラットフォームの形成」を目指し、文化芸術創造拠点の整備に着手することになりました。



この計画では、廃校という地域の文化資源を活用することにより、つくば市の文化芸術の発展を支えるとともに、「出会う、つながる、創造する」というコンセプトから、つくば独自の文化芸術を育てていく場を形成すること、さらには地域の活性化にも寄与することを目的としています。

つくば市でしか得られない体験、経験は、まちの魅力となり、さらに多くの人、モノ、情報の繋がりという好循環を生み出します。やがては、つくば市ならではの豊かな感性が生まれていくことでしょう。これは、文化芸術を通して、つくば市が世界に誇れるまちとなり、新たなステージへと歩む道です。

本計画を策定するにあたり、御協力いただきました文化芸術審議会委員の皆様をはじめ、関係者、関係団体の方々、貴重な御意見をお寄せいただきました市民の皆様にご心から御礼を申し上げます。

令和5年（2023年）3月

つくば市長 五十嵐立青



## 目次

---

1. 計画の目的 .....	1.1
1.1. 計画の背景と目的 .....	1.1
1.2. 計画の位置付け .....	1.2
1.2.1. 国の動向 .....	1.3
1.2.2. 茨城県の動向 .....	1.4
1.2.3. つくば市の動向 .....	1.6
2. 現況と課題 .....	2.10
2.1. 敷地・建築物の分析 .....	2.10
2.1.1. 敷地分析 .....	2.10
2.1.2. 建築物分析 .....	2.20
2.1.3. インフラの整備状況 .....	2.24
2.2. つくば市における文化芸術振興の状況 .....	2.28
2.2.1. 文化芸術の取組 .....	2.28
2.2.2. 文化・交流施設の立地状況 .....	2.29
2.2.3. 市民意向の把握 .....	2.30
2.3. 課題の把握と課題への対応 .....	2.35
2.3.1. 課題の把握 .....	2.35
2.3.2. 課題への対応 .....	2.36
3. 基本計画 .....	3.37
3.1. 基本方針 .....	3.37
3.1.1. ビジョン・コンセプト .....	3.37
3.1.2. 事業方針 .....	3.37
3.2. 導入機能 .....	3.41
3.2.1. 求められる機能等 .....	3.41
3.2.2. 導入機能の検討 .....	3.43
3.3. 計画条件 .....	3.45
3.3.1. 利用者層の想定 .....	3.45
3.3.2. 利用者数の想定 .....	3.45
3.3.3. 法制度の整理 .....	3.48
3.3.4. 導入機能の設定 .....	3.51
3.4. 環境の保全と創出 .....	3.54
3.4.1. 景観の保全 .....	3.54
3.4.2. 既存樹木の活用 .....	3.56
3.4.3. 環境配慮 .....	3.56
3.4.4. 建物の長寿命化 .....	3.57
3.5. インフラ整備の基本方針 .....	3.58
3.5.1. 交通アクセス .....	3.58

---

---

3.5.2. 駐車場・駐輪場 .....	3.59
3.5.3. 上水道 .....	3.60
3.5.4. 下水道 .....	3.60
3.5.5. 空調設備 .....	3.62
3.5.6. 電気・ガス・通信設備 .....	3.62
3.5.7. 防災設備 .....	3.63
3.6. 整備計画 .....	3.63
3.6.1. 整備方針 .....	3.63
3.6.2. 土地利用計画 .....	3.64
3.6.3. 施設利活用計画 .....	3.65
3.7. 基本計画図 .....	3.68
3.7.1. 土地利用計画平面図 .....	3.68
3.7.2. 施設利活用計画各階平面図 .....	3.69
3.8. 概算事業費の算出 .....	3.72
3.8.1. 概算事業費 .....	3.72
3.9. 管理運営方法の検討 .....	3.73
3.9.1. 管理運営方法の整理 .....	3.73
3.9.2. 管理運営の考え方 .....	3.74
3.9.3. 概算維持管理費 .....	3.76
3.10. 整備スケジュール .....	3.76

---

## 1. 計画の目的

### 1.1. 計画の背景と目的

平成 29 年（2017 年）6 月に国の文化芸術基本法が改正され、平成 30 年（2018 年）3 月には文化庁により文化芸術推進基本計画が閣議決定し、地方公共団体でも計画を策定していく努力目標が定められた。それを受け、つくば市では「つくば市文化芸術推進基本計画」を平成 31 年（2019 年）3 月に策定し、同計画において、基本的方向 5「文化芸術を实践するまち つくば」の基本施策 9「プラットフォームの形成」における主要施策として「文化芸術創造拠点の形成」が掲げられた。

そこで、文化芸術創造拠点の目指すべき方向性の具体化を図ることを目的とし、令和 3 年（2021 年）9 月に市長から「文化芸術創造拠点の形成」について諮問をし、つくば市文化芸術審議会が開催された。文化芸術審議会においては、文化芸術創造拠点の計画地やその必要性をはじめとし、上位施策であるプラットフォーム形成についても、慎重に調査し審議を行った。

その審議の結論として、「文化芸術創造拠点の計画地は、旧田水山小学校とする」こと、「文化芸術創造拠点の整備に向け、文化芸術創造拠点基本計画の策定に着手する」ことの 2 点が令和 4 年（2022 年）3 月に市長に答申された。

本計画は、以上の経緯をもって、旧田水山小学校における「文化芸術創造拠点」について具体化すべく、策定するものである。

## 1.2. 計画の位置付け

本計画は、「つくば市文化芸術推進基本計画」に即して定め、本市の既存関連計画及び国や茨城県等の法令、条例等や計画との整合性に配慮する。

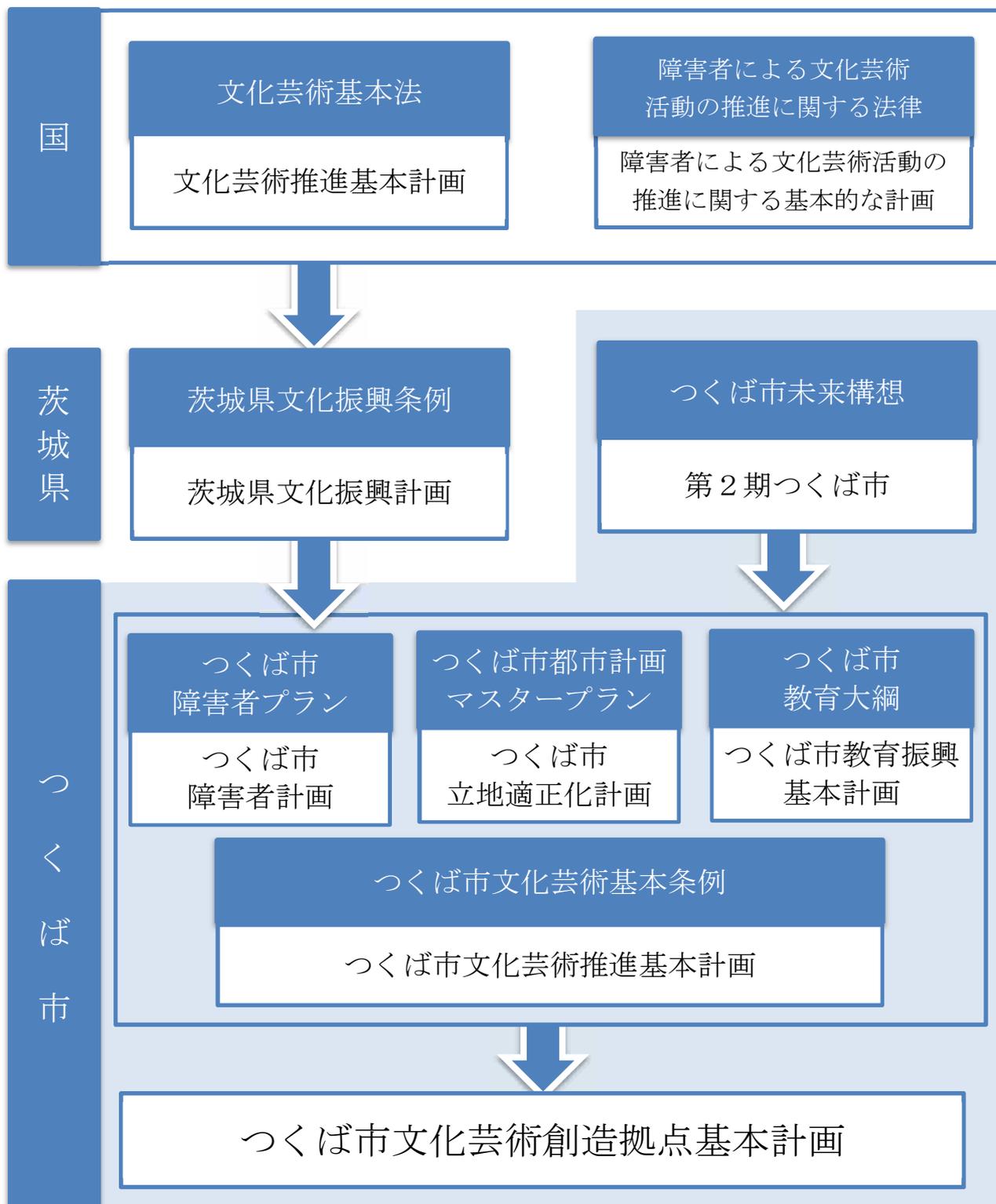


図 1-1 「つくば市文化芸術創造拠点基本計画」の位置付け

### 1.2.1. 国の動向

#### (1) 文化芸術基本法・文化芸術推進基本計画（第1期）

国の文化芸術基本法に定められる、文化芸術基本計画の概要は次の表 1-1 のとおりである。また、同計画では、4つの目標と6つの戦略が次のとおり設定されている。

表 1-1 文化芸術推進基本計画（第1期）の概要

計画	文化芸術推進基本計画
策定年	平成30年（2018年）
目標年次	令和4年（2022年）
目的・趣旨	<p>平成29年（2017年）6月に改正された「文化芸術基本法」では、文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込み、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の創造、発展、継承及び教育に活用することが明記されている。</p> <p>また同法制定を受けて平成30年（2018年）3月に閣議決定された「文化芸術推進基本計画（第1期）」では、4つの目標と6つの戦略が掲げられた。</p>

#### ○ 4つの目標

- ① 文化芸術の創造・発展・継承と教育
- ② 創造的で活力ある社会
- ③ 心豊かで多様性のある社会
- ④ 地域の文化芸術を推進するプラットフォーム

#### ○ 6つの戦略

- ① 文化芸術の創造・発展・継承と豊かな文化芸術教育の充実
- ② 文化芸術に対する効果的な投資とイノベーションの実現
- ③ 国際文化交流・協力の推進と文化芸術を通じた相互理解・国家ブランディングへの貢献
- ④ 多様な価値観の形成と包摂的環境の推進による社会的価値の醸成
- ⑤ 多様で高い能力を有する専門的人材の確保・育成
- ⑥ 地域の連携・協働を推進するプラットフォームの形成

## (2) 文化芸術推進基本計画（第2期）

国は、第1期計画期間における文化芸術政策の推進状況、新型コロナウイルス感染症の影響による文化芸術をめぐる課題等をふまえ、「文化芸術推進計画（第2期）」《令和5年度～9年度》の策定に向け、審議を行った。令和4年（2022年）6月28日の文化審議会総会において、文部科学大臣より文化審議会に対して、「新時代に求められる文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進方策」について、ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた中長期的な文化芸術の振興方策などを踏まえた施策についての検討事項が盛り込まれた。

## (3) 障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画

平成30年（2018年）に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が成立した。同法第7条において、「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」の策定が掲げられており、その趣旨に則り、平成31年に同計画が策定された。基本的な方針と具体的な施策の方向性として、3つの基本的な方針と21の施策の方向性が示されている。

### 1.2.2. 茨城県の動向

平成28年度（2016年度）から展開される茨城県総合計画「いばらき未来共創プラン（平成28年度（2017年度）～平成32年度（2021年度））」を補完する計画として「茨城県文化振興計画」を策定し、令和4年度より第2期計画が施行されており、基本目標と基本的施策がそれぞれ次のとおり示されている。

表 1-2 第2次茨城県文化振興計画の概要

計画	第2次茨城県文化振興計画・アクションプラン
策定年	令和4年（2022年）
目標年次	令和7年（2025年）
目的・趣旨	～県民一人ひとりが主役～ 文化が創る・つなぐ「人と地域が輝く いばらき」

## 基本的施策

## 各種施策

### 1 人材の育成等

文化の担い手や次世代を担う子どもたちの育成とともに、文化に関する教育の充実を図ります。

- (1) 文化の担い手の育成及び確保
- (2) 次世代を担う子どもたちの育成
- (3) 文化に関する教育の充実

### 2 文化の振興

茨城の文化を高め、その魅力を国内外に発信し、本県文化のブランド力を確立します。また、新たな文化を創造し、地域の活性化をはかります。

- (1) 芸術の振興
- (2) 伝統文化の継承及び発展
- (3) 生活文化等の振興
- (4) 文化を活用した地域づくり
- (5) 文化交流の促進

### 3 文化的資産の活用等

地域の文化的資産を観光・産業振興や地域振興等に積極的に活用します。また、文化財の適切な保護・継承を図ります。

- (1) 文化の担い手の育成及び確保
- (2) 次世代を担う子どもたちの育成
- (3) 文化に関する教育の充実

### 4 文化活動の充実

多様な人々が身近な場所で、様々な文化に触れ親しみ、鑑賞し、参加し、創造することができる環境づくりを図ります。

- (1) 県民の文化活動の充実
- (2) 高齢者、障害者等の文化活動の普及
- (3) 青少年の文化活動の普及

### 5 文化活動の支援体制の充実等

多様な主体と連携し、文化振興施策の総合的な推進を図ります。また、文化情報の効果的な発信や文化施設の機能の充実、地域の文化活動の支援等を図ります。

- (1) 文化情報の収集及び提供
- (2) 推進体制の整備
- (3) 文化施設の機能の充実
- (4) 地域における文化活動の支援
- (5) 財政上の措置
- (6) 顕彰

出典：第2次茨城県文化振興計画・アクションプラン

図 1-2 文化振興計画の施策体系図

1.2.3. つくば市の動向

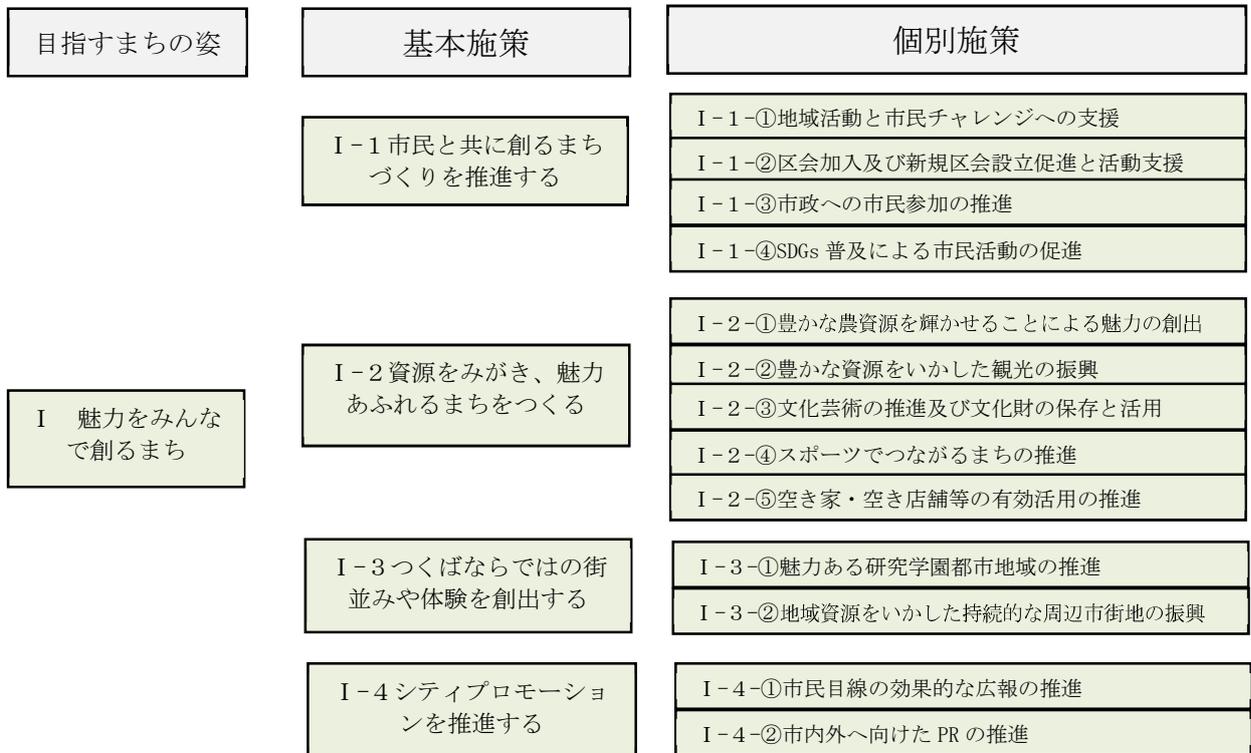
(1) つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン

それぞれの計画の概要は次の表 1-3 のとおりである。

表 1-3 つくば市未来構想・戦略プランの概要

計画	つくば市未来構想	第2期つくば市戦略プラン
策定年	令和2年(2020年)	令和2年(2020年)
目標年次	21世紀半ば	令和6年(2024年)
目的・趣旨	社会・経済等の情勢変化に的確に対応し、諸課題を克服しながら次の世代に継承・発展させていく「持続可能都市」を目指す	市政の中でも特に重点的に取り組む施策に経営資源を配分し、組織横断的に実行するとともに、計画的に進行管理を行う5年間の「戦略プラン」を策定し、効果的・効率的に2030年の未来像の実現に向け取り組む

つくば市が取り組む各分野については、図 1-3 のとおり今後の取組方針や施策の展開内容を記した個別施策を設定している。文化芸術に関する施策は「I-2-③ 文化芸術の推進及び文化財の保存と活用」に位置付けられる。



出典：第2期つくば市戦略プラン

図 1-3 未来構想・戦略プランの構成（一部抜粋）

## (2) つくば市都市計画マスタープラン

計画の概要は次の表 1-4 のとおりである。

表 1-4 つくば市都市計画マスタープランの概要

計画	つくば市都市計画マスタープラン
策定年	平成 27 年 (2015 年)
計画期間	令和 17 年 (2035 年)
基本理念	人と自然・科学が調和した“スマートガーデンシティ” ～みんなでつむぎ、つないでいくまち～
まちづくりの目標	1 豊かな自然・農村・文化・街並みを守り、引き継いでいくまち 2 地域文化・科学技術をいかし、世界に貢献する、活力あるまち 3 市民みんなで育て、守っていくまち 4 誰もが安全・安心を実感し、快適に暮らせるまち 5 人にも環境にも優しい、持続可能なまち

## (3) つくば市立地適正化計画

## ア 計画の概要

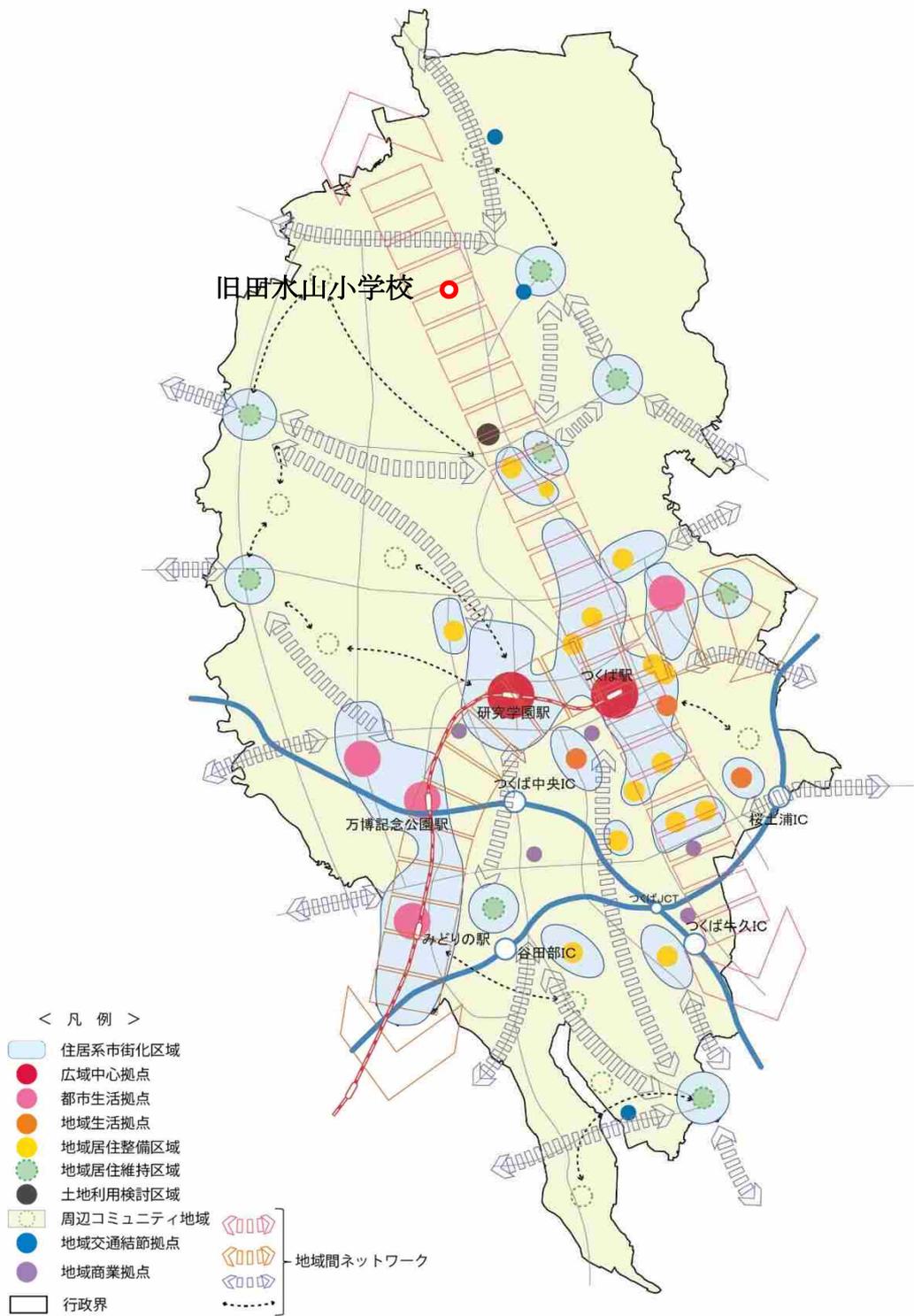
つくば市立地適正化計画は、都市計画マスタープランの一部である。計画の概要は、次の表 1-5 のとおりである。

表 1-5 つくば市立地適正化計画の概要

計画	つくば市立地適正化計画
策定年	平成 30 年 (2018 年)
計画期間	令和 17 年 (2035 年)
基本理念	人と自然・科学が調和した“スマートガーデンシティ” ～みんなでつむぎ、つないでいくまち～
将来都市像	多極ネットワーク型の持続可能でコンパクトな都市
まちづくりの目標	1 広域的な拠点の形成 2 地域の核となる拠点の形成 3 周辺部の集落や団地の地域コミュニティの維持 4 生活を支える主要な公共交通ネットワークの形成

## イ 立地適正化計画での位置付け

立地適正化計画では、まちづくりの目標を実現するために、拠点や区域が設定されており、自然環境や営農環境と調和した住環境や地域コミュニティの維持を図ることとして、旧田水山小学校を含めた周辺部の集落や団地の地域は、「周辺コミュニティ地域」として位置付けられている。



出典：つくば市立地適正計画

図 1-4 将来都市構造のイメージ

## (4) つくば市文化芸術基本条例

つくば市は、平成 16 年（2004 年）に「つくば市文化芸術基本条例」を策定した。平成 31 年（2019 年）に、文化芸術基本法第 7 条の 2 の規定に基づき、文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、文化芸術推進基本計画を定める条例改正を行った。

## (5) つくば市文化芸術推進基本計画

つくば市は、平成 31 年（2019 年）「つくば市文化芸術推進基本計画」を策定し、基本理念、基本的方向などを次のとおり示した。

表 1-6 つくば市文化芸術推進基本計画の概要

計画	つくば市文化芸術推進基本計画
策定年	平成 31 年（2019 年）
目標年次	令和 4 年（2022 年）
基本理念	○基本理念：「アートで編む」 文化芸術によって、1 本 1 本の素晴らしい糸を連携させていくことで、新しい文化芸術を創造し、大きな「まち」という布を織る

表 1-7 つくば市文化芸術推進基本計画 基本的方向と基本施策

基本理念	基本的方向	基本施策
アートで編む	① 文化芸術を創造するまち「つくば」	1 文化芸術に接する機会の拡充 2 すべての人にとって文化芸術が身近にある街づくり 3 文化芸術に資する人材の育成と活用
	② 多様な文化と伝統が調和するまち「つくば」	4 地域に根付いた伝統の継承・発展 5 多文化共生による文化芸術の振興
	③ 新しい文化を創出するまち「つくば」	6 科学と融合した文化芸術の振興 7 文化芸術によるイノベーションの創出
	④ 自然が感性を培うまち「つくば」	8 自然との共生による文化芸術の振興
	⑤ 文化芸術を実践するまち「つくば」	9 プラットフォームの形成 10 文化施設の整備と活用 11 文化芸術情報の収集と提供

出典：つくば市文化芸術推進基本計画

## 2. 現況と課題

令和4年（2022年）3月につくば市文化芸術審議会から、「文化芸術創造拠点の計画地は、旧田水山小学校とする」こと、「文化芸術創造拠点の整備に向け、文化芸術創造拠点基本計画の策定に着手する」ことの2点が市長に答申された。

以下、同敷地及び建築物について、現況を整理する。

### 2.1. 敷地・建築物の分析

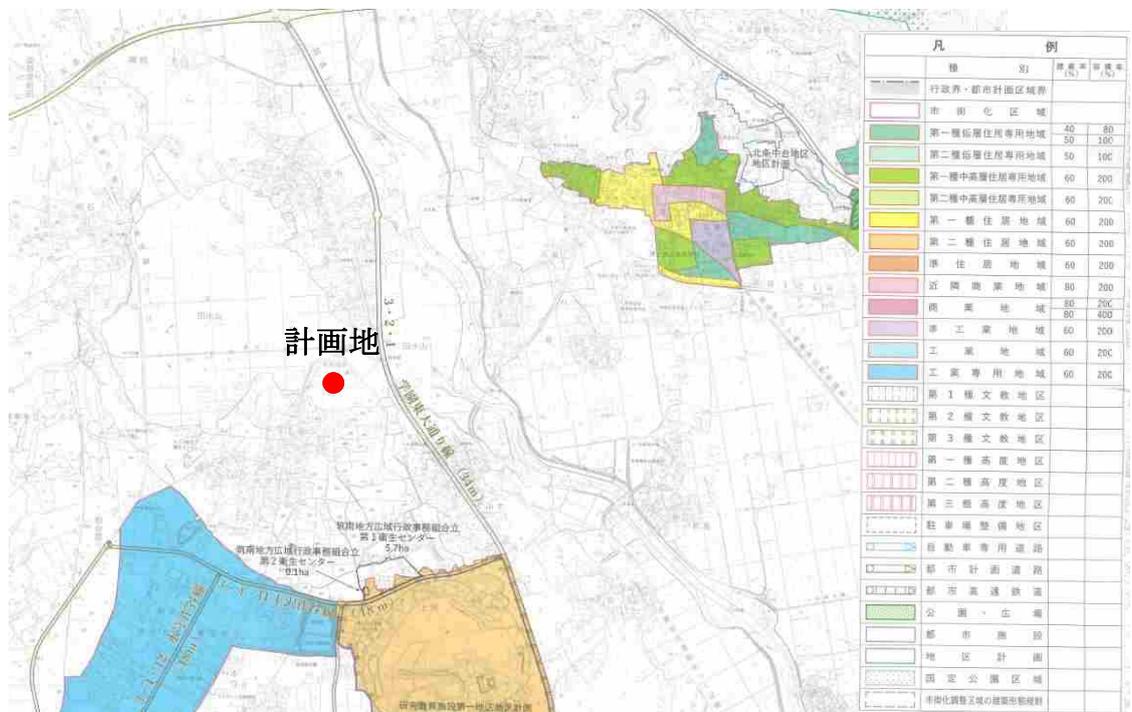
#### 2.1.1. 敷地分析

計画地周辺の敷地等の状況については次のとおりである。

##### (1) 計画位置

表 2-1 敷地概要

所在地	つくば市水守 620 番
敷地面積	11,777 m <sup>2</sup>
都市計画区域区分	市街化調整区域
用途地域	なし
法定建蔽率	60%
法定容積率	200%



出典：つくば市都市計画図

図 2-1 位置図

(2) 地形

旧田水山小学校は三角州性低地の丘陵部に位置する。

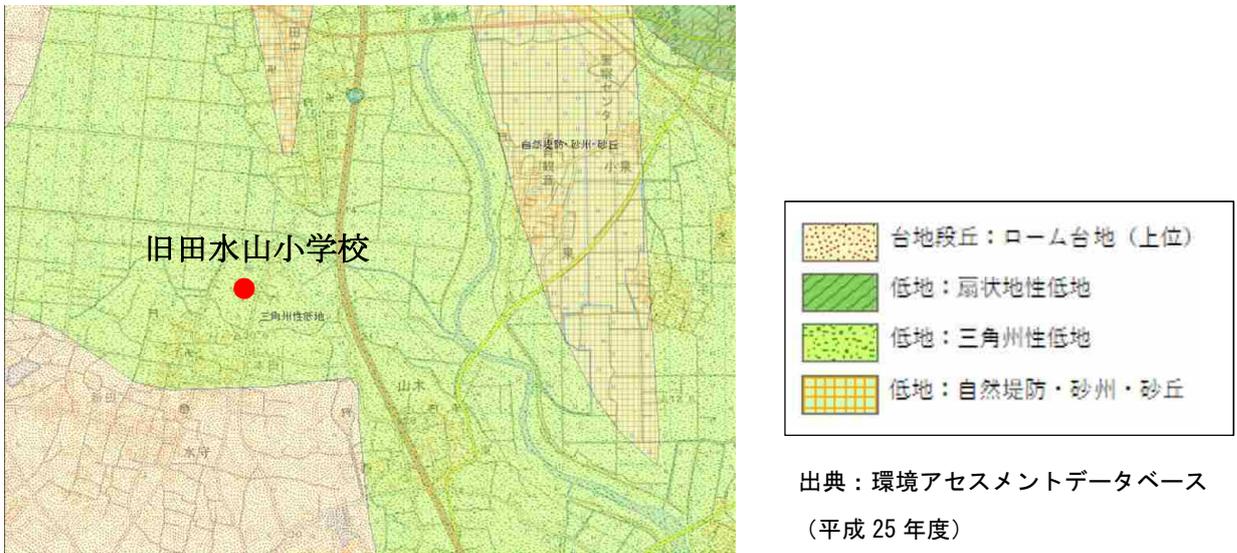


図 2-2 旧田水山小学校周辺地形図

(3) 地盤

計画地周辺は、洪積台地である筑波台地上に位置する。筑波台地は、古東京湾の隆起と海面の低下に伴って形成され、下から砂層、粘土層、火山灰由来の関東ローム層が重なってできている。

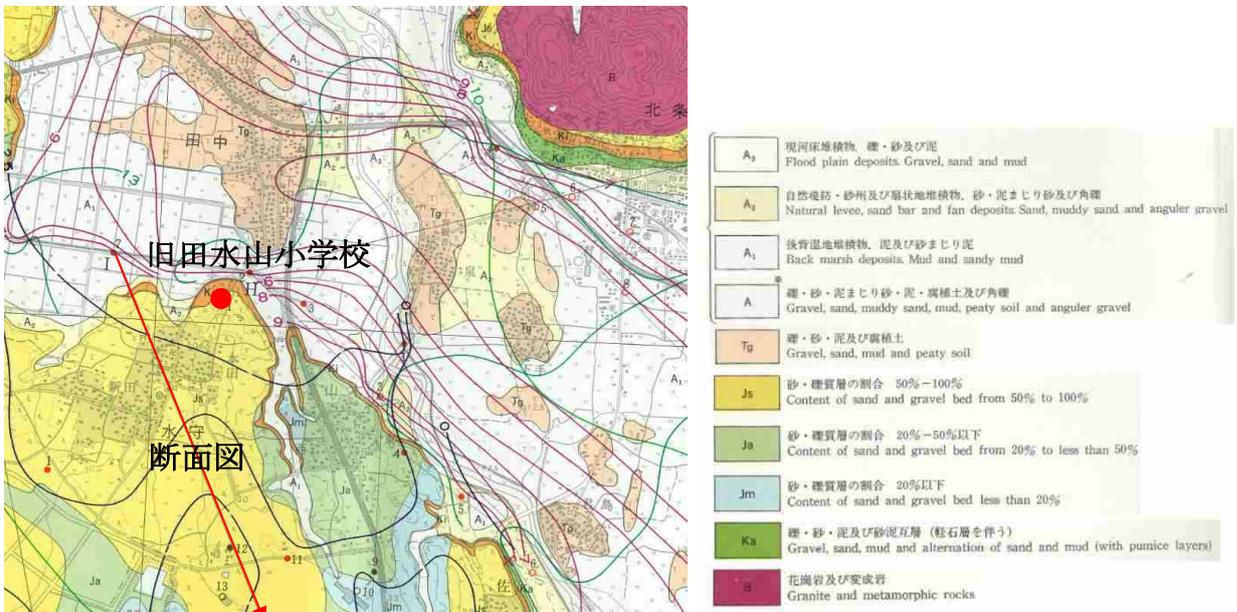
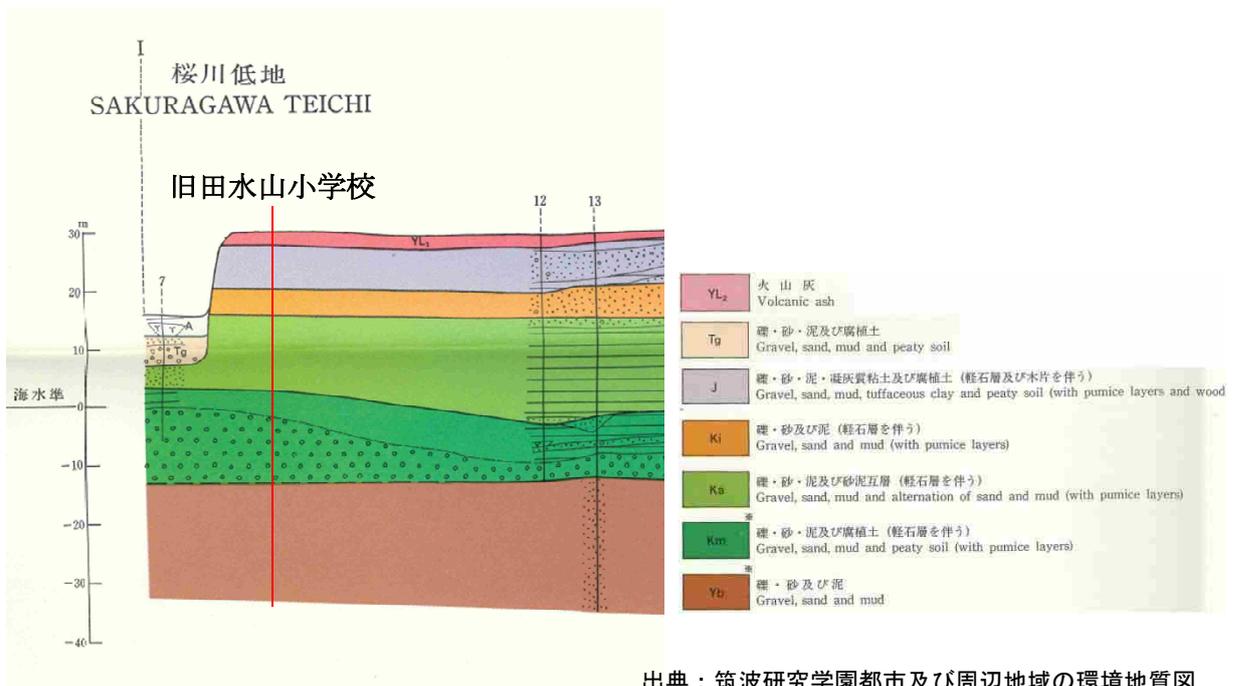


図 2-3 旧田水山小学校周辺地質図

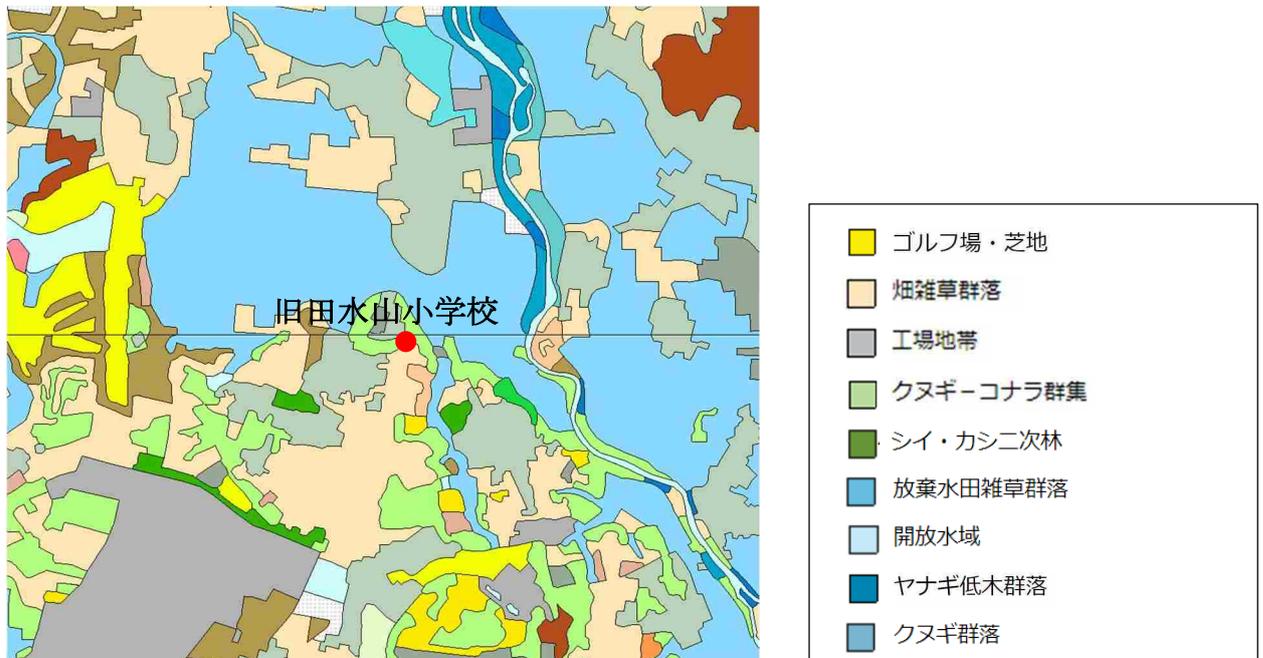


出典：筑波研究学園都市及び周辺地域の環境地質図

図 2-4 旧田水山小学校周辺地質断面図（対象敷地に最も近い I 断面を使用）

(4) 植生

旧田水山小学校周辺の植生は、大部分を「水田雑草群落」が占めている。次いで、「畑雑草群落」、「緑の多い住宅地」である。その他、「工場地帯」、「クヌギーコナラ群集」「ゴルフ場・芝地」も植生している。



出典：環境アセスメントデータベース（令和3年度）

図 2-5 旧田水山小学校周辺植生図

## (5) 歴史

昭和 62 年（1987 年）11 月 30 日に筑波郡谷田部町、大穂町、豊里町、新治郡桜村の 3 町 1 村が新設合併し、つくば市が誕生、その後筑波町も合併した。

つくば市立田水山小学校は、茨城県つくば市水守にあった公立小学校であり、明治 10 年（1877 年）に創立、平成 30 年（2018 年）に秀峰筑波義務教育学校の開校に伴い、廃校となった。

## (6) 埋蔵文化財の状況

旧田水山小学校及びその周辺には埋蔵文化財包蔵地（水守城跡・水守古墳群）が所在しており、対象範囲で掘削を伴う工事等が行われる際には、文化財保護法に基づく手続きが必要となる。



出典：いばらきデジタルマップ

図 2-6 旧田水山小学校周辺の埋蔵文化財の現況

## (7) 土地利用状況

旧田水山小学校の土地利用は、「文教厚生用地」に該当する。敷地周辺の土地利用は、「農地（田）」、「農地」、「住宅用地」、「山林」等が多いことが分かる。



出典：平成 28 年度都市計画基礎調査

図 2-7 旧田水山小学校周辺土地利用現況図

## (8) 浸水想定区域の状況

旧田水山小学校周辺の田園地域は浸水深 0.5～3.0m 程度が想定されている。



出展：つくば市ハザードマップ

図 2-8 旧田水山小学校周辺浸水想定区域

## (9) 防災施設の状況

旧田水山小学校は、地域の指定避難所として指定されている。近隣が浸水想定区域に隣接しているため、避難所として重要な施設である。

## (10) 交通アクセス

対象地周辺の主要道路は、都市の骨格を形成している、北側の国道 125 号と東側の国道 408 号である。

対象施設の 600m に、最寄りバス停である関鉄パープルバスの南田中停留所がある。下妻駅～田中～筑波記念病院～つくばセンター(TX つくば駅)～学園並木の線路で運行しており、表 2-2 はその時刻表を示している。

表 2-2 関鉄パープルバス運行時刻表（令和 4 年 6 月 11 日現在）

【平日】つくばセンター行き						【平日】下妻駅行き					
下妻駅	南田中	筑波記念病院	筑波大学病院	つくばセンター	学園並木	学園並木	つくばセンター	筑波大学病院	筑波記念病院	南田中	下妻駅
6:00	6:24	6:38	6:44	6:55			8:50	8:55	9:02	9:14	9:47
7:00	7:24	7:43	7:49	8:00	8:20		9:20	9:25	9:32	9:44	10:17
10:02	10:26	10:40	10:46	11:00			10:15	10:20	10:27	10:39	11:12
13:40	14:04	14:18	14:24	14:38			11:15	11:20	11:27	11:39	12:12
15:00	15:24	15:38	15:44	15:58			14:55	15:00	15:07	15:19	15:52
16:30	16:54	17:08	17:14	17:28		16:25	16:43	16:48	16:55	17:07	17:40
17:30	17:54	18:08	18:14	18:28			17:43	17:48	17:55	18:07	18:40
						18:55	19:13	19:18	19:25	19:37	20:05
【土日祝日】つくばセンター行き						【土日祝日】下妻駅行き					
下妻駅	南田中	筑波記念病院	筑波大学病院	つくばセンター	学園並木	学園並木	つくばセンター	筑波大学病院	筑波記念病院	南田中	下妻駅
7:00	7:24	7:38	7:44	7:55	8:15		8:50	8:55	9:02	9:14	9:47
10:02	10:26	10:40	10:46	11:00			11:15	11:20	11:27	11:39	12:12
14:15	14:39	14:53	14:59	15:13			15:35	15:40	15:47	15:59	16:32
16:30	16:54	17:08	17:14	17:28			17:43	17:48	17:55	18:07	18:40

出典：関鉄パープルバス時刻表

つくば市が運営するコミュニティバス「つくバス」の路線の中では、北部シャトルが計画地に一番近い経路をとり、最寄りバス停の山木停留所まで約 1.2km の距離がある。

また、つくば市が提供する乗合タクシー「つくタク」の停留所が計画地近くに設置されており、事前に予約をすれば利用可能（平日のみ）。

位置を整理すると、次の図 2-9、図 2-10 のとおりである。

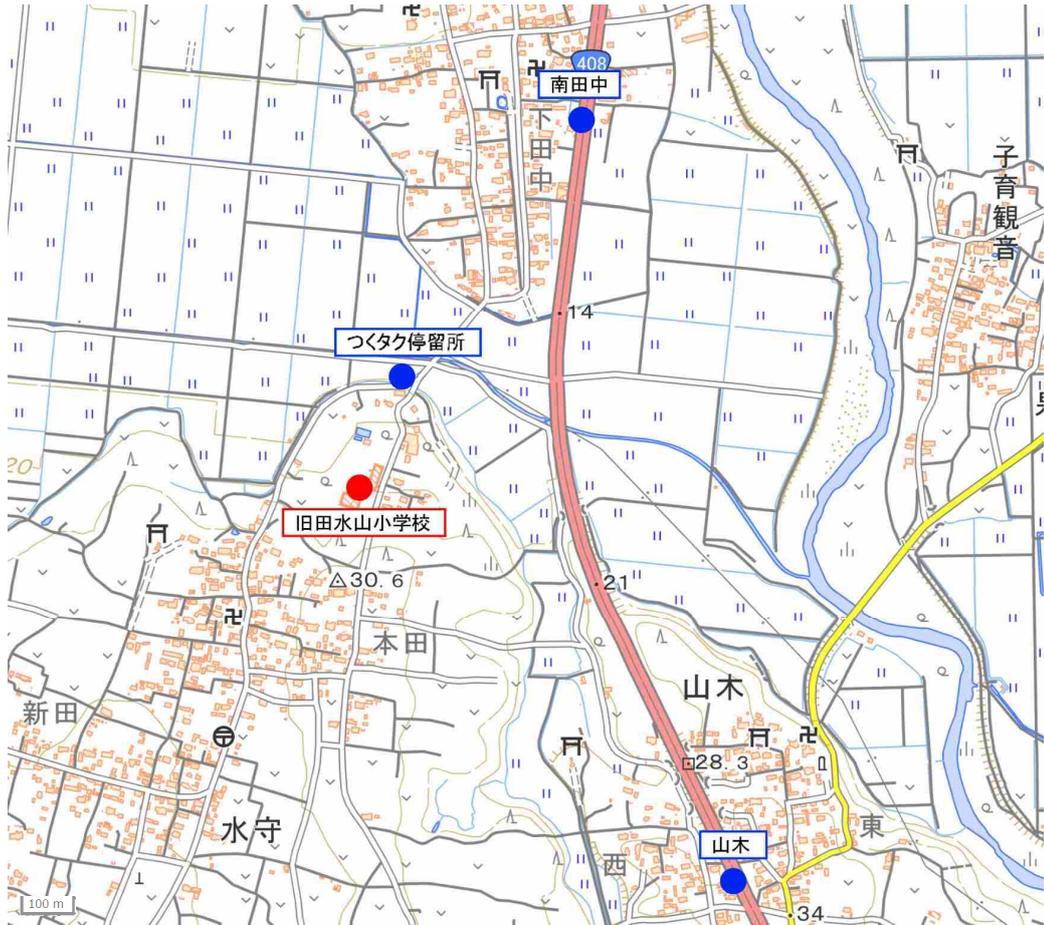


図 2-9 計画地付近のバス停位置



図 2-10 計画地付近の駅

計画地近隣の駅やバス停との距離について整理すると、表 2-3 のとおりとなる。

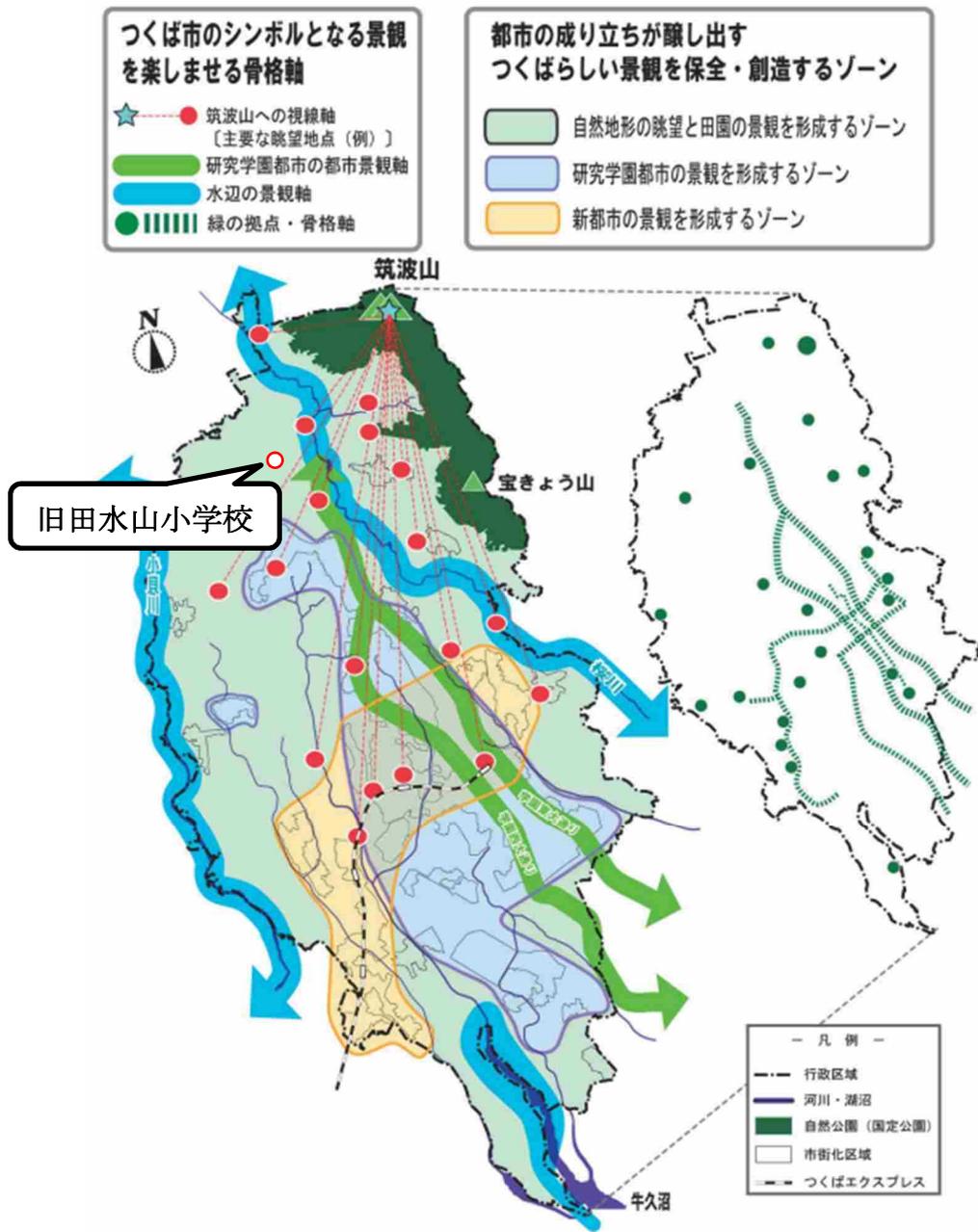
表 2-3 各目的地への所要時間

駅・バス停	距離	所要時間			
		自動車	バス	自転車	徒歩
南田中	約 0.6km	—	—	約 3分	約 8分
山木	約 1.2km	—	—	約 6分	約 16分
下妻駅	約 11.4 km	約 20分	約 40分	約 45分	約 2時間 15分
TXつくば駅	約 11.9 km	約 20分	約 34分	約 49分	約 2時間 25分
土浦駅	約 18.8 km	約 34分	約 54分	約 1時間 14分	約 3時間 41分

出典：Google Maps より整理

最も利便性の高い移動手段は自動車であり、施設の集客力を向上させるため、駐車台数の確保が必要である。また、周辺施設への移動手段確保のため駐輪場の設置も必要である。

(11) 景観



出典：つくば市景観計画

図 2-11 つくば市の景観構造

旧田水山小学校は自然地形の眺望と田園の景観を形成するゾーンと水辺の景観軸周辺に位置する。

## 2.1.2. 建築物分析

計画地の建築物現況について次のとおり整理する。

## (1) 教室棟

表 2-4 教室棟概要

建物名称	田水山小学校
建築主	つくば市
竣工年月	平成7年(1995年)2月
設計者(竣工時)	株式会社プランスタッフオフィス
施工者(竣工時)	北条工業有限会社
建築面積	1001.76 m <sup>2</sup>
延床面積	2,510 m <sup>2</sup>
階数	地上3階
建築の構造	鉄筋コンクリート造
建築物の高さ	軒高15m、1階:3.95m、2階:3.95m、3階:3.85m
耐震性能	新耐震

## (2) 屋内運動場

表 2-5 屋内運動場概要

建物名称	筑波勤労者体育センター
建築主	つくば市
竣工年月	昭和57年(1982年)2月
設計者(竣工時)	日新設計株式会社
施工者(竣工時)	佐藤工業株式会社
建築面積	930.37 m <sup>2</sup>
延床面積	845.72 m <sup>2</sup>
階数	地上2階
建築の構造	鉄筋コンクリート造
建築物の高さ	軒高7.85m、最高高10.365m
耐震性能	新耐震

### (3) 建築物の外壁調査及び配管劣化診断

旧田水山小学校の改修工事を実施するにあたり、令和4年（2022年）7月、外壁と配管の劣化状況を確認し、今後の改修工事の検討及び計画に資する資料を得ることを目的とし、調査を実施した。

#### ア 外観劣化調査の結果

調査の結果、南面にタイルの浮きが目立ったほか、南面内側の絵付きタイルにおいて、広範囲の浮きが確認された。

ひび割れに関しては、建物の各階で生じており、バルコニー腰壁内側では、経年による劣化と思われる縦方向のひび割れが多く見られた。また、西面2階バルコニー腰壁では、鉄筋が露出している場所もあった。

建物躯体の損傷は見受けられなかったため、大規模改修は必要ないが、塗装修繕やタイルの部分張替等の改修が必要である。

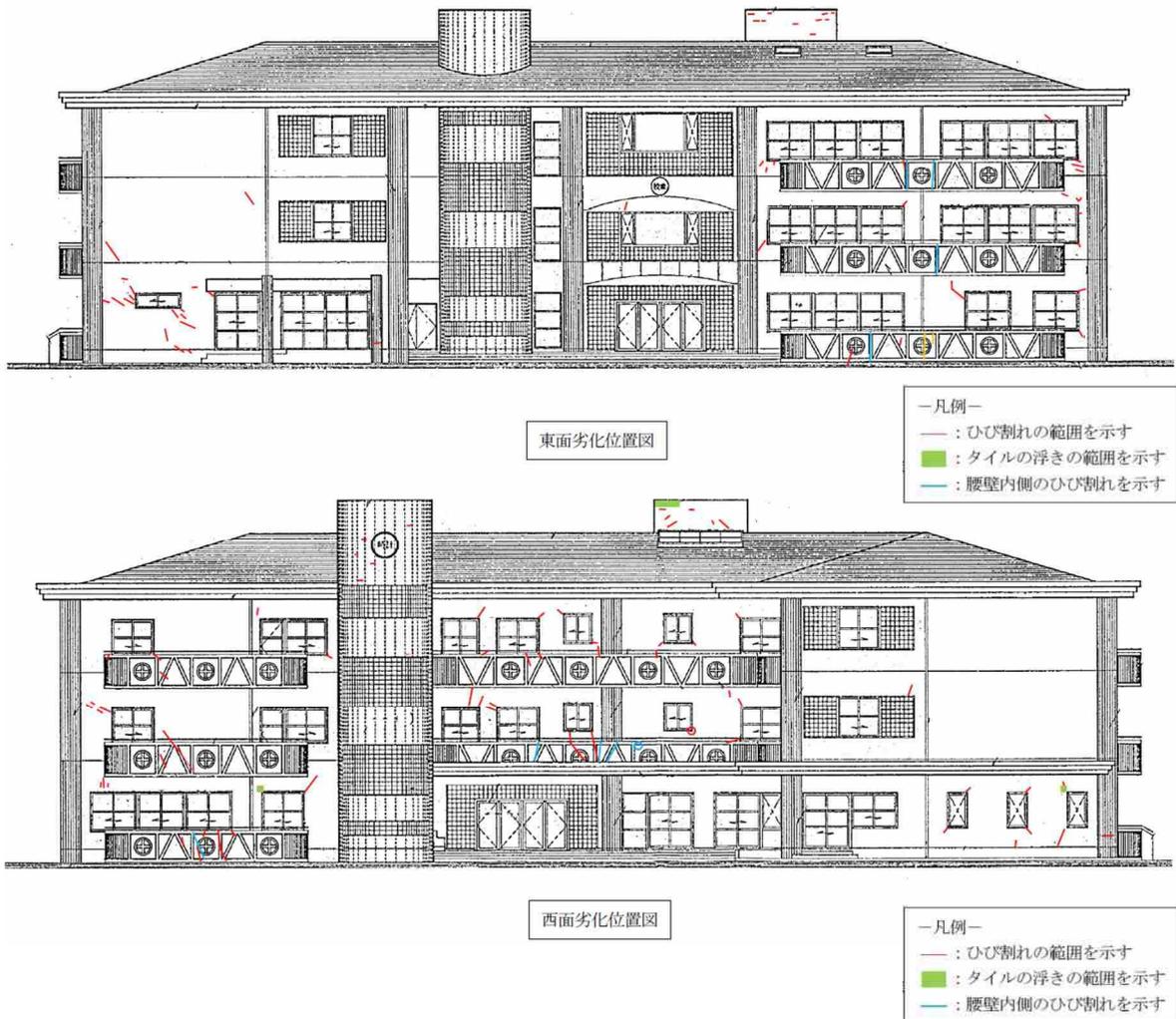




図 2-12 外壁劣化位置図

## イ 配管劣化調査の結果

調査の結果、給水管は特に顕著な劣化は確認されなかったことから、残存寿命予測値が10年以上となり、継続使用が可能と考えられる。汚水管及び雑排水管は口径に対して5%～15%の堆積物が認められたが、腐食の発生や亀裂等の異常は確認されなかったことから、定期的に洗浄を行うことにより、残存寿命予測値が7年以上10年未満となり、継続使用が可能と考えられる。

表 2-6 配管劣化調査の総合所見

調査対象		観察事項・調査方法	総合評価	所見
給水管	枝管	・管内面の劣化状態 [内視鏡調査]	… 1	硬質塩化ビニルライニング鋼管が使用されており、調査の結果、継手接続部に軽微な発錆が認められる程度であり、特に顕著な劣化は確認されなかったことから、継続使用は可能と考えられる。
汚水管	横引管	・管内面の劣化状態 [内視鏡調査]	… 2	耐火二層管が使用されており、調査の結果、口径に対して5%未満～15%の堆積物が認められたが、腐食の発生や亀裂等の異常は確認されなかったことから、定期的に洗浄を行うことにより、継続使用は可能と考えられる。
雑排水管	横引管	・管内面の劣化状態 [内視鏡調査]	… 2	耐火二層管が使用されており、調査の結果、口径に対して5%未満～15%の堆積物が認められたが、腐食の発生や亀裂等の異常は確認されなかったことから、定期的に洗浄を行うことにより、継続使用は可能と考えられる。

■総合評価基準

- 1：将来的な対応
- 2：7～10年以内に対応
- 3：3～7年以内に対応
- 4：早急に対応

## (4) バリアフリー対応状況

### ア 段差

教室棟の主な出入り口となる昇降口付近は階段となり、スロープの整備等段差解消の対応が必要である。また、教室棟内にはエレベーターがない。体育館も、入口に段差があり、車椅子利用者も乗入れできるよう改修が必要である。

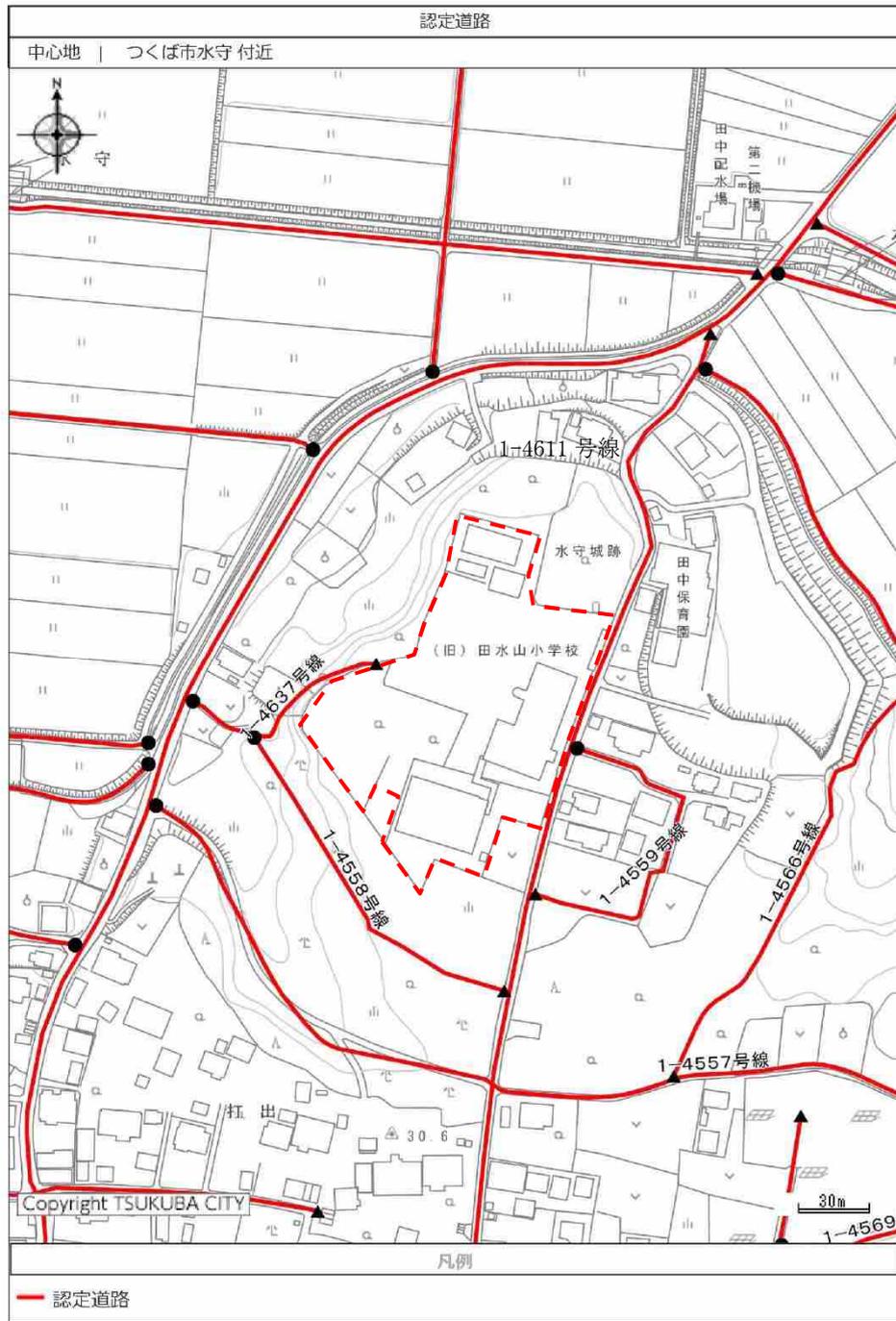
### イ トイレ

現状、施設内には車椅子利用者が利用できる多機能トイレはない。また、小学生用のトイレは一般用トイレに整備し、トイレの便器を洋式化する。

### 2.1.3. インフラの整備状況

#### (1) 道路

対象施設周辺の認定道路は下に示す。敷地は 1-4611 号線（幅員約 5m）及び 1-4637 号線と接道している。



出典：つくば市都市計画マップ「認定道路」を基に編集

図 2-13 敷地周辺の認定道路

(2) 上水道

上水道は敷地東側の市道 1-4611 号線に、上水道が整備されている。

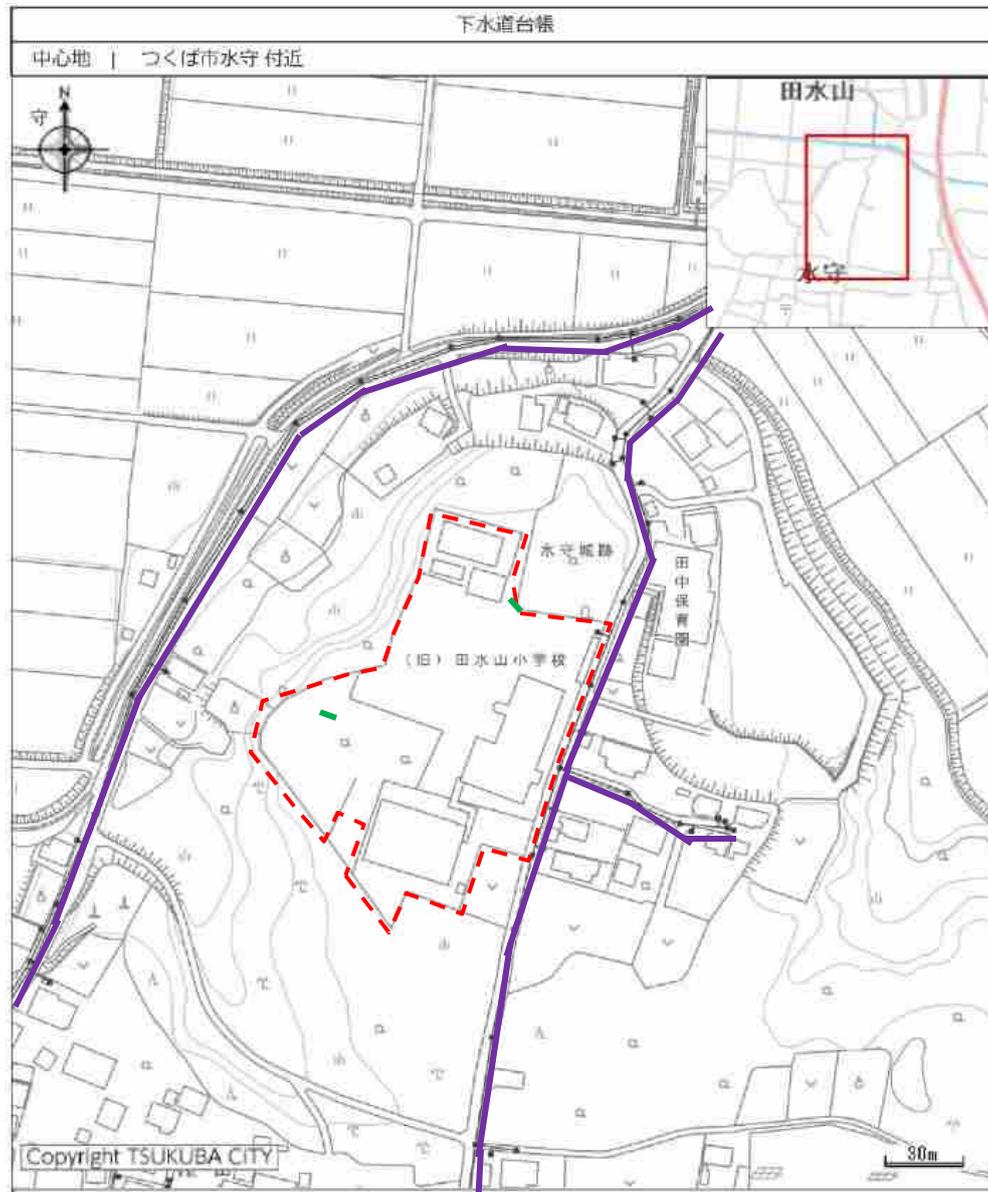


出展：つくば市上下水道台帳

図 2-14 インフラ現況図・上水道

## (3) 下水道

汚水排水は市道 1-4611 号線に整備されている。雨水排水は敷地内地下浸透等により整備されている。



出典：つくば市都市計画マップ「下水道台帳」を基に編集

図 2-15 インフラ現況図・汚水

#### (4) 電気・通信施設

敷地内に電柱の存在が確認でき、屋外にキュービクルが設置されている。

現状は容量 75kva の変圧器 2 台が設置されており、空調設備等を新しく整備する場合、キュービクル容量を増設する必要がある。

また、対象地は NTT 東日本のフレッツ光の提供エリア内である。学校として使用していた時期には光回線を使用しており、設備自体は残存しているため、再契約をすることにより使用可能と思われる。



図 2-16 インフラ現況図・電気通信

#### (5) ガス

対象地は都市ガスの供給エリア外となる。

## 2.2. つくば市における文化芸術振興の状況

### 2.2.1. 文化芸術の取組

#### (1) つくば市文化芸術推進基本計画

本市における文化芸術の取組はP. 1. 9、表 1-7 に掲げるとおり、5つの基本的方向と11の基本施策で構成される。

#### (2) 文化芸術創造拠点の位置付け

文化芸術創造拠点とは、地域の文化資源を活用し、新たな価値を創出することで、地域活性化に貢献する施設であり、「つくば市文化芸術推進基本計画」の基本施策「プラットフォームの形成」の中に位置付けられる。

文化芸術創造拠点はプラットフォーム形成に係る取組を集約し、体現した施設として、プラットフォーム形成におけるあらゆる機能の基軸となる。しかし、プラットフォーム形成に係る全ての取組を文化芸術創造拠点で完結させず、そこから出会いやつながりを創出する拠点となることを目指す。

なお、プラットフォームに求められる機能としては、次の表 2-7 のとおりである。

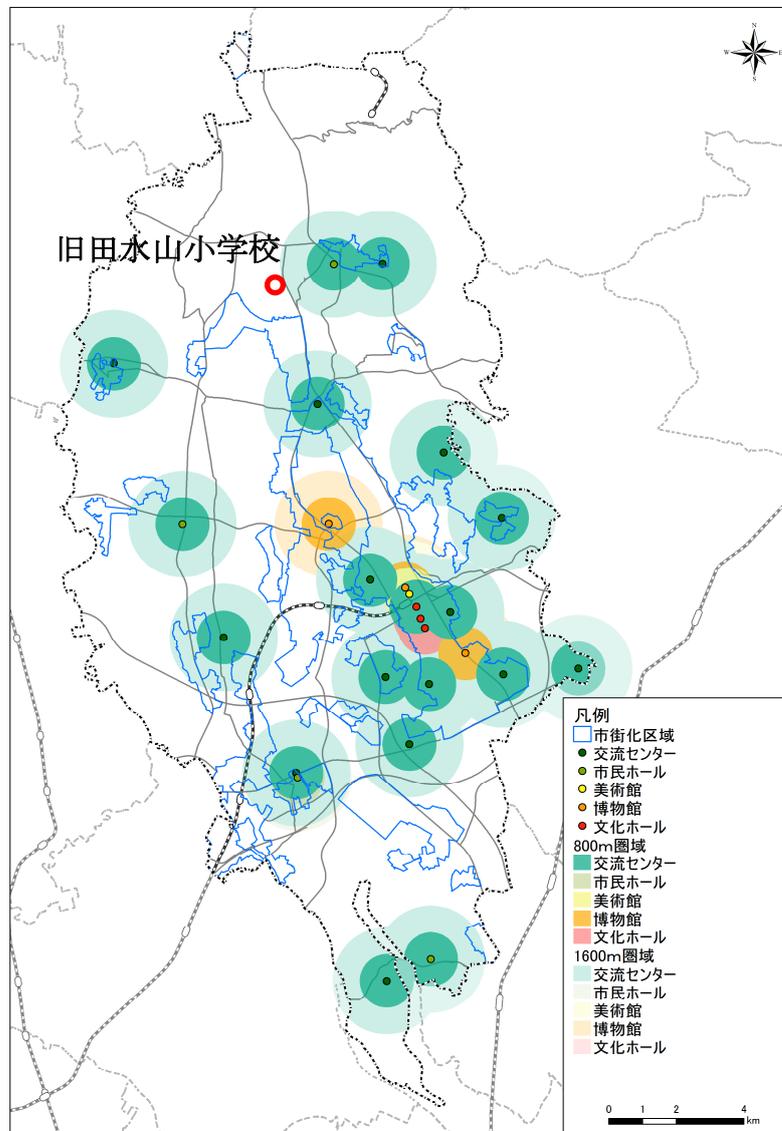
表 2-7 プラットフォームに求められる機能

<p><b>○市内の各種機関等との連携によるネットワークの構築</b></p> <p>市内にある文化芸術団体、文化芸術施設、研究所や教育機関等に働きかけ、分野の垣根を越えた連携によるネットワークを構築する。</p>
<p><b>○アーティスト及び市民の制作・発表・鑑賞等のコーディネート機能</b></p> <p>構築したネットワークをいかし、文化芸術に携わる（する・見る・支える）人に、人、モノ、情報などの提供をする。また、地域の文化芸術資源を結びつける事業などを行う。</p>
<p><b>○文化芸術に携わる人材への支援・育成機能</b></p> <p>文化芸術活動を主体的に展開できる人材（する人、見る人、支える人等）の支援制度を構築し、育成を推進する。</p>
<p><b>○市が関連する文化芸術の情報発信及びアーカイヴ構築</b></p> <p>市が関連する文化芸術に関する様々な活動、情報、作品等の発信をするとともに、それらの記録を集約し、誰でも自由に閲覧できるようにする。</p>
<p><b>○文化芸術をする・見る・支える場の提供</b></p> <p>文化芸術に携わる（する・見る・支える）人たちのために、文化芸術創造拠点の形成を図る。</p>

「文化芸術創造拠点の形成」を他の施策に先んじて進めることで、他の施策をアピールする場となると同時に、文化芸術創造拠点を基軸として、上位施策である「プラットフォームの形成」及び「文化芸術を实践するまち つくば」の効果が他の施策にも効果を波及していくことにより、“つくば独自の文化芸術”を創造・推進する一助とする。

### 2.2.2. 文化・交流施設の立地状況

つくば市内の文化・交流施設は、地域交流センター等が 19 か所、美術館・博物館が 4 か所、文化ホール等が 7 か所立地している。計画地が位置するのは、現在立地している施設のいずれからも 1.6km 圏域外となっている。



出展：つくば市立地適正化計画

図 2-17 文化交流施設の立地

### 2.2.3. 市民意向の把握

#### (1) 令和4年（2022年）度市民意識アンケート

つくば市では、市の現状やまちづくりの取組に対する満足度、及び市が進める主要な施策に対する意見聴取のため、市民意識調査を実施している。令和4年（2022年）8月に実施した「令和4年（2022年）度つくば市民意識アンケート」の結果によると、「つくば市の魅力」と、「文化芸術の振興に関する満足度」は、それぞれ次のとおりである。

#### ア つくば市の魅力

「あなたが、市外の友人に紹介したい（自慢したい）と思うつくば市の魅力は何ですか。」という質問項目に対して、「1 自然（筑波山、宝篋山、牛久沼など）」及び「2 科学（研究学園都市、研究機関の見学施設など）」について、「自慢したい・どちらかという自慢したい」という回答がそれぞれ8割以上となっている。

#### イ 「文化・芸術の振興」に対する満足度

「あなたは、ふだんの生活の中で、次の1)～42)の項目について、どの程度満足していますか。」という質問項目に対して、「17)文化・芸術の振興」について、肯定的な「満足」「どちらかといえば満足」の合計と、「わからない」と回答した割合がそれぞれ約4割となっている。

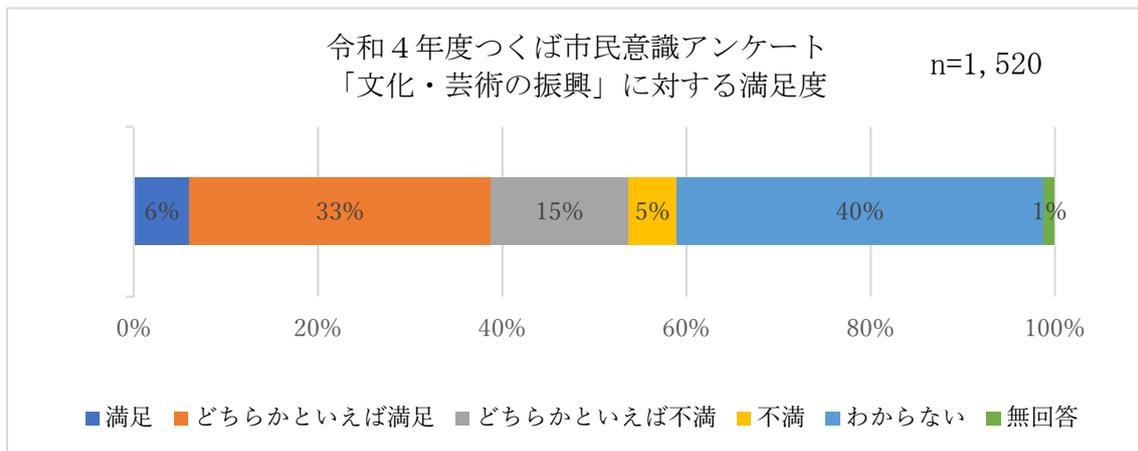


図 2-18 令和4年度つくば市民意識アンケート「文化・芸術の振興」に対する満足度

(2) 文化芸術市民意識調査

令和4年(2022年)に実施された文化芸術市民意識調査の中で、「文化芸術の満足度」「つくば市の文化芸術振興に今後重要なこと」は、次のように評価されている。

ア 文化芸術の満足度

「すべての人にとって文化芸術が身近となるような環境」「文化芸術に関する人材育成」「市内の文化芸術施設を整備・活用し、他施設とも関わりを持った賑わいの創出」について、「満足」「どちらかといえば満足」との肯定的な回答が5割未満となっており、他の回答項目と比較しても低くなっている。

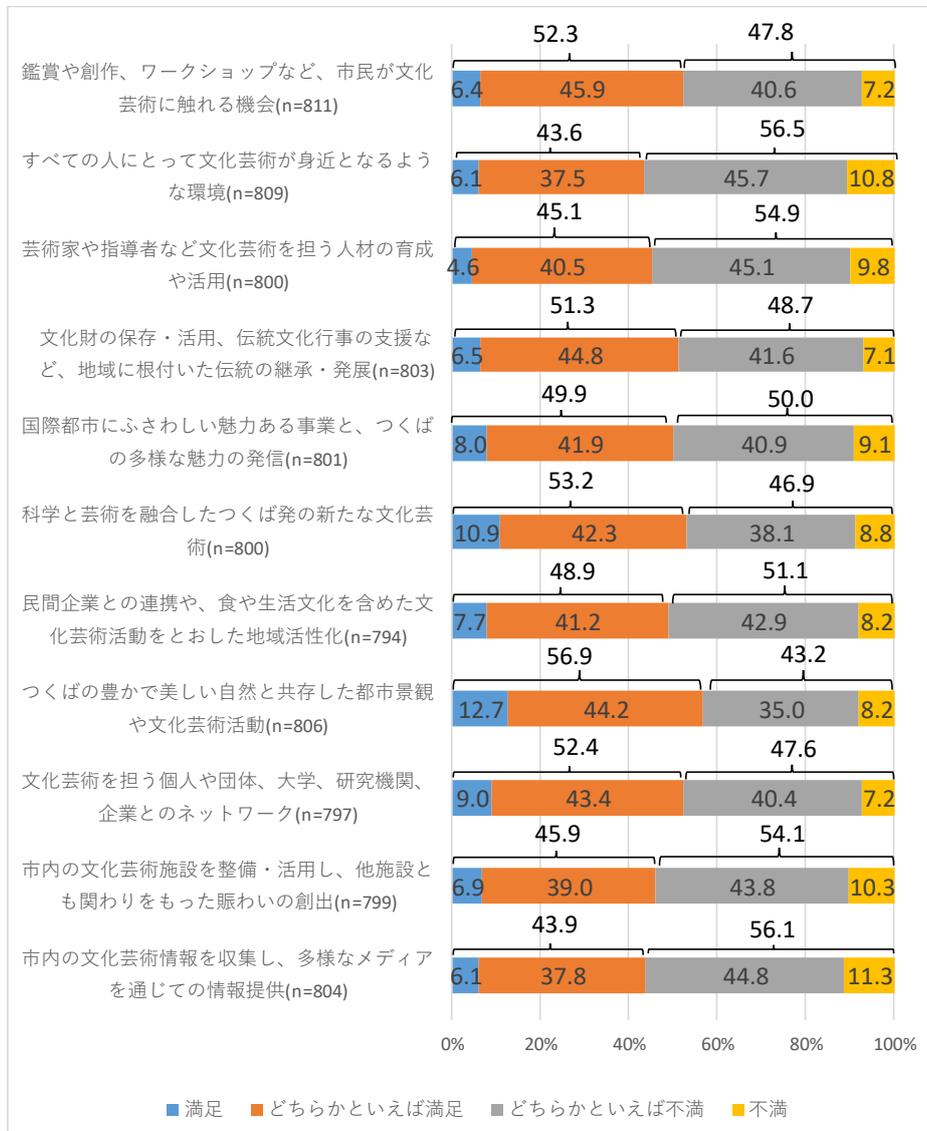


図 2-19 つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する現状の満足度

### イ つくば市の文化芸術振興に今後重要なこと

「優れた文化芸術を鑑賞する機会の提供」が最も多く、次いで「プロのアーティストとの触れ合う機会の提供」「周辺地区にある施設について、設備・運営の充実を図ることによる利活用の促進」となっている。

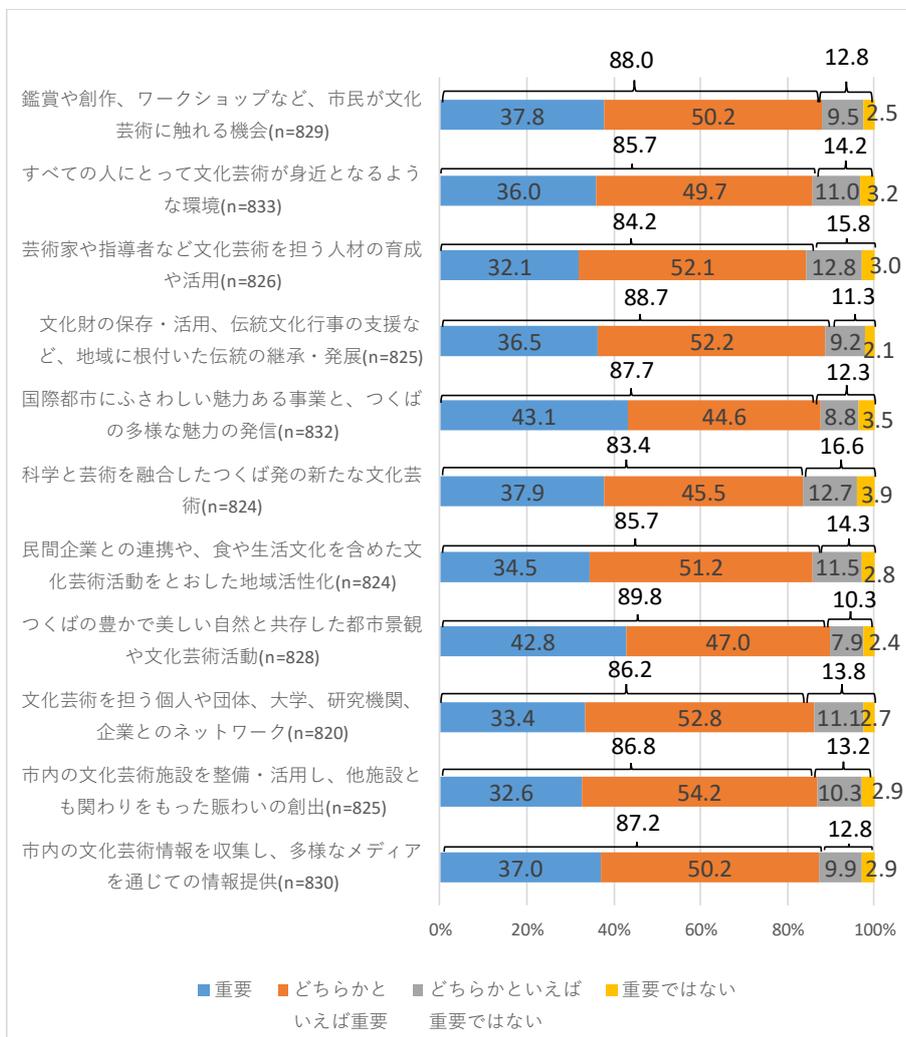


図 2-20 つくば市の文化芸術振興に関する取り組みにおける今後の重要度

## ウ 文化芸術創造拠点に対して求める機能

「制作や発表、鑑賞・体験の場の提供」が回答としては最も多く、次いで「地域の交流スペースの提供」「防災・災害時の避難場所機能」となっている。

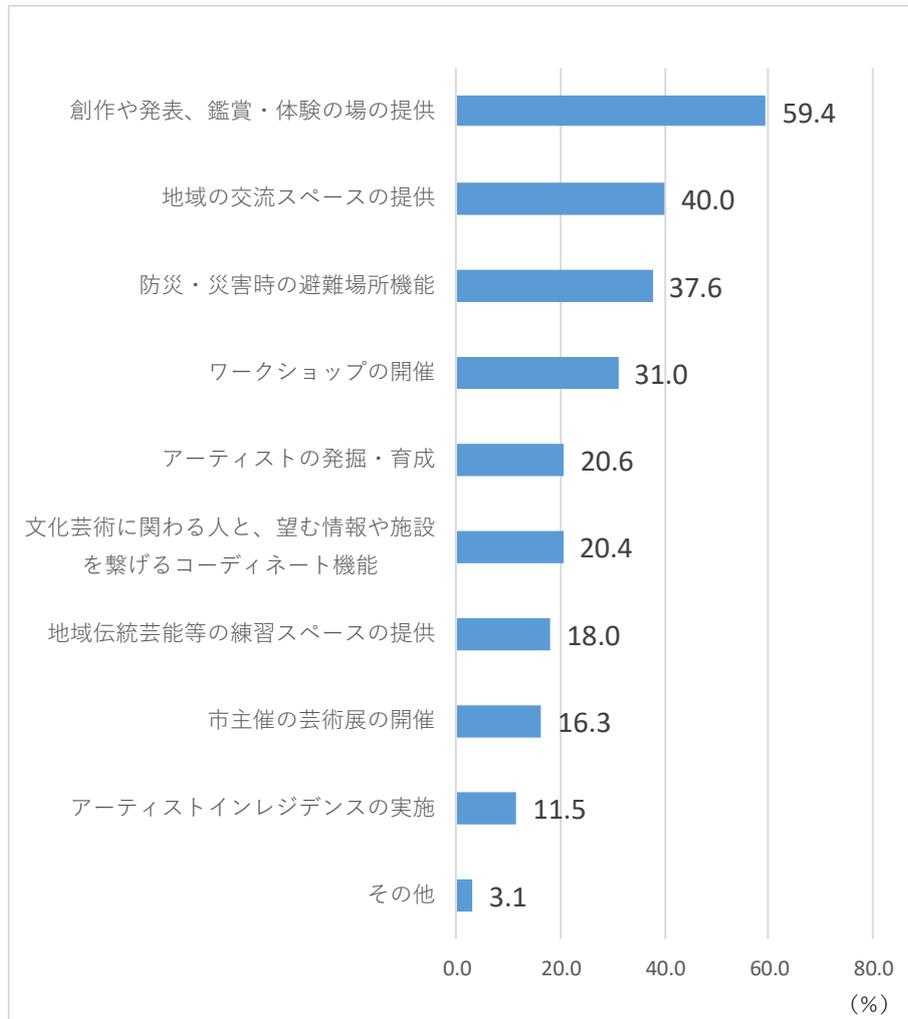


図 2-21 文化芸術創造拠点に対して求める機能

### (3) 文化芸術審議会からの要望

令和4年（2022年）3月22日付けで提出された答申書・意見書による意見・要望をまとめると次のとおりである。

- ① 自然豊かな景観（筑波山及び筑波山麓）の確保
- ② 市民、主に地域住民との協働（地域住民への説明、希望の聴取、すり合わせの実施）
- ③ 交通アクセスの検討
- ④ 社会経済情勢の変化や、日々成長する文化芸術に対応するための、中・長期的計画の策定
- ⑤ 様々な人や団体等の意見の、文化芸術創造拠点基本計画への反映
- ⑥ 施設運営や文化芸術について専門的な知識を持ち、継続して携わることができる人材の育成
- ⑦ 文化芸術に関する資源をコーディネートする人材、文化芸術事業をマネジメントする人材の育成・配置
- ⑧ 市内の文化芸術に携わる機関・団体等の連携を密にし、それぞれが担う役割、責任、取組等の検討

### (4) 地域住民の要望

旧田水山小学校周辺の区長（上田中、下田中、水守、山木）と、田水山小学校跡地利活用推進協議会へ利活用について説明を行うとともに、「旧田水山小学校利活用に関する意見交換会」を開催し、計画地周辺住民の意見・要望について、次のとおり聴取した。

- ① 地域の人が使える場所としての整備
- ② 建物全体の清掃・修繕
- ③ 体育館の床や雨漏り箇所の修繕
- ④ 文化芸術事業を実施し、人の交流などのにぎわいを創出
- ⑤ 屋外運動場（グラウンド）の整備

## 2.3. 課題の把握と課題への対応

### 2.3.1. 課題の把握

計画地の敷地・建築物の分析、本市における文化芸術振興の状況から見えてきた課題を、計画地の施設における課題（ハード面）と、文化芸術創造拠点の機能における課題（ソフト面）にそれぞれ整理する。

#### (1) 計画地の施設における課題（ハード面）

敷地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筑波山及び筑波山麓を眺望できる場所が限られている。</li> <li>・過去の敷地測量の資料が残っていない。</li> <li>・施設の立地条件を考慮し、駐車場・駐輪場スペースを確保する必要がある。</li> </ul>
建築物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物全体が経年劣化により使用に支障がある。</li> <li>・地域の人が自由に使えるスペースが必要とされる。</li> <li>・校舎等を避難所として使用可能にする必要がある。</li> <li>・不特定多数の利用者の出入りを考慮した、機能拡充に伴うインフラ容量を確保する必要がある。</li> <li>・各種関連法令に適合した改修内容を検討する必要がある。</li> <li>・多世代が自由に利用するためのバリアフリー化に対応する必要がある。</li> </ul>

#### (2) 文化芸術創造拠点の機能における課題（ソフト面）

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“自然”と“科学”といった資源を活用した、“つくば独自の文化芸術”を創出できる仕組みが必要である。</li> <li>・施設運営や文化芸術について専門的な知識を持ち、継続して携わることができる人材が不足している。</li> <li>・文化芸術資源をコーディネートする人材・文化芸術事業をマネジメントする人材が不足している。</li> <li>・計画地の地域住民が参画できる事業が不足している。</li> <li>・多くの人々が来場するイベント等の事業が不足している。</li> <li>・市が関連する文化芸術の情報の周知が難しい。</li> <li>・つくば市内の文化芸術に関する記録等を蓄積し、誰もが閲覧可能にしていく必要がある。</li> </ul>
市民協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画地の地域住民や市民をはじめとした様々な人や、文化芸術に携わる団体等の要望を把握する必要がある。</li> </ul>
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術活動に関する総合的な情報の収集と提供をする仕組みがない。</li> <li>・市内の文化芸術に携わる機関・団体等の連携ができていない。</li> </ul>

### 2.3.2. 課題への対応

前項における課題をもとに、計画地の施設（ハード面）と、文化芸術創造拠点の機能（ソフト面）における対応策をそれぞれ整理する。

#### (1) 計画地の施設における対応策（ハード面）

敷地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筑波山及び筑波山麓を眺望できる景観を意識した設計</li> <li>・敷地境界の確定</li> <li>・駐車場・駐輪場のスペースの確保</li> </ul>
建築物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物全体の改修・修繕</li> <li>・地域利用スペースの整備</li> <li>・校舎等を避難所として利用可能となるように整備</li> <li>・建物の長寿命化の検討</li> <li>・電気設備・給排水設備等のインフラ容量の確保</li> <li>・バリアフリー法等、各種法令に対応した施設整備</li> </ul>

#### (2) 文化芸術創造拠点の機能に求められるもの（ソフト面）

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくば市の文化芸術資源をいかした事業の推進</li> <li>・文化芸術資源をコーディネートする人材・文化芸術事業をマネジメントする人材の育成・配置</li> <li>・地域住民も参画できる事業や、広い地域から集客できる事業の実施</li> <li>・つくば市内の文化芸術に関する記録のアーカイヴ構築・公開</li> </ul>
市民協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画地の地域住民をはじめとした市民や、文化芸術に携わる団体等の意見の収集</li> </ul>
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術活動に関する総合的な情報の収集と提供</li> <li>・市内の文化芸術に携わる機関・団体等の連携強化</li> <li>・文化芸術団体、文化芸術施設、研究所、教育機関等、各種機関との連携ネットワークの構築</li> </ul>

### 3. 基本計画

計画の目的及び現況と課題において整理した内容を踏まえ、文化芸術創造拠点としての基本的な事業の方向性と、施設整備の方向性をそれぞれ整理する。

#### 3.1. 基本方針

##### 3.1.1. ビジョン・コンセプト

旧田水山小学校を文化芸術創造拠点として活用していくにあたり、ビジョンとコンセプトを次のとおり設定する。

表 3-1 文化芸術創造拠点のビジョンとコンセプト

<p><b>○ビジョン(展望)：アートで編む(つくば市文化芸術推進基本計画より)</b></p> <p>市の多面的な魅力を構成する1本1本の糸を、文化芸術によって連携させていくことで、新しい文化芸術を創造し、大きな「まち」という布を織る。</p> <p><b>○コンセプト(行動原理)：出会う・つながる・創造する</b></p> <p>人、モノ、情報が出会い、そこからつながりが生まれ、つながりから新たな価値観やつくば独自の文化芸術を育む。</p>
--

##### 3.1.2. 事業方針

###### (1) 事業方針

###### ア ターゲット

つくば市民を中心として、アーティストをはじめとした文化芸術活動をする者、市内の教育・研究・産業など、地域の文化資源を形づくる人・モノを主な対象とする。

###### イ 中心的要素

令和4年度市民意識調査において、「市の魅力として市外の人に自慢したいこと」として、特に肯定的な回答が多かった「自然（筑波山、宝篋山、牛久沼など）」及び「科学（研究学園都市、研究機関の見学施設など）」について、「自慢したい・どちらかという自慢したい」という意見がそれぞれ8割以上となっていることから、市民が考える「つくばらしさ」は多種多様なものが含まれていることが考えられる。

多種多様な要素を結びつけるひとつの手段として文化芸術を据え、文化芸術創造拠点を中心として、文化芸術の“スタートアップ”を推進していく事業を展開する。

## ウ 具体的な活用方法

計画地の施設における課題、文化芸術創造拠点の機能における課題と、その対応を踏まえ、文化芸術創造拠点の基本施策を次の3点とし、それぞれに紐づく具体的な取り組みは次の図 3-1 のとおりとする。

- ① 文化芸術活動の支援
- ② 文化芸術活動に触れる機会の創出
- ③ 市民に開かれた交流の場の形成。

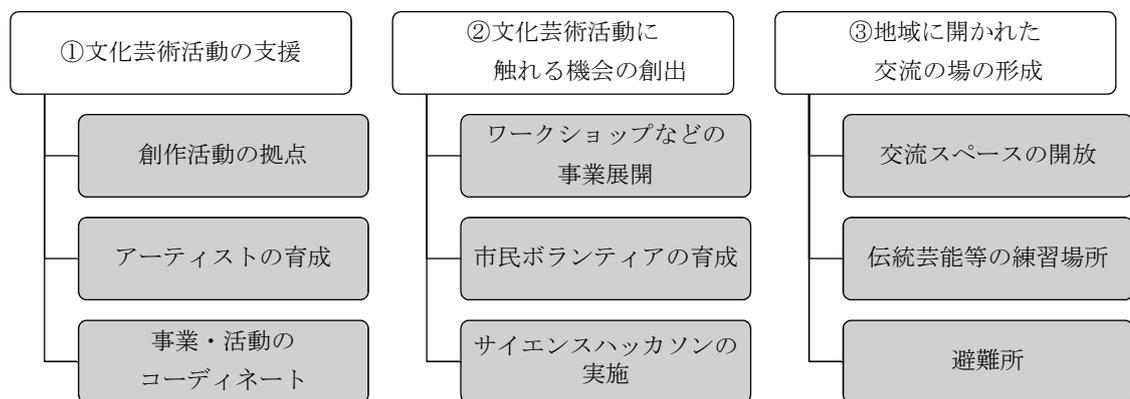


図 3-1 具体的な活用方法

## (2) 中長期の事業展開

供用開始を始期とし、初期、中期、長期に段階分けして事業を展開し、段階的に拡大していく。

### ア 初期（1年目）：市内の芸術活動を支える交流の場の形成

- ① ワークショップなどの集客イベントを中心に事業を行い、施設の認知度及び稼働率の向上を図る。
- ② 創作・発表を行える場として、施設を開放する。
- ③ 地域の人が利用できるスペースとして開放する。
- ④ 市内在住のアーティストや芸術を学ぶ学生とつながる。
- ⑤ 人材育成を目的として、専門職を雇用する。
- ⑥ 市内の文化芸術団体や企業、研究機関などとのネットワークを構築する。

### イ 中期（2～5年目）：次世代の芸術活動・芸術家発掘・育成の場の形成

- ① 文化芸術のコーディネート・マネジメントができる人材を育成し、配置する。
- ② アーティストとつくばの文化資源を結び付ける（コーディネート・マネジメントする）ことで、自身の活動に活かす経験と機会を創出する。
- ③ アーティストの経験の場としてアートイベントを実施することで経験を積む機会を創出し、人材育成を図る。

### ウ 長期（6年目～）：つくば市の文化芸術活性化を担うアートの発信拠点

- ① アーティストの主催するワークショップ・発表・作品展などを通じて、市内外の人々がつくばの文化資源を活用したアートに触れる機会を創出する。
- ② つくばの文化資源を活用した「つくば市独自の文化芸術」を発信していくことで、文化と経済の好循環を創造し、地域活性化に貢献する。

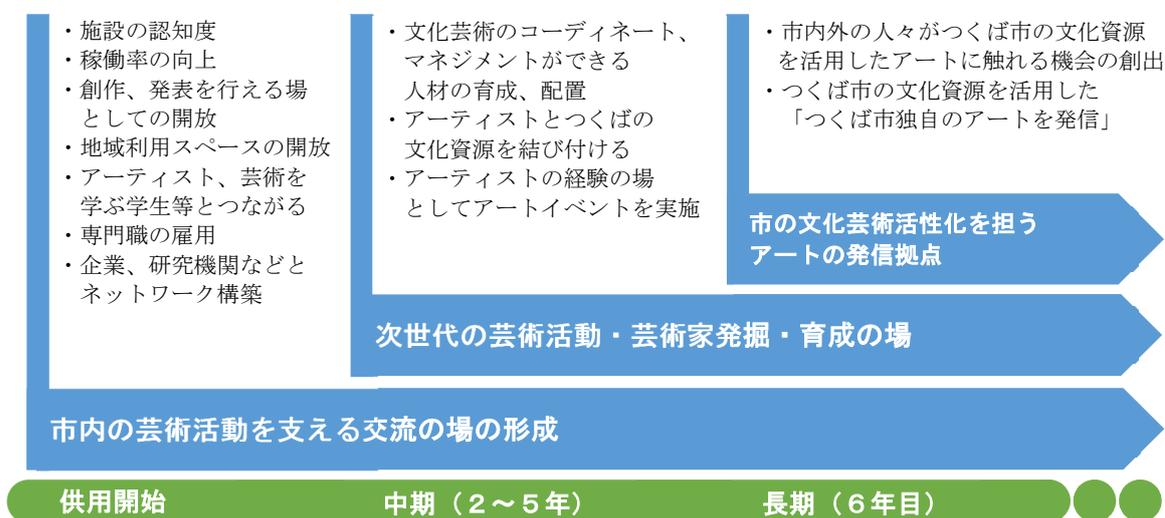


図 3-2 中長期計画の展望

### (3) サイエンスハッカソンの実施

施設の主要事業としてつくば市の特性を活かした「サイエンスハッカソン」の実施を据える。

「サイエンスハッカソン」では、アーティストが研究機関等を視察・見学したり、研究者との対話を行ったりする中で着想し、創作を行う。この事業をとおして、文化芸術と市内機関のコラボレーションを目指し、コーディネートを実施していくとともに、ネットワークの構築を体現し、プラットフォーム形成の取り組みの一助とする。

なお、ハッカソン (hackathon) とは、ハック (hack) とマラソン (marathon) を掛け合わせて造られた造語で、多様な人材が集まってチーム

を作り、特定のテーマに対して意見やアイデアを出して、決められた期間内に成果物を制作するイベントを指す。

#### **ア プラットフォームの中での位置付け**

サイエンスハッカソンはつくば市の特色のひとつである科学を研究する機関と、文化芸術をコーディネートすることによって生み出されるものであることから、プラットフォームが機能することで生み出される文化芸術の実例となる。

#### **イ 事業を通じて達成されるもの**

事業を推進していくことにより、つくば市の様々な機関との連携が行われるため、ネットワーク構築を推進することができる。また、文化芸術と、それに携わる人が地域の文化資源と交わるコーディネートも併せて推進することができる。

#### **ウ 主な参画対象**

地域の文化資源を取り入れていく観点から、主に市内の研究機関等を協働対象とする。ただし、アーティストについては、協働先の特性などに応じて、市内・市外いずれのアーティストも参画対象とする。

## 3.2. 導入機能

### 3.2.1. 求められる機能等

基本方針で掲げた取り組みを推進していくため、施設として求められる機能（ハード面）と、文化芸術創造拠点として求められる機能（ソフト面）をそれぞれ整理する。

#### (1) 施設に求められる機能（ハード面）

施設に求められる機能を次のとおり整理する。

表 3-2 施設に求められる機能（ハード面）

機能	概要
管理室	・施設運営に関わる事務作業・受付・エントランス業務などを行う
機械室	・空調、換気、送風、コンピューター等の制御機能を担う
地域利用スペース	・地域住民が集い、集会や交流などで利用することができる
ギャラリー	・芸術展や地域の小中学校等の作品展示等、幅広い活用を見込む
スタジオ	・防音機能を供え、楽器の練習・映像制作・楽曲制作等の活動を行える
創作室	・アーティストが創作活動に使用できるほか、展示・学びの場としても活用する
控室・更衣室	・講演の際の講師・イベントゲストの控室。日常時は更衣室としても活用する
避難所	・災害時に避難できる機能を有する
多機能トイレ	・バリアフリー・ユニバーサルデザイン等に対応する
多目的スペース	・ワークショップ、市民発表会、講演など多目的に活用する
情報発信コーナー	・デジタルサイネージやパンフレット、チラシ設置により、文化芸術に関する情報を発信する
ライブラリー	・文化芸術関連の各種資料を収蔵し、閲覧可能にする
駐車場・駐輪場	・敷地内での駐車台数・駐輪場台数確保が必要

## (2) 文化芸術創造拠点に求められる機能（ソフト面）

文化芸術創造拠点に求められる機能を、表 2-7 の内容を踏まえ、プラットフォームの推進という観点から整理する。

表 3-3 文化芸術創造拠点に求められる機能（ソフト面）

機能	概要
交流スペースの提供	・アーティスト同士や、アーティストと地域住民などが交流し、様々な出会い、つながりを作る
創作・発表・鑑賞の場の提供	・創作活動を行うにあたり、自由に使用することができる場所を提供する ・作品公開や公演などによる発表の場所を提供する ・ギャラリーなどとして鑑賞スペースを提供する
ワークショップ	・文化芸術の裾野を広げるとともに、文化芸術に携わる（する・見る・支える）人をつなげる
ネットワークの構築	・各種機関などと連携をし、サイエンスハッカソンなどの事業を展開する
アーティストの発掘	・市内で活動するアーティストや、アーティストの卵とつながる
人材育成	・アーティストを育成する ・市民の創作・発表・鑑賞等のコーディネート・マネジメントができる人材を育成する ・アーティストが、自分の能力を高めるための育成をする ・市民ボランティアを育成する
コーディネート機能	・文化芸術に携わる（する・見る・支える）人が望む情報・施設・機関などにつながることができるようコーディネートをする
文化芸術情報収集・提供	・公演・展覧会に関する情報や、市内で活動するアーティストに関する情報など、文化芸術に関する多様な情報を収集し、必要とする人に提供する
文化芸術アーカイヴ	・収集した情報を蓄積し、つくば市内で実施されてきた文化芸術のアーカイヴを作成・提供する

### 3.2.2. 導入機能の検討

導入する機能に、3.1.2. (1) 事業方針で掲げた事業実施の優先順位や、改修に要する費用などを考慮し、供用開始からの段階ごとに整備していくべき機能を整理する。

#### (1) 施設の導入機能

表 3-4 導入機能の検討（施設）

事業年度	類型	導入機能	活動の想定
供用開始 中期	創作 発表 鑑賞	創作室	絵画・彫刻・書道・工芸 他
		スタジオ	楽器演奏・歌唱・演劇・ダンス・バレエ・リハーサル 他
		ギャラリー	作品展示・鑑賞・発表・交流
		控室・更衣室	—
	交流 学習	多目的スペース	ワークショップ・講演会・地域イベント 他
		特別展示室	サイエンスハッカソン・作品展示・鑑賞・発表・ 交流
		地域利用スペース	集会、交流会
		図書・ 情報コーナー	芸術情報展示・パンフレット配布・イベント告知・郷土史展示・デジタルサイネージ 他
		書庫	施設の企画や管理運営・文化芸術に関連する書類の 収蔵
	管理 機能	管理室・事務室	—
		駐車場・駐輪場	—
		多機能トイレ	—
	防災	避難所 防災倉庫 災害用井戸	災害時における避難
	屋外 施設	グラウンド 広場、ステージ	運動場、屋外ステージ

## (2) 文化芸術創造拠点の導入機能

導入機能について、供用開始からの段階ごとに詳細を検討する。なお、前段階で示した内容は継続していくものとする。

表 3-5 導入機能の検討（文化芸術創造拠点）

事業年度	導入機能	詳細
供用開始時点（ 〜 ）	交流スペース	・地域の交流スペースの開放
	創作・発表・鑑賞の場の提供	・短期的・単発的な創作活動・発表の場としての教室貸出し ・ギャラリー等、鑑賞スペースとしての利用
	ワークショップ	・地域住民向けワークショップの開催
	ネットワークの構築	・文化芸術団体の情報収集 ・市内文化芸術施設と連携した事業の実施 ・研究機関などとの連携の推進 ・サイエンスハッカソンの推進
	アーティストの発掘	・市内で活動するアーティストの把握 ・文化芸術を学ぶ学生などの把握
	人材育成	・人材育成を目的とした専門職の雇用
	文化芸術情報収集・提供	・市内の文化芸術に関する情報の収集・提供
	文化芸術アーカイヴ	・記録の蓄積・公開
中期（2〜5年目）	交流スペース	・アーティストなどの利用者も含めた地域住民との交流
	ワークショップ	・アーティスト向けワークショップの開催
	人材育成	・文化芸術資源をコーディネート・マネジメントできる人材育成・配置 ・市内アーティストの育成 ・市民ボランティアの育成
	ネットワークの構築	・アーティスト間のネットワーク構築
	コーディネート機能	・アーティストが市内研究所などと協働した創作活動やコラボレーションの推進
長期（6年目〜）	交流スペース	・市内外の利用者も含めた様々な利用者の交流
	ワークショップ	・市外の人を対象としたワークショップの実施
	コーディネート機能	・施設利用者などが求める文化芸術情報・活動などをつなげるコーディネート

### 3.3. 計画条件

#### 3.3.1. 利用者層の想定

事業展開のフローと導入機能の検討結果によって、本施設の利用者層を次のとおり想定する。

表 3-6 各整備段階における想定利用者層

整備段階	利用者層
供用開始時点	市民+学生+アーティスト
中期（2～5年目）	市民+学生+アーティスト
長期（6年目～）	市民+学生+アーティスト+市外来訪者

#### 3.3.2. 利用者数の想定

本施設の利用者数を想定するため、次の3つの計算方法で年間利用者数を算出した。

##### (1) 統計データから年間利用者数を算出

表 3-7 令和2年度 社会教育施設の1施設当たり利用者数

(人)

年度	公民館（類似施設を含む）	図書館	博物館	博物館類似施設	青少年類似施設	女性教育施設	社会体育施設	劇場、音楽堂等	生涯学習センター
平成13年	13,753	53,016	104,372	37,971	17,279	19,480	9,482	15,980	—
平成16年	14,694	58,042	101,721	36,401	17,234	17,939	9,900	15,810	
平成19年	16,419	54,862	102,799	36,213	21,737	30,747	10,309	14,941	68,484
平成22年	15,376	57,991	101,711	36,761	21,524	29,577	10,499	12,596	69,359
平成26年	15,666	55,534	107,437	36,051	24,442	29,164	10,864	12,205	64,061
平成29年	15,969	54,060	116,131	38,408	25,128	34,495	11,879	12,961	62,885
令和2年	9,263	42,304	52,630	17,918	10,222	14,299	6,351	3,982	25,821

出典：文部科学省「令和3年度社会教育調査の中間報告」

文部科学省「令和3年度社会教育調査の中間報告」により、令和2年度間における社会教育施設の1施設当たり利用者数が統計されている。過去の調査と比較してすべての施設の利用者数が減少し、新型コロナウイルス感染症の影響が考えられる。

本施設の類似施設と思われる「公民館（類似施設を含む）」と「劇場、音楽堂」について、新型コロナウイルス感染症拡大前の1施設当たり利用者数

は約 13,000～17,000 人となる。

総務省の統計データによって、全国市町村の平均人口密度は 173 人/㎢となり、茨城県は 324 人/㎢となるため、本施設の年間利用者数は全国平均の 1.9 倍である 25,000～32,000 人に設定する。

## (2) つくば市内の文化芸術施設からの年間利用者数算出

つくば市内の文化芸術施設の利用状況は、次の表 3-8 のとおりである。

表 3-8 つくば市内の文化芸術施設の直近 6 年の利用状況

施設群	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	合計
地域交流 センター (17 か所)	件数	40,485	41,115	40,552	39,353	24,133	30,065	215,703
	人数	461,960	478,973	468,455	481,667	245,064	276,376	2,412,495
	平均 1 か所 利用者数	27,174	28,175	27,556	28,333	14,416	16,257	141,911
市民ホール (4 か所)	件数	1,708	1,565	1,995	2,101	1,176	1,827	10,372
	人数	117,312	113,989	125,158	111,048	23,938	43,096	534,541
ふれあい プラザ	件数	18,185	19,316	17,194	15,649	9,595	10,920	90,859
	人数	67,847	71,672	70,003	62,753	26,831	36,940	336,046
働く婦人 の家	件数	1,055	1,040	1,108	1,106	644	716	5,669
	人数	7,792	7,402	8,426	8,042	4,224	4,862	40,748
ノバホー ル・つく ばカピオ	件数	7,245	7,239	7,211	6,909	4,058	5,257	37,919
	人数	308,086	317,379	312,877	302,217	65,140	126,075	1,431,774
合計	件数	68,678	70,275	68,060	65,118	39,606	48,785	360,522
	人数	962,997	989,415	984,919	965,727	365,197	487,349	4,755,604

出典：つくば市市民文化系施設長寿命化計画

本施設の利用方法に最も近いつくば市の地域交流センターの新型コロナウイルス感染症拡大前（令和元年度まで）の 1 か所あたりの年間利用者数平均は、約 28,000 人となる。

## (3) 類似施設からの年間利用者数算出

廃校を利活用して運営をしている文化芸術拠点、又は本計画で想定する文化芸術創造拠点の構成要素の一部を実施している施設について選定し、利用状況の概要を整理した。

その結果、施設の所在地人口・延床面積と入館者数の間に一定の相関関係が見られるため、以下の相関関係を仮定し、各施設の係数 $\alpha$ を算出した。

$$\text{係数 } \alpha_{※} = \text{年間利用者数} \div \text{人口} \div \text{面積}$$

※係数 $\alpha$ は、施設の立地や運営状況などの所在地人口と延床面積の影響を除いた、施設の集客力を表した数値。

表 3-9 類似施設の概要

施設	所在地	所在地人口 (R2 年度)	延床面積	年間利用者数	係数 $\alpha$
もりや学びの里	茨城県 守谷市	守谷市： 69,985 人	3,364.82 m <sup>2</sup>	約 30,000 人 (H29 年度)	0.0001274
アーツ千代田 3331	東京都 千代田区	東京都： 13,981,782 人	11,241.66 m <sup>2</sup>	約 811,203 人 (H28 年度)	0.00000516
京都国際マンガ ミュージアム	京都府 京都市	京都市： 1,355,083 人	4,412 m <sup>2</sup>	約 283,705 人 (H30 年度)	0.00004745
京都芸術センター	京都府 京都市	京都市： 1,355,083 人	5,209.35 m <sup>2</sup>	約 35,000 人 (H30 年度)	0.00000496
京都市学校歴史博物館	京都府 京都市	京都市： 1,355,083 人	2,399 m <sup>2</sup>	約 22,701 人 (H30 年度)	0.00000698
大阪府立江之子島 文化芸術創造センター	大阪府 大阪市	大阪市： 2,752,412 人	2,943.57 m <sup>2</sup>	約 100,182 人 (H30 年度)	0.00001237
門司港美術工芸研究所	福岡県 北九州市	北九州市： 939,029 人	1696 m <sup>2</sup>	イベント時 173 人/日	—

文化芸術創造拠点の想定年間利用者数は、次の式により算出する。

$$\begin{aligned} \text{年間利用者数 (人/年)} &= \text{つくば市人口 (人)} \times \text{延床面積 (m}^2\text{)} \times \text{係数 } \alpha \\ &= 251,650 \text{ (人)} \times \text{延床面積 } 3355.72 \text{ (m}^2\text{)} \times \text{係数 } \alpha \end{aligned}$$

参考事例のうち、係数 $\alpha$ の一番高い施設は「もりや学びの里」であり、一番低い施設は「京都芸術センター」である。本施設の年間利用者数を算出する時の係数 $\alpha$ は、他施設の最小値、平均値、最大値を参考とする。それぞれ、次の表 3-10 のとおりとなる。

表 3-10 係数 $\alpha$ の最小値等

最小値	0.00000516
平均値	0.00003405
最大値	0.0001274

#### (4) 本施設における想定利用者数想定

年間利用者数の可能範囲は 4,357～107,585 (人/年) となり、平均値は 28,754 (人/年) である。

以上から、本施設の最終年間利用者数想定は約 28,000 人/年とする。

### 3.3.3. 法制度の整理

計画地に適用される条件その他を整理する。なお、関連法令等の適用される条件については実施設計の段階で改めて整理するものとする。

#### (1) 都市計画法

表 3-11 都市計画法

項目	主な内容	対象条項
都市計画区域	都市計画区域の指定	第5条
区域区分	市街化区域及び市街化調整区域の指定	第7条
用途地域	建築物の用途・規模の制限	第8条
防火地域	防火地域・準防火地域の指定	第8条

## (2) 都市計画法第 29 条による開発許可制度

表 3-12 都市計画法第 29 条による開発許可制度

項目	主な内容	対象条項
開発行為	開発行為の対象	第 12 項
開発許可の基準	市街化調整区域に係る開発行為	第 34 条
開発行為の許可	開発行為の許可	第 29 条 1 項 3 号

## (3) 建築基準法

表 3-13 建築基準法

項目	主な内容	対象条項
特殊建築物	特殊建築物の該当	第 2 条
道路	接道義務	第 42・43 条
容積率	容積率の制限	第 52 条
建蔽率	建蔽率の制限	第 53 条
高さ	建築物の高さ制限	第 54～56 条
耐火建築物	耐火・準耐火構造の指定	第 27 条
採光・換気	居室の採光・換気の指定	第 28 条
排煙・照明	特殊建築物等の避難及び消化に関する技術的基準	第 35 条

## (4) 消防法

本施設は消防法第 17 条第 1 項の政令で定める防火対象物に該当するため、消防法政令で定める基準に適合させなければならない。

表 3-15 消防法

項目	主な内容	対象条項
防火対象物	防火対象物の指定	法第 17 条、令第 6 条
特定防火対象物	特定防火対象物の指定	法第 17 条の 2 法第 17 条の 2 の 5 令第 34 条の 4
消防設備の設置 及び維持について	消防の用に供する設備の設置要否	法第 17 条、 令第 7 条第 1 項～第 4 項 令第 10 条～第 26 条
	消防用水	令第 27 条
	消火活動上必要な施設	令第 28 条～第 29 条の 3

## (5) 高齢者、障害者等の移動等の円滑化に関する法律（バリアフリー法）

本施設は特別特定建築物の政令で定める規模以上の建築（用途の変更をして特別特定建築物にすることを含む。）に該当するため、移動等円滑化のために必要な建築物特定施設の構造及び配置に関する政令で定める基準に適合させなければならない。

表 3-16 高齢者、障害者等の移動等の円滑化に関する法律（バリアフリー法）

主な内容	対象条項
特定建築物の定義	法第2条第16項、令第4条
特定建築物の建築主等の努力義務	法第16条
特定建築物の建築等及び維持保全の計画の認定	法第17条
建築物移動等円滑化基準の規制	法第11条～24条

## (7) 茨城県ひとにやさしいまちづくり条例

公共的施設を設置し、所有し、又は管理する者は、当該公共的施設を整備基準に適合させるよう努めなければならない。

表 3-17 茨城県ひとにやさしいまちづくり条例

項目	主な内容	対象条項
公共的施設	公共的施設の指定	別表第1
出入口	出入口幅の確保	別表第2
廊下等	廊下幅の確保	別表第2
	傾斜路の構造	別表第2
階段	階段の構造・仕上げの制限	別表第2
昇降機	昇降機の要件	別表第2
便所	身障者用便所の設置要件	別表第2
駐車場	車椅子利用者用駐車施設の設置要件	別表第2
敷地内道路	敷地内通路の構造	別表第2
その他	案内設備の要件	別表第2

### 3.3.4. 導入機能の設定

#### (1) 教室棟

3.2 導入機能の検討を踏まえて、教室棟のメインとなる導入機能を整理した。なお、写真は他の施設の事例を整備イメージの参考として用いている。

#### ア 創作室



写真提供: 京都芸術センター

アーティストが創作活動に使用できるほか、展示・学びの場としても活用する。

#### イ ギャラリー



写真提供: 隼 Lab.

芸術展や地域の小中学校等の作品展示等、幅広い活用を見込む。

#### ウ スタジオ



写真提供: 大阪府立江之子島文化芸術創造センター

防音機能を提供、楽器の練習・映像制作・楽曲制作等の活動を行える。

## エ 多目的スペース



大阪府立江之子島文化芸術創造センター(大阪府大阪市)

写真提供:大阪府立江之子島文化芸術創造センター

ワークショップ、市民発表会、講演など多目的に活用する。

## オ 地域利用スペース



アーツ千代田 3331 (東京都千代田区)

写真提供:アーツ千代田 3331

地域住民が集い、集会や交流などで利用することができる。

## カ 図書・情報コーナー



大阪府立江之子島文化芸術創造センター(大阪府大阪市)

写真提供:大阪府立江之子島文化芸術創造センター

デジタルサイネージやパンフレット、チラシ設置により、文化芸術に関する情報を発信する。

## キ その他

表 3-14 その他の導入機能

類型	導入機能
創作・発表・鑑賞	控室・更衣室
管理機能等	管理室・機械室・駐車場・駐輪場・書庫・多機能トイレ
災害時の拠点機能	避難所・防災倉庫・防災用井戸

## (2) 屋内運動場

現在の屋内運動場の主な利用者は地域の団体であり、文化芸術創造拠点整備後もその利用形態が継続すると想定されるため、現状の屋内運動場の機能を維持し、雨漏りや床等、修繕を行う。

## (3) 屋外施設

グラウンドについては、多目的に使える広場として整備するとともに、敷地周囲の樹木に関して適切な管理を行っていく。プールについては、老朽化した更衣室や施設周囲フェンスの解体・撤去を行うとともに、ステージや眺望施設として利用できるよう整備する。

## (4) 指定避難所

本施設は指定避難所でもあることから、災害時にも利用できるよう、維持管理していく。

### 3.4. 環境の保全と創出

#### 3.4.1. 景観の保全

##### (1) 敷地から周囲を見る景観

教室棟およびプール跡地から周辺を眺望する視線軸を下記より整理した。  
 教室棟の北側に樹林が生えており、筑波山の眺望を阻害している。その一方、プールの跡地から筑波山の眺望は確保できることから、プール跡地を屋外活動の場とする利用が考えられる。

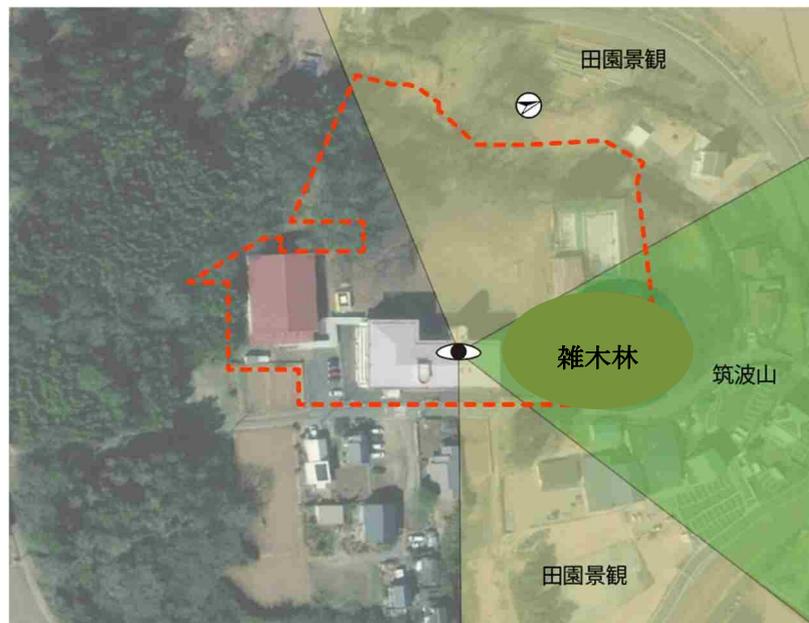


図 3-3 教室棟からの視認性

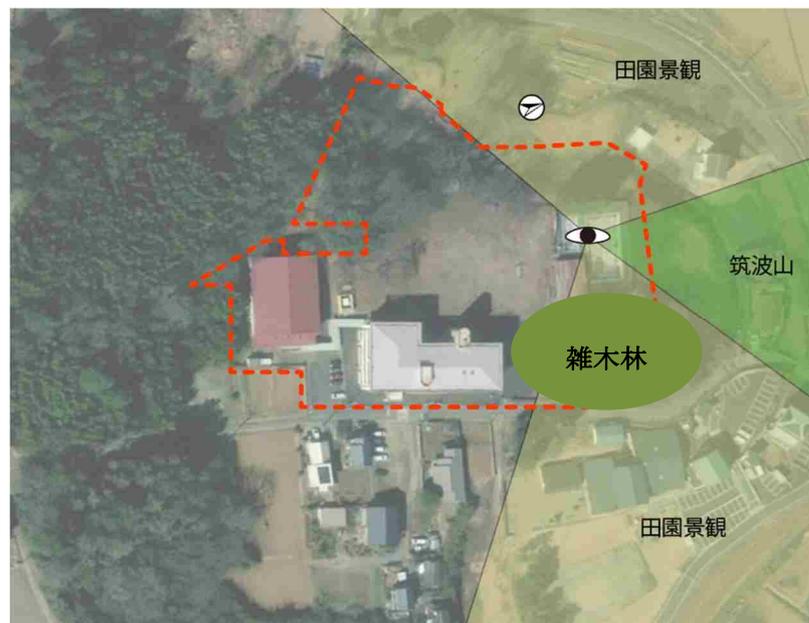


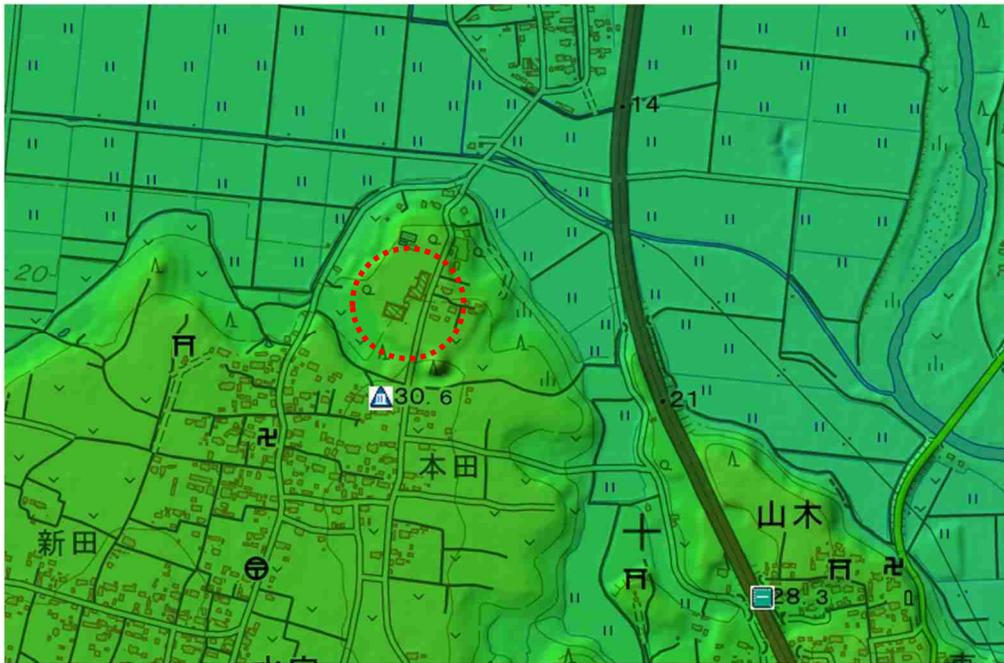
図 3-4 プール跡地からの視認性

## (2) 周辺から施設を見る景観

旧田水山小学校の校舎は比較的新しく、構造及び外観・内装は近代的で、一般的な校舎という型にはまらない姿であり、周囲の景観とも調和している。

文化芸術創造拠点として改修を行う際に、原則的には現状の外観を維持し、タイルの張替えや塗装の塗り替えを行う。

施設東側を南北に伸びる国道 408 号から見る施設は、建物と周囲の木々が調和しており、その景観を維持していくことも重要である。



出典：地理院地図

図 3-5 色別標高図



図 3-6 国道 408 号から見る旧田水山小学校

### 3.4.2. 既存樹木の活用

敷地内に既存の樹木が多数あり、旧田水山小学校の歴史を刻み、地域の人々に親しまれている財産である。

敷地内の既存樹木は、可能な限り既存の位置で保全する。植栽管理は樹木が本来持っている自然樹形による管理を基本とし、植栽した樹木を目標とする形姿に収め、それを長期間維持するまでの管理を行う。また、敷地北側の雑木林との親和性を考慮し、剪定と整枝・施肥など定期的な管理によって樹形を維持する。

敷地西側の法面に位置する木々は桜が多く、学校として利用されていた頃の名残であり、廃校を活用した施設としての学校らしさを残していくためにも、維持管理していくことが望ましい。



図 3-7 既存樹木の様子

### 3.4.3. 環境配慮

施設の整備・維持管理を行っていくにあたり、LED 照明器具の採用や、蓄電池及び太陽光発電設備等の導入により、環境配慮を行うことを検討していく。

### 3.4.4. 建物の長寿命化

#### (1) 概要

長寿命化とは、予防保全の考えに基づき、建物を計画的に修繕することによって、施設の寿命を延ばすことである。既存施設の改修の手法を示し、老朽化した公共施設の構造・設備・機能の耐久性を高め、法定耐用年数よりも長く利用できるように努める。

#### (2) つくば市の動き

平成 29 年（2018 年）に『つくば市公共施設等総合管理計画 公共施設等資産マネジメントの方針』が公表され、公共施設の維持管理の基本的な方針を示している。本施設は公共建築物に該当するため、同計画の基本方針に基づき取組を推進する。

#### (3) 対応方針

次の表のとおりとする。

表 3-15 建物長寿命化に対する対応方針

項目	方針
構造体の耐久性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリートのひび割れや中性化対策を検討する</li> <li>・鉄筋の腐食対策をする</li> <li>・劣化部分を補修する</li> <li>・高耐久性の材料を使用する</li> <li>・屋根の防水性能の向上のための修繕をする</li> <li>・将来の変化対応として安全性の面から許容荷重にゆとりをもたせる</li> </ul>
設備の耐久性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調・衛生・電気の設備機器と、空調換気ダクトや空調・給排水管などの設備配管を対象に、補修間隔を長く設定できる耐用年数が長い設備を導入する</li> <li>・設備を更新する際に構造体や仕上げ材を痛めることなく更新や修繕ができるように、設備機器および配管・配線の配置、点検および更新時の運搬・設置のための作業スペースを考慮する</li> </ul>
機能性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインへ対応する</li> <li>・避難所などの安全性を向上する</li> <li>・高度情報通信設備に対応する</li> <li>・環境負荷の低減を意図した設備機器を導入する</li> <li>・自然採光・通風を活用する</li> <li>・収納スペースの面積を大きくする</li> <li>・エントランスなどの共用スペースを十分確保する</li> </ul>

### 3.5. インフラ整備の基本方針

#### 3.5.1. 交通アクセス

P.2.16、2.1.1. (10) の検討を基に整理する。

##### (1) 自動車（普通乗用車）によるアクセス

本施設へのアクセスの主な手段は、自動車（普通乗用車）による来場が考えられる。自動車を利用する場合、国道408号から進入するルートが、主な経路として想定される。



図 3-8 国道408号からの進入経路図

##### (2) 公共交通機関によるアクセス

公共交通機関による来場の場合は、最寄り駅からバスの利用が想定される。最寄りのバス停との距離は約0.6kmであり、徒歩約8分である。

### 3.5.2. 駐車場・駐輪場

#### (1) 交通手段分担率

2018年に実施した第6回東京都市圏パーソントリップ調査における、つくば市の交通手段分担率のうち、自動車分担率は63%となるため、本施設の駐車場規模算定に用いる交通手段分担率の値も同様とする。

#### (2) 一般利用者用普通車駐車区画数

普通乗用車の乗車人数（1台への同乗者数）については、2.1人/台と設定し、上記の交通手段分担率（自動車分担率：63%）を用いる。

また、3.3.2(4)で算出された年間最大利用者数の平均値28,000人を参照し、一日あたりの最大利用者数を算出する。平均値の1.5倍を採用し、営業日を約300日として計算すると140人となる。

以上の前提から、最大駐車区画数を次の式により算出する。

$$\begin{aligned} \text{最大駐車区画} &= \text{最大利用者数 } a(\text{人}) \div \text{乗車人数 } 2.1(\text{人/台}) \times \text{自動車分担率 } 63\% \\ &= 140(\text{人}) \div \text{乗車人数 } 2.1(\text{人/台}) \times 63\% \doteq 42(\text{台}) \end{aligned}$$

なお、普通乗用車の駐車場区画については、年間数日程度のピーク（イベント等の開催日）に合わせて最大値を満たし設定した場合、通常利用時には駐車区画に空きが多く出すぎてしまうため、イベント時の公共交通運用での工夫を考慮し、ピーク時の利用率を60～80%程度に抑えるのが妥当と考え、本検討では最大値である80%を採用し、普通車駐車区画数を次の式により算出する。

$$\begin{aligned} \text{普通乗用車駐車区画数} &= \text{最大駐車区画数} \times \text{利用率} \\ &= 42(\text{台}) \times 80\% \doteq 35(\text{台}) \end{aligned}$$

以上から、駐車区画最大数を35台とする。

#### (3) 車いす利用者用駐車区画数

『高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令』の第17条の規定により、本施設は車いす利用者用駐車施設を1つ以上設置する。

#### (4) 駐輪台数の算出

本施設はつくば市の自転車等駐車場の付置義務対象外となるが、来訪者の移動手段を考慮し、自転車等駐車場を設置する。第6回東京都市圏パーソントリップ調査における、つくば市の交通手段分担率のうち、自転車分担率の12%を用いて、想定される駐輪区画最大需要を次の式により算出する。

$$\begin{aligned} \text{駐輪区画の最大値} &= \text{最大利用者数 } a \text{ (人)} \div \text{利用人数 } 1 \text{ (人/台)} \times \text{自転車分担率 } 8\% \\ &= 140 \text{ 人} \div \text{利用人数 } 1 \text{ (人/台)} \times 8\% = 17 \text{ 台} \end{aligned}$$

#### (5) まとめ

上記によって、本施設に必要となる駐車場・駐輪場の必要区画数は以下となる。

表 3-16 駐車場、駐輪場の必要台数

類型	普通乗用車	車いす利用者用	駐輪場
台数	35	1 以上	17

#### 3.5.3. 上水道

受水槽・ポンプ室の必要面積を積み上げる。給水方式は受水槽＋加圧給水ポンプ方式である。1日の最大給水量は次の式により算出する。

$$\text{1日使用水量 (L/d)} = \text{人員 (人)} \times \text{1日1人当りの使用水量 (L/d \cdot \text{人})}$$

人員について、前述の想定最大利用者数 135 人を採用する。また、1日1人当りの使用水量については、劇場・映画館と同じレベルの 40 (L/d) と想定する。

$$\text{1日使用水量 (L/d)} = 140 \text{ (人)} \times 40 \text{ (L/d)} = 5,600 \text{ (L/d)}$$

1日最大給水量の 50%を受水槽に貯留する場合、約 3 m<sup>3</sup>の体積が必要となる。現状の受水槽寸法は 2m×4m×1m = 8 m<sup>3</sup>となり、必要となる容量に満足しているため、継続利用することが可能である。

#### 3.5.4. 下水道

##### (1) 汚水

現状の便器は小学生が使用するサイズとなるため、一般利用者用のサイズに更新する必要がある。また、ユニバーサルデザインに対応するため、多機能トイレの整備が求められる。

現状のトイレを改修とし、空気調和・衛生工学会「衛生器具の適正個数算定法」により、必要個数を算定する。個数算定法は、建物用途に利用人数と器具数が想定されている。本施設では、「オフィス」「劇場」「百貨店」における必要個数算定表を参照し、必要個数を割り出した。一日あたりの最大利用者数は、前述の 140 人を採用する。

トイレ個数の想定は、待ち時間に対する利用者の意識、評価から3段階のサービスレベルが設定されている。

- ・レベル1 待ち時間の少ない良好な器具数
- ・レベル2 標準的な待ち時間の器具数
- ・レベル3 必要最低限の器具数

本施設では、貸室及び事務室の利用者を想定し、男女比率は男50%、女50%とすると、利用人数は男性70人、女性70人となる。

サービスレベルは標準的な待ち時間のレベル2を想定する。教室棟においては、次の個数を設ける想定としたところ、現状のトイレスペース内に想定の便器数を整備することが可能である。

表 3-17 トイレ個数の想定

設置内容		現状	想定
男子	大便器	2 (1階) 2×2 (2、3階)	3
	小便器	3 (1階) 5×2 (2、3階)	2
	洗面器	1 (1階) 2×2 (2、3階)	2
女子	大便器	3 (1階) 6×2 (2、3階)	3
	洗面器	2 (1階) 2×2 (2、3階)	3
多機能トイレ		0	各階に1つ※

※施設にエレベーターを設置しない場合。設置する場合、施設内に1つ。

なお、一日の汚水排水量は前述の一日の使用水量と同様であり、5.6 m<sup>3</sup>である。時間最大汚水量 (m<sup>3</sup>/s) と設計時最大汚水量 (m<sup>3</sup>/s) は次の式により算出する。1日平均使用時間は、10時間 (営業時間10:00~20:00) と想定する。

$$\text{時間最大汚水量 (m}^3/\text{s)} = \text{1日最大汚水量} / \text{1日平均使用時間} \times 3,600$$

$$\text{設計時最大汚水量 (m}^3/\text{s)} = \text{時間最大汚水量} \times 1.2$$

上記を踏まえて、時間最大汚水量は 0.00016 m<sup>3</sup>/s、設計時最大汚水量は 0.00019 m<sup>3</sup>/s とする。

## (2) 雨水排水

雨水については、現状の設備により対応可能であるため、必要個所の修繕等を行うことで継続利用していく。

### 3.5.5. 空調設備

現状の空調設備導入状況を図 3-9 のとおり整理した。整備済みのエリアについては空調設備の稼働状況を確認し、耐用年数内の設備は継続利用する。未整備の場所については、施設の機能上必要な部屋に空調設備を導入していく。

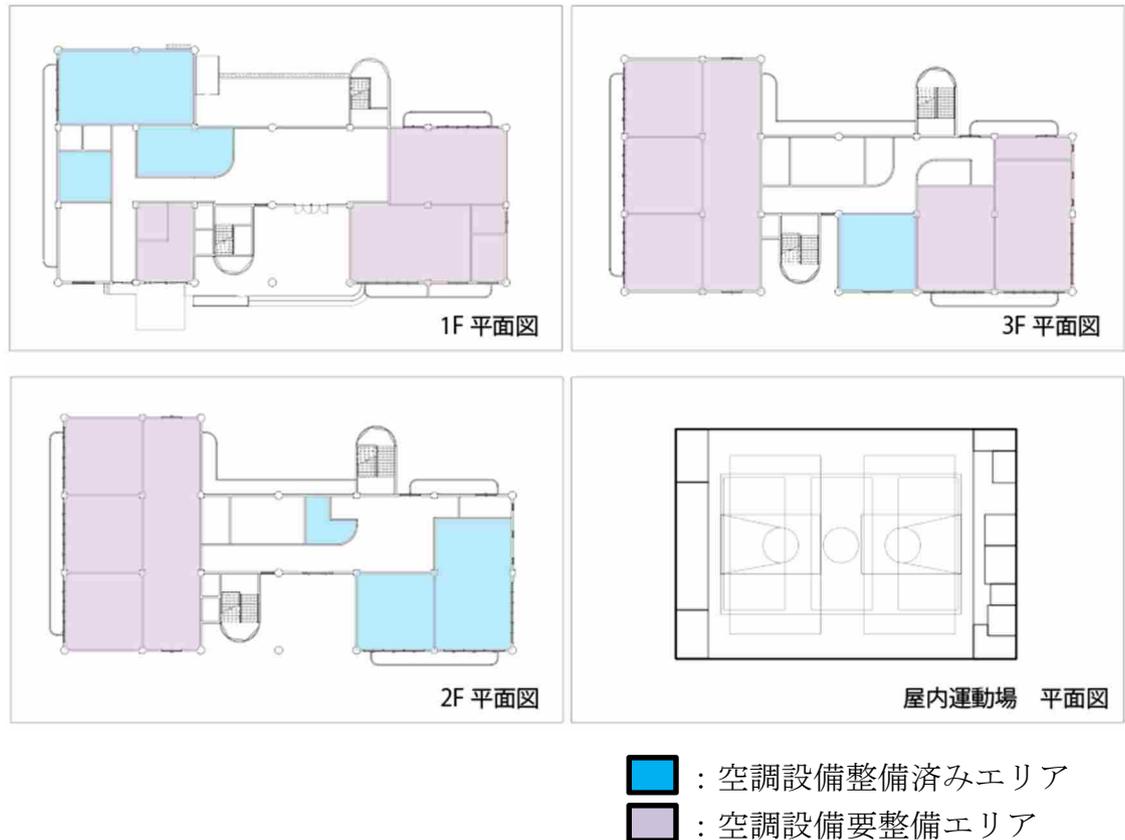


図 3-9 空調設備の整備状況

### 3.5.6. 電気・ガス・通信設備

#### (1) 電気

現状キュービクルは屋外に設置されており、2,700mm×1,600mm の面積が確保されている。高圧引込ケーブルと高圧主開閉器（LBS）の使用年数は 28 年となり（平成 6 年（1994 年製））、耐用年数が経過しているため、更新する必要がある。

導入する設備の負荷を計算し、容量を適正化したキュービクルを新設する。また、非常用発電機設備も屋外設置とし、延床面積に含まない。

#### (2) ガス

都市ガスの範囲外であるため、プロパンガスの使用を検討する。

### (3) 通信設備

光回線の設備については、既存のものを再利用できる可能性があるため、利用者向けフリーWi-Fi等の整備と合わせて、検討していく。

#### 3.5.7. 防災設備

消火貯水槽・防災倉庫は、現状設備の継続利用を想定する。災害用井戸については、導入可能性を検討していく。

### 3.6. 整備計画

具体的な整備の内容について、次のとおり整理する。

#### 3.6.1. 整備方針

各施設の基本的な整備方針は次のとおりとする。

表 3-18 各項目の整備方針

項目	整備方針
教室棟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術創造拠点の役割を担う</li> <li>・災害時は避難所の役割を担う</li> </ul>
屋内運動場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体スポーツ活動の場とする</li> </ul>
屋外運動場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドを整備、遊具は撤去する</li> <li>・交流・憩いスペースとする</li> <li>・災害時は応急活動の拠点として利用する</li> </ul>
プール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プールの付帯建築物は撤去する</li> <li>・プールの老朽化している部分は改修し、ステージ・交流・憩い・屋外活動の広場、筑波山の眺望施設として利用する</li> </ul>
インフラ設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気設備、空調設備、機械設備、給排水設備、ガス設備、インターネット環境等の各種インフラ供給の再整備</li> </ul>

### 3.6.2. 土地利用計画

敷地内の土地利用については、次の図 3-10 のとおりとする。

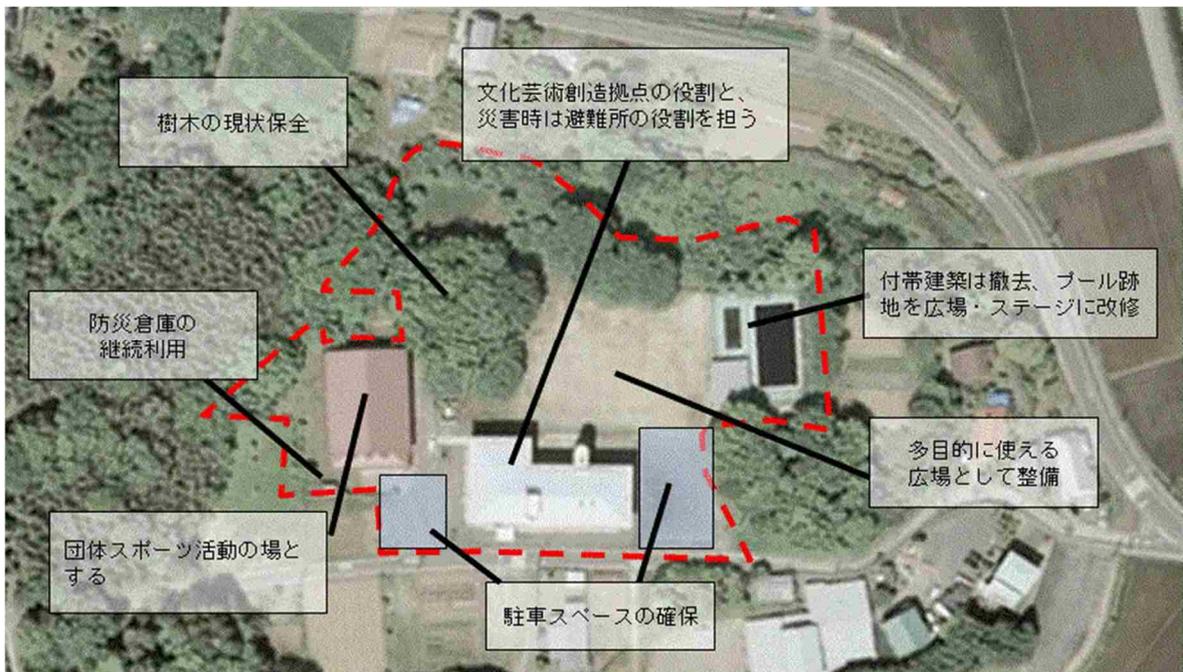


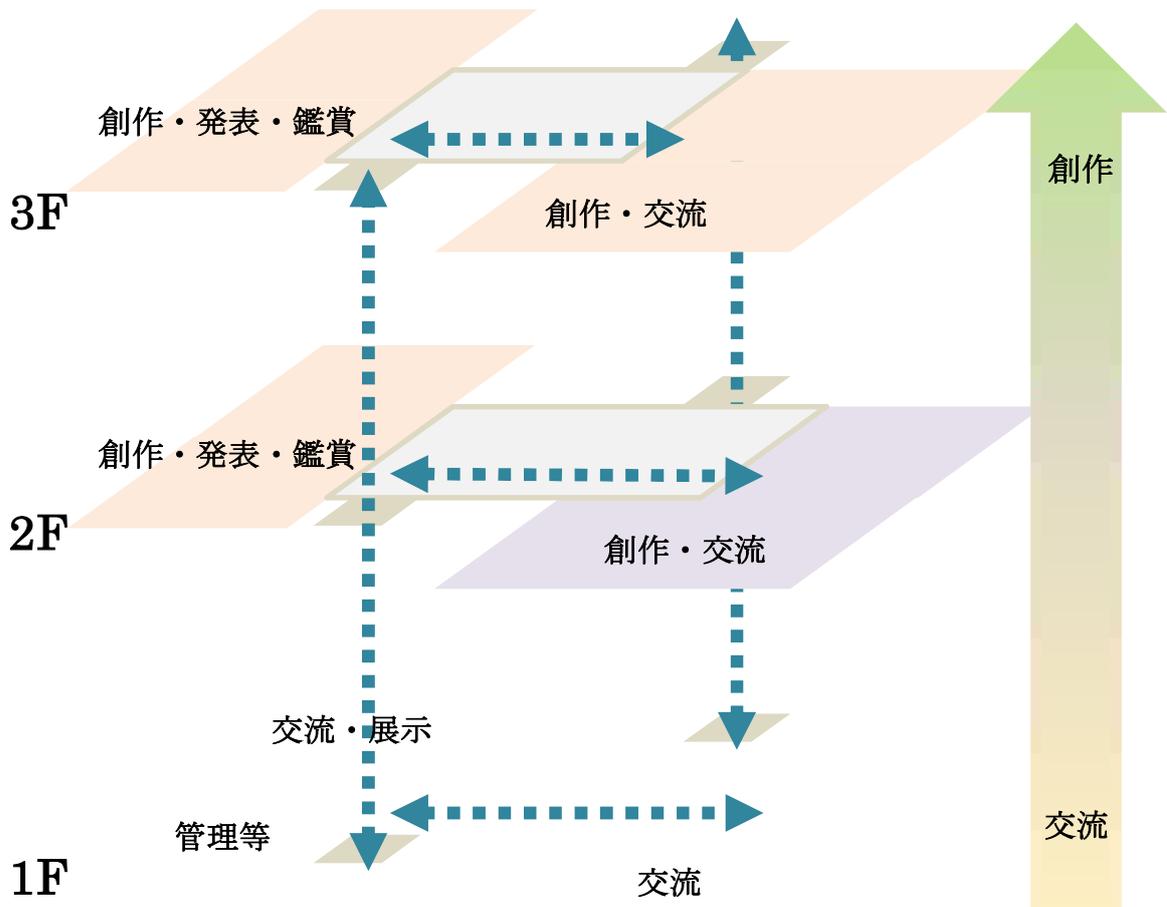
図 3-10 敷地内の土地利用計画図

### 3.6.3. 施設利活用計画

#### (1) 教室棟の諸室

P. 3. 41 以降の、3. 2 の検討を踏まえて、導入機能を『交流・学習』、『創作・発表・鑑賞』、『管理等機能』で分類した。

エントランスホールから近いほど、地域住民の利用が多く、利用者同士の交流を積極的に促し、にぎわいのある活動を行うことができる。上の階に行くほどアーティストの利用が多くなり、創作活動を行うことができる場を設けることを想定した。



## (2) 諸室面積表

旧田水山小学校の各階における諸室面積表を整理した。基本的には内壁を撤去・新設せず、利用者の多様な活動を促すために、可動式間仕切りや、設備機能の配置の工夫により、一つの部屋の多機能化を行うことを想定した。

労働安全衛生法においては、『労働者を常時就業させる室の気積を、設備の占める容積及び床面から4メートルを超える高さにある空間を除き、労働者1人について、10 m<sup>3</sup>以上とする』ことが定められているため、多目的スペース等は4 m<sup>2</sup>/人の収容人数とする。会議室・研修室は、建築基準法の規定により算出する。

表 3-19 1階諸室面積表

No.	導入機能	面積(m <sup>2</sup> )	現状部屋名	収容人数	備考
1	多目的スペース・ ギャラリー	107.0	職員室	約26人	
2	給湯室	6.6	給湯室	—	
3	印刷室	8.2	印刷室	—	
4	応接室	29.0	校長室	4～6人	
5	トイレ	45.5	トイレ/シャワー室	—	
6	多機能トイレ	51.6→20	保健室	—	
7	物置	49.4	倉庫、配膳室	—	
8	受付・管理室	40.6	ホール・廊下	—	職員事務室
9	エントランスロビー	172.4		—	
10	地域利用スペース	95.4	家庭科室	約25人	
11	図書・情報発信 コーナー	64.8	理科室、 理科準備室	約30人	
12	書庫	52.9			
13	物置	10.7	家庭科準備室	—	
14	物置	12.5	階段下トイレ		
15	物置	12.5	階段下トイレ		

表 3-20 2階諸室面積表

No.	導入機能	面積(m <sup>2</sup> )	現状部屋名	収容人数	備考
1	創作室A	63.6	クラス1	1～4人	
2	創作室B	63.6	クラス2	1～4人	
3	物置	63.6	クラス3	1～4人	
4	多目的スペース	142.9	オープンスペース1	約35人	
5	物置	15.2	教育準備室	—	
6	トイレ	39.0	トイレ	—	
7	物置	26.1	放送室	—	
8	多目的スペース・廊下	116.4	オープンスペース・廊下	約31人	
9	事務室兼物置	63.6	クラス7	約15人	職員事務室/ 創作用具置き場
10	倉庫	13.0	コンピューター準備室	—	
11	特別展示室	108.2	コンピューター室	約54人	サイエンスハッカソン用 創作室兼ギャラリー

表 3-21 3階諸室面積表

No.	導入機能	面積(m <sup>2</sup> )	現状部屋名	収容人数	備考
1	創作室C	63.6	クラス4	1～4人	
2	創作室D	63.6	クラス5	1～4人	
3	物置	63.6	クラス6	1～4人	
4	多目的スペース	142.9	オープンスペース	約35人	
5	多目的トイレ	15.2	教育準備室	—	
6	トイレ	39.0	トイレ	—	
7	物置	13.9	倉庫	—	
8	廊下	99.6	廊下	—	
9	ギャラリー	63.5	図書室	約37人	
10	多目的スペース	86.6	図工室		
11	物置	19.0	楽器室	—	
12	スタジオ	108.2	音楽室	約27人	

## (3) 屋内運動場の諸室

表 3-22 屋内運動場面積表

導入機能	面積(m <sup>2</sup> )	現状部屋名	備考
体育館	776.2	屋内運動場	

### 3.7. 基本計画図

#### 3.7.1. 土地利用計画平面図

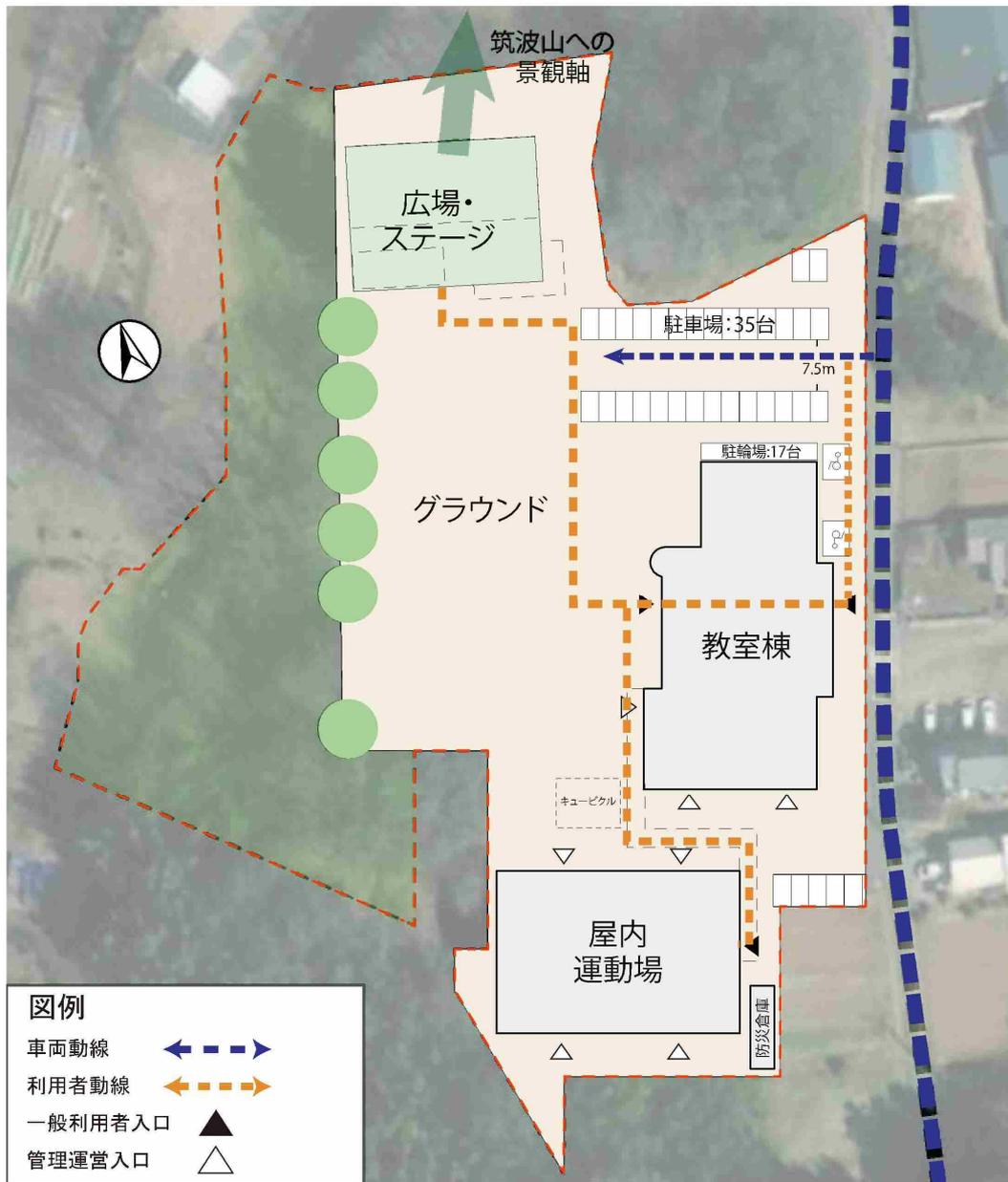


図 3-12 土地利用計画平面図

3.7.2. 施設利活用計画各階平面図

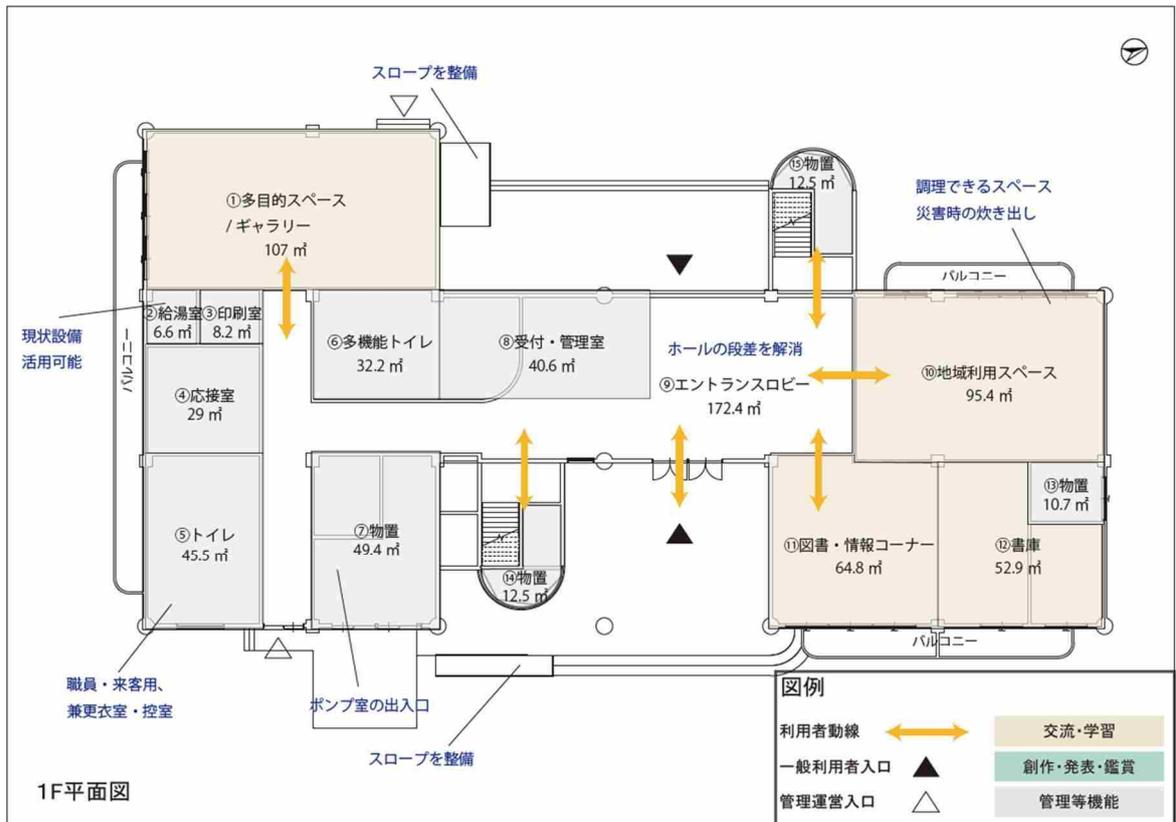
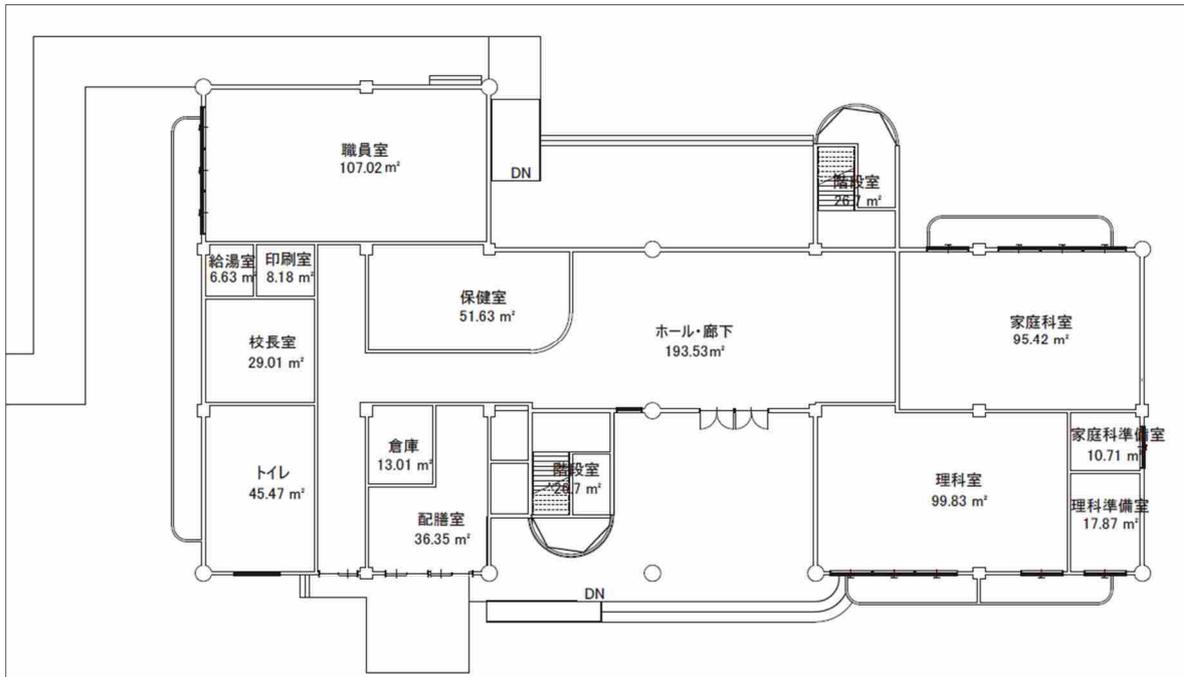


図 3-13 施設 1 階 現況図 (上) 利活用計画計画案 (下)

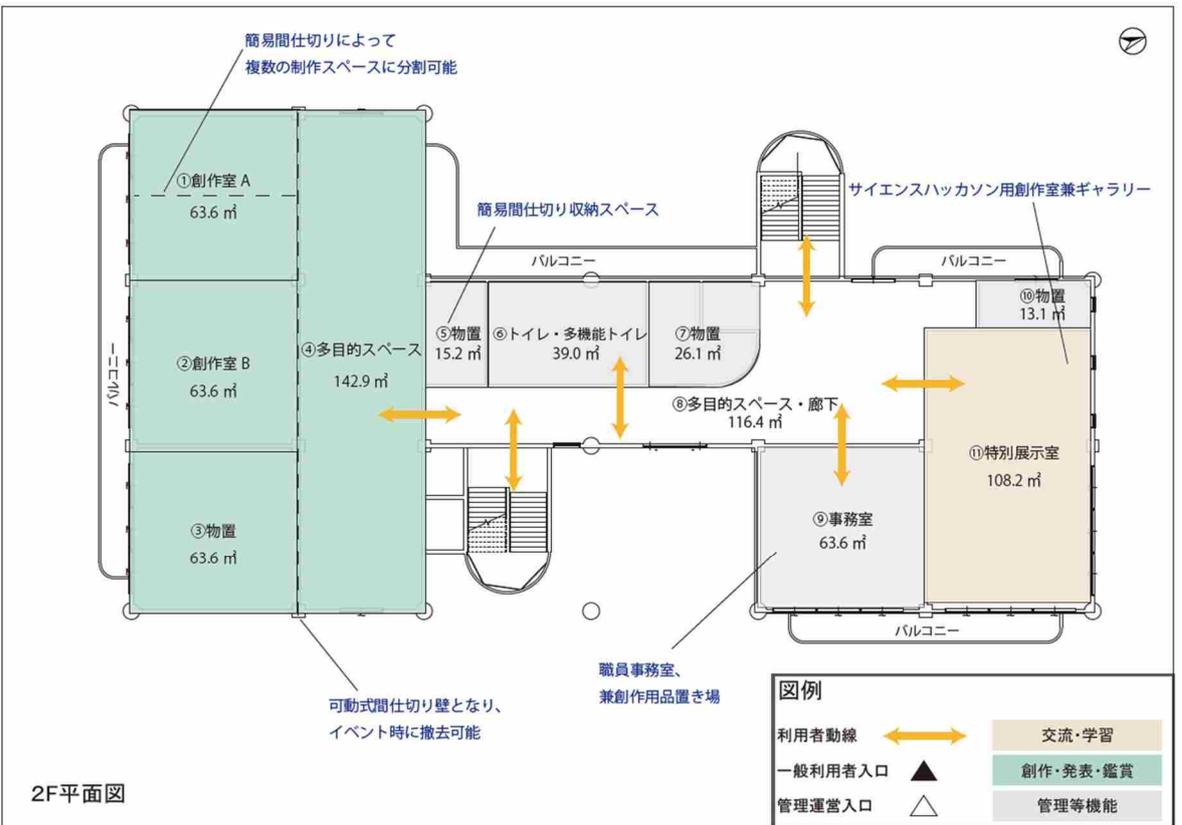
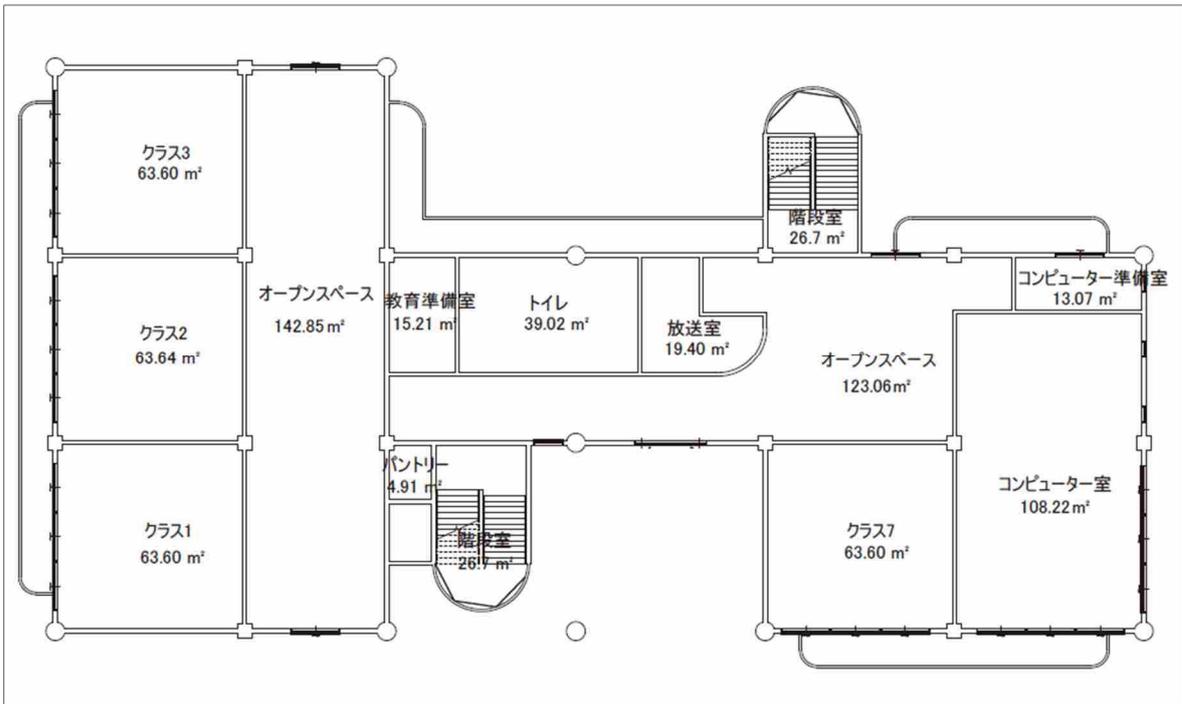


図 3-14 施設 2階 現況図 (上) 利活用計画案 (下)

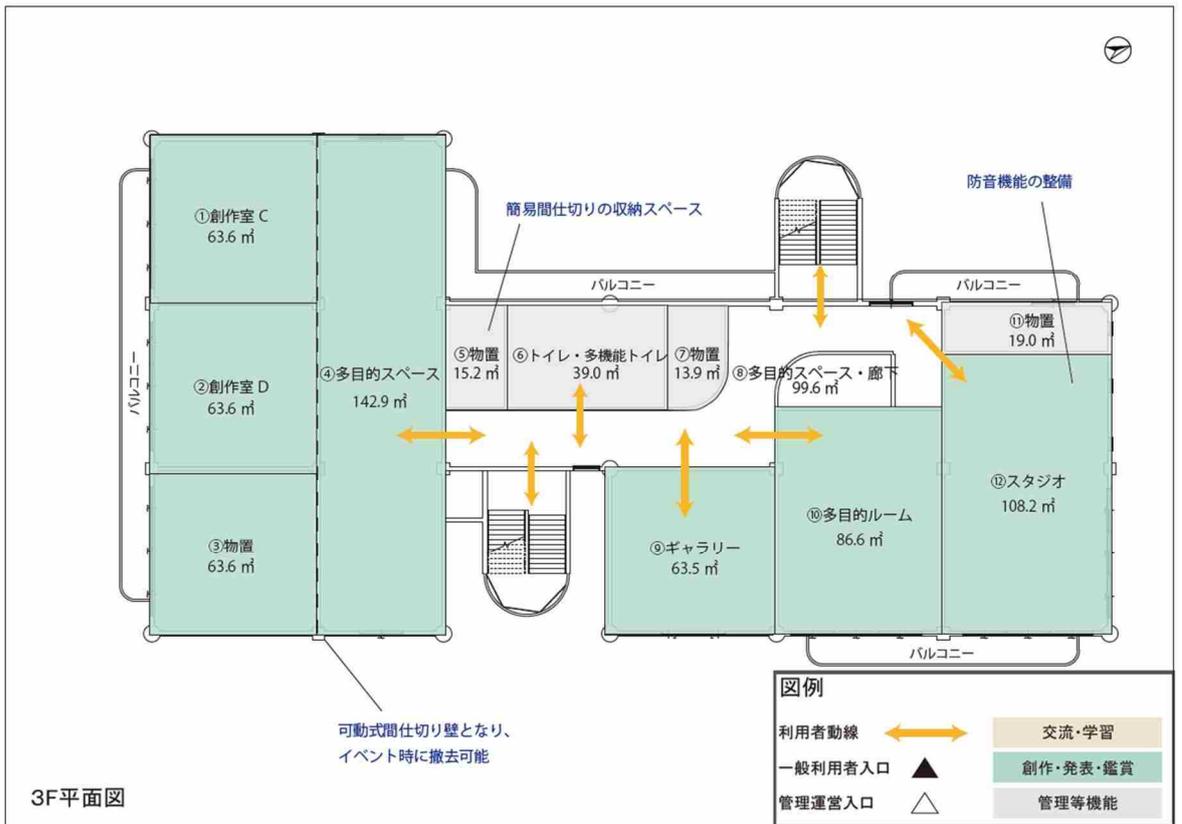
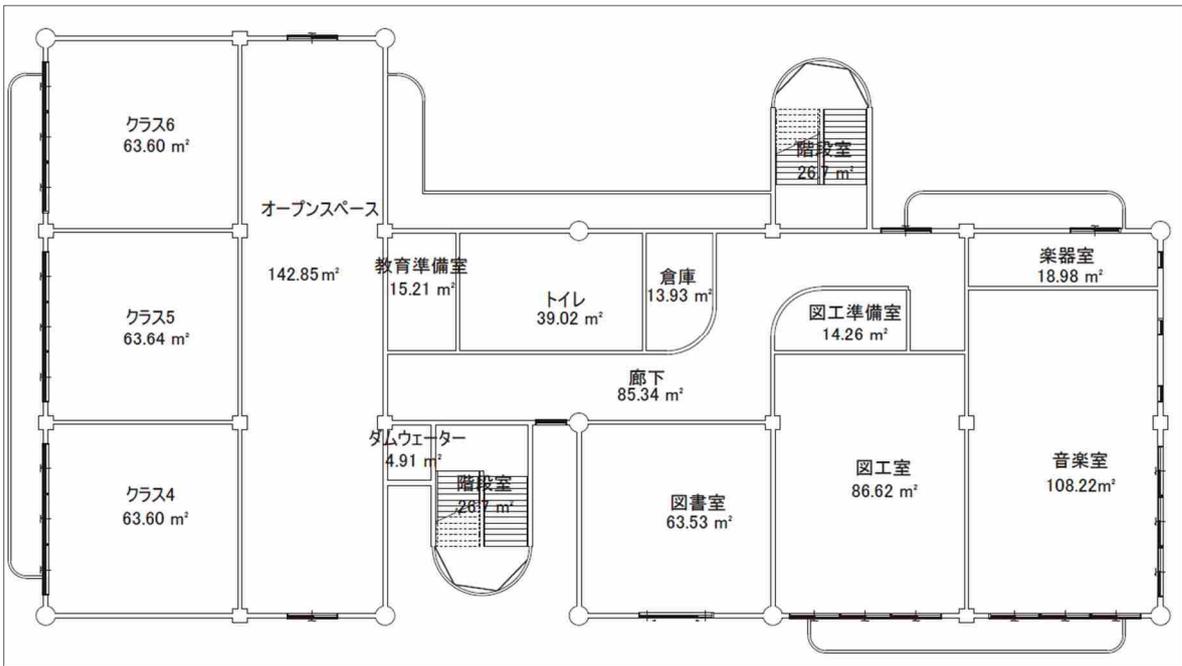


図 3-15 施設3階 現況図(上) 利活用計画案(下)

### 3.8. 概算事業費の算出

#### 3.8.1. 概算事業費

改修に要する概算事業費の見込みは次の表 3-23 のとおりである。なお、備品購入費用は別途見込むものとする。

表 3-23 概算事業費

対象	分類	項目	概算 (円)	備考	
教室棟	建築工事費	仮設工事	17,000,000	共通仮設・直接仮設	
		外壁修繕	16,300,000	部分補修	
		建具工事	8,000,000	排煙窓、室内建具	
		内装工事	68,000,000	床土足仕様、壁塗装、木製什器サイン、間仕切り壁	
		エレベーター工事	24,000,000	本体 1,100 万円、杭 500 万円 鉄骨その他 800 万円	
		防火戸改修	12,400,000	階段防火戸撤去新設	
	電気工事費	電灯工事	16,000,000	照明 LED 化、非常照明・誘導灯設置、 コンセント増設	
		動力工事	2,500,000	エアコン電源、屋内消火栓 電源、動力幹線の改修	
		受変電設備	20,000,000	屋外型キュービクル電灯・動力	
		防災・防犯設備	16,400,000	誘導支援（トイレ呼出・ドアフォン）、 防犯、拡声（非常放送設備）、 配電線路、通信、TV	
	機械設備費	空調工事	20,000,000	ガスヒートポンプ式	
		換気設備工事	5,000,000	天井扇による第 3 種換気	
		給排水工事	7,000,000	トイレ改修に伴う給排水改修	
		衛生設備工事	10,000,000	洗浄便座付洋式便器へ変更	
		消火・ガス工事	3,700,000	消火設備・ガス給湯器等	
	合計			246,300,000	
	体育館		雨樋修繕	2,000,000	
			仮設工事(足場等)	3,300,000	
			床改修(部分)	3,000,000	
			ガラス飛散防止フィルム	3,000,000	
合計			11,300,000		
屋外施設		外構工事	9,700,000	デッキ、スロープ、駐車場、 雨水排水処理、遊具撤去	
	合計			9,700,000	

全体	直接工事費	267,300,000 円	
	諸経費等含む	441,045,000 円	直接工事費×1.5×1.1

### 3.9. 管理運営方法の検討

#### 3.9.1. 管理運営方法の整理

(1) 市直営

つくば市職員を必要人数配置し、施設の利用管理や維持管理とともに、文化芸術事業の企画・立案を行う。

(2) 業務委託

施設の利用管理、維持管理、文化芸術事業の企画・立案を含めて、市が業務内容を決定し、民間事業者に発注する。

(3) 指定管理者制度

施設の利用管理、維持管理、文化芸術事業の企画・立案を含めて、指定管理事業者を市が公募又は非公募により選定する。

(4) その他財源確保の方策（ネーミングライツ等）

施設に名称（愛称）をつける権利で、施設の運営資金を調達するための方法である。

## 3.9.2. 管理運営の考え方

## (1) 各運営方式の比較

前項で整理した運営方式の違いを次のように表す。ネーミングライツは、各運営方式と併用することが可能である。

表 3-24 各運営方式の特徴

	市直営	業務委託	指定管理	ネーミングライツ
運営～ 受託主体	市	限定なし	法人 その他の団体	各運営方式と 併用可能
法的性格	—	公法上の 契約関係	管理代行	
施設設置	市	市	市	
施設管理	市	市	指定管理者	
施設の 使用許可	市	市	市又は 指定管理者	
基本的な利用 条件の設定	市	市 (受託者ではない)	市 (指定管理者ではない)	
メリット	事業の企画・立案について市の意向を臨機応変に反映することができる	専門性のある事業者が参入することにより、施設の有効活用が見込まれる	指定管理者の努力による維持管理費縮減・企画の立案など、民間活力の活用が期待される	企業からの収入を得ることで、運営管理費の拡充に繋げることができる
デメリット	専門性のある職員を採用・配置しなければ、施設の有効活用は難しい	企画内容について市の意向を臨機応変に反映することは難しくなる	企画内容について市の意向を臨機応変に反映することは難しくなる	施設維持管理や事業そのものに民間活力の参入を望むのは難しい場合が多い

以上を踏まえ、各運営方式の特徴を整理し、比較検討を行った。

表 3-25 各運営方式の比較

評価視点	市直営	業務委託	指定管理	ネーミングライツ
維持管理費	経費負担がかさむ	経費圧縮が可能	指定管理者の努力による利用料金を収益源とする場合は維持管理費縮減が可能	企業からの収入を得ることで、運営管理費の拡充に繋げることができる
行政意向の反映	直営のため行政意向を随時反映できる	委託期間内の意向変更に対応しにくい	指定管理者独自の判断により企画・運営	確保した資金を管理運営に回すことが可能
人員確保	人員数を自前で確保する必要がある	外部委託により人員削減が可能	指定管理者による運営のため人員削減が可能	直接の人員確保には繋がらない
民間創意工夫の発揮	直営のため困難	限定的だが可能	一定の裁量が与えられるため最大限発揮が可能	創意工夫は発揮されづらい

## (2) 管理運営の考え方

近年、文化芸術施設の管理運営には、民間ノウハウや民間資本の活用が不可欠であるが、文化芸術創造拠点は廃校を利活用する施設で地域との関連性が高いことから、地域との連携も求められる。

また、つくば市における文化芸術のプラットフォーム形成をしていくに当たり、つくば市の文化芸術資源と文化芸術をコーディネート・マネジメントしていく人材育成とともに、その手法を成熟させていくことが必要である。

以上を考慮し、民間活力を導入すること、施設管理にも地域住民が参画すること、また、施設の運営委員会を組織するなど、今後、実施設計を通じて文化芸術創造拠点の機能や性格が確立された時点で、管理運営手法を決定していくこととする。

### 3.9.3. 概算維持管理費

#### (1) 算出方法

維持管理の方針については、本計画策定の段階で施設全体の運営形態及び体制の確定には至ってはいないが、指定管理者制度による民間活力の導入及び市民活動団体との協力等を念頭に置き、持続可能な維持管理を目指すこととする。

これを前提として、本計画では、一般的な指定管理者制度をベースに維持管理費の検討を行った。本計画の内容に近似した市内外の施設を参考に維持管理費を算出した。

#### (2) 概算維持管理費

本施設の概算維持管理費は年間約 47,690,000 円となる。

### 3.10. 整備スケジュール

表 3-29 整備スケジュール

実施内容		1年目	2年目	3年目	4年目
		令和4年度 2022年	令和5年度 2023年	令和6年度 2024年	令和7年度 2025年
文化 芸術 創造 拠点	基本計画				
	設計		 基本・実施設計		
	手続期間				
	建設工事				 





**つくば市文化芸術創造拠点  
基本計画**

令和5年(2023年)3月

編集発行  
つくば市 市民部 文化芸術課  
〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1  
TEL 029-883-1111(代表)



# つくば市 文化芸術創造拠点 基本計画（案）

令和5年(2023年)3月

概要版



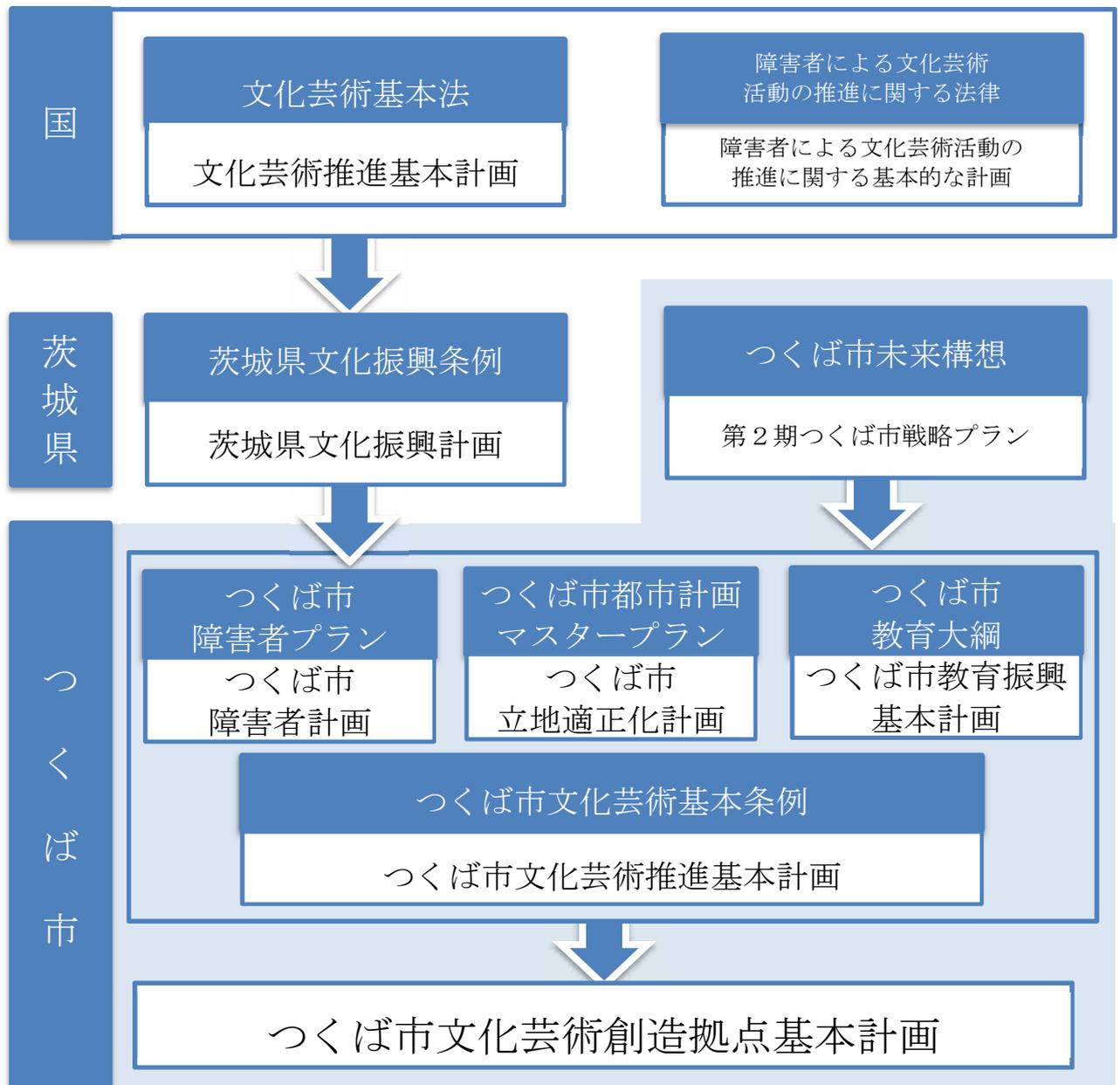
これからの  
やさしさの  
ものさし  
つくばSDGs

## 計画の背景と目的

つくば市では「つくば市文化芸術推進基本計画」を平成31年（2019年）3月に策定し、同計画において、基本的方向5「文化芸術を实践するまち つくば」の基本施策9「プラットフォームの形成」における主要施策として「文化芸術創造拠点の形成」が掲げられた。

文化芸術創造拠点の目指すべき方向性の具体化を図ることを目的とし、令和3年（2021年）9月に市長から「文化芸術創造拠点の形成」について諮問をし、つくば市文化芸術審議会が開催され、審議の結論として、「文化芸術創造拠点の計画地は、旧田水山小学校とする」こと、「文化芸術創造拠点の整備に向け、文化芸術創造拠点基本計画の策定に着手する」ことの2点が、令和4年3月に市長に答申された。

本計画は、「つくば市文化芸術推進基本計画」に即して定め、本市の既存関連計画及び国や茨城県等の法令、条例等や計画との整合性に配慮する。



## 敷地・建築物の分析

## 計画位置

所在地	つくば市水守 620 番
敷地面積	11,777 m <sup>2</sup>
都市計画区域区分	市街化調整区域
用途地域	なし
法定建蔽率	60%
法定容積率	200%



## 教室棟

建物名称	田水山小学校
建築主	つくば市
竣工年月	平成7年(1995年)2月
建築面積	1001.76 m <sup>2</sup>
延床面積	2,510 m <sup>2</sup>
階数	地上3階
建築の構造	鉄筋コンクリート造
建築物の高さ	軒高15m、1階：3.95m、 2階：3.95m、3階：3.85m
耐震性能	新耐震



## 屋内運動場

建物名称	筑波勤労者体育センター
建築主	つくば市
竣工年月	昭和57年(1982年)2月
建築面積	930.37 m <sup>2</sup>
延床面積	845.72 m <sup>2</sup>
階数	地上2階
建築の構造	鉄筋コンクリート造
建築物の高さ	軒高7.85m、最高高10.365m
耐震性能	新耐震



## 基本計画

### ビジョン・コンセプト

#### ○ビジョン（展望）：アートで編む（つくば市文化芸術推進基本計画より）

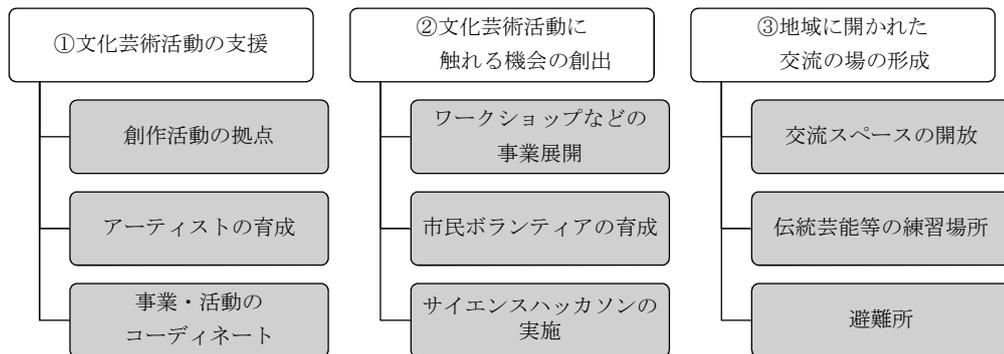
市の多面的な魅力を構成する1本1本の糸を、文化芸術によって連携させていくことで、新しい文化芸術を創造し、大きな「まち」という布を織る。

#### ○コンセプト（行動原理）：出会う・つながる・創造する

人、モノ、情報が出会い、そこからつながりが生まれ、つながりから新たな価値観やつくば独自の文化芸術を育む。

### 文化芸術創造拠点の活用方法

文化芸術創造拠点は、つくば市の文化芸術に関するプラットフォーム形成に係る取り組みを集約し、体現した施設として、プラットフォーム形成におけるあらゆる機能の基軸となる。文化芸術創造拠点の基本施策3点と、それぞれに紐づく具体的な取り組みは次のとおりである。



### 中長期の事業展開

- ・施設の認知度
- ・稼働率の向上
- ・創作、発表を行える場としての開放
- ・地域利用スペースの開放
- ・アーティスト、芸術を学ぶ学生等とつながる
- ・専門職の雇用
- ・企業、研究機関などとネットワーク構築

- ・文化芸術のコーディネート、マネジメントができる人材の育成、配置
- ・アーティストとつくばの文化資源を結び付ける
- ・アーティストの経験の場としてアートイベントを実施

- ・市内外の人々がつくば市の文化資源を活用したアートに触れる機会の創出
- ・つくば市の文化資源を活用した「つくば市独自のアートを発信」

市の文化芸術活性化を担う  
アートの発信拠点

次世代の芸術活動・芸術家発掘・育成の場

市内の芸術活動を支える交流の場の形成

供用開始

中期（2～5年）

長期（6年目）

## サイエンスハッカソンの実施

施設の主要事業としてつくばの特性を活かした「サイエンスハッカソン※」を実施する。

「サイエンスハッカソン」では、アーティストが研究機関等を視察・見学したり、研究者との対話を行ったりする中で着想し、創作を行う。この事業をとおして、文化芸術と市内機関のコラボレーションを目指し、コーディネートを実施していくとともに、ネットワークの構築を体現し、プラットフォーム形成の取り組みの一助とする。

事業を推進していくことにより、つくば市の様々な機関との連携が行われるため、ネットワーク構築を推進することができる。また、文化芸術と、それに携わる人が地域の文化資源と交わるコーディネートも併せて推進することができる。

※ハッカソン (hackathon) とは、ハック (hack) とマラソン (marathon) を掛け合わせて造られた造語。

## 導入機能

### 施設の導入機能（ハード面）

事業年度	類型	導入機能	活動の想定
供用開始～中期	創作発表鑑賞	創作室	絵画・彫刻・書道・工芸 他
		スタジオ	楽器演奏・歌唱・演劇・ダンス・バレエ・リハーサル他
		ギャラリー	作品展示・鑑賞・発表・交流
		控室・更衣室	—
	交流学习	多目的スペース	ワークショップ・講演会・地域イベント 他
		特別展示室	サイエンスハッカソン・作品展示・鑑賞・発表・交流
		地域利用スペース	集会、交流会
		図書・情報コーナー	芸術情報展示・パンフレット配布・イベント告知・郷土史展示・デジタルサイネージ 他
		書庫	施設の企画や管理運営・文化芸術に関連する書類の収蔵
	管理機能	管理室・事務室	—
		駐車場・駐輪場	—
		多機能トイレ	—
	防災	避難所 防災倉庫 災害用井戸	災害時における避難
	屋外施設	グラウンド広場、ステージ	運動場、屋外ステージ

## 文化芸術創造拠点の導入機能（ソフト面）

導入機能について、供用開始からの段階ごとに詳細を検討する。なお、前段階で示した内容は継続していくものとする。

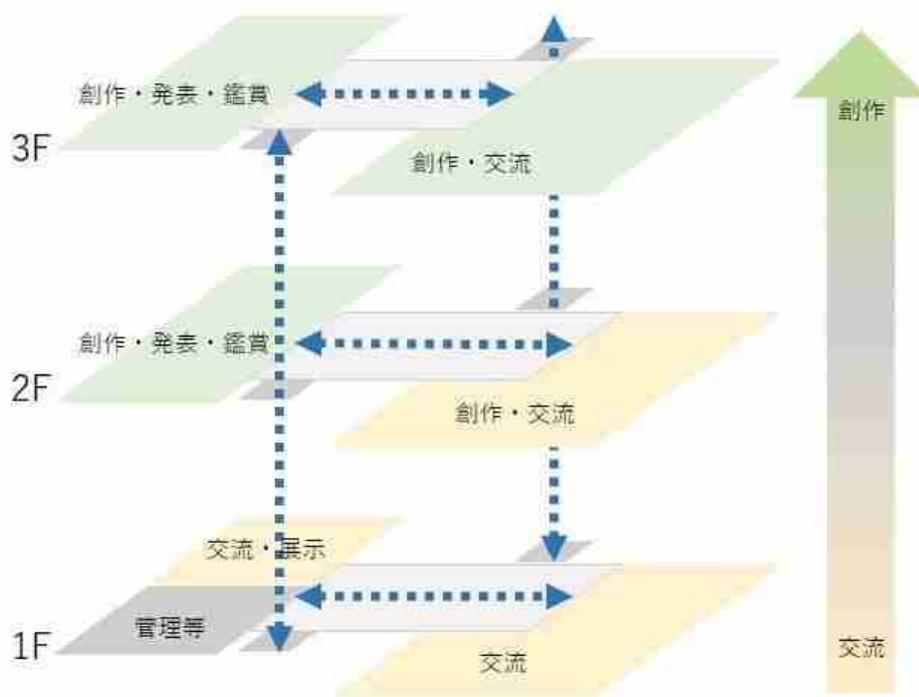
事業年度	導入機能	詳細
供用開始時点（ ）	交流スペース	・地域の交流スペースの開放
	創作・発表・鑑賞の場の提供	・短期的・単発的な創作活動・発表の場としての教室貸出し ・ギャラリー等、鑑賞スペースとしての利用
	ワークショップ	・地域住民向けワークショップの開催
	ネットワークの構築	・文化芸術団体の情報収集 ・市内文化芸術施設と連携した事業の実施 ・研究機関などとの連携の推進 ・サイエンスハッカソンの推進
	アーティストの発掘	・市内で活動するアーティストの把握 ・文化芸術を学ぶ学生などの把握
	人材育成	・人材育成を目的とした専門職の雇用
	文化芸術情報収集・提供	・市内の文化芸術に関する情報の収集・提供
	文化芸術アーカイヴ	・記録の蓄積・公開
中期（2～5年目）	交流スペース	・アーティストなどの利用者も含めた地域住民との交流
	ワークショップ	・アーティスト向けワークショップの開催
	人材育成	・文化芸術資源をコーディネート・マネジメントできる人材育成・配置 ・市内アーティストの育成 ・市民ボランティアの育成
	ネットワークの構築	・アーティスト間のネットワーク構築
	コーディネート機能	・アーティストが市内研究所などと協働した創作活動やコラボレーションの推進
長期（6年目）	交流スペース	・市内外の利用者も含めた様々な利用者の交流
	ワークショップ	・市外の人を対象としたワークショップの実施
	コーディネート機能	・施設利用者などが求める文化芸術情報・活動などをつなげるコーディネート

## 整備方針

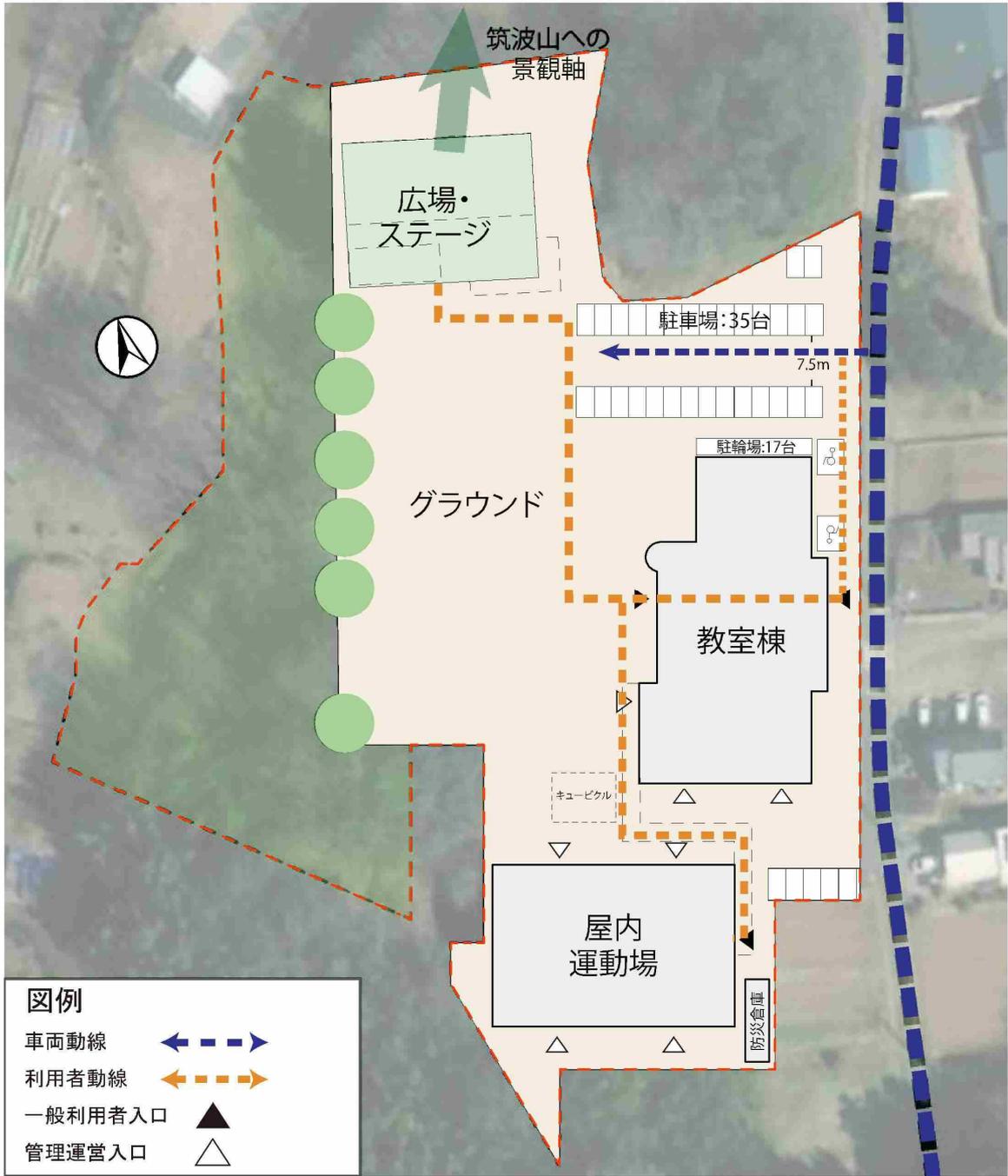
項目	整備方針
教室棟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術創造拠点の役割を担う</li> <li>・災害時は避難所の役割を担う</li> </ul>
屋内運動場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体スポーツ活動の場とする</li> </ul>
屋外運動場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドを整備、遊具は撤去する</li> <li>・交流・憩いスペースとする</li> <li>・災害時は応急活動の拠点として利用する</li> </ul>
プール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プールの付帯建築物は撤去する</li> <li>・プールの老朽化している部分は改修し、ステージ・交流・憩い・屋外活動の広場、筑波山の眺望施設として利用する</li> </ul>
インフラ設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気設備、空調設備、機械設備、給排水設備、ガス設備、インターネット環境等の各種インフラ供給の再整備</li> </ul>

## 施設利活用計画

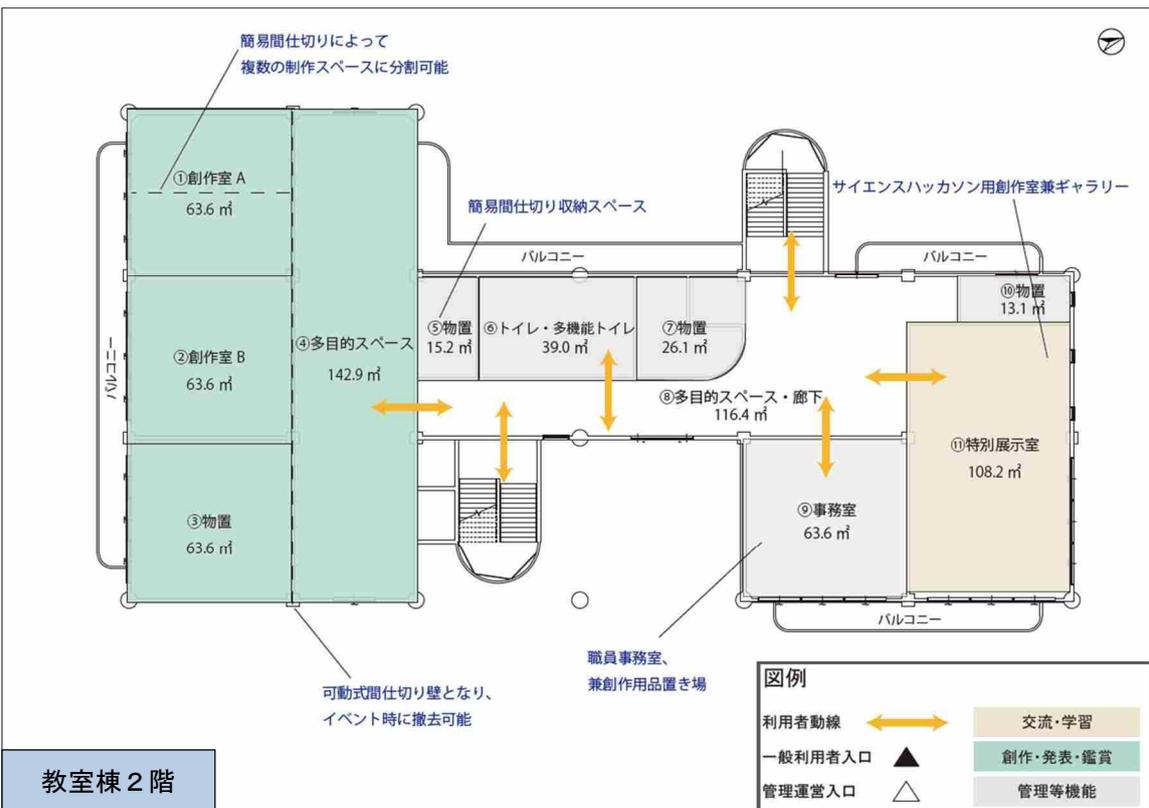
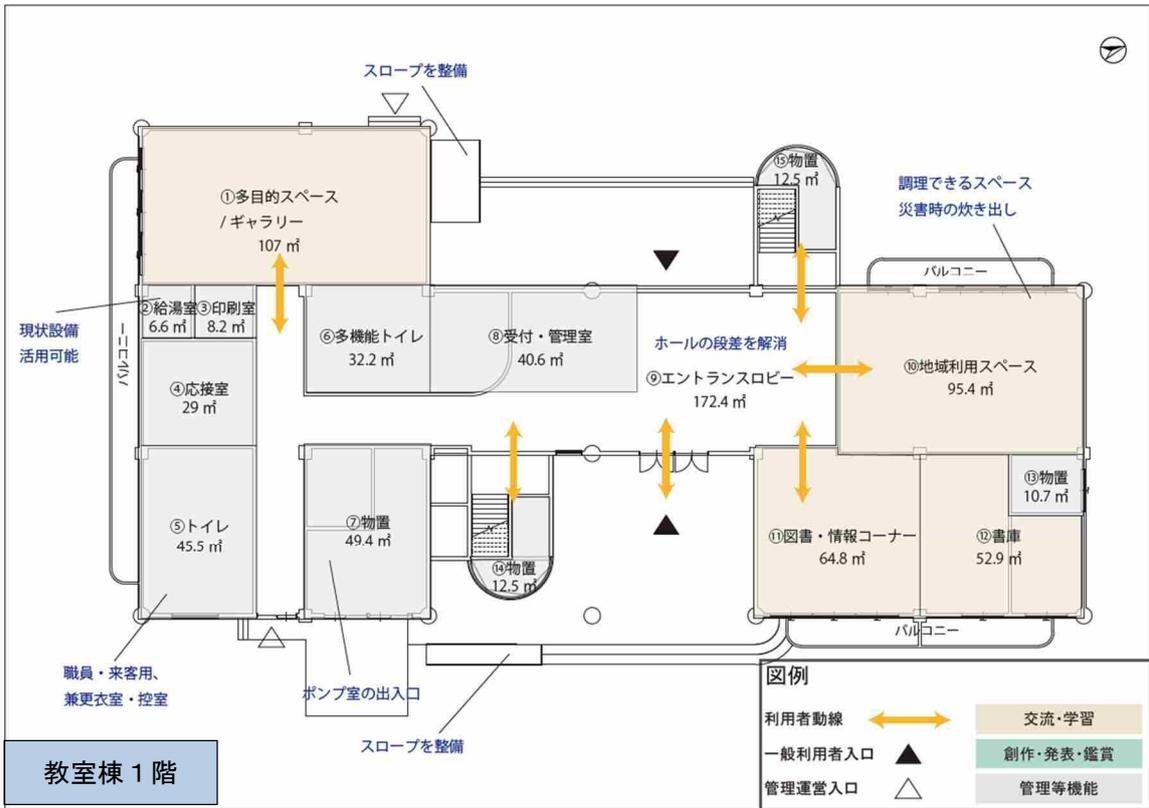
エントランスホールから近いほど、地域住民の利用が多く、利用者同士の交流を積極的に促し、にぎわいのある活動を行うことができる。上の階に行くほどアーティストの利用が多くなり、創作活動を行うことができる場を設けることを想定した。

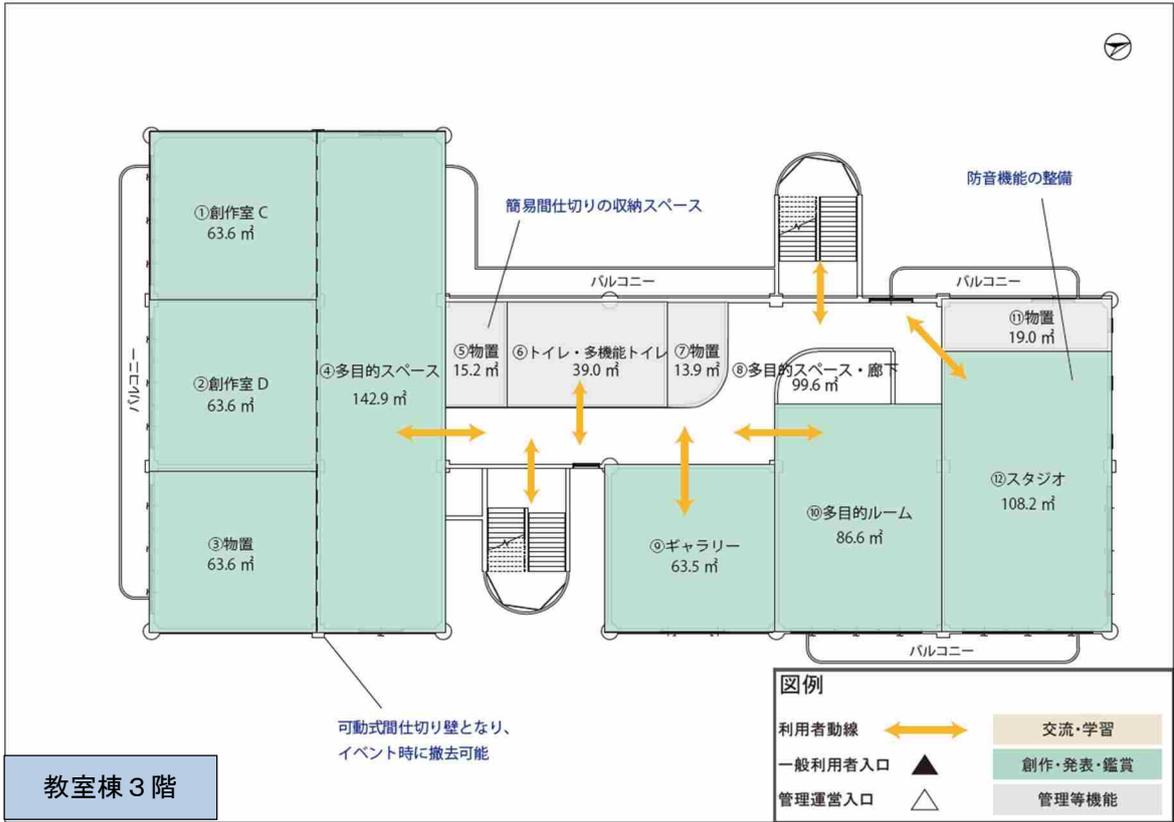


土地利用計画



各階利活用計画





概算事業費

対象	概算 (円)	備考
教室棟	17,000,000	仮設工事
	128,700,000	建築工事(外壁修繕、建具修繕、内装工事 等)
	54,900,000	電気工事費(電灯工事、動力工事 等)
	45,700,000	機械設備費(空調工事、給排水工事 他)
教室棟合計	246,300,000	
体育館	11,300,000	雨樋修繕、仮設工事、床改修 等
屋外施設	9,700,000	デッキ、スロープ、駐車場、雨水排水処理 等
全体	267,300,000 円	直接工事費
	441,045,000 円	諸経費等含む (直接工事費×1.5×1.1)

※備品購入費は別途見込むものとする。

## 想定される管理運営方法

市直営	つくば市職員を必要人数配置し、施設の利用管理や維持管理とともに、文化芸術事業の企画・立案を行う。
業務委託	施設の利用管理、維持管理、文化芸術事業の企画・立案を含めて、市が業務内容を決定し、民間事業者に発注する。
指定管理者制度	施設の利用管理、維持管理、文化芸術事業の企画・立案を含めて、指定管理事業者を市が公募又は非公募により選定する。
その他の財源確保の方策	施設に名称（愛称）をつける権利で、施設の運営資金を調達するための方法。

文化芸術施設の管理運営には、民間ノウハウや民間資本の活用が不可欠であるが、文化芸術創造拠点は廃校を利活用する施設で地域との関連性が高いことから、地域との連携も求められる。

民間活力を導入すること、施設管理にも地域住民が参画すること、また、施設の運営委員会を組織するなど、今後、実施設計を通じて文化芸術創造拠点の機能や性格が確立された時点で、管理運営手法を決定していくこととする。

## 概算維持管理費

本計画では、一般的な指定管理者制度をベースに維持管理費の検討を行った。本計画の内容に近似した市内外の施設を参考に維持管理費を算出した。

本施設の概算維持管理費は年間約 47,690,000 円となる。

## 整備スケジュール

実施内容		1年目	2年目	3年目	4年目
		令和4年度 2022年	令和5年度 2023年	令和6年度 2024年	令和7年度 2025年
文化 芸術 創造 拠点	基本計画				
	設計				
	手続期間				
	建設工事				



**つくば市文化芸術創造拠点  
基本計画概要版**

令和5年(2023年)3月

編集発行

つくば市 市民部 文化芸術課

〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1

TEL 029-883-1111(代表)

様式第5号（第10条関係）

パブリックコメント実施結果報告書  
【案件名：つくば市文化芸術創造拠点基本計画（案）】

令和5年（2023年）3月  
つくば市 市民部 文化芸術課

## ■ 意見集計結果

令和5年(2023年)1月30日から2月28日までの間、(つくば市文化芸術創造拠点基本計画(案))について、意見募集を行った結果、6人(団体を含む。)から25件の意見の提出がありました。これらの意見について、適宜要約した上、項目ごとに整理し、それに対する市の考え方をまとめましたので、公表します。

提出方法別の人数は、以下のとおりです。

提出方法	人数(団体を含む。)
直接持参	0人
郵便	0人
電子メール	0人
ファクシミリ	0人
電子申請	6人
合計	6人

## ■ 意見の概要及び意見に対する市の考え方

### ○ p3.36 3.1.1.ビジョン・コンセプト について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	<p>ビジョン(展望)の内容とコンセプト(行動原理)の内容が逆になっていないか。</p> <p>「期待する」は心の中で思うことなので行動ではない。何か「生まれる」ことは将来起きて欲しいことなので、それを期待することは将来を展望するということである。</p> <p>一方、具体的な行為である「布を織る」を抽象化して行動原理を説明するのは、哲学的だが違和感はない。</p>	1件	<p>コンセプト(行動原理)の「期待する」は「あてにして心待ちにする」という意味ではなく、「将来それが実現するように待ち構える」という意味で使用しました。行動原理とは、行動の根源的な動機となる信条や価値観ですので、具体的な表現よりは、抽象的な表現の方がふさわしいと考えます。</p> <p>御指摘いただいた内容を踏まえて検討した結果、より分かりやすい表現となるよう、「つくば独自の文化芸術を育む」という文言に修正します。</p>

2	「あらゆる人、モノ、情報が出会い」という表現について、「あらゆる」は必要か。言いたかったのは「あらゆる人」ではなく「色々な人」ではないか。「人、モノ、情報が出会い」が良いと思う。	1件	御指摘いただいた表現の方がより簡潔になるため、コンセプトの書き出しについては、「人、モノ、情報が出会い」という文言に修正します。
---	---	----	--

### ○ 基本方針 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	サイエンスハッカソンの実施によって科学と芸術をつなぐ拠点することは「つくば」らしく、素晴らしい。 つくば市は研究機関が多く、科学者や海外出身の方が多く居住する一方、農業従事者等も多くいるが、あまり交流する機会もなく分断されている印象である。このような拠点で交流する機会を持つことは有意義ではないかと思う。	1件	令和4年(2022年)度つくば市民意識アンケート結果からも、「市外の友人に紹介したい(自慢したい)と思う」項目は多種多様であることがうかがえます。 市民が考えるつくばらしさをいかした事業を展開するとともに、多様な人々が文化芸術を通じて交流することを目指し、今後の計画の参考とさせていただきます。
2	サイエンスハッカソンについて、つくばらしさを意識すると、科学と芸術の融合が挙げられることは理解できるが、事業内容はデジタルアートの分野に限らず、広い視野を持ったものになることを期待する。	1件	科学と融合した文化芸術には、メディアアートのみならず多様な形態が想定されます。つくば市で2019年に実施したサイエンスハッカソンでは、小説とのコラボレーションも生まれました。 多様な文化芸術のプラットフォームとなるよう、今後の事業推進の参考とさせていただきます。

3	文化芸術振興基本法において「映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術」と定義されるメディア芸術も対象なのか。	1件	つくば市では、文化芸術振興基本法を参考として、平成31年(2019年)につくば市文化芸術推進基本計画を策定し、計画の対象範囲として「メディア芸術」の分野を挙げています。 本計画は、つくば市文化芸術推進基本計画の下位計画ですので、上位計画の方針に基づき、メディア芸術も対象として事業を推進してまいります。
4	情報系同人誌などのイベントをつくば市でも開催できれば文化創造になると思う。つくばで科学系研究者や技術者の書いた技術書典や医療系の本、海外留学生、研究者などの書いた海外の暮らしや文化の書いた本などのイベントができるようになれば良いと思う。	1件	事業については、今後、詳細を検討してまいりますので、いただいた御意見は、その際の参考とさせていただきます。
5	市内規模で企画、展示、集客を考えているのは集客できない。地域交流センターと違いを出すなら、有料の展示会や作品販売ができるといい。つくば市には全国規模、関東レベルの展示会の巡回展を招致できるような施設がない。	1件	将来的には、市外の方も集客できるような事業を実施していきたいと考えていますので、施設の利用規則・利用方法なども含め、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
6	土浦市のように、市内を舞台にアニメ化された作品やマンガ作品の展示会をすれば、ファンがつくば市までやって来ると思う。	1件	アニメーション作品とコラボレーションした企画を推進している自治体は日本各地にありますので、他自治体の事例を参照しながら、今後の事業検討の参

			考とさせていただきます。
7	現代サイエンスアート系の「金沢 21 世紀美術館」や「チームラボミュージアム」、東京都の「科学未来館」などとの連携や企画展巡回ができるような施設がほしい。	1件	御意見いただいた現代サイエンスアートに属する事業として、科学と文化芸術のコラボレーション企画であるサイエンスハッカソンを、文化芸術創造拠点の事業として推進してまいります。
8	中心的要素について、文化創造拠点としてスタートアップを推進する事業を行う方針は良い。文化創造拠点は、まだ誰も見たことのない、新しい芸術や価値観を創造する場所であるべき。既存の概念にとらわれない、自由な発想の事業展開を期待する。前例のないことを歓迎する気風が必要ではないか。	1件	文化芸術は多種多様な価値観を表現するためのものでもありますので、自由な発想に基づいた事業の展開は歓迎すべきものと考えます。いただいた御意見は、今後の事業推進の参考とさせていただきます。

### ○ 施設の利用方法 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	作品発表の機会として利用できるか。複数の展示会は同時にできるか。また、使用可能な機材など、施設の利用に関する規則や詳細が知りたい。	1件	施設の利用方法や事業規模については、令和5年（2023年）度以降の施設整備設計等の中で引き続き検討してまいりますので、いただいた御意見は、その際の参考とさせていただきます。
2	営利、非営利活動の区別なく利用者の金銭のやり取りは可能とするのか、不可とする場合、非営利の実費程度のやり取りも不可とするのか。	1件	施設の利用方法や事業規模については、令和5年（2023年）度以降の施設整備設計等の中で引き続き検討してまいりますので、いただいた御意見は、その

			際の参考とさせていただきます。
3	コンサートなど、音楽の催しは実施できるのか。	1件	周囲の民家に影響を及ぼすような利用方法については避ける必要がありますので、いただいた意見を踏まえ、利用規則について詳細を検討してまいります。
4	市民以外も利用できるのか。また、市民が市外の団体などを呼んで公演などを行うことや、市外の主催団体での申込みは可能か。	1件	市内の類似施設の利用規則等を踏まえ、詳細を検討してまいります。
5	常設の展示会向けの専任スタッフ（学芸員など）がいたほうが展示会もできる。つくば市には筑波大の芸術学部などもあるので展示会企画展などのことも対応をやってほしい。	1件	本計画中でも、「文化芸術創造拠点はプラットフォーム形成に係る取組を集約し、体現した施設として、プラットフォーム形成におけるあらゆる機能の基軸となる。しかし、プラットフォーム形成に係る全ての取組を文化芸術創造拠点で完結させず、そこから出合いやつながりを創出する拠点となることを目指す」としています。 様々なつくば市内の機関との連携も見据え、今後の事業推進の参考とさせていただきます。

○ 施設の整備 について

1	バスが不便で、最寄りのバス停から遠すぎる。施設が完成したら、つくバスが通るように考えてほしい。	1件	現状、つくバス北部シャトルが施設付近の学園東大通り沿いを運行しておりますが、施設へと向かうコース変更は、施設周辺の道が狭く車両の通行が困難
---	---	----	---

			なため、難しい状況です。
2	多目的トイレを設置する計画だが、車椅子の障害者も施設を利用できるように、段差の解消やエレベーターの設置、また、多目的トイレにはユニバーサルベットの設置をしてほしい。	1件	<p>令和3年（2021年）3月に策定されたつくば市障害者プランの中でも、「公共施設等においてバリアフリー化を含めた公共施設の環境整備に努め」としており、本計画でも、「バリアフリー法等、各種法令に適応した施設整備」を目標としております。</p> <p>施設の具体的な整備内容は、令和5年（2023年）度以降の施設整備設計等の中で詳細を検討しますので、いただいた御意見はその際の参考とさせていただきます。</p>
3	聴覚障害者向けに、筆談ボードを配備してほしい。また、音声アナウンスだけでなく、電光掲示盤などを設置し、文字での情報提供にも配慮してほしい。	1件	<p>施設の具体的な整備内容は、令和5年（2023年）度以降の施設整備設計等の中で引き続き検討してまいりますので、いただいた御意見は今後の検討の際の参考とさせていただきます。</p>
4	障害当事者の意見も入れた改修工事を実施してほしい。	1件	<p>今回実施したパブリックコメント以外の方法でも、利用者目線での意見を取り入れることができるよう、今後の施設整備の参考とさせていただきます。</p>
5	アーティスト滞在型の事業展開を視野に入れ、簡易な宿泊機能を持たせる整備を提案する。	1件	<p>宿泊機能については、消防法など関連法令との調整が必要ですので、代替手段も視野に入れ、実現の可能性について詳細を検討してまいります。</p>

6	スタジオルームにスクリーンなど上映できる機材の整備や、多目的スペースに演劇的なパフォーマンスの使用を想定した整備をしてほしい。	2件	施設の整備内容については、令和5年（2023年）度以降の施設整備設計の中で引き続き検討してまいりますので、いただいた御意見は、その際の参考とさせていただきます。
---	---	----	--

○ p.3.74 3.9.2.(2)管理運営の考え方 について

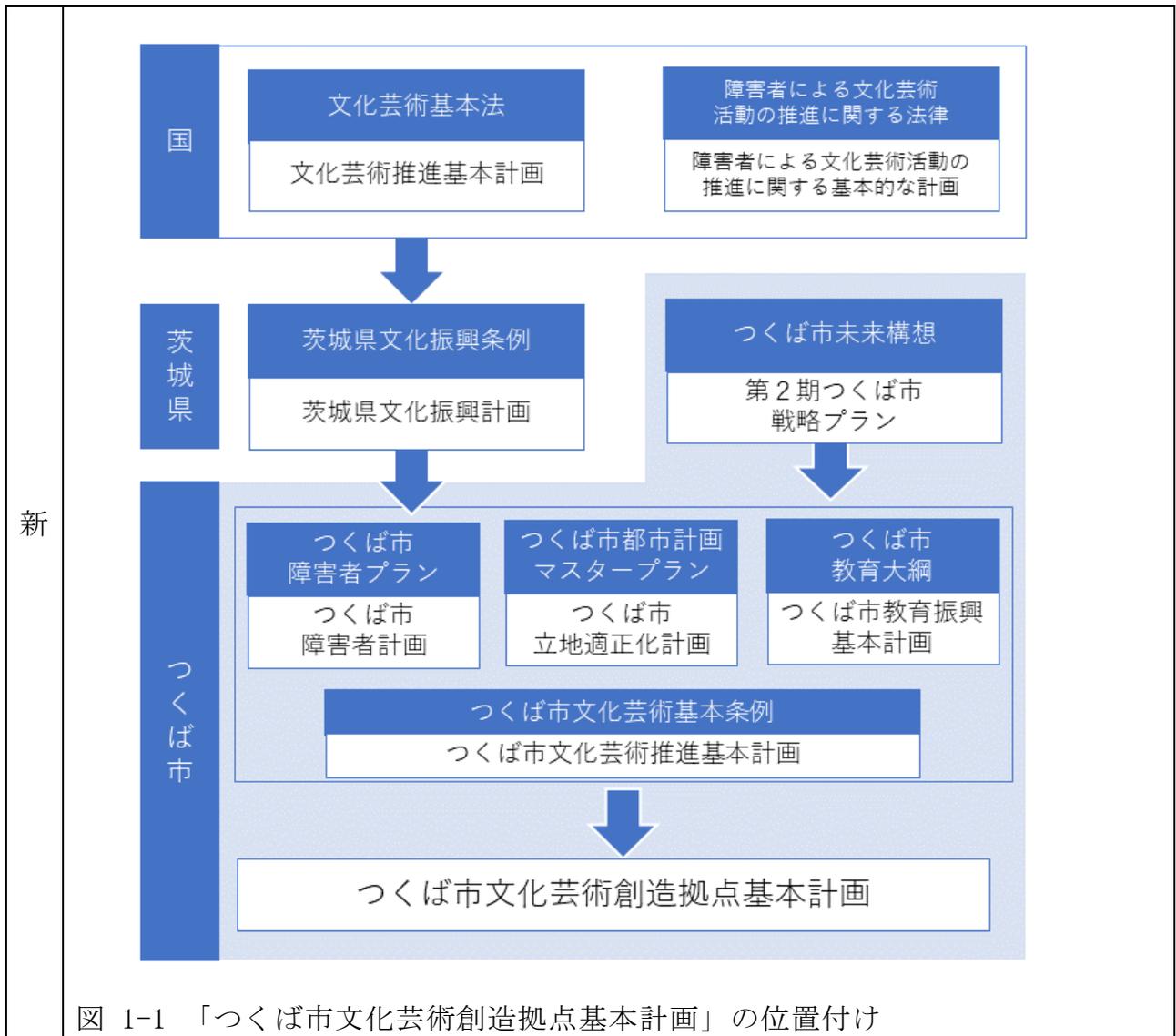
1	運営について、市民を中心とした運営委員会の設置を望む。	1件	<p>他の自治体で廃校を利活用した施設においても、運営委員会を組織し、市民を中心とした利用者の意見を取り入れた運営を意識している施設は多くあります。</p> <p>他自治体の事例を踏まえ、当施設における詳細を検討してまいります。</p>
---	-----------------------------	----	--

■ 修正の内容

p1.2. 1.2.計画の位置付け について

修正前	修正後
図 1-1 「つくば市文化芸術創造拠点基本計画」の位置付け	<p><u>関連計画を追記するため、表を修正</u></p> 図 1-1 「つくば市文化芸術創造拠点基本計画」の位置付け

※パブリックコメントによるものではありませんが、関連する計画を追記しました。



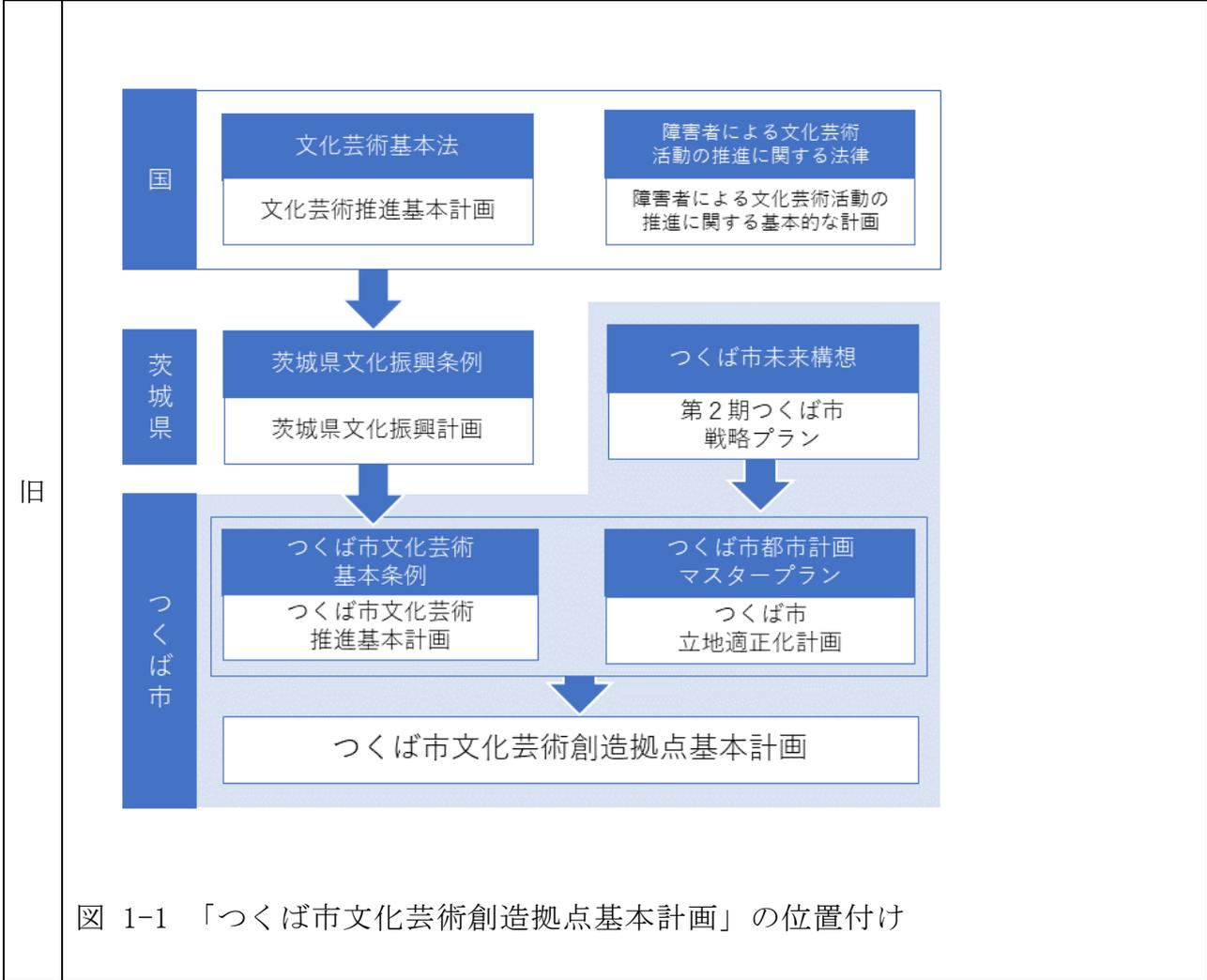


図 1-1 「つくば市文化芸術創造拠点基本計画」の位置付け

## ○ p.2.31 2.2.3.(2)文化芸術市民意識調査 について

修正前	修正後
<p>(1 段落目) 平成 30 年 (2018 年) に実施された文化芸術市民意識調査の中で、「文化芸術の満足度」「つくば市の文化芸術振興に今後重要なこと」は、次のように評価されている。</p>	<p>令和 4 年 (2022 年) に実施された文化芸術市民意識調査の中で、「文化芸術の満足度」「つくば市の文化芸術振興に今後重要なこと」は、次のように評価されている。</p>
<p>(ア 文化芸術の満足度)</p> <p>「文化芸術に関する人材育成」「伝統的な文化芸術の保存・活動がされている」「それぞれの文化芸術活動が連携している」について、「非常に満足」「やや満足」との肯定的な回答がそれぞれ 2 割未満となっており、他の回答項目と比較しても低くなっている。また、「わからない」との回答も、それぞれ 6 割を超えている。</p>	<p>「すべての人にとって文化芸術が身近となるような環境」「文化芸術に関する人材育成」「市内の文化芸術施設を整備・活用し、他施設とも関わりを持った賑わいの創出」について、「満足」「どちらかといえば満足」との肯定的な回答が 5 割未満となっており、他の回答項目と比較しても低くなっている。</p>
<p>図 2-19 文化芸術の満足度</p>	<p>最新調査結果を反映するため図を差替えました。 図 2-19 つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する現状の満足度</p>
<p>イ つくば市の文化芸術振興に今後重要なこと</p> <p>「文化芸術施設が整っている」こと、「文化芸術に関する情報が充実している」ことについて、「非常に重要」「やや重要」の回答率合計が、それぞれ 7 割を超えている。</p>	<p>「優れた文化芸術を鑑賞する機会の提供」が最も多く、次いで「プロのアーティストとの触れ合う機会の提供」「周辺地区にある施設について、設備・運営の充実を図ることによる利活用の促進」となっている。</p>

<p><u>図 2-20 つくば市の文化芸術振興に今後重要なこと</u></p> <p>＝</p>	<p><u>最新調査結果を反映するため図を差替えました。</u></p> <p><u>図 2-20 つくば市の文化芸術振興に関する取り組みにおける今後の重要度</u></p>
<p>記載なし</p>	<p><u>ウ 文化芸術創造拠点に対して求める機能</u></p> <p><u>「制作や発表、鑑賞・体験の場の提供」が回答としては最も多く、次いで「地域の交流スペースの提供」「防災・災害時の避難場所機能」となっている。</u></p>
<p>記載なし</p>	<p><u>最新調査結果を反映するため図を差替えました。</u></p> <p><u>図 2-21 文化芸術創造拠点に対して求める機能</u></p>

※パブリックコメントによるものではありませんが、調査結果等を最新のものに修正しました。

新

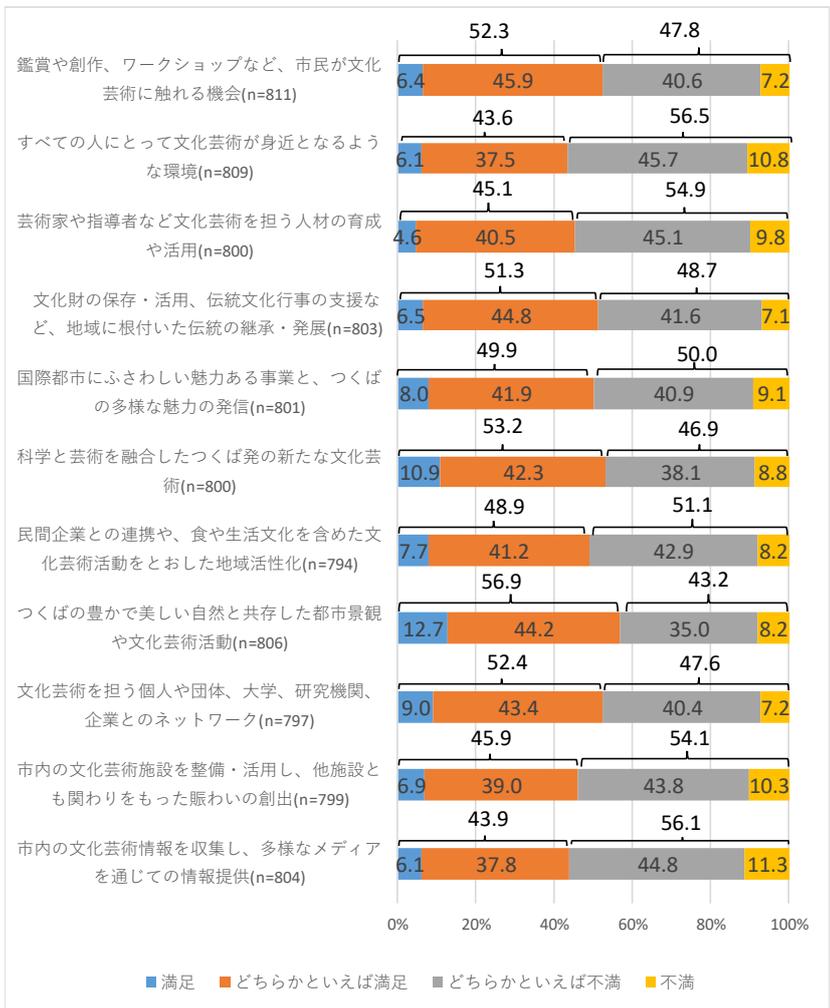


図 2-19 つくば市の文化芸術に関する取り組みに対する現状の満足度

旧

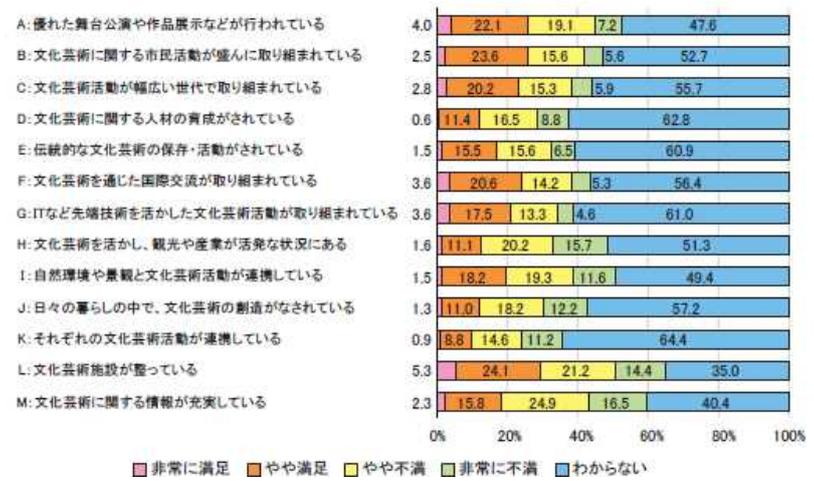


図 2-19 文化芸術の満足度

新

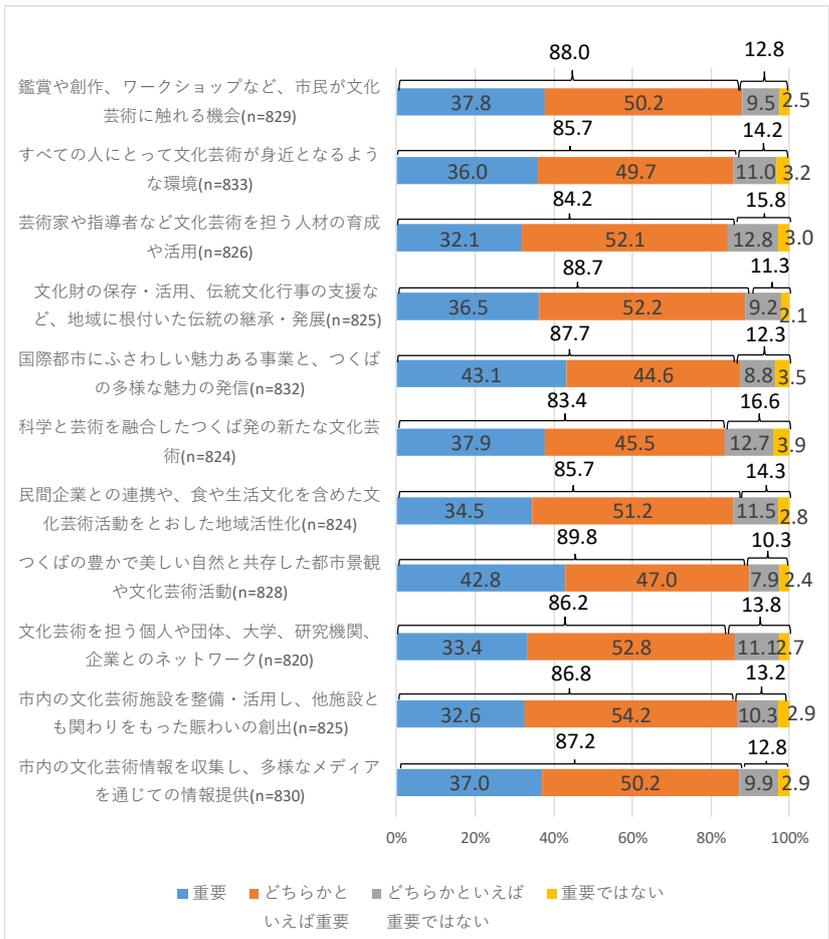


図 2-20 つくば市の文化芸術振興に関する取り組みにおける今後の重要度

旧

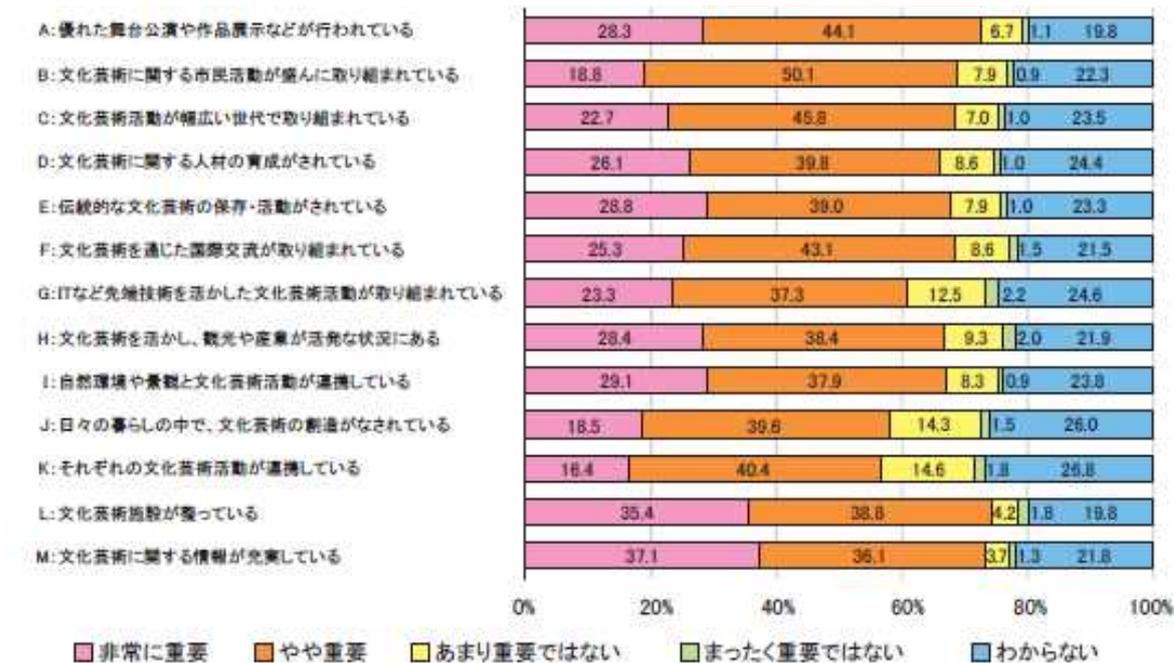


図 2-20 つくば市の文化芸術振興に今後重要なこと

<p>新</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>創作や発表、鑑賞・体験の場の提供</td> <td>59.4</td> </tr> <tr> <td>地域の交流スペースの提供</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>防災・災害時の避難場所機能</td> <td>37.6</td> </tr> <tr> <td>ワークショップの開催</td> <td>31.0</td> </tr> <tr> <td>アーティストの発掘・育成</td> <td>20.6</td> </tr> <tr> <td>文化芸術に関わる人と、望む情報や施設を繋げるコーディネート機能</td> <td>20.4</td> </tr> <tr> <td>地域伝統芸能等の練習スペースの提供</td> <td>18.0</td> </tr> <tr> <td>市主催の芸術展の開催</td> <td>16.3</td> </tr> <tr> <td>アーティストインレジデンスの実施</td> <td>11.5</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>図 2-21 文化芸術創造拠点に対して求める機能</p>	機能	割合 (%)	創作や発表、鑑賞・体験の場の提供	59.4	地域の交流スペースの提供	40.0	防災・災害時の避難場所機能	37.6	ワークショップの開催	31.0	アーティストの発掘・育成	20.6	文化芸術に関わる人と、望む情報や施設を繋げるコーディネート機能	20.4	地域伝統芸能等の練習スペースの提供	18.0	市主催の芸術展の開催	16.3	アーティストインレジデンスの実施	11.5	その他	3.1
機能	割合 (%)																						
創作や発表、鑑賞・体験の場の提供	59.4																						
地域の交流スペースの提供	40.0																						
防災・災害時の避難場所機能	37.6																						
ワークショップの開催	31.0																						
アーティストの発掘・育成	20.6																						
文化芸術に関わる人と、望む情報や施設を繋げるコーディネート機能	20.4																						
地域伝統芸能等の練習スペースの提供	18.0																						
市主催の芸術展の開催	16.3																						
アーティストインレジデンスの実施	11.5																						
その他	3.1																						
<p>旧</p>	<p>記載なし</p>																						

○ p2.35 2.3.1.(1)計画地の施設における課題(ハード面) について

修正前	修正後
(建築物の項、3項目目) 校舎等を避難場所として使用可能にするため、 <u>空調など各種施設の整備を検討する</u> 必要がある。	校舎等を避難 <u>所</u> として使用可能にする <u>必要がある</u> 。

※パブリックコメントによるものではありませんが、担当部署と協議のうえ、表現を適切なものに修正しました。

○ p3.37 3.3.1.表 3-1 文化芸術創造拠点のビジョン・コンセプト について

修正前	修正後
(5行目) <u>あらゆる人、モノ、情報が出会い、そこからつながりが生まれ、つながりから新たな価値観やつくば独自の文化芸術が生まれていくことを期待する。</u>	<u>人、モノ、情報が出会い、そこからつながりが生まれ、つながりから新たな価値観やつくば独自の文化芸術を育む。</u>

○ p3.41 3.2.1.(1) 表 3-2 施設に求められる機能 について

修正前	修正後
(避難所の項、概要) 災害時に <u>一時的に</u> 避難できる機能を有する。	災害時に <u>避難</u> できる機能を有する。

※パブリックコメントによるものではありませんが、担当部署と協議のうえ、表現を適切なものに修正しました。

○ p3.43 3.2.2.(1) 表 3-4 導入機能の検討(施設) について

修正前	修正後
(防災の項、活動の想定) <u>一時滞在</u>	<u>災害時における避難</u>

※パブリックコメントによるものではありませんが、担当部署と協議のうえ、表現を適切なものに修正しました。

○ p3.52 3.3.4.(1)キ 表 3-14 その他の導入機能 について

修正前	修正後
(災害時の拠点機能の項、導入機能) 避難所・防災倉庫・防災 <u>井戸</u>	避難所・防災倉庫・防災 <u>用井戸</u>

※パブリックコメントによるものではありませんが、担当部署と協議のうえ、表現を適切なものに修正しました。

○ p3.53 3.3.4.(4)指定避難所 について

修正前	修正後
本施設は指定避難所でもあることから、災害時にも利用できるよう、 <u>空調・水道設備等を整備していく。</u>	本施設は指定避難所でもあることから、災害時にも利用できるよう、 <u>維持管理していく。</u>

※パブリックコメントによるものではありませんが、担当部署と協議のうえ、表現を適切なものに修正しました。

○ p3.56 3.4.2.既存樹木の活用 について

修正前	修正後
(3段落目) 敷地西側の法面に位置する木々は桜が多く、学校として利用されていたころの <u>名残</u> であり <u>                    </u> 、 <u>廃校を活用した施設取り手の学校らしさを残していくためにも、維持管理していくことが望ましい。</u>	敷地西側の法面に位置する木々は桜が多く、学校として利用されていたころの <u>記憶を継承</u> しており、 <u>廃校を活用した施設取り手の学校らしさを残していくためにも、維持管理していくことが望ましい。</u>

※パブリックコメントによるものではありませんが、表現を修正しました。

○ p3.56 3.4.3.環境配慮 について

修正前	修正後
施設の整備・維持管理を行っていくにあたり、 <u>LED照明器具の採用や、蓄電池及び太陽光発電設備等の導入により、環境配慮を行うことを検討していく。</u>	施設の整備・維持管理を行っていくにあたり、 <u>太陽光発電設備等の導入や、LED照明器具の採用等により、<u>                    </u>環境配慮を行うことを検討していく。</u>

※パブリックコメントによるものではありませんが、表現を修正しました。

## 諮問第2号「文化芸術創造拠点基本計画」の策定について

## 1 試行事業について

## (1) 募集結果、採用者

表1 募集結果

部門	応募	採用
アーティスト部門	7 件	3 件
市民文化芸術活動部門	0 件	0 件

表2 アーティスト部門採用者

採用者名	実施ジャンル
相澤 万亀子	インスタレーション
大井 真希	陶造形
河津 晃平	写真

## (2) 事業の実績

実施日	実施内容	来場者数
1月28日(土)	・ オープンアトリエ ・ アトリエトーク	約60名
3月11日(土)	・ オープンアトリエ ・ ワークショップ	93名
3月12日(日)	・ オープンアトリエ ・ アトリエトーク	42名